



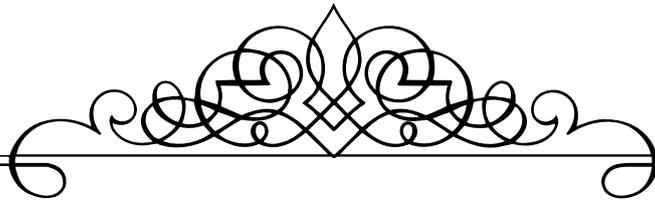
## 基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

## 基本方針

- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親とこどもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



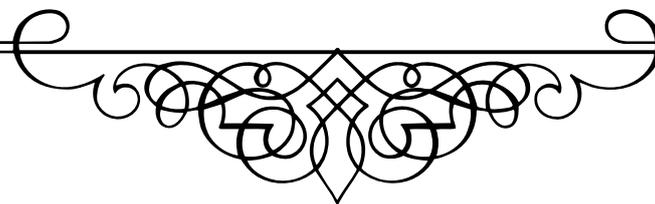


## 患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう。今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。





## はじめに

兵庫県立こども病院  
病院長 丸尾 猛

2011年3月11日の東日本大震災では、大地震に加えて未曾有の巨大津波、さらにはあってはならぬ原子力発電所のメルトダウンが重なり、1年が経過した今も、復興の歩みは遅々とし時計の針は止まったままに感じられます。今までにない力、質の違う力で自然と故郷が破壊され、文明の不気味な綻びを感じます。時計の針を前に進めるには、一人ひとりが被災地の悲嘆・苦難に思いを寄せ、復興から再生へと立ち返れるよう、「絆」の一語に魂を入れ直し、力を寄せ合うしかありません。被災地から県外各地に避難しているこども達が安心して故郷に戻れる日が一日も早く来ることを祈るばかりです。

当院は、1970年に県政100周年記念事業として全国2番目の小児病院として開設され、平成6年には周産期医療センターが、平成19年には小児救急医療センターが開設され、「ハイリスク胎児とこども達を守る砦」として3次救急医療を担っています。当院では年毎に入院患児の重篤化が高まり、狭隘な本館一般病棟に20台以上の人工呼吸器が入り込む状況となっています。狭い4床部屋に複数台の人工呼吸器が入りますと、身の置き場がないほどの混雑です。また、ICUでは体外膜型人工肺（ECMO）が同時に複数稼働する状況が生じ、緊迫した状況にあります。

当院の高度専門技能は瞠目される実績を有し、今では県外からの患者さんが入院患者の約20%を占め、その半数は近畿圏外からの患者さんです。現在の手狭な施設で安心・安全な高度専門医療を当初予定の建替え供用開始平成29年度まで維持することは難しいと痛感し、早期建替えの必要性を県当局へ機会あるごとに要請して参りました。

幸い、県当局のご理解により兵庫県地域医療再生計画に組み込む形で本年2月に建替整備基本計画が発表されて、ポートアイランド2期中央緑地での移転建替が決まりました。2015年に新病院オープンという方向に、大きく舵をきって下さった県当局の英断に感謝の気持ちで一杯です。

ポーアイ2期では、17年前の阪神淡路大震災時に液状化は起こっていませんが、未曾有の大震災を経験した後だけに、深層地盤への杭打ちを実施し、盤石の地盤強化が施され

ることになっています。ポーアイ1期では17年前に液状化が起りましたが道路走行に支障はなかったこと、その後神戸大橋の耐震補強が施され、トンネルが開通し、その出入口は平安初期(869年)の貞観地震時にあったとされる2mの津波への対策がなされています。しかし、未曾有の大震災を経験した後だけに、トンネル出入口の更なる補強を要請していく所存です。移転地はポーアイ2期中央緑地の一角で、道路面より約4m高いT.P.+8.6mの敷地です。国が今年3月に最新の科学的知見に基づきあらゆる可能性を考慮して南海トラフで最大級のマグニチュード9クラスの地震が起きた場合の津波高推計値を公表しており、神戸市中央区の最大津波高はT.P.+3.6mであることから、浸水することのない地盤高であります。大震災を経験した後だけに、想定外の大災害に対し、そこまで備えたのかと言われるほどに、耐震・免震はもとより電源・通信に2重、3重の備えをし、水と食糧の備蓄を盤石にすることによって、安心・安全が実感できる新病院となるよう働きかけたいと考えています。

当院移転地には、隣接して成人型総合病院・救急救命センター、ならびに低侵襲がん医療センターがあります。集積と協働をキーワードに、現在の須磨に孤立した立地では救えない命も救いたいと願っています。最高の高度専門医療を受けるために多くの患者さんが集まり、最高の高度専門研修を受けるために多くの医療従事者が集まる病院となるよう、職員一体となって努める所存です。

小児周産期の高度専門医療は、昼夜を問わず大きなマンパワーを要し採算がとりにくい分野です。しかしながら、「待ち受ける医療」から「集まる医療」へと姿勢を転換し、職員の病院運営への力強い協力によって、平成23年度病床稼働率は91.3%を達成し、収支損益は大きくプラスとなりました。これは当院のより優れた基本設計実現に向け、職員一体の底力が発揮された証しであり、感謝の念で一杯です。

当院は医療施設からご紹介の患者さんのみを対象とする3次施設であり、皆さまに信頼される医療を実践する所存ですので、今後とも当院の専門技能を広くご活用いただければと願っています。年報を通じて当院の活動へのご理解が深まり、一層のご支援、ご指導を賜ることができれば、誠に幸いに存じます。

最後に、年報編纂にあたり多大なご尽力を頂いた広報委員会の橋本ひとみ委員長、田中亮二郎副委員長、木村弘子副委員長ならびに山根龍也総務部次長をはじめとした皆さまに深甚なる謝意を表します。

# 目 次

I 病院概要	
1 兵庫県立こども病院の設立目的	1
2 沿革	1
3 業務図	4
(1) 機構一覧表	4
(2) 担当医師表	5
(3) 外来診療スケジュール	6
4 職員	7
(1) 職種別人員表	7
5 近畿厚生局長への届出に関する事項	8
6 研修・教育認定施設設定内容	9
7 委員会一覧	10
II 医事経理関係	15
III 診療統計	31
IV 学術・研究・教育活動	
1 書籍	127
2 雑誌	129
3 学会発表	138
4 報道関連	168
5 実習生・研修生受け入れ状況	169
6 院内・院外研修	174
V ボランティア	217
VI 一年のあゆみ	219



# I 病 院 概 要

## 1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に依りて、県政 100 年の記念事業の一環として、昭和 45 年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
- (2) 小児に関する医療相談機関であること。
- (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
- (4) 小児医療従事者の育成研修期間であること。

などがあります。

平成 6 年 10 月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の 24 時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成 14 年 10 月より県下の第 3 次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成 19 年 10 月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

## 2. 沿革

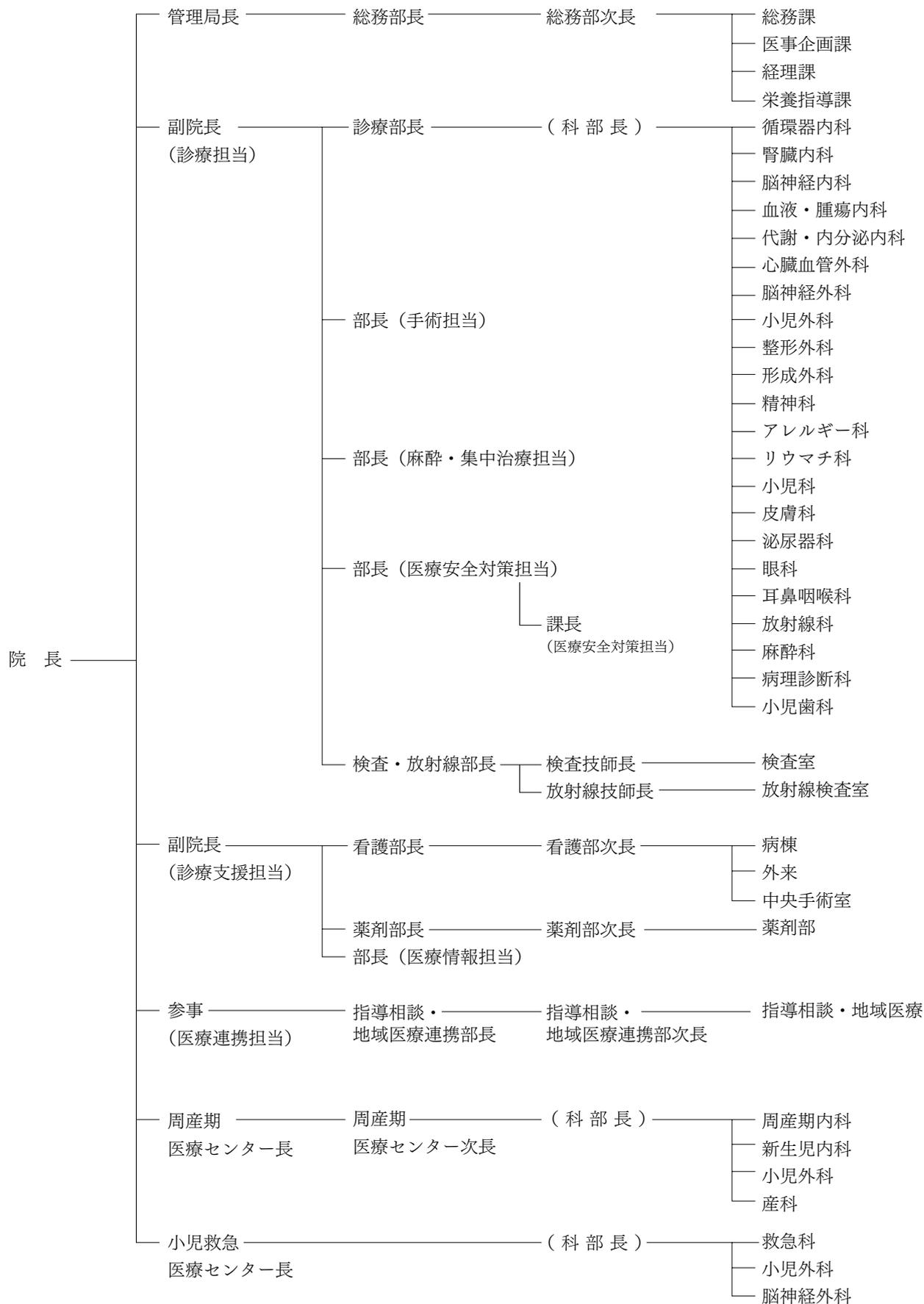
- |       |                   |   |
|-------|-------------------|---|
| (1) 名 | 称                 | 兵庫県立こども病院   |
| (2) 開 | 設                 | 昭和 45 年 4 月 1 日（現管理者 丸尾 猛）  |
| (3) 所 | 在                 | 地 神戸市須磨区高倉台 1 丁目 1 - 1 T E L 078-732-6961（代表）   |
| (4) 診 | 療                 | 科 目 精神科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、代謝・内分泌内科、周産期内科、新生児内科、整形外科、形成外科、脳神経外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、心臓血管外科、産科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、小児歯科 |
| (5) 病 | 床                 | 数 一般 290 床（稼働 266 床）  |
| (6) 沿 | 革                 |   |
|       | 昭和 45 年 4 月 1 日   | 病院開設（管理者平田美穂）   |
|       | 昭和 45 年 4 月 30 日  | 病院本館完成  |
|       | 昭和 45 年 5 月 8 日   | 診療開始  |
|       | 昭和 45 年 7 月 23 日  | 基準寝具実施（寝第 295 号）  |
|       | 昭和 45 年 9 月 17 日  | 基準給食実施（食第 307 号）基準看護実施（看第 130 号）  |
|       | 昭和 46 年 12 月 28 日 | 母と子の指導教室完成現在は母と子の教室と呼称  |
|       | 昭和 47 年 2 月 1 日   | 基準看護一般特類変更承認（険第 98 号）   |
|       | 昭和 47 年 12 月 1 日  | 基準看護精神特類変更承認（険第 219 号）  |

昭和 49 年 10 月 1 日	基準看護一般特二類変更承認（険第 108 号）基準看護精神特一類変更承認（険第 108 号）
昭和 50 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者児嶋喜八郎）
昭和 54 年 3 月 31 日	全館防災設備工事完成
昭和 54 年 8 月 2 日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 55 年 4 月 1 日	昭和 55 年 3 月 26 日兵庫県条例第 11 号兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和 56 年 5 月 5 日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和 56 年 10 月 7 日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 56 年 10 月 12 日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和 56 年 12 月 6 日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和 57 年 4 月 1 日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和 58 年 4 月 1 日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和 58 年 4 月 11 日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和 58 年 10 月 1 日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和 60 年 3 月 18 日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和 60 年 3 月 28 日	日帰り手術棟完成
昭和 60 年 4 月 3 日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和 60 年 4 月 15 日	日帰り手術棟手術開始
昭和 61 年 3 月 31 日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和 61 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者玉木健雄）
昭和 61 年 4 月 1 日	日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和 61 年 10 月 1 日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和 62 年 1 月 22 日	自家発電設備改良工事完成
平成元年 2 月 1 日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成 3 年 5 月 1 日	基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第 220 号）
平成 4 年 4 月 1 日	基準看護一般特三類（260 床に）変更承認（険第 363 号）医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成 4 年 5 月 9 日	週 40 時間制試行
平成 4 年 5 月 18 日	病床数 260 床に変更承認（精神病棟廃止）
平成 4 年 7 月 6 日	病床数 290 床に変更承認（兵庫県指令医第 1 - 67 号）
平成 4 年 7 月 29 日	周産期医療センター安全祈願祭
平成 4 年 11 月 7 日	週 40 時間制本格実施
平成 5 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者竹峰久雄）
平成 6 年 7 月 20 日	周産期医療センター定礎式
平成 6 年 9 月 1 日	管理者変更受理（管理者小川恭一）
平成 6 年 9 月 30 日	ドクターズカー購入
平成 6 年 9 月 30 日	周産期医療センター完成
平成 6 年 10 月 1 日	行政組織規則の改正（兵庫県規則第 66 号）により、周産期医療センターを設置

平成 6 年 10 月 3 日	周産期医療センター開設記念式典
平成 6 年 10 月 4 日	周産期医療センター診療開始
平成 7 年 1 月 17 日	阪神・淡路大震災
平成 7 年 9 月 1 日	本館改修工事に着手
平成 8 年 4 月 1 日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成 10 年 6 月 30 日	本館改修工事完了
平成 11 年 4 月 2 日	管理者変更受理（管理者山本節）
平成 12 年 3 月 1 日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成 12 年 4 月 24 日	慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設
平成 13 年 10 月 10 日	駐車場立体化工事に着手
平成 14 年 2 月 28 日	立体駐車場完成
平成 14 年 4 月 1 日	臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第 0401006）
平成 14 年 4 月 1 日	地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成 14 年 10 月 15 日	第 3 次小児救急開設（稼働病床 260 床）
平成 15 年 4 月 2 日	管理者変更（管理者中村肇）
平成 15 年 10 月 30 日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1030005 号 -511,519,526,533）
平成 15 年 11 月 28 日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1128007 号 -330）
平成 16 年 3 月 22 日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1）
平成 16 年 4 月 1 日	アレルギー科追加
平成 18 年 4 月 1 日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される
平成 18 年 4 月 1 日	日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される
平成 19 年 10 月 1 日	小児救急医療センターを開設（稼働病床 266 床）
平成 20 年 4 月 1 日	管理者変更（管理者丸尾猛）
平成 21 年 4 月 1 日	医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更
平成 21 年 7 月 3 日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0）
平成 21 年 12 月 16 日	地域医療支援病院の名称使用承認
平成 21 年 1 月 4 日	「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始
平成 22 年 4 月 1 日	駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化
平成 23 年 1 月 4 日	本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始

### 3. 業務図

(1) 機構一覧表 (2011.12.31 現在)



## (2) 担当医師表 (2011.12.31 現在)

- (1) 小児科 宅見晃子、山崎武美 (非常勤)
- (2) 新生児内科 中尾秀人、芳本誠司、溝渕雅巳、坂井仁美、岩谷壮太
- (3) 脳神経内科 永瀬裕朗、丸山あずさ、藤田杏子
- (4) 循環器内科 城戸佐知子、田中克敏、富永健太、佐藤有美、小川禎治
- (5) 腎臓内科 田中亮二郎
- (6) 代謝・内分泌内科 郷司克己、尾崎佳代
- (7) 血液・腫瘍内科 小阪嘉之、川崎圭一郎、長谷川大一郎、石田敏章
- (8) 救急科 上谷良行、竹田洋樹、福原信一、山口善道、中岸保夫、神田杏子、奥野美佐子、梶原伸介
- (9) アレルギー・リウマチ科 三好麻里、笠井和子
- (10) 小児外科 西島栄治、横井暁子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志、岡本光正
- (11) 心臓血管外科 大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、門脇輔
- (12) 脳神経外科 長嶋達也、河村淳史、山元一樹
- (13) 形成外科 大山知樹、鄭聡柄
- (14) 整形外科 薩摩眞一、小林大介、衣笠真紀
- (15) 泌尿器科 杉多良文、中川賀清、久松英治、西村謙一
- (16) 耳鼻咽喉科 大津雅秀、阪本浩一 (兼務)
- (17) 眼科 山本節 (名誉院長)、野村耕治、横山知子
- (18) 精神科 関口典子
- (19) 小児歯科 曾根由美子
- (20) 産科 船越徹、佐本崇 (周産期内科)、喜吉賢二、高松祐幸、佐々木紘子、牧志綾、(丸尾猛)
- (21) 放射線科 赤坂好宣、杉岡勇典、阿部洋子
- (22) 麻酔科 香川哲郎、鈴木毅、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、鹿原史寿子、野々村智子、前川俊
- (23) 病理診断科 吉田牧子
- (24) フェロー・専攻医 猪俣慶、田中聡、古賀千穂、亀井直哉、米倉圭二、田中愛子、山下達也、楠元真由美、中川拓、安部信吾、田中裕也、西山将広、川崎英史、宇仁田亮、宮田憲二、水田麻雄、辻真之介、祖父江俊樹、武岡恵美子、二野菜々子、河合清日 (小児科) 橘木由美子、馬場勝尚、田村亮、園田真理、洲尾昌悟 (小児外科) 野田怜 (心臓血管外科) 坂田純一 (脳神経外科) 清家志円 (形成外科) 藁田正也 (整形外科) 桑原元 (泌尿器科) 平井宏二、下山剛 (眼科) 西本昌司 (産科) 岡雅行、似内久美子、池田優子、古賀聡人、野村有紀、巻野将平、廣瀬徹也 (麻酔科)

(3) 外来診療スケジュール (平成 23 年 12 月 1 日)

科目	曜日	月		火		水		木		金		
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内科	総合診療	◎笠井	◎各担当医	◎上谷	◎各担当医	◎各担当医	◎各担当医 ◎各担当医	1・3・5週 ◎宅見 各担当医 2・4週 ◎山崎 各担当医		◎各担当医	各担当医	
	アレルギー			◎安部 (三好)					◎田中(裕) (三好)			
	リウマチ					中岸	中岸					
	予防接種	三好 安部 田中(裕)										
	脳神経	◎永瀬			丸山			◎永瀬 丸山 児玉				
	循環器	田中(敏)	城戸	◎田中(敏)	田中(敏)	◎城戸	城戸	◎城戸 田中(敏) (予約外来)	城戸	◎富永	富永	
	腎臓	神田	3週 田中(亮)	◎田中 (亮)		◎田中 (亮)					◎田中 (亮)	
	代謝内分泌		1・2・4週 郷司			◎郷司		◎郷司		◎尾崎		
	新生児				◎坂井 岩谷 溝渕		◎中尾(秀) 溝渕 猪俣		◎中尾(秀) 芳本 坂井		◎岩谷 猪俣 芳本	
	血液	◎小阪	1・3週 川崎 2・4週 長谷川(大) 5週 竹田			◎小阪				◎小阪	小阪	
外科	一般	◎中尾(真)	中尾(真)	◎荒井	荒井	◎尾藤	尾藤	◎西島	西島	◎横井		
	ヘルニア外来	◎担当医						◎担当医				
	特殊外来		ストマ		在宅療法							
	心臓		◎大嶋 松久 圓尾				◎大嶋 圓尾 長谷川				◎大嶋 長谷川 松久	
	脳神経	◎山元					◎長嶋			◎河村 (淳)	河村(淳) 1・3週 二脊(長嶋) 2・4週 二脊(山元)	
	形成			◎大山 鄭 言語療法				◎大山 鄭 西本 言語療法				
内科	整形		◎薩摩 ◎小林	◎薩摩 ◎衣笠	小林 衣笠 (1週間隔外来)	◎薩摩 ◎小林					二分脊椎	
	放射線科									副島		
眼科	◎野村 横山 平井			野村 横山 平井	◎野村 横山 平井	野村 横山 平井	◎野村 横山 平井	野村 横山 平井				
泌尿器科	◎久松		◎杉多 中川 久松 西村	杉多 中川 久松 西村	◎西村 中川			杉多 中川 久松 西村	◎中川 久松 西村	二分脊椎		
耳鼻咽喉科	◎大津	1週・2週 補聴器	◎阪本	3週・4週 補聴器			◎大津		◎阪本			
	言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚			
歯科	◎曾根	曾根	◎曾根	曾根			◎曾根	曾根	◎曾根	曾根		
精神科	◎長谷川(弘) ◎関口	関口	◎関口	関口	◎関口	関口	関口	関口	◎松川			
ADHD外来			前田	前田								
卒煙外来						◎永瀬						
発達行動						◎永瀬						
産科	◎船越 ◎佐本	超音波 検査	◎高松 ◎喜吉	超音波 外来	◎佐本 ◎高松	超音波 検査	◎喜吉 ◎牧志	超音波 外来	◎船越 ◎佐々木	超音波 検査		

◎印は新患受付曜日となります。

兵庫県立こども病院

〒 654-0081 神戸市須磨区高倉台 1-1-1

代表 TEL 078-732-6961

予約センター直通 TEL078-940-5532 (平日 9:00 ~ 17:00)

予約センター直通 FAX078-732-6980 (24時間対応)



## 5. 近畿厚生局長への届出に関する事項

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項につき届出を行っています。

### 入院基本料

一般病棟入院基本料（7対1）

### 入院基本料等加算

臨床研修病院入院診療加算（協力型）  
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算  
妊産婦緊急搬送入院加算  
診療録管理体制加算  
医師事務作業補助体制加算  
急性期看護補助体制加算  
重傷者等療養環境特別加算  
栄養管理実施加算  
医療安全対策加算  
褥瘡患者管理加算  
ハイリスク妊娠管理加算  
ハイリスク分娩管理加算  
新生児特定集中治療室退院調整加算  
開放型病院共同指導料Ⅱ

### 特定入院料

特定集中治療室管理料 1  
同上（小児加算）  
新生児特定集中治療室管理料 1  
総合周産期特定集中治療室管理料  
小児入院医療管理料 1  
同上（保育士加算）

### 特掲診療料

高度難聴指導管理料  
薬剤管理指導料  
抗悪性腫瘍剤処方管理加算  
医療機器安全管理料 1  
医薬品安全情報等管理体制加算  
検体検査管理加算（Ⅰ）（Ⅱ）  
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算  
心臓超音波検査胎児心エコー法  
補聴器適合検査  
小児食物アレルギー負荷検査  
埋込型心電図検査  
画像診断管理加算 1 2  
単純CT撮影及びMRI撮影  
冠動脈CT撮影加算  
心臓MRI撮影加算  
外来化学療法加算 1  
一酸化窒素吸入療法  
無菌製剤処理科  
脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅲ）  
集団コミュニケーション療法料  
頭蓋骨形成手術  
上顎骨形成術、下顎骨形成術（いずれも骨移動を伴う場合に限る。）  
ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術（電池交換を含む）  
大動脈バルーンパイピング法  
経皮的動脈遮断術  
ダメージコントロール手術  
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。）  
に掲げる手術  
麻酔管理料（Ⅰ）（Ⅱ）  
クラウン・ブリッジ維持管理料  
歯科矯正診断料

### 入院時食事療養費Ⅰ

## 6. 研修・教育認定施設内容

厚生労働省認定病院等	<p>◆ [厚生労働省認定] 厚生労働省認定臨床研修指定病院（協力型） 厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定] 日本小児科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医訓練施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本病理学会登録施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 日本医学放射線学会専門医修練機関 日本胸部外科学会認定医指定施設 日本気管支学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本形成外科学会認定医指導施設 日本小児外科学会認定施設 日本産科婦人科学会専門医研修指導施設 日本内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本気管食道科学会認定日本気管食道科専門医研修施設 日本周産期新生児医学会専門医研修施設 日本小児循環器学会専門医修練施設 日本精神神経学会精神専門医研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本小児血液・がん学会専門医研修施設</p>
姉妹提携病院	<p>シアトル小児病院（アメリカ合衆国） プリンセスマーガレット小児病院（オーストラリア）</p>

## 7. 委員会一覧（平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月）

委員会名	開催回数	活動内容と結果
幹部会	毎月第 2 月曜日	病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議
運営協議会・経営計画推進委員会	毎月第 4 月曜日	幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知
保険診療対策委員会	毎月第 4 金曜日	減点内容の検討、返戻に対する対応の検討
医療事故防止対策委員会	毎月第 2 月曜日	リスクマネジメント部会からの報告、事故等案件の状況報告
リスクマネジメント会	毎月第 2 火曜日	①各部門の毎月のヒヤリハット発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④平成 22 年度の重点取り組み課題の決定と実施、評価
医療事故対策部会	事故発生時	①事故原因の追及 ②再発防止策の策定
院内感染対策委員会	毎月第 2 金曜日	①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止
ICT	毎週木曜日	①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド
衛生委員会	月 1 回	職員の健康障害の防止対策等について審議
薬事委員会	2 回	採用・中止薬品の検討、薬剤情報提供内容の追加 新規医薬品（14 品目）、中止医薬品（24 品目）
手術運営委員会		手術スケジュール調整、安全管理、感染管理、機種保守点検、更新など
放射線安全管理委員会	1 回	①放射線業務従事者管理状況について ②放射線安全研修会開催について
倫理委員会	3 回	詳細は別紙のとおり
治験審査委員会	6 回	詳細は別紙のとおり
褥創対策委員会	3 回	褥創発生報告
輸血療法委員会	毎月第 1 水曜日	①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③安全な輸血に関する取り決め ④輸血に関する諸問題の対応
検査委員会	年 2 回 不定期	①検査項目、運用等の変更に関する承認 ②検査に関する諸問題の解決 ③検査に関する要望
栄養給食委員会	1 回	平成 22 年度給食及び栄養指導実施状況報告 平成 23 年度栄養指導課における検討課題
N S T 部会	1 回	N S T 活動について
防災対策委員会	1 回	防災対策の推進について審議
省エネルギー推進委員会	3 回	日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証
広報委員会	5 回	①ニュースレター「げんきカエル」の発行（年 4 回） ②年報 2010 の発行 ③ホームページ更新

IT化推進委員会	7回	①電子カルテの取組について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーキンググループの立ち上げ</li> <li>・電子カルテ実施施設訪問及び報告</li> <li>・医療情報学連合大会参加及び報告</li> </ul> ②診療支援システムのアップグレードについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・端末機のOSを必要に応じてバージョンアップ</li> </ul>
臨床パス委員会	11回	①臨床パスの広報・作成・運用・管理について ②新規臨床パス5作成（合計60承認） ③診療支援システム仕様に規格改訂
国際交流推進委員会	7回	①シアトル小児病院研修派遣について ②国際交流のための講演会について

各種委員会（別紙）

名 称	委 員 長	開 催 日 時	場 所	出 席 者 数	議 題
倫 理 委 員 会	上 谷 良 行	4 月 28 日 10:00 ～	応 接 室	6	<p>1 小児固形腫瘍観察研究&lt;大阪血液・腫瘍内科部長&gt;</p> <p>2 Image Defined Risk Factors (IDRF) に基づき手術適応時期の決定を行う神経芽腫低リスク群の観察研究&lt;同上&gt;</p> <p>3 Image Defined Risk Factors (IDRF) に基づく手術適応時期の決定と段階的に強度を高める化学療法による神経芽腫中間リスク群に対する第II相試験&lt;同上&gt;</p> <p>4 高リスク神経芽腫に対する遅延局所療法 第II相試験&lt;同上&gt;</p> <p>5 乳児期発症の急性リンパ性白血病に対するリスク層別化治療の有効性に関する多施設共同第II相臨床試験&lt;同上&gt;</p> <p>6 小児急性リンパ性白血病標準リスク群の治療による認知発達への影響&lt;同上&gt;</p> <p>7 一過性骨髄異常増殖症 (TAM) に対する多施設共同観察研究 (TAM-10) &lt;同上&gt;</p>
倫 理 委 員 会	上 谷 良 行	12 月 7 日 14:00 ～	応 接 室	7	<p>1 わが国の膀胱尿管逆流症患児に関する多施設共同の長期プロスペクティブスタディ ー&lt;田中腎臓内科部長&gt;</p> <p>2 初発寛解後早期に再発する小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群患者を対象とした標準治療（再発時プレドニゾン治療）と標準治療＋高用量ミゾリピン併用治療の多施設共同オープンランダム化比較試験&lt;同上&gt;</p> <p>3 若年性骨髄単球性白血病 (JMML) に対する静注用 B u + Fl u + L-PAM 前処置法による同種造血幹細胞移植第II相臨床試験 &lt;大阪血液・腫瘍内科部長&gt;</p>
倫 理 委 員 会	上 谷 良 行	12 月 10 日 15:00 ～	応 接 室	7	<p>1 小児難治性T細胞性急性リンパ性白血病に対するネララビン、フルダラビン、エトポシドを用いた寛解導入療法第I / II相臨床試験 &lt;大阪血液・腫瘍内科部長&gt;</p> <p>2 小児および若年成人におけるT細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第II相臨床試験 (JPLSG ALL-T11/JALSG T-ALL-211-U) &lt;同上&gt;</p>

名称	委員長	開催日時	場所	出席者数	議題
治験審査委員会	中尾 秀人	5月12日	応接室	8	現在進行中の治験5課題の継続について審議とMC710試験の終了報告をした
治験審査委員会	中尾 秀人	6月24日	応接室	7	現在進行中の治験5課題の継続について審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	8月9日	応接室	9	ABT-315試験の実施の適否について審議、また現在進行中の治験5課題の継続についても審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	10月28日	応接室	8	現在進行中の治験6課題の継続について審議とJR-401試験（第III相試験）の終了報告をした
治験審査委員会	中尾 秀人	12月16日	応接室	7	MC710試験（第III相試験）の実施の適否について審議、また現在進行中の治験5課題の継続についても審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	2月17日	応接室	9	現在進行中の治験5課題の継続について審議した



## II 医事経理関係

## 第1節 患者数統計

## 1. 総括

## (1) 年度別

区 分				19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
外 来	a	診療日数	日	245	243	242	243	244
	b	新患者数	人	7,833	7,671	8,101	7,923	7,696
	c	一日平均新患者数	人	32.0	31.6	33.5	32.6	31.5
	d	延患者数	人	85,922	87,351	84,186	86,269	86,464
	e	一日平均延患者数	人	350.7	359.5	347.9	355.0	354.4
	f	平均通院日数	日	11.0	11.4	10.4	10.9	11.2
入 院	g	稼働日数	日	366	365	365	365	366
	h	稼働病床数	床	260	266	266	266	266
	l	新規入院患者数	人	5,081	5,175	5,483	5,261	5,425
	j	一日平均入院患者数	人	13.9	14.2	15.0	14.4	14.8
	k	退院患者数	人	5,064	5,154	5,470	5,294	5,422
	l	一日平均退院患者数	人	13.8	14.1	15.0	14.5	14.8
	m	延入院患者数	人	86,111	85,048	86,991	88,487	88,849
	n	一日平均延患者数	人	235.3	233.0	238.3	242.4	242.8
	o	病床利用率	%	89.5	87.6	89.6	91.1	91.3
	p	病床回転数	回	19.5	19.4	20.6	19.8	20.4
	r	日帰り入院患者数	人		92	92	108	122
	s	NICU・GCU 入院患者数	人	1,036	930	991	1,014	1,011
	t	平均在院日数	日	16.0	15.5	14.9	15.8	15.4
	u	外来入院比率	%	99.8	102.7	96.8	97.5	97.1
v	入院率	%	64.9	67.5	67.7	66.4	70.5	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/(h × g)) × 100 p 病床回転率 = ((l+k)/2)/h t 平均在院日数 = (m-k)/((l+k)/2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (l/b) × 100 ※ r 日帰り入院患者数は20年度5月分より							

## (2) 月別

H23 年度

区 分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
外 来	a	診 療 日 数	日	20	19	22	20	23	20	20	20	19	19	21	21	244
	b	新 患 者 数	人	603	608	702	659	772	574	614	629	611	613	595	716	7,696
	c	一 日 平 均 新 患 者 数	人	30.2	32.0	31.9	33.0	33.6	28.7	30.7	31.5	32.2	32.3	28.3	34.1	31.5
	d	延 患 者 数	人	7,100	6,376	7,051	6,930	9,027	7,077	7,052	6,783	7,212	6,978	6,845	8,033	86,464
	e	一 日 平 均 延 患 者 数	人	355.0	335.6	320.5	346.5	392.5	353.9	352.6	339.2	379.6	367.3	326.0	382.5	354.4
	f	平 均 通 院 日 数	日	11.8	10.5	10.0	10.5	11.7	12.3	11.5	10.8	11.8	11.4	11.5	11.2	11.2
入 院	g	稼 働 日 数	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
	h	稼 働 病 床 数	床	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	3,192
	I	新 規 入 院 患 者 数	人	435	399	471	431	522	453	460	471	427	430	437	489	5,425
	j	一 日 平 均 入 院 患 者 数	人	14.5	12.9	15.7	13.9	16.8	15.1	14.8	15.7	13.8	13.9	15.1	15.8	14.8
	k	退 院 患 者 数	人	450	373	463	450	529	434	468	472	474	377	450	482	5,422
	l	一 日 平 均 退 院 患 者 数	人	15.0	12.0	15.4	14.5	17.1	14.5	15.1	15.7	15.3	12.2	15.5	15.5	14.8
	m	延 入 院 患 者 数	人	7,129	7,293	7,437	7,958	7,527	7,094	7,628	7,428	7,440	7,168	7,122	7,625	88,849
	n	一 日 平 均 延 患 者 数	人	237.6	235.3	247.9	256.7	242.8	236.5	246.1	247.6	240.0	231.2	245.6	246.0	243.4
	o	病 床 利 用 率	%	89.3	88.4	93.2	96.5	91.3	88.9	92.5	93.1	90.4	86.9	92.3	92.1	91.1
	p	病 床 回 転 数	回	1.7	1.5	1.8	1.7	2.0	1.7	1.7	1.8	1.7	1.5	1.7	1.8	1.7
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	10	9	12	9	13	10	5	9	5	17	11	12	122
	s	NICU・GCU 入院患者数	人	74	93	64	92	91	80	81	100	70	92	83	91	1,011
	t	平 均 在 院 日 数	日	15.1	17.9	14.9	17.0	13.3	15.0	15.4	14.8	15.5	16.8	15.0	14.6	17.0
	u	外 来 入 院 比 率	%	96.5	87.4	94.8	87.1	119.9	99.8	92.4	91.3	96.9	97.3	96.1	105.4	97.1
v	入 院 率	%	72.1	65.6	67.1	65.4	67.6	78.9	74.9	74.9	69.9	70.1	73.4	68.3	70.5	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/(h × g)) × 100 p 病床回転率 = ((I+k)/2)/h t 平均在院日数 = (m-k)/((I+k)/2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100 ※ r 日帰り入院患者数は 20 年度 5 月分より															

## 2. 月別科別外来患者数

H23 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	40	39	43	39	40	40	43	34	44	26	35	31	454
	再来患者数	588	497	587	520	765	645	574	534	585	563	526	723	7107
	延患者数	628	536	630	559	805	685	617	568	629	589	561	754	7561
腎臓内科	新患者数	7	9	9	29	43	22	5	6	8	7	12	6	163
	再来患者数	202	202	206	242	283	238	221	209	242	227	212	255	2,739
	延患者数	209	211	215	271	326	260	226	215	250	234	224	261	2,902
脳神経内科	新患者数	15	11	15	14	15	10	16	14	16	4	14	13	157
	再来患者数	270	260	270	261	328	261	275	291	290	264	260	285	3,315
	延患者数	285	271	285	275	343	271	291	305	306	268	274	298	3,472
血液内科	新患者数	5	7	8	8	5	9	9	7	6	5	4	6	79
	再来患者数	265	225	238	258	353	250	262	235	300	268	237	307	3,198
	延患者数	270	232	246	266	358	259	271	242	306	273	241	313	3,277
代謝・内分泌内科	新患者数	23	9	20	9	17	13	12	10	11	9	12	9	154
	再来患者数	389	332	412	380	455	433	374	389	384	369	386	438	4,741
	延患者数	412	341	432	389	472	446	386	399	395	378	398	447	4,895
新生児内科	新患者数	53	58	42	54	64	57	53	64	39	67	51	62	664
	再来患者数	206	209	255	183	241	276	239	244	281	299	290	319	3,042
	延患者数	259	267	297	237	305	333	292	308	320	366	341	381	3,706
アレルギー内科	新患者数	13	10	11	7	13	4	7	5	6	10	3	6	95
	再来患者数	246	211	218	198	259	225	213	204	230	211	228	244	2,687
	延患者数	259	221	229	205	272	229	220	209	236	221	231	250	2,782
小児科	新患者数	29	21	23	39	27	21	18	22	26	18	22	28	294
	再来患者数	140	114	167	131	151	128	122	132	121	133	128	132	1,599
	延患者数	169	135	190	170	178	149	140	154	147	151	150	160	1,893
精神科	新患者数	6	14	12	12	13	9	16	7	9	5	10	10	123
	再来患者数	241	162	189	188	268	178	222	218	242	222	220	233	2,583
	延患者数	247	176	201	200	281	187	238	225	251	227	230	243	2,706
小児外科	新患者数	55	52	53	33	64	52	53	59	58	49	49	59	636
	再来患者数	401	401	412	421	549	415	410	428	420	455	445	455	5,212
	延患者数	456	453	465	454	613	467	463	487	478	504	494	514	5,848
心臓血管外科	新患者数	0	0	2	1	0	1	1	0	0	0	0	1	6
	再来患者数	114	101	132	100	144	129	137	135	118	127	112	135	1,484
	延患者数	114	101	134	101	144	130	138	135	118	127	112	136	1,490
脳神経外科	新患者数	18	13	25	27	24	17	37	25	19	21	18	26	270
	再来患者数	303	254	297	319	415	298	298	285	292	295	270	370	3,696
	延患者数	321	267	322	346	439	315	335	310	311	316	288	396	3,966

整 形 外 科	新患者数	69	62	62	66	86	35	62	85	85	76	56	75	819
	再来患者数	462	353	353	425	639	431	421	387	454	404	379	463	5,171
	延患者数	531	415	415	491	725	466	483	472	539	480	435	538	5,990
形 成 外 科	新患者数	33	30	47	38	39	45	31	38	35	34	38	33	441
	再来患者数	282	260	251	282	403	247	284	270	300	296	267	362	3,504
	延患者数	315	290	298	320	442	292	315	308	335	330	305	395	3,945
泌 尿 器 科	新患者数	49	64	68	53	91	53	63	64	64	63	69	75	776
	再来患者数	432	403	427	417	612	474	464	392	445	427	385	497	5,375
	延患者数	481	467	495	470	703	527	527	456	509	490	454	572	6,151
眼 科	新患者数	50	40	62	49	60	45	43	45	49	40	43	52	578
	再来患者数	817	765	912	789	1,062	789	866	790	857	774	869	936	10,226
	延患者数	867	805	974	838	1,122	834	909	835	906	814	912	988	10,804
産 科	新患者数	35	41	60	45	41	35	35	35	46	51	36	61	521
	再来患者数	252	232	226	286	323	265	227	257	210	219	226	244	2,967
	延患者数	287	273	286	331	364	300	262	292	256	270	262	305	3,488
耳 鼻 咽 喉 科	新患者数	24	35	44	43	41	39	37	25	23	34	40	57	442
	再来患者数	458	403	416	461	525	431	433	398	398	424	436	472	5,255
	延患者数	482	438	460	504	566	470	470	423	421	458	476	529	5,697
放 射 線 科	新患者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	再来患者数	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4
	延患者数	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	5
麻 醉 科	新患者数	2	1	2	1	0	0	1	1	0	0	0	1	9
	再来患者数	77	76	76	74	102	89	87	74	78	71	66	77	947
	延患者数	79	77	78	75	102	89	88	75	78	71	66	78	956
救 急 科	新患者数	57	60	67	50	54	42	50	48	51	60	53	53	645
	再来患者数	99	89	86	105	82	102	93	80	100	93	100	102	1,131
	延患者数	156	149	153	155	136	144	143	128	151	153	153	155	1,776
歯 科	新患者数	19	32	27	42	35	25	22	35	16	34	30	52	369
	再来患者数	252	219	218	231	296	197	216	202	254	224	208	268	2,785
	延患者数	271	251	245	273	331	222	238	237	270	258	238	320	3,154
合 計	新患者数	603	608	702	659	772	574	614	629	611	613	595	716	7,696
	再来患者数	6,497	5,768	6,349	6,271	8,255	6,503	6,438	6,154	6,601	6,365	6,250	7,317	78,768
	延患者数	7,100	6,376	7,051	6,930	9,027	7,077	7,052	6,783	7,212	6,978	6,845	8,033	86,464

## 3. 月別科別入院患者数

H23 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	29	23	24	23	40	28	22	29	27	15	22	36	318
	退院患者数	36	17	31	23	41	31	27	32	37	11	25	35	346
	延患者数	790	805	830	833	901	744	703	732	715	700	634	823	9,210
腎臓内科	新規入院患者数	4	5	4	8	8	10	3	5	4	7	7	8	73
	退院患者数	8	6	5	12	10	8	10	6	9	6	10	13	103
	延患者数	87	75	67	160	86	124	116	56	83	65	138	231	1,288
脳神経内科	新規入院患者数	2	2	2	1	5	4	4	0	1	5	3	2	31
	退院患者数	8	8	5	11	7	13	7	15	10	10	11	12	117
	延患者数	134	130	137	163	174	192	162	240	135	203	313	246	2,229
血液内科	新規入院患者数	47	42	44	53	53	45	45	50	48	41	49	49	566
	退院患者数	50	43	49	59	54	47	51	57	50	42	48	54	604
	延患者数	786	893	922	954	922	964	1,011	863	914	860	823	996	10,908
代謝・ 内分泌内科	新規入院患者数	3	3	8	1	3	3	4	4	1	1	3	4	38
	退院患者数	3	4	9	3	3	3	4	4	1	1	2	5	42
	延患者数	17	21	42	7	33	24	24	26	6	2	18	82	302
新生児内科	新規入院患者数	53	60	40	54	57	60	60	68	41	60	48	62	663
	退院患者数	47	49	41	52	59	48	54	62	51	44	57	48	612
	延患者数	1,838	2,039	2,031	2,070	1,949	1,784	2,061	2,177	1,910	1,993	1,839	1,821	23,512
アレルギー内科	新規入院患者数	7	4	4	4	8	10	8	8	6	10	2	2	73
	退院患者数	7	3	4	4	8	9	9	11	5	10	3	3	76
	延患者数	10	21	18	6	18	33	50	27	13	39	23	25	283
小児科	新規入院患者数	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	4
	退院患者数	10	4	11	8	2	7	11	0	0	1	0	0	54
	延患者数	67	35	63	71	23	31	101	19	0	9	0	0	419
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児外科	新規入院患者数	43	42	59	42	63	40	45	55	46	39	60	46	580
	退院患者数	54	44	68	56	69	56	49	56	60	38	65	55	670
	延患者数	883	797	836	807	778	680	682	750	940	861	784	829	9,627
心臓血管外科	新規入院患者数	9	7	13	14	15	15	13	12	12	15	8	14	147
	退院患者数	11	9	11	19	20	17	14	16	18	14	12	17	178
	延患者数	291	305	377	403	319	424	402	393	405	360	369	409	4,457
脳神経外科	新規入院患者数	14	14	10	10	12	13	13	10	16	13	14	13	152
	退院患者数	24	15	19	16	16	19	22	15	22	17	13	21	219
	延患者数	289	274	209	289	244	290	335	251	239	239	268	277	3,204

整 形 外 科	新規入院患者数	19	13	18	17	21	22	20	23	20	18	19	22	232
	退院患者数	22	18	17	15	26	17	22	25	26	14	22	19	243
	延患者数	272	283	231	319	206	170	246	213	176	135	198	137	2,586
形 成 外 科	新規入院患者数	23	21	27	23	27	24	21	20	23	21	19	21	270
	退院患者数	25	16	30	24	27	25	23	26	24	19	20	23	282
	延患者数	143	153	182	176	157	165	164	131	143	154	150	138	1,856
泌 尿 器 科	新規入院患者数	23	30	27	21	36	25	26	23	29	21	27	27	315
	退院患者数	27	25	31	21	34	29	25	25	34	17	28	30	326
	延患者数	113	149	186	104	180	156	128	130	168	84	129	125	1,652
眼 科	新規入院患者数	39	31	47	42	48	35	36	39	33	38	38	46	472
	退院患者数	44	30	48	40	52	34	36	38	38	32	41	43	476
	延患者数	202	172	221	213	234	159	171	185	159	171	191	206	2,284
産 科	新規入院患者数	44	29	58	55	52	52	60	55	36	46	52	48	587
	退院患者数	42	42	48	56	58	47	65	48	36	52	49	46	589
	延患者数	872	823	737	1,006	947	797	883	841	995	899	852	820	10,472
耳 鼻 咽 喉 科	新規入院患者数	8	11	5	9	11	11	8	10	7	9	8	9	106
	退院患者数	11	8	7	8	11	11	8	8	12	5	10	9	108
	延患者数	66	38	57	78	88	88	70	64	82	59	75	80	845
放 射 線 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 酔 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救 急 科	新規入院患者数	68	61	81	53	63	56	71	60	77	70	58	80	798
	退院患者数	21	32	29	23	32	13	31	28	41	44	34	49	377
	延患者数	269	280	291	299	268	269	319	330	357	335	318	380	3,715
歯 科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	新規入院患者数	435	399	471	431	522	453	460	471	427	430	437	489	5,425
	退院患者数	450	373	463	450	529	434	468	472	474	377	450	482	5,422
	延患者数	7,129	7,293	7,437	7,958	7,527	7,094	7,628	7,428	7,440	7,168	7,122	7,625	88,849

## 4. 年度別科別外来患者数

		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
循環器内科	新患者数		457	464	453	454
	再来患者数	7,707	7,150	6,817	6,939	7,107
	延患者数	7,707	7,607	7,281	7,392	7,561
腎臓内科	新患者数		149	174	162	163
	再来患者数	2,472	2,414	2,543	2,714	2,739
	延患者数	2,472	2,563	2,717	2,876	2,902
脳神経内科	新患者数		104	125	122	157
	再来患者数	2,403	2,281	2,360	2,731	3,315
	延患者数	2,403	2,385	2,485	2,853	3,472
血液内科	新患者数		74	61	73	79
	再来患者数	3,095	3,216	2,995	2,899	3,198
	延患者数	3,095	3,290	3,056	2,972	3,277
代謝・内分泌内科	新患者数		161	137	148	154
	再来患者数	4,862	4,714	4,546	4,756	4,741
	延患者数	4,862	4,875	4,683	4,904	4,895
新生児内科	新患者数		359	662	680	664
	再来患者数	4,253	3,841	3,486	3,466	3,042
	延患者数	4,253	4,200	4,148	4,146	3,706
アレルギー内科	新患者数		152	127	142	95
	再来患者数	2,585	2,502	2,562	2,629	2,687
	延患者数	2,585	2,654	2,689	2,771	2,782
小児科	新患者数		336	348	345	294
	再来患者数	4,339	1,798	1,918	1,924	1,599
	延患者数	4,339	2,134	2,266	2,269	1,893
精神科	新患者数	150	133	125	108	123
	再来患者数	3,376	3,339	3,297	3,633	2,583
	延患者数	3,526	3,472	3,422	3,741	2,706
小児外科	新患者数	771	736	685	770	636
	再来患者数	5,447	5,520	5,167	5,192	5,212
	延患者数	6,218	6,256	5,852	5,962	5,848
心臓血管外科	新患者数	6	5	11	9	6
	再来患者数	1,556	1,510	1,305	1,391	1,484
	延患者数	1,562	1,515	1,316	1,400	1,490
脳神経外科	新患者数	199	212	243	247	270
	再来患者数	3,044	3,469	3,547	3,604	3,696
	延患者数	3,243	3,681	3,790	3,851	3,966

整 形 外 科	新患者数	800	689	714	733	819
	再来患者数	4,602	4,683	4,631	4,857	5,171
	延患者数	5,402	5,372	5,345	5,590	5,990
形 成 外 科	新患者数	525	502	449	443	441
	再来患者数	3,824	4,133	3,629	3,656	3,504
	延患者数	4,349	4,635	4,078	4,099	3,945
泌 尿 器 科	新患者数	797	812	782	794	776
	再来患者数	5,068	5,271	5,181	5,258	5,375
	延患者数	5,865	6,083	5,963	6,052	6,151
眼 科	新患者数	618	602	560	679	578
	再来患者数	10,051	9,747	9,205	9,863	10,226
	延患者数	10,669	10,349	9,765	10,542	10,804
産 科	新患者数	728	660	753	605	521
	再来患者数	3,760	3,510	3,467	3,269	2,967
	延患者数	4,488	4,170	4,220	3,874	3,488
耳 鼻 咽 喉 科	新患者数	413	403	393	476	442
	再来患者数	4,325	4,613	4,389	4,916	5,255
	延患者数	4,738	5,016	4,782	5,392	5,697
放 射 線 科	新患者数	0	0	0	0	1
	再来患者数	5	3	1	0	4
	延患者数	5	3	1	0	5
麻 醉 科	新患者数	4	0	0	4	9
	再来患者数	1,016	958	989	1,032	947
	延患者数	1,020	958	989	1,036	956
救 急 科	新患者数		698	929	633	645
	再来患者数	小児科に含む	1,734	1,094	931	1,131
	延患者数		2,432	2,023	1,564	1,776
歯 科	新患者数	311	427	359	297	369
	再来患者数	2,810	3,274	2,956	2,686	2,785
	延患者数	3,121	3,701	3,315	2,983	3,154
合 計	新患者数	7,833	7,671	8,101	7,923	7,696
	再来患者数	80,600	79,680	76,085	78,346	78,768
	延患者数	88,433	87,351	84,186	86,269	86,464

## 5. 年度別科別入院患者数

		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
循環器内科	新規入院患者数	332	310	280	296	318
	退院患者数	346	309	297	321	346
	延患者数	8,605	6,700	7,329	9,437	9,210
腎臓内科	新規入院患者数	94	67	90	67	73
	退院患者数	100	79	105	95	103
	延患者数	1,071	1,321	1,414	1,281	1,288
脳神経内科	新規入院患者数	34	25	34	27	31
	退院患者数	78	74	94	79	117
	延患者数	1,880	1,638	1,548	1,707	2,229
血液内科	新規入院患者数	437	475	509	462	566
	退院患者数	462	508	563	499	604
	延患者数	8,931	8,999	9,192	9,416	10,908
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	53	62	44	72	38
	退院患者数	60	63	47	81	42
	延患者数	526	646	439	559	302
新生児内科	新規入院患者数	787	786	786	695	663
	退院患者数	742	756	735	659	612
	延患者数	22,556	23,033	23,875	23,701	23,512
アレルギー内科	新規入院患者数	56	50	47	32	73
	退院患者数	67	65	59	37	76
	延患者数	775	500	485	194	283
小児科	新規入院患者数	708	24	61	17	4
	退院患者数	489	164	256	148	54
	延患者数	5,160	1,890	1,715	1,232	419
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
小児外科	新規入院患者数	577	522	565	574	580
	退院患者数	627	592	642	639	670
	延患者数	7,639	7,648	9,035	8,777	9,627
心臓血管外科	新規入院患者数	122	135	109	148	147
	退院患者数	148	160	125	176	178
	延患者数	5,823	5,675	4,064	4,054	4,457
脳神経外科	新規入院患者数	137	161	191	165	152
	退院患者数	182	225	248	220	219
	延患者数	2,900	3,473	3,383	3,724	3,204

整形外科	新規入院患者数	186	202	249	241	232
	退院患者数	192	208	248	252	243
	延患者数	3,217	3,377	3,122	3,225	2,586
形成外科	新規入院患者数	237	237	249	289	270
	退院患者数	240	252	264	297	282
	延患者数	1,928	1,817	2,137	2,172	1,856
泌尿器科	新規入院患者数	251	279	269	273	315
	退院患者数	252	286	274	279	326
	延患者数	1,378	1,497	1,499	1,501	1,652
眼科	新規入院患者数	418	388	438	458	472
	退院患者数	415	391	438	453	476
	延患者数	1,800	1,661	1,968	2,104	2,284
産科	新規入院患者数	592	619	635	597	587
	退院患者数	604	606	638	594	589
	延患者数	11,417	10,944	11,233	11,078	10,427
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	59	92	88	106	106
	退院患者数	59	88	91	108	108
	延患者数	503	728	700	793	845
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
救急科	新規入院患者数		741	839	742	798
	退院患者数	小児科に含む	328	346	357	377
	延患者数		3,500	3,853	3,532	3,715
歯科	新規入院患者数	1	0	0	0	0
	退院患者数	1	0	0	0	0
	延患者数	2	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	5,081	5,175	5,483	5,261	5,425
	退院患者数	5,064	5,154	5,470	5,294	5,422
	延患者数	86,111	85,047	86,991	88,487	88,849

## 6. 年齢別患者状況

H23年度

年齢区分	外 来		入 院	
	患者数 (人)	構成比 (%)	患者数 (人)	構成比 (%)
0歳～1歳未満	2,546	10.6%	1,035	24.7%
1歳以上～3歳未満	3,643	15.2%	624	14.9%
3歳～6歳未満	4,667	19.5%	646	15.4%
6歳～13歳未満	8,692	36.3%	977	23.3%
13歳以上～16歳未満	2,114	8.8%	241	5.7%
16歳以上	2,258	9.4%	669	16.0%
合 計	23,920	100.0%	4,192	100.0%

※実患者数

## 7. 地域別患者状況

(1) 外来

区 分	22年度		23年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	10,715	45.3%	10,872	45.5%
	姫路市	1,174	5.0%	1,190	5.0%
	尼崎市	374	1.6%	366	1.5%
	明石市	2,186	9.2%	2,228	9.3%
	西宮市	931	3.9%	887	3.7%
	洲本市	206	0.9%	199	0.8%
	芦屋市	260	1.1%	263	1.1%
	伊丹市	263	1.1%	254	1.1%
	相生市	60	0.3%	57	0.2%
	豊岡市	247	1.0%	233	1.0%
兵 庫 県	加古川市	848	3.6%	874	3.7%
	龍野市	2	0.0%	3	0.0%
	赤穂市	116	0.5%	123	0.5%
	西脇市	156	0.7%	151	0.6%
	宝塚市	355	1.5%	326	1.4%
	三木市	431	1.8%	439	1.8%
	高砂市	293	1.2%	333	1.4%
	川西市	107	0.5%	118	0.5%
	小野市	233	1.0%	233	1.0%
	三田市	432	1.8%	445	1.9%
兵 庫 県	加西市	149	0.6%	144	0.6%
	篠山市	151	0.6%	160	0.7%
	川辺郡	32	0.1%	27	0.1%

(1) 入院

区 分	22年度		23年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	1,901	45.4%	1,831	43.7%
	姫路市	202	4.8%	235	5.6%
	尼崎市	75	1.8%	68	1.6%
	明石市	384	9.2%	379	9.0%
	西宮市	166	4.0%	164	3.9%
	洲本市	32	0.8%	32	0.8%
	芦屋市	45	1.1%	45	1.1%
	伊丹市	46	1.1%	38	0.9%
	相生市	7	0.2%	8	0.2%
	豊岡市	42	1.0%	47	1.1%
兵 庫 県	加古川市	118	2.8%	134	3.2%
	龍野市	0	0.0%	0	0.0%
	赤穂市	14	0.3%	20	0.5%
	西脇市	28	0.7%	28	0.7%
	宝塚市	49	1.2%	53	1.3%
	三木市	75	1.8%	64	1.5%
	高砂市	49	1.2%	52	1.2%
	川西市	24	0.6%	15	0.4%
	小野市	33	0.8%	39	0.9%
	三田市	60	1.4%	70	1.7%
兵 庫 県	加西市	20	0.5%	23	0.5%
	篠山市	27	0.6%	27	0.6%
	川辺郡	4	0.1%	1	0.0%

兵	美囊郡	2	0.0%	0	0.0%	
	加東郡	14	0.1%	7	0.0%	
	多可郡	9	0.0%	7	0.0%	
	加古郡	259	1.1%	266	1.1%	
	印南郡	0	0.0%	0	0.0%	
	飾磨郡	4	0.0%	3	0.0%	
	神崎郡	106	0.4%	116	0.5%	
	揖保郡	87	0.4%	94	0.4%	
	赤穂郡	32	0.1%	34	0.1%	
	佐用郡	28	0.1%	33	0.1%	
	庫	穴栗郡	3	0.0%	4	0.0%
		城崎郡	3	0.0%	2	0.0%
		出石郡	1	0.0%	1	0.0%
		美方郡	6	0.0%	2	0.0%
	県	養父郡	6	0.0%	5	0.0%
		朝来郡	6	0.0%	4	0.0%
		氷上郡	9	0.0%	4	0.0%
		多紀郡	0	0.0%	0	0.0%
		津名郡	4	0.0%	2	0.0%
		三原郡	0	0.0%	2	0.0%
その他		9	0.0%	15	0.1%	
計		20,309	85.9%	20,526	85.8%	
県外計	3,344	14.1%	3,394	14.2%		
総計	23,653	100.0%	23,920	100.0%		

兵	美囊郡	0	0.0%	0	0.0%	
	加東郡	0	0.0%	1	0.0%	
	多可郡	0	0.0%	1	0.0%	
	加古郡	41	1.0%	36	0.9%	
	印南郡	0	0.0%	0	0.0%	
	飾磨郡	0	0.0%	1	0.0%	
	神崎郡	17	0.4%	17	0.4%	
	揖保郡	20	0.5%	12	0.3%	
	赤穂郡	4	0.1%	6	0.1%	
	佐用郡	6	0.1%	8	0.2%	
	庫	穴栗郡	0	0.0%	0	0.0%
		城崎郡	0	0.0%	0	0.0%
		出石郡	0	0.0%	0	0.0%
		美方郡	0	0.0%	0	0.0%
	県	養父郡	1	0.0%	1	0.0%
		朝来郡	0	0.0%	0	0.0%
		氷上郡	0	0.0%	1	0.0%
		多紀郡	0	0.0%	0	0.0%
		津名郡	0	0.0%	0	0.0%
		三原郡	0	0.0%	0	0.0%
その他		1	0.0%	0	0.0%	
計		3,491	83.3%	3,457	82.5%	
県外計	700	16.7%	735	17.5%		
総計	4,191	100.0%	4,192	100.0%		

※実患者数

## 8. 公費負担患者状況

H23 年度

公費負担制度	件数	構成比
1. 小児慢性特定疾患	1,083	42.4%
2. 育成医療	175	6.8%
3. 養育医療	176	6.9%
4. 児童福祉（措置）	59	2.3%
5. 特定疾患	69	2.7%
6. 生活保護	35	1.4%
7. 精神保健	115	4.5%
8. 自費	843	33.0%
合計	2,555	100.0%

## 9. 時間外患者状況

H23 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	入院	2	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	1	7
	計	2	0	0	0	0	0	2	0	1	2	0	1	8
腎臓内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経内科	外来	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
血液内科	外来	0	0	0	0	2	1	0	0	1	7	0	0	11
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	計	0	0	0	0	2	1	0	0	2	7	0	0	12
代謝・ 内分泌内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新生児内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	4
	入院	15	23	14	20	20	13	21	27	18	18	10	19	218
	計	15	23	14	20	20	13	21	30	18	19	10	19	222
アレルギー内科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
小児科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
精神科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児外科	外来	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	入院	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3
	計	1	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	1	6
心臓血管外科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
脳神経外科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

整 形 外 科	外来	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	5
	計	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	2	6
形 成 外 科	外来	2	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	7
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	2	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	7
泌 尿 器 科	外来	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
眼 科	外来	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
産 科	外来	6	6	7	8	3	1	2	6	4	6	3	0	52
	入院	4	6	9	4	7	4	7	11	6	8	4	6	76
	計	10	12	16	12	10	5	9	17	10	14	7	6	128
耳 鼻 咽 喉 科	外来	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
放 射 線 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 醉 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救 急 科	外来	75	72	71	86	66	70	75	72	93	88	85	82	935
	入院	16	19	19	16	21	14	16	10	23	23	19	27	223
	計	91	91	90	102	87	84	91	82	116	111	104	109	1158
菌 科	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	外来	85	81	81	95	72	72	77	84	101	105	88	82	1023
	入院	39	48	43	41	48	31	46	49	49	50	35	58	537
	計	124	129	124	136	120	103	123	133	150	155	123	140	1560

II 医事経理関係

区 分		単位	22年度 決 算	23年度				決算評価		24年度 計 画	24 - 23 増減		
				計 画	決 算	計画対比	前年対比	計画対比	前年対比				
業務量	入院	許可病床数	床	290	290	290	0	0			290	0	
		稼働病床数	床	266	266	266	0	0			266	0	
		病床利用率	%	91.1	90.5	91.3	0.8	0.2	○	○	90.5	△ 0.8	
		病床利用率(一般のみ)	%	91.1	90.5	91.3	0.8	0.2	○	○	90.5	△ 0.8	
		延入院患者数	人	88,487	88,107	88,849	742	362	○	○	87,866	△ 983	
		1日当たり患者数	人/日	242	241	243	2	1	○	○	241	△ 2	
		新規入院患者数	人	5,261	5,200	5,425	225	164	○	○	5,306	△ 119	
		平均在院日数	日	15.8	15.9	15.4	△ 0.5	△ 0.4	○	○	15.6	0.2	
	入院単価	円	77,744	79,240	79,344	104	1,600	○	○	80,756	1,412		
	入院単価(一般)	円	77,744	79,240	79,344	104	1,600	○	○	80,756	1,412		
	外来	延外来患者数	人	86,269	85,888	86,464	576	195	○	○	86,240	△ 224	
		1日当たり患者数	人/日	355	352	354	2	△ 1	○	×	352	△ 2	
		外来単価	円	17,474	16,650	19,560	2,910	2,086	○	○	18,607	△ 953	
		新規外来患者数	人	7,923	8,100	7,696	△ 404	△ 227	×	×	7,898	202	
	手術件数	手術件数	件	4,149	4,200	4,185	△ 15	36	×	○	4,200	15	
		救急車搬送患者数	人	406	450	392	△ 58	△ 14	×	×	420	28	
収支	入院収益	百万円	6,879	6,982	7,050	68	171	○	○	7,096	46		
	外来収益	百万円	1,507	1,430	1,691	261	184	○	○	1,605	△ 86		
	その他医業収益	百万円	112	106	112	6	0	○	○	105	△ 7		
	* 医業収益 *	百万円	8,498	8,518	8,853	335	355	○	○	8,806	△ 47		
	医業外収益等	百万円	171	170	151	△ 19	△ 20	×	×	144	△ 7		
	* * 収益計 * *	百万円	8,669	8,688	9,004	316	335	○	○	8,950	△ 54		
	給 与 費	百万円	6,041	5,930	6,204	274	163			6,245	41		
	(うち退職給与金)	百万円	399	252	275	23	△ 124			258	△ 17		
	(うち退職給与引当金)	百万円	0	0	190	190	190			178	△ 12		
	材 料 費	百万円	1,993	1,951	2,193	242	200			2,056	△ 137		
	(うち薬品費)	百万円	1,223	1,133	1,402	269	179			1,262	△ 140		
	(うち診療材料費)	百万円	699	670	724	54	25			719	△ 5		
	経 費	百万円	1,350	1,423	1,417	△ 6	67			1,467	50		
	減 価 償 却 費	百万円	501	450	484	34	△ 17			495	11		
	その他の医業費用	百万円	66	102	76	△ 26	10			84	8		
	* 医業費用 *	百万円	9,951	9,856	10,374	518	423			10,347	△ 27		
	医業外費用等	百万円	214	256	237	△ 19	23			233	△ 4		
	* * 費用計 * *	百万円	10,166	10,111	10,611	500	445			10,580	△ 31		
	差 引 損 益	百万円	△ 1,497	△ 1,423	△ 1,607	△ 184	△ 110			×	×	△ 1,630	△ 23
	一般会計繰入金	百万円	1,900	1,737	1,731	△ 6	△ 169			-	-	1,815	84
当 期 純 損 益	百万円	403	314	124	△ 190	△ 279	×			×	185	61	
(退職給与金・引当金除き)	百万円	802	566	589	23	△ 213	○			×	621	32	
資 金 収 支	百万円	904	764	798	34	△ 106	○			×	858	60	
経営指標	医業収益比率	%	71.1	69.6	70.1	0.5	△ 1.0			×	○	70.9	0.8
	材 料 費 比 率	%	23.5	22.9	24.8	1.9	1.3			×	×	23.3	△ 1.5
	(うち薬品費比率)	%	14.4	13.3	15.8	2.5	1.4			×	×	15.3	△ 0.5
	(うち診療材料費比率)	%	8.2	7.9	8.2	0.3	0.0	×	○	8.6	0.4		
	経 費 比 率	%	15.9	16.7	16.0	△ 0.7	0.1	○	×	16.7	0.7		
	医業収支比率	%	85.4	86.4	85.3	△ 1.1	△ 0.1	×	×	85.1	△ 0.2		
経 常 収 支 比 率	%	104.0	103.1	101.4	△ 1.7	△ 2.6	×	×	101.8	0.4			

決算の推移

(単位:床、%、人、千円)

区分	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		前年度差引
	決算	業比	前年比	業比	前年比	業比	前年比	業比	前年比	業比	
稼働病床数	263	-	101.2	266	101.1	266	100.0	266	100.0	266	0
病床利用率	89.5	-	101.1	87.6	97.9	89.6	102.3	91.1	101.7	91.3	0.2
平均在院日数	16.0	-	101.3	15.5	96.9	14.9	96.1	15.8	106.0	15.4	△ 0.4
人間ドック	0	-	-	0	-	0	-	0	-	0	0
延入院患者数	86,111	-	102.5	85,048	98.8	86,991	102.3	88,487	101.7	88,849	362
(1日当り)	235	-	102.2	233	99.1	238	102.1	242	101.7	243	1
新規入院患者数	5,034	-	101.2	5,175	102.8	5,483	106.0	5,261	96.0	5,425	164
延外来患者数	85,922	-	101.6	87,351	101.7	84,186	96.4	86,269	102.5	86,464	195
(1日当り)	351	-	101.7	359	102.3	348	96.9	355	102.0	354	△ 1
新規外来患者数	7,893	-	101.8	7,671	97.2	8,101	105.6	7,923	97.8	7,696	△ 227
入院収益	5,548,034	77.8	107.9	6,002,230	79.9	6,354,437	80.2	6,879,319	81.0	7,049,609	79.6
(1日1人)	64,429	-	105.2	70,575	109.5	73,047	103.5	77,744	106.4	79,344	1,600
外来収益	1,466,452	20.6	120.6	1,386,531	18.5	1,454,627	18.3	1,507,449	17.7	1,691,258	19.1
(1日1人)	17,067	-	118.7	15,873	93.0	17,279	108.9	17,474	101.1	19,560	2,086
その他医業収益	117,021	1.6	97.2	119,125	101.8	118,169	100.0	111,152	94.1	111,725	1.3
* 医業収益計*	7,131,507	100.0	110.1	7,507,886	105.3	7,927,233	100.0	8,497,920	107.2	8,852,592	100.0
医業外収益	90,701	1.3	112.7	110,728	1.5	127,084	1.6	170,435	2.0	151,667	1.7
特別利益	11,909	0.2	382.9	2,655	0.0	58,015	0.7	599	0.0	27	△ 572
** 収益合計**	7,234,117	101.4	110.2	7,621,269	105.4	8,112,312	102.3	8,668,954	102.0	9,004,286	101.7
給与費	5,508,374	77.2	106.6	5,722,720	76.2	5,708,725	72.0	6,041,044	71.1	6,203,528	70.1
うち退職給与金	(256,482)	3.6	116.4	(341,093)	4.5	(218,668)	2.8	(398,887)	4.7	(274,709)	3.1
うち退職給与引当金										(189,709)	2.1
材料費	1,880,091	26.4	110.1	1,774,236	23.6	1,873,937	23.6	1,993,138	23.5	2,192,863	24.8
経費	1,120,149	15.7	103.9	1,175,460	15.7	1,293,679	16.3	1,349,899	15.9	1,417,049	16.0
減価償却費	427,980	6.0	102.2	465,924	6.2	476,945	6.0	501,061	5.9	483,749	5.5
資産減耗費	20,779	0.3	89.5	11,494	0.2	46,044	0.6	19,506	0.2	22,258	0.3
研究研修費	50,560	0.7	115.3	50,175	0.7	53,217	0.7	46,518	0.5	54,752	0.6
* 医業費用計*	9,007,933	126.3	104.0	9,200,009	122.5	9,452,547	119.2	9,951,166	117.1	10,374,199	117.2
医業外費用	219,969	3.1	97.7	228,013	3.0	218,432	2.8	212,253	2.5	210,858	2.4
特別損失	9,976	0.1	60.5	13,055	0.2	60,222	0.8	2,147	0.0	26,142	0.3
** 費用合計**	9,237,878	129.5	103.8	9,441,077	125.7	9,731,201	122.8	10,165,566	119.6	10,611,199	119.9
差引損益	△ 2,003,761	△ 28.1	85.7	△ 1,819,808	△ 24.2	△ 1,618,889	△ 20.4	△ 1,496,612	△ 17.6	△ 1,606,913	△ 18.2
一般会計繰入金	1,765,308	24.8	109.7	1,860,129	24.8	1,891,124	23.9	1,899,673	22.4	1,731,266	19.6
当期純損益	△ 238,453	△ 3.3	32.7	40,321	0.5	272,235	3.4	403,061	4.7	124,353	1.4

(注1) 延入院患者数欄上段は、人間ドック分で外書き

経常収支比率	%	97.4	-	105.9	100.5	102.8	-	102.3	104.0	101.1	101.4	-	97.5
医業収支比率	%	79.2	-	105.8	81.6	83.9	-	102.8	85.4	101.8	85.3	-	99.9

# III 診 療 統 計

## 1. 総合診療科

総合診療科は(1) 専門各科における診療になじまない紹介患者への対応、(2) 院内各科からの相談対応、(3) セカンドオピニオンに準じた相談に応じることなどが主な業務である。症例としては発育・発達障害や感染症を中心に、各診療科にまたがるような疾患の全身管理や、様々な特殊な問題を抱えた common disease 症例が数多く紹介されてくる。

担当スタッフは2名で、研修医や専攻医の研修の受け皿となり、研修計画の立案や実際の研修を担当し、コーディネートの役割も担っている。

入院患者は小児救急医療センターからの転科症例を主に担当している。多くが基礎疾患を持った児の合併症、特に感染症である。

現在、新しい病院に向けて診療体制の見直しが進んでいるが、総合診療科は救急部門と連携して、救急総合診療という大きな枠組みの中で全診療科がそれに参画するようなイメージで進めていければと考えている。

本年は総合診療のスキルアップを目指した講演会もシリーズで開催し、総合診療の重要性をアピールするように試行錯誤しているが、できれば毎年開催したい。

今後は総合診療科として独自のアイデンティティーを確立し、各診療科と密に連携しながら診療に当たれることを目指したいと考えている。

外来担当スタッフ:上谷良行、宅見晃子、山崎武美(阪神北広域こども急病センター)、笠井和子、山口義道、中岸保夫、佐治洋介

小児救急医療センター開設後は救急センター退院患者のフォローを午後の総合診療科外来で実施し、主として専攻医が担当している。

## 2. 救急集中治療科

### 1. 診療活動

平成 19 年 10 月 1 日に開設した小児救急医療センターも 4 年が経過し、平成 14 年 10 月の救急医療室開設による三次救急医療のスタートから 9 年を数えている。兵庫県下では、小児の三次救急の拠点としてほぼ周知され、県下の救急医療体制の中でなくてはならない存在として認識されるようになってきた。3 月の東日本大震災の際にも救急集中治療科から 3 名が県の災害派遣の一員として避難所での救護活動に参加し、貴重な体験をした。

最近では重症患者の搬入の増加や HCU の慢性的なベッド不足にともなう院内の術後患者の受け入れの増加などで救急センターのベッド運用が綱渡り状態である。病院全体が 91% と極めて厳しい稼働率で動いている中で、常に重症救急患者を受け入れるためにベッドコントロールをしている看護部の協力があったはじめて出来ることであり、病院全体として協力いただいていることは大変にありがたい。

さて、本年 4 月より竹田医師が救急集中治療科長として救急センターの管理を行っているが、これまで各診療科と兼任の医師が多く、救急集中治療科としてのスタッフ教育がなかなか進んでいなかったが、少しずつ専任のスタッフを採用して、科としての活動が出来るようになってきている。

昨年来作成に取り組んできた臓器提供に関する当院のマニュアルも完成して、脳死下臓器提供のための院内体制作りもほぼ終わった。未ださまざまな問題を抱えているとはいえ、臓器提供を望まれる方にはその思いを無駄にせぬように対応することがわれわれの使命と考えている。

本年は救急医の取扱患者数が年間 2165 人で、ほぼ昨年並みであった。最重症に分類したいわゆる救命救急に相当する患者数は 296 人で昨年の 232 人より大幅に増加している。初診の最重症患者は昨年と変化がないにもかかわらず、再診の最重症患者が約 70 人増加していることがその要因になっている。当院のかかりつけ患者が重症化していることを示している。

小児救急医療センターが小児三次救急医療を着実に実施できるためには、これまで以上に院内各科、各部署の協力と連携が必要である。今後とも一段階飛躍した救急医療を提供できるように努力したい。

### 2. スタッフ

救急集中治療科: 上谷良行、竹田洋樹、尾崎佳代、丸山あずさ、福原信一、山口善道、中岸保夫、佐治洋介、  
神田杏子、奥野美佐子

兼 任: 三好麻里 (部長・免疫アレルギー科)、田中亮二郎 (腎臓内科)、永瀬裕朗 (脳神経内科)  
川崎圭一郎 (血液腫瘍科)、長谷川大一郎 (血液腫瘍科)、笠井和子 (免疫アレルギー科)

フェロー: 楠元真由美 (平成 23 年 4 月～)

専攻 医: 水田麻雄 (平成 22 年 12 月～平成 23 年 3 月)

宇仁田亮 (平成 23 年 4 月～7 月)

武岡恵美子 (平成 23 年 8 月～11 月)

二野菜々子 (平成 23 年 8 月～11 月)

祖父江俊樹 (平成 23 年 12 月～)

専攻 医: 水田麻雄 (平成 22 年 12 月～平成 23 年 3 月)

宇仁田亮 (平成 23 年 4 月～7 月)

初期研修医:

西村利秀	神戸百年記念病院	5 月	救急集中治療科・血液腫瘍科
------	----------	-----	---------------

小児外科、脳神経外科、整形外科、形成外科など外科系各科は on call で back up 体制をとっている。

兵庫県立こども病院 小児救急医療センター 統計 2011年1月～12月

【1】 救急医療センター 来院患者 全体統計

2011年 1月～12月	外来のみ				本館入院				救急センター入院				小計				合計		
	時間内		時間外		時間内		時間外		時間内		時間外		時間内		時間外				
	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診			
	431		779		54		38		240		529		94		785			1,380	
救急集中 治療科Dr 外来診察	87	344	139	640	8	46	3	35	98	142	231	298	60	34	193	592	373	1007	2,165
小計	1,210		779		54		38		240		529		94		785		1,380		
外科系	/																		
小児外科	0	20	1	19	1	11	0	11	1	11	0	0	11	1	31	1	30	63	
脳外科	1	14	0	5	2	8	0	0	2	8	0	0	0	3	22	0	5	30	
泌尿器科	5	9	8	18	0	3	0	1	5	12	8	19	44	5	12	8	19	44	
形成外科	2	38	0	23	0	0	0	0	2	38	0	23	63	2	38	0	23	63	
その他	6	14	1	10	1	1	2	2	7	15	3	12	37	7	15	3	12	37	
心外・循環器科	0	34	0	13	2	11	0	6	2	45	0	19	66	2	45	0	19	66	
新生児科	1	72	3	129	0	22	0	40	1	94	3	169	267	1	94	3	169	267	
他の内科系	1	16	0	6	1	1	0	2	2	17	0	8	27	2	17	0	8	27	
小計	16	217	13	223	7	57	2	62	23	274	15	285	300	23	274	15	285	300	
小計	469		236		64		64		128		297		300		1,082		1,680		
合計	103	561	152	863	15	103	5	97	98	142	231	298	60	34	1,082	1,680	2,762	863	
合計	1,899																		

## 【2】救急センター外来・入院患者の内訳 2011年1月～12月

### 1) 総内訳

外来患者	1302 (本館入院 92 帰宅 1210 )
------	-------------------------

入院患者	死亡	17	PICU	344
	最重症	279		
	重症	567	Q病棟	519
	計	863	計	863

### 2) 来院患者重症度別

#### ① 重症度

来院患者		初診	再診	計	%
	死亡	6	11	17	0.8
	最重症	106	173	279	12.9
	重症	217	350	567	26.2
	外来	237	1,065	1,302	60.1
	計	566	1,599	2,165	100

#### ② 事故・疾病別 重症度

来院患者		事故	%	疾病	%	計	%
	死亡	1	5.9	16	94.1	17	100.0
	最重症	32	11.5	247	88.5	279	100.0
	重症	118	20.8	449	79.2	567	100.0
	外来	221	17.0	1,081	83.0	1,302	100.0
	計	372	17.2	1,793	82.8	2,165	100.0

### 3) 来院方法別

		小計	計	%
自家用車・タクシー・徒歩		2,075	2,075	75.1
救急車	公共	582	585	21.2
	Dr car	0		
	当院	0		
	災害医療	2		
	中央市民	1		
	その他	0		
ヘリ		8	8	0.3
転棟		94	94	3.4
計		2,762		100.0

#### ヘリでの搬送例

公立豊岡病院	6歳	無菌性髄膜炎、水頭症、EVD留置後
県立加古川医療センター	7歳	交通外傷
県立柏原病院	5歳	交通外傷
公立豊岡病院	12歳	溺水
県立柏原病院	1歳	縦隔腫瘍、LCH
県立柏原病院から	9ヵ月	到着時心肺停止
公立豊岡病院から	1ヵ月	急性心筋炎
愛媛大学	12歳	上気道閉塞、先天性気管狭窄症

4) 主な症例

1	人工換気療法	79
2	緊急手術	76
	消化器系	31
	脳神経系	29
3	交通外傷	10
4	脳低温・平温療法	12
5	血液浄化	7
6	到着時心肺停止	11

5) 外科系緊急協力科(含重複)

小児外科	282	泌尿器科	54
脳外科	204	放射線科	52
麻酔科	23	耳鼻科	27
形成外科	44	眼科	21
整形外科	53	精神科・指導相談	2
心外循環器	74	歯科	5

6) 救急センター入院 最重症患者住所

	2011年		2010年		2009年		2008年		2007年		2006年	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
神戸	123	41.1	80	34.5	91	40.3	49	28.0	74	40.4	46	31
阪神	28	9.4	34	14.7	41	18.1	45	25.7	36	19.7	40	25.8
東播	60	20.1	56	24.1	48	21.2	36	20.6	41	22.4	34	21.9
西播	31	10.4	25	10.8	10	4.4	15	8.6	17	9.3	5	3.2
丹波	8	2.7	5	2.2	0	0.0	7	4.0	1	0.5	4	2.6
但馬	9	3.0	4	1.7	8	3.5	6	3.4	3	1.6	3	1.9
淡路	5	1.7	3	1.3	11	4.9	1	0.6	3	1.6	3	1.9
県外	35	11.7	25	10.8	17	7.5	16	9.1	8	4.4	14	8.5
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	3.2
計	299	100.0	232	100.0	226	100.0	175	100.0	183	100.0	154	100

### 3. 代謝内分泌科

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。また、当科では新生児マススクリーニング対象疾患である先天代謝異常、先天性甲状腺機能低下症および先天性副腎過形成も担当している。さらに、小児がん経験者における内分泌合併症に対しても積極的に取り組んでいる。本年度の新規外来患者数は216名であった。

近年、分子生物学の分野における技術的な進歩はめざましく、各種疾患における病態も分子レベルで解明されるようになった。その結果、当院の様な小児専門病院の臨床の現場においても遺伝子工学的手法に基づく診断、治療技術が必須となってきた。当科では、遺伝子工学的手法を駆使して診療にあたることこそが社会的要請に合致することと考え分子生物学の技術の確立に努めている。今後も、神戸大学小児科とも協力しながら、分子生物学的手法をもちいた解析、研究を臨床の場に役立てたいと考えている。

#### 外来患者（新患）

	患者数
低身長症	86
甲状腺疾患	14
性腺疾患	39
副腎	3
糖代謝異常	7
肥満	7
マススクリーニング クレチン症	21
先天代謝異常症	2
先天性副腎過形成	8
その他	29
計	216

#### 入院患者

	患者数
低身長症	16
糖代謝異常	13
性腺疾患	4
甲状腺疾患	4
副腎疾患	0
その他	7
計	44

## 4. リウマチ科

リウマチ科は、三好、中岸、笠井を中心に診療を行った。診断・治療が日進月歩であるリウマチ性疾患のこともへより良い対応をするように努力を続けている。また、2011年10月には小児リウマチ学会を神戸で開催した。

### 【診療活動】

リウマチ科の対象疾患としては、以下のような内容である

膠原病・リウマチ性疾患；若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎、自己炎症性疾患 等

膠原病・リウマチ性疾患の患者数も徐々に蓄積され、きんき各地からの紹介や相談も増えてきている。JIA に対する生物学的製剤の診療実績も積み重ねられてきており、地域の中心的病院としての役割を果たしていると考えている。今後も診療に努力を続けるとともに後進の育成にも力を尽くしたい。

### 1) 外来初診患者数 23名

疾患名	数
若年性特発性関節炎	19
皮膚筋炎	1
SLE・MCTD	1
その他のリウマチ性疾患	2
その他のアレルギー疾患	1

### 2) 入院患者数

疾患名	数
若年性特発性関節炎	16
皮膚筋炎	1
SLE・MCTD	1
その他のリウマチ性疾患	0

## 5. アレルギー科

アレルギー科は三好と田中裕也、安部信吾を中心に診療を行った。

### 【診療活動】

アレルギー科の対象疾患としては、以下のような内容である

気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、じんましん など

アトピー性皮膚炎や食物アレルギーについては、ガイドラインに沿ったスタンダードな治療の普及に努めた。食物アレルギーの確定診断のための食物負荷試験を行った。その診断結果及び継続治療を地域の病院と連携して行い、地域の中心的病院としての役割を果たすよう努力を続けている。

### 1) 外来初診患者数 60名

疾患名	数
気管支喘息	8
アトピー性皮膚炎	12
食物アレルギー	30
じんましん	4
その他	6

### 2) 入院患者数 39名

疾患名	数
アトピー性皮膚炎	1
食物負荷試験	38

## 6. 脳神経内科

### 1. 人事異動

#### 【スタッフ】

医長（科長）	永瀬 裕朗
医長	丸山あずさ
医長（フェローより昇任）	藤田 杏子

#### 【専攻医】

2011年8 - 9月	辻 真之介
10 - 11月	水田 麻雄
2012年2 - 3月	西山 将広

本年はフェローの藤田杏子が救急集中治療科兼務のスタッフとなり、丸山とあわせ3名体制となった。児玉荘一先生に引き続き週1回スーパーバイズをお願いしている。

### 2. 活動状況

診療活動は、脳神経内科外来初診266名・発達行動小児科外来初診患者は54人、外来延べ人数3396人であった。また入院患者延べ人数は1895人であった。近隣の医療機関での神経疾患の対応が対応困難となってきたことから外来、入院患者数とも増加しており、県内の中核機関としての役割が増してきている。

当科で重点的に取り組んでいる集中治療領域における連続脳波モニタリングは54例に対して行った。意識障害の評価には必須の管理であるが全国的に見ても、有数の件数である。引き続き急性脳症や重症頭部外傷などの重篤な症例の管理の質の向上に取り組んでいく予定である。

永瀬が小児神経専門医を取得し、小児神経専門医が2名体制となった。今後小児神経診療の教育に対しても負うべき責務が大きくなっていると考えている。一般的な診療は可能であるにしても、小児専門病院としてのより専門的な医療を満たすには外来スペース、人員の不足があり他の小児専門病院と比べても圧倒的に不足している。新病院への建替え計画が始まったが、拡充を引き続き働きかけている。学術活動についても引き続き尽力している。詳細は業績の項目を参照していただきたい。

一般的な診療・学術活動に加え、本年度は小児脳死下臓器移植の臓器提供施設として当院が名乗りを上げることになった。従前より院内急変患者や救急での脳機能評価、重症頭部外症例での虐待評価には深く関わってきているが、新たに臓器移植法で定められた脳死判定委員会、虐待防止委員会の活動にも積極的に参与している。永瀬は兵庫県の虐待防止委員として、本年度は事例検討に参加。また県下の医療機関、保健所、児童相談所、児童養護施設、学校などの多職種で構成される虐待防止研究会の事務局を担当しており、こどもを取り巻く環境に関する社会的活動にも積極的に貢献している。

けいれん性疾患

てんかん	85
ウェスト症候群	10
熱性けいれん	38
泣き入りひきつけ	2
その他の発作性疾患	23

心身症

自閉症	2
ADHD	1

その他

神経皮膚症	5
神経筋疾患	2
脳性麻痺	6
筋緊張低下	3
頭部拡大	1
小頭症	1
不随意運動	6
チック	3
白質変性症	3
脳梗塞	1
頭部外傷	2
神経調節性失神	8
痙性対麻痺	1
片頭痛	10
restless leg syndrome	2
CHARGE 症候群	1
Harlequin 症候群	1
Down 症候群	1
Dandy Walker 症候群	1
睡眠障害	1
外転神経麻痺	1
Bell 麻痺	1
めまい	1
吃音	1
無痛無汗症	1
薬物中毒	1
自慰	1
その他	7
合 計	266

感染性・炎症性疾患

急性脳炎・脳症	9
ADEM	2
MS	1
急性小脳失調	4
ギランバレー症候群	2
髄膜炎	1

発達障害

精神遅滞	10
運動発達遅滞	3

発達行動小児科外来初診患者

広汎性発達障害	10
精神遅滞	3
注意欠陥多動障害	6
その他の発達障害	12
自閉症	6
チック	2
その他	15
合 計	54

## 7. 血液腫瘍科

### 1. 人事

当科で医長として種々の業務を担っていた竹田洋樹医長が救急部へ異動となった。その代わりにフェローであった石田敏章医師が正規雇用となり、医長に就任した。現在のメンバーは以下のとおりである。(短期ローテーターは割愛したが、高槻病院や塚口病院からも3ヶ月の研修に今年度は合計4人来ていただいた。)

部長(科長)	小阪嘉之
部長	川崎圭一郎
医長	長谷川大一郎
医長(フェローより昇任)	石田敏章
フェロー	田中愛子
フェロー	山下達也

### 2. 活動状況

小児がん診療のますますの集約化が進み、当院の同分野における果たすべき役割の比重は年々増してきている。今年度は表1に示すとおり、最多の新患数であった。なかでも悪性腫瘍は新患だけでも80例程度で、これは県下で治療した総小児がん患者の80%弱を占めるものである。造血幹細胞移植はほぼ例年並みの21例で(表2)、無菌室が2床であることを考慮すると飽和状態である。小児造血器腫瘍の全国組織であるJPLSGに加えて、今年度は小児固形がん共同機構が組織され、ともに登録数は全国でも有数である。それだけに、病床数、およびマンパワーの慢性的な不足は否めず、今後の課題である。

もちろん血友病や貧血症などの非悪性血液疾患にも力を入れており、来年度からは血友病外来が開始される予定である。

忙しいなか、本誌の別稿に示すように、国内外の種々の学会や雑誌に成果を発表している。詳細は業績の項目をご参照ください。

またほぼ毎週水曜日に各外科系医師や放射線科医、病理医と腫瘍カンファレンスを開催して、個々の症例の治療方針を決定している。

今後益々その専門性から需要が高まると予想される小児血液腫瘍の診療に向けて、スタッフ一同さらなる飛躍を目指していきたい。

表1 新患一覧

急性リンパ性白血病	BCP	11
	Ph+	1
	TCP	1
	Acute Biphenotypic Leukeia	1
急性骨髄性白血病		6
急性混合型白血病		1
骨髄異形性症候群		3
若年性骨髄単球性白血病		1
ランゲルハンス細胞組織球症		3
悪性リンパ腫	LBL	2
	DLBL	2
	ALCL	1
	HD	1
再生不良性貧血		1
特発性血小板減少性紫斑病		10
溶血性貧血		1
特発性好酸球増加症		1
カサバツハ・メリット症候群		1
異常フィブリノーゲン血症		1
脳腫瘍	上衣腫	2
	髄芽腫	2
	毛様類粘液性星細胞腫	2
	脳幹神経膠腫	1
	多発性神経膠腫	1
	Mixed Germ Cell Tumor	2
PNET	1	
仙尾部上衣腫		1
神経芽腫		8
Wilms腫瘍		3
Sarcoma Nosis		2
横紋筋肉腫		2
網膜芽細胞種		2
ユーイング肉腫		1
肝芽腫		1
線維肉腫		1
腎腺腫		1
成熟奇形腫		7
未熟奇形腫		2
混合型胚細胞腫瘍		1
未分化胚細胞腫瘍		1
卵黄のう腫瘍		1
左卵巣未熟奇形腫(腫瘍破裂)		1
先天性間葉芽腎腫		1
筋線維腫		1
肝血管腫		1
solid pseudo-papillary tumor		1
神経線維腫症1型		1
血管腫		1
デルモイド		1
背部腫瘍		1
遺伝性球状赤血球症		2
血小板減少症		2
血友病A		5
原発性免疫不全症候群		2
自己免疫性好中球減少症		1
不応性貧血		1
フォン・ウィルブランド病		2
化膿性リンパ節炎		1
菊池病		1
セカンドオピニオン		1
骨髄移植ドナー(候補)		37
その他		29
合計		187

表2 造血幹細胞移植一覧

	疾患名	年齢 / 性	病期	移植の種類	転帰
1	RMS	4/M	2nd CR	APBSCT	担がん生存
2	AML	10/F	2nd CR	RBMT	無病生存
3	AML	14/M	1st CR	RBMT	無病生存
4	NBL	2/F	1st CR	APBSCT	無病生存
5	AT/RT	9M/M	1st CR	APBSCT	無病生存
6	JMML	1/F		CBT	無病生存
7	EWS	12/F	1st CR	APBSCT	担がん生存
8	AML	17/M	1st CR	UBMT	無病生存
9	MBL	3/M	1st CR	APBSCT	無病生存
10	MBL	4/F	1st CR	APBSCT	無病生存
11	AML	4/F	2nd CR	UBMT	無病生存
12	Myeloid sarcoma	2/M	1st CR	RBMT	無病生存
13	MBL	9/M	1st PR	APBSCT	無病生存
14	Kostman syndrome	2/M	1st CR	RBMT	無病生存
15	NBL	4/M	1st PR	APBSCT	無病生存
16	ALL	3/F	1st CR	RBMT	無病生存
17	MBL	9/M	1st PR	APBSCT	無病生存
18	MBL	9/F	2nd CR	APBSCT	無病生存
19	NBL	4/M	1st PR	APBSCT	無病生存
20	EWS	14/M	1st CR	APBSCT	無病生存
21	NBL	9/F	2nd CR	RBMT	無病生存

R M S: 横紋筋肉腫

N B L: 神経芽腫

AT/RT: atypical teratoid rhabdoid tumor

M B L: 髄芽腫

A M L: 急性骨髄性白血病

JMML: 若年性慢性骨髄単球性白血病

A L L: 急性リンパ性白血病

APBSCT: 自家末梢血幹細胞移植

R B M T: 血縁者間同種骨髄移植

U B M T: 非血縁者間同種骨髄移植

C B T: 臍帯血移植

表3 死亡例(当科関連分)

年齢 / 性	疾患名	死因	備考
5/M	横紋筋肉腫	腫瘍死	7F
16/M	急性白血病 (acute bilineal leukemia)	腫瘍死	7F
4/M	横紋筋肉腫	腫瘍死	7F
16/M	神経芽腫	腫瘍死	他院にて死亡
1/M	急性骨髄性白血病 (M2)	合併症死	救急部
12/M	上衣腫	腫瘍死	救急部(直前の主科は脳外科)
12/M	急性リンパ性白血病	腫瘍死	救急部

## 8. 循環器科

### 【スタッフ・フェロー】

スタッフ	城戸佐知子	専攻医	西山 将広
	田中 敏克		辻 真之介
	藤田 秀樹 (4月より公立豊岡病院へ異動)		祖父江 俊樹
	富永 健太		宮田 憲二
	佐藤 有美		宇仁田 亮
小川 禎治 (藤田医師の異動に伴いスタッフへ)			
フェロー	古賀 千穂		
	亀井 直哉		

スタッフ5名、フェロー2名、他に専攻医数名。専攻医はほぼ3-4ヶ月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、診断から手術適応の判断ができることを主たる目的とする。またフェローは1年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、治療方針を自身の判断で立てられることが目標である。

### 【診療活動】

- (1) 外来：月曜日から金曜日まで週5日、午前・午後、基本1診。外来総患者数は7479名(再診のみ)、新規患者数は月曜日以外の毎日受け入れており、2011年の総新規患者数は523名(うち288名に心疾患・不整脈など経過観察を要する疾患あり)であった。外来での有疾患患者の主体は心室中隔欠損(123)、心房中隔欠損(74)で、複雑心奇形はまれであった。カテーテル治療相談外来(木曜午前、担当：田中医師)や成人先天性心疾患外来(月曜午後、経過観察、妊娠・分娩の相談など、担当：城戸)など専門外来についても、昨年どおり。当院では外来枠の制限があるため、地域の病院での先天性心疾患外来が充実されることが望ましいが、従事可能な小児科循環器医の数が少なく、今後の大きな課題である。成人に達した患者については他院での診療応援、受け入れ病院(循環器内科)の開拓なども含めて病診連携を深める取り組みをしている。
- (2) 入院：1年間の総入院患者数は412名。カテーテル検査・治療目的の入院が多数を占めるが、それ以外の入院が128名。新生児・乳児期早期の新規患者の入院は昨年よりもさらに増えており、65名(内訳下表)であった。これには兵庫県内で産科医師による胎児心臓スクリーニングが少しずつ浸透し、当院(産科胎児心エコー外来)へご紹介いただいているところが大きい。新生児新規入院患者は昨年以上に重症の疾患が多いが、出生後早期からの管理により救命率も高くなっていると考えられる。しかしICU滞在期間・入院期間は必然的に長くなっており、病棟運営上の問題となっている。なお、新生児の入院のうち胎児心エコーで診断がついていた症例が33名(母体搬送にて当院で出生)、経過観察中患者の感染症・不整脈・心不全、また呼吸管理などを目的にした入院が34名、成人患者の入院が21名。
- (3) 生理検査：総心電図件数4237件、Master負荷心電図件数2052件、Holter心電図件数125件、トレッドミル負荷心電図は101件とほぼ例年通りの状況である。心エコーは4902件(本年統計はICUや手術室でのエコー件数を除いている)、胎児心エコーは219件(うち127件で異常所見あり。担当：佐藤医師、主として木曜日。また協力病院でも胎児心エコーの協力をしており実際の件数はさらに多い)。

- (4) 心臓カテーテル検査：総件数 261 件。カテーテル治療の件数は 80 件。
- (5) 心臓カテーテル検査以外の画像検査：心臓 CT が 201 件、MRI が 22 件。

【その他の活動】

- (1) カンファレンス：月曜日に心臓外科との合同カンファレンス、木曜日にカテーテル検査および心エコー検討会、木曜日朝に心臓外科と合同の抄読会・検討会を行い、討議の時間をもっている。
- (2) 学会参加：小児循環器病学会、JPIC 研究会、胎児循環器学会、成人先天性心疾患研究会、HOT 研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。
- (3) 患者教室：年に 2 - 3 回。2011 年はフォンタン型手術後女性患者の集まり、フォンタン型術後患者の運動療法をテーマに開催した。

【新規患者内訳】

1. 新患総数	595 名
A 新生児期・乳児期早期 (入院患者)	65
心室中隔欠損・心内膜症欠損	11
大動脈離断複合・縮窄複合	5
両大血管右室起始	6
大血管転位	4
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	4
ファロー四徴症、	4
多脾症候群・無脾症候群	1
三尖弁閉鎖	1
左心低形成症候群	7
その他の単心室系疾患	5
総肺静脈還流異常	4
エプスタイン奇形	1
肺動脈弁欠損・ファロー四徴症	1
総動脈幹症	1
肺動脈閉鎖 (心室中隔欠損を伴わない)	3
冠動脈静脈瘻	1
不整脈・心不全	1
大動脈弁狭窄	1
大動脈縮窄	2
重症肺動脈弁狭窄	1
心筋炎	1
B 乳児期以後 (入院患者)	7
川崎病	2
不整脈	3
拘束型心筋症	1
感染性心内膜炎	1
C 外来紹介患者	
心室中隔欠損	123
心房中隔欠損	74
動脈管開存	21
心内膜床欠損	2
肺動脈弁狭窄	26
大動脈弁狭窄・閉鎖不全	7
ファロー四徴症	4
両大血管右室起始	2
僧帽弁閉鎖不全	3
大動脈縮窄 (軽度)	6
川崎病	10
不整脈	34
大血管転位	2
エプスタイン奇形	1
単心室	1
心筋症	2
(卵円孔開存	30)

【カテーテル検査・治療内訳 (総数 261 件)】

A 心臓カテーテル検査 (治療重複あり)	
心室中隔欠損 (合併奇形・肺高血圧を伴う)	21
心房中隔欠損	35
心内膜床欠損	6
両大血管右室起始	11
動脈管開存	16
大動脈縮窄・離断 (心室中隔欠損合併含む)	5
ファロー四徴症 / 肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	40
大血管転位	12
純型肺動脈閉鎖・重症肺動脈狭窄	9
いわゆるフォンタン適応症例 (単心室型心臓)	38
(左心低形成症候群	5)
(三尖弁閉鎖	7)
(無脾症候群	8)
フォンタン型手術後	17
肺動脈弁狭窄	9
修正大血管転位	3
総肺静脈還流異常	4
大動脈肺動脈中隔欠損	4
エプスタイン奇形	2
心筋症	2
腎血管性肺高血圧	3
川崎病	16
肺高血圧	2
その他	6
B. カテーテル治療	80
弁形成 (大動脈弁・肺動脈弁)	8
血管形成	22
ステント留置術	3
コイル塞栓術 (動脈管開存)	3
コイル塞栓術 (側副血管・動静脈瘻)	6
バルーン心房中隔裂開術	7
心房中隔欠損閉鎖術 (Amplatzer)	17
動脈管開存閉鎖術 (Amplatzer)	11

## 9. 腎臓内科

外来／入院診療については、河場康郎医師（フェロー、1月—3月）、中川拓医師（フェロー、4月—12月）、神田杏子医師（1月—10月）と田中亮二郎医師が担当した。また専攻医の水田麻雄医師（8月—9月）、西山将広医師（10月 - 11月）、辻真之介医師（12月—3月予定）が研修した。平成23年の外来初診患者数は201名、入院患者数は94名であった。

### 【活動状況】

ネフローゼ症候群、急性腎炎、IgA腎症、紫斑病性腎炎、遺伝性腎炎、その他慢性腎炎、全身性エリテマトーデス、溶血性尿毒症症候群などの急性腎不全、慢性腎不全、高血圧、尿路感染症、先天性尿路奇形、腎臓移植後のフォロー等を対象としている。本年度はネフローゼ症候群や腎炎などに対して34例の腎生検を施行した。またPICUにおいて4名の患児（腎不全3名、神経疾患1名）に急性血液浄化を施行した。また低形成腎による慢性腎不全の患児1名に対して腹膜透析を導入し、現在4名の慢性腎不全患児が外来維持腹膜透析を受けている。腎移植に関しては他院にお願いし、現在計5名の患者さんが外来にてフォロー中である。平成19年度より最新の持続血液透析濾過器が常備され、急性腎不全に対する透析や他の血液浄化療法に対して迅速に対応可能となった。今後急性腎不全に対する血液浄化や慢性腎不全に対する在宅腹膜透析を積極的に押し進めたいと考えている。一方平成15年度より厚生労働科学研究「小児難治性腎疾患に対する薬物療法ガイドライン作成のための多施設協同研究」に参加し、巣状メサンギウム増殖を示す小児IgA腎症、頻回再発型ネフローゼ症候群、ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群を対象とした多施設協同非盲検ランダム化比較試験、平成19年度から小児ネフローゼ症候群に対する初期治療確立を目指した多施設共同臨床研究と拡大臨床試験体制整備事業にも参加している。また平成20年度より小児期発症の難治性ネフローゼ症候群に対するIDEC-C2B8の多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験を医師主導治験として開始し、これまで6例の登録を行った。また本邦小児の新たな診断基準による小児慢性腎臓病（CKD）の実態把握のための調査研究や小児の急性血液浄化療法の全国規模の実態調査および標準治療的治療指針の作成の研究に関しては、分担研究者として参加している。臨床研究・治験と疫学的研究を通して新しいエビデンス構築に向けて貢献している。院内活動としては、週1回英文抄読会を行い、最新の情報の収集に努めている。さらに平成18年度より日本腎臓学会の研修教育施設にも指定されている。

### 平成22年 入院患者

ネフローゼ症候群	41
IgA腎症	10
膜性増殖性糸球体腎炎	3
巣状分節性糸球体硬化症	1
微小変化型	2
尿細管間質腎炎	2
ループス腎炎	4
紫斑病性腎炎	3
TTP/HUS	1
ネフロン癆	1
慢性腎不全	6
保存期腎不全	8
腎移植後	3
尿路感染症	6
腎血管性高血圧	2
その他	1
計	94名

## 10. 精神神経科

### 【スタッフ（人事異動）】

#### 常勤

前田宏章（平成 14 年 4 月～平成 23 年 4 月）

関口典子（平成 23 年 5 月～）

#### 非常勤

長谷川弘子

松川悦之

今年は、9 年間にわたって当院精神科での常勤を勤めてきた前田宏章が 4 月に退職となった。5 月より兵庫県立光風病院で児童思春期外来を担当していた関口典子が赴任している。一人常勤医の交代により、患者数は大幅に減少しているが、現在は新患患者数がすこしづつ伸びてきており、今後徐々に患者数の増加が見込まれる。

非常勤は、昨年に引き続き、長谷川弘子（神戸市こども家庭センター）と松川悦之（松川診療所）が週 1 回外来を担当しており、計 3 名で外来を毎日開設している。

### 【活動内容】

- 1) 診療活動は外来診療が主である。入院患者に対するリエゾン、緩和ケア、産後うつなど精神科医が必要とされている分野はあるが、まだ責務を果たせていない。今後、他科との連携を強化したい。
- 2) 平成 25 年度兵庫県下で唯一となる児童精神科病棟が兵庫県立光風病院にて開設される予定であるが、当院精神科との合同研究会、勉強会、診療応援を通して連携を密に行っている。
- 3) 地域の精神科領域での啓蒙、教育研修として、神戸大学発達科学部での講義、看護協会や保健所での講演を行っている。
- 4) 司法精神医学として、起訴前簡易精神鑑定を不定期ながら引き受けている。
- 5) 今年度は、人事が交代したばかりであり、学会発表が行えていないが、来年度からは積極的に学会発表も行い、学術的貢献も果たしたいと考えている。

平成 23 年 新患分布

			幼児前期	幼児後期	学童前期	学童後期	中学高校	18 歳以上	計
F2	F20	統合失調症					1		1
	F23	急性一過性精神病性障害				1			1
F3	F32	うつ病エピソード					1		1
	F34	持続性気分(感情)障害			1		3		4
F4	F40	恐怖症性不安障害					1		1
	F41	他の不安障害			1	1		2	4
	F42	強迫性障害			2	5	1	1	9
	F43	重度ストレス反応 [ 重度ストレスへの反応 ]	1	3	3	1	13	1	22
	F44	解離性(転換性)障害			1	9	6		16
	F45	身体表現性障害			5	2	3		10
F5	F50	摂食障害				1	2	1	4
	F51	非器質性睡眠障害			2	1	1		4
F6	F63	習慣および衝動の障害				2			2
F7	F70	軽度精神遅滞 [ 知的障害 ]		3		1	2		6
	F71	中度 [ 中等度 ] 精神遅滞 [ 知的障害 ]					1		1
	F72	重度精神遅滞 [ 知的障害 ]						1	1
	F73	最重度精神遅滞 [ 知的障害 ]			1			1	2
F8	F80	会話および言語の特異的 発達障害	3				1		4
	F84	広汎性発達障害	7	21	12	11	5		56
F9	F90	多動性障害		1	5	8	3		17
	F91	行為障害			2		3		5
	F94	小児期および青年期に特 異的に発症する				1			1
	F95	チック障害			9		3		12
	F98	小児期および青年期に通 常発症する 797970		4	2	2	1		9
	G40				1				1
	該当なし				1			1	2
計			11	32	48	46	51	8	196

(H23.1.1 ~ H23.12.31)

## 11. 小児外科

## 小児外科スタッフ

西島栄治（昭和 53 年卒）  
 横井暁子（平成 2 年卒）  
 中尾 真（平成 3 年卒）  
 尾藤祐子（平成 5 年卒）  
 荒井洋志（平成 7 年卒）  
 岡本光正（平成 15 年卒）

## 小児外科フェロー・専攻医

田浦康明（平成 16 年卒～3 月）  
 田村 亮（平成 16 年卒～3 月）  
 橋木由美子（平成 13 年卒）  
 清水裕史（平成 15 年卒～3 月）  
 谷本光隆（平成 17 年卒～3 月）  
 馬場勝尚（平成 15 年卒 4 月～）  
 園田真理（平成 17 年卒 4 月～）  
 洲尾昌伍（平成 19 年卒 4 月～）

## 【診療活動】

入院患者数 985 名（前年度 895 名）に対して 987 件、日帰り手術患者数 317 名（前年度 344 名）に対して 318 件の手術を行った。全手術件数 1305 件（前年度 1265 件）であった。うち新生児患者数 79 名（前年度 43 名）に対して 83 件の手術を行った。鏡視下手術は 48 件（前年度 27 件）であった。

手術待ち時間は入院手術で 1 ヶ月～2 ヶ月、日帰り手術で 3~4 週間であった。

## 【教育活動】

例年通り神戸大学と熊本大学の 5-6 年生を臨床実習生として受け入れた。本年は海外からの留学生の受け入れはなかった。

## 【学会活動】

日本小児外科学会、太平洋小児外科学会、アメリカ小児科学会、小児がん学会、日本内視鏡手術手技研究会、日本小児呼吸器外科研究会等で発表した。発表論文は邦文 7 編であった。

## 入院手術

部位	術式	件数			
頭頸部	側頸瘻摘出術	4	横隔膜	胸骨挙上術	2
	Sistrunk	3		横隔膜ヘルニア修復術	10
気道	喉頭前方切開 T-tube 留置	3		横隔膜ヘルニア修復後腹壁閉鎖術	1
	気管切開術	24	食道	食道閉鎖症	
	気管切開孔閉鎖術	2		頸部食道瘻造設術	1
	喉頭気管分離術	9		食道ブジー	2
	大動脈つり上げ術	1		食道食道吻合術	5
	腕頭動脈離断術	3		食道番バンディング胃瘻造設術	3
	スライド気管形成術	4		気管食道瘻離断術	2
	気管形成術	1		胃	胃瘻造設術
	肺	胸腔鏡下ブラ切除術	5		胃瘻閉鎖術
肺葉切除術		9	噴門形成術		24
肺全摘術		1	肥厚性幽門狭窄症手術		8
肺嚢胞閉塞術		1	幽門形成術	1	
胸壁		Nuss bar 挿入	1	十二指腸	十二指腸閉鎖・狭窄症手術
	Nuss bar 抜去	7	十二指腸穿孔縫合閉鎖術		1
			小腸・大腸	腸回転異常症手術	6

	小腸閉鎖症手術	5		腹壁形成術	2
	腸重積観血的整復術	2		臍帯内ヘルニア・臍腸管遺残手術	2
	イレウス解除術	10		臍肉芽切除術	1
	Hirschsprung 病			鼠径ヘルニア・陰嚢水腫手術	109
	腹腔鏡補助下 Swenson 手術	3		臍ヘルニア白線ヘルニア手術	6
	Duhamel 手術	1		腹腔内嚢胞切除術	1
	経肛門 Soave 手術	1	泌尿・生殖器	腎摘出術	3
	結腸パッチ手術	2		卵巣のう腫開窓術	1
	レベリング腸生検	2		回腸利用膀胱拡大術	1
	腸切除術	10		尿管遺残摘出術	3
	特発性回腸穿孔閉鎖術	1		辜丸固定術	3
	人工肛門・腸瘻造設術	16	腫瘍	生検	15
	人工肛門形成術等	1		切除術	22
	人工肛門・腸瘻閉鎖術	17		核出術	6
	虫垂切除術	13	軟部	前胸部リンパ管腫切除術	1
肝胆膵脾	葛西手術	6	処置・検査	胎児胸腔ドレナージカテーテル抜去術	1
	肝管空腸吻合術	1		縦隔・胸腔ドレナージ	3
	肝外側区域切除術	1		胸腔鏡補助下胸膜剥皮術	1
	総胆管拡張症手術	7		試験開胸・開腹術	2
	胆嚢摘出術	3		腹腔ドレナージ	8
	開腹肝生検・胆道造影	2		デブリドメント	1
	エコー下肝生検	2		皮膚生検	1
	肝嚢胞ドレナージ	1		ピシバニール注入	13
	脾摘術	3		摘便	2
直腸・肛門	鎖肛根治術	9		ECMO 装脱着	2
	肛門形成術	1		中心静脈カテーテル留置・抜去	155
	直腸生検	8		テンコフカテーテル挿入、抜去	6
	人工肛門部ポリプレーザー焼灼術	1		VP シャント留置術	2
	H 型鎖肛瘻孔切除術	1		腹腔鏡検査	1
	痔瘻根治術	4		気管支鏡検査・処置	197
	経肛門的ポリプ切除術	3		上部消化管内視鏡検査・処置	71
腹壁	腹壁閉鎖術	4		下部消化管内視鏡検査・処置	16
	サイロ形成術	2		膀胱鏡検査	1
				計	987

### 日帰り手術

術式	件数
鼠径ヘルニア手術	267
臍ヘルニア	31
陰唇癒合剥離術	4
腫瘤切除	3
経肛門的ポリプ切除	2
ピシバニール局注	2
上部消化管内視鏡	2
精巣固定術	3
臍ポリプ切除	2
中心静脈カテーテル抜去	1
耳前瘻孔切除術	1
計	318

## 新生児手術

病名	術式	件数
先天性食道閉鎖症	一期的吻合術	5
	TEF 離断術 / 胃瘻造設術	2
	食道バンディング・胃瘻造設術	3
	食道プジー	1
	胃瘻造設術	1
	試験開胸術	1
先天性幽門閉鎖症	幽門形成術	1
先天性十二指腸閉鎖症・狭窄症	ダイヤモンド吻合術	8
先天性小腸閉鎖症	端々吻合術	3
胎便性腹膜炎	端々吻合術	1
	ドレナージ術	1
	腸瘻造設術	2
Meckel 憩室	腸切除術	2
腸回転異常症	Ladd 手術	4
	癒着剥離術	1
特発性腸穿孔	穿孔部閉鎖術	1
	腸切除術	1
	腸瘻造設術	2
	ドレナージ術	1
腸閉塞症	腸切除術	1
	腸瘻造設術	1
	内ヘルニア修復術	1
ヒルシュスプルング病	レベリング生検・人工肛門造設術	3
	中心静脈カテーテル留置術	2
鎖肛	人工肛門造設術	3
肝芽腫	外側区域切除術・中心静脈カテーテル留置術	1
肝嚢胞	肝嚢胞ドレナージ術	1
卵巣膿腫	腹腔鏡下嚢腫開窓術	1
CCAM	左上葉部分切除術	1
先天性横隔膜ヘルニア	直接閉鎖術	6
	パッチによる修復術	2
	ECMO 装脱着	2
	腹壁閉鎖術	1
腹壁破裂	腹壁閉鎖術	2
	サイロ形成術	1
臍帯ヘルニア	閉鎖術	2
	サイロ形成術	1
	腹壁形成術	2
臍腸管遺残	臍腸管切除術	1
鼠径ヘルニア	鼠径ヘルニア手術	2
仙尾部奇形種	切除術	3
気管支鏡検査		2
	計	83

## 鏡視下手術

術式	件数
Nuss bar 挿入	1
胸腔鏡下ブラ切除術	3
胸腔鏡下腫瘍生検	2
胸腔鏡下膿瘍ドレナージ	1
胸腔鏡下剥皮術	1
腹腔鏡検査	1
腹腔鏡下噴門形成術・胃瘻造設術	12
腹腔鏡補助下胃瘻造設術	2
腹腔鏡下脾摘術	1
腹腔鏡下胆嚢摘出術	2
腹腔鏡下虫垂切除術	11
腹腔鏡補助下 Swenson 手術	3
腹腔鏡補助下肛門形成術	1
腹腔鏡補助下カテーテル留置術	3
腹腔鏡補助下付属器切除術	1
腹腔鏡補助下鼠径ヘルニア手術	1
腹腔鏡補助下腸重積整復術	1
腹腔鏡補助下卵巣膿腫開窓術	1
計	48

## 気管支鏡検査・処置

術式	件数
気管支鏡のみ	129
気切カニューレ交換	35
気管異物摘出術	7
KTP レーザーによる肉芽焼灼	10
T-tube 交換・留置	12
経鼻挿管チューブ入れ替え	4
計	197

## 消化管内視鏡検査・処置

	件数
上部消化管内視鏡	
検査のみ	30
食道バルーン拡張術	23
異物摘出術	2
EIS/EVL	14
ERCP	1
NG チューブ留置術	1
生検	2
下部食道内視鏡	
検査のみ	5
大腸バルーン拡張術	7
ポリープ切除術	4
計	89

2011 年度 研修医記録

園田 真理

術式	症例数	
	執刀医	助手
<気道・頸胸部>		
C型食道閉鎖根治術	0	2
C型食道閉鎖 食道バンディング・胃瘻造設	1	0
気管切開	4	0
気管支鏡検査	0	18
KTP レーザー焼灼	0	3
気管支鏡下チューブ入れ替え	0	8
ECMO 下チューブ入れ替え	0	1
気道異物除去	0	2
Nuss bar 除去	1	1
肺葉切除術	0	2

<上腹部手術>		
横隔膜ヘルニア根治術	0	1
幽門筋切開術	1	0
開腹噴門形成術	2	3
腹腔鏡下噴門形成術	1	2
胃瘻造設術	3	1
先天性十二指腸閉鎖・ダイヤモンド吻合	2	3
外因性十二指腸狭窄 十二指腸形成術	0	1
先天性幽門閉鎖 幽門形成術	1	0
先天性小腸閉鎖 小腸切除術	1	0
Ladd 手術	1	0
特発性回腸穿孔 縫合閉鎖	1	0
外傷性小腸穿孔 小腸部分切除	1	0
噴門形成術後食道穿孔 穿孔部縫合閉鎖	0	1
上部消化管内視鏡	0	4
内視鏡下食道バルーン拡張	0	5
食道静脈瘤硬化療法	0	2
腸閉塞 癒着剥離	2	1

<肝・胆・膵>		
開腹肝生検	1	0
総胆管拡張症手術	0	1
胆道閉鎖症手術	0	3

<下腹部手術>		
壊死性腸炎 回盲部切除・人工肛門造設	1	0
腹腔鏡下虫垂切除	1	0
人工肛門閉鎖術	4	0
ヒルシスプルング病 結腸パッチ	0	1
直腸生検	2	0
PSARP	1	1
肛門ポリープ	1	0
人工肛門縁ポリープ KTP 焼灼	0	1
下部消化管内視鏡	0	2
右腎摘出術	0	1

<ヘルニア>		
臍帯ヘルニア手術	0	1
腹壁破裂 サイロ形成	1	0
腹壁破裂 腹壁閉鎖	1	0
臍ヘルニア手術	2	0
ソケイヘルニア	33	3

<その他>		
臍帯ヘルニア手術	0	1
腹壁破裂 サイロ形成	1	0
腹壁破裂 腹壁閉鎖	1	0
臍ヘルニア手術	2	0
ソケイヘルニア	33	3

合計	105	76
----	-----	----

洲尾 昌伍

術式	症例数	
	執刀医	助手
<気道・頸胸部>		
C型食道閉鎖根治術	0	1
気管形成術	0	1
喉頭気管分離、胃瘻造設	2	0
気管切開	1	0
気管支鏡検査	0	25
気管支ファイバー	1	1
気管支鏡下KTPレーザー焼灼	0	2
気管切開孔閉鎖	1	0
側頸瘻	1	0
Nuss bar 挿入	0	1
Nuss bar 抜去	2	0
食道バルーン拡張	0	6
腹腔鏡下ブラ切除術	0	1
食道ブジー	0	1

<上腹部手術>		
横隔膜ヘルニア根治術	1	1
幽門筋切開術	1	0
開腹噴門形成	1	2
腹腔鏡下噴門形成術、胃瘻造設術	1	3
腹腔鏡下噴門形成術	0	2
十二指腸通過障害	1	0
先天性十二指腸閉鎖、ダイヤモンド吻合	2	1
癒着剝離術	0	1
Ladd手術	1	0
サイロ形成術	0	1
イレウス解除術（うち腸切除を伴う）	2(1)	2(1)
腸重積観血的整復術	2	0
上部消化管内視鏡	2	5
内視鏡下異物摘出	0	1
食道静脈瘤硬化療法	0	4

<肝・胆・膵>		
総胆管拡張症手術	0	3
肝嚢胞ドレナージ	1	0
胆道閉鎖症手術	0	2

<下腹部手術>		
回盲部切除術	1	0
腹腔ドレナージ	0	1
腹腔鏡下虫垂切除	0	1
人工肛門造設	1	2
人工肛門閉鎖術	0	3
腹腔鏡補助下Soave法	0	1
腸間膜裂孔ヘルニア修復術	1	0
PSARP	0	2
TEF離断、胃瘻造設、人工肛門造設	0	1
肛門ポリープ	0	1
下部消化管内視鏡	0	3
尿管管遺残	1	0

<ヘルニア>		
臍腸管遺残	1	0
内膵径ヘルニア	1	0
臍ヘルニア手術	7	0
外膵径ヘルニア	44	2
腹壁閉鎖	0	1

<その他>		
腫瘍生検（開腹 or 開胸）	2	3
腫瘍摘出（開腹 or 開胸）	0	2
IVH挿入（Hickman）	9	0
IVH抜去	14	0
テコフカテーテル挿入	2	1
右付属器切除	1	0
鼠径部リンパ節サンプリング	1	0
陰唇癒合		1
ピシバニール注入	0	3
全身麻酔下摘便	0	1

合計	107	94
----	-----	----

## 12. 心臓血管外科

### 【スタッフ紹介】

部長（手術部長兼任） 大嶋 義博（昭和 57 年神戸大卒）、  
神戸大学医学部臨床教授、心臓血管外科専門医、胸部外科指導医

医長 圓尾 文子（平成 7 年神戸大卒）心臓血管外科専門医

医長 長谷川 智巳（平成 8 年京都府立医大卒）心臓血管外科専門医

医長 松久 弘典（平成 11 年神戸大卒）心臓血管外科専門医

医長 河村 朱美（平成 12 年名古屋大卒）

医長 門脇 輔（平成 16 年岡山大卒）

後期研修医

中井 秀和（平成 17 年島根医大卒）

野田 伶（平成 17 年神戸大卒）

河村 朱美が 2 月に退職、名古屋大学に復職。中井 秀和が 3 月に退職、富山大学第一外科に転任。門脇 輔が 4 月より医長に昇進。野田 伶が 7 月より社会保険中京病院から当科に転任。

### 【診療体制】

外来：月、水、金の午後 2 診

手術：月～金、長時間手術枠を見直し、第 2、4 火→水に変更。

軽症例、重症例とも、全体の手術件数は前年度を上回った。循環器科の出張診断により、胎児診断症例が増加している。2011 年の体外循環を用いた手術は 181 例（新生児 14 例）、体外循環非使用の心臓手術は 52 例（新生児 20 例）、その他 53 例で、心臓手術死亡 4 例（1.7%）であった。毎日の ICU カンファレンス、循環器カンファレンスに加え、Audit meeting、手術検討会、看護部とのカンファレンスを定例化した。また、MRSA 感染対策を強化、マニュアルを作成。

心臓外科関連のカンファレンスは表に示した。

### 【学会活動】

英文、邦文論文が掲載あるいは投稿中で、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて発表した。

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA															
CoA (simple)				2	0	0	1	0	0				3	0	0
+VSD	1	0	0	3	0	0	1	0	0				5	0	0
+DORV				1	0	0							1	0	0
+AVSD															
+TGA				1	0	1							1	0	1
+SV				1	0	0							1	0	0
+others															
IAA (simple)															
+VSD				6	0	0							6	0	0
+DORV															
+Truncus															
+TGA															
+SV															
+others	1	0	0										1	0	0
Vascular ring							1	0	0				1	0	0
PS				2	0	0	1	0	0				3	0	0
PPA or critical PS	1	0	0	1	0	0	1	0	0				3	0	0
TAPVR	2	1	1	4	0	0							6	1	1
asplenia				2	0	0							2	0	0
PAPVR ± ASD															
ASD				6	0	0	15	0	0	1	0	0	22	0	0
Cor triatriatum				1	0	0							1	0	0
AVSD (partial)				1	0	0							1	0	0
AVSD (complete)				5	0	0	1	0	0				6	0	0
+TF or DORV															
+others															
VSD ( I )				2	0	0	8	0	0				10	0	0
VSD ( II or IV )				26	0	0	15	0	0				41	0	0
VSD(III)				2	0	0							2	0	0
VSD + PS				1	0	0							1	0	0
DCRV ± VSD				1	0	0	2	0	0				3	0	0
Aneurysm of sinus Valsalva															
TF	1	0	0	5	0	0	2	0	0				8	0	0
(SP shunt)	1	0	0										1	0	0
PA + VSD (Rastelli)							1	0	0				1	0	0
(SP shunt)															
(UF ± shunt)				3	0	1							3	0	1
DORV				3	0	0	2	0	0				5	0	0
TGA (simple)	2	0	0										2	0	0
+ VSD	2	1	1										2	1	1
+ VSD + PS															
corrected TGA															
Truncus arteriosus															
SV (SP shunt)				1	0	0							1	0	0
(BDG)				6	0	0	1	0	0				7	0	0
(Fontan)							1	0	0				1	0	0
TA (SP shunt)	1	0	0										1	0	0
(BDG)				2	0	0							2	0	0
(Fontan)															
HLHS (Norwood)	2	0	1	1	0	0							3	0	1
(BDG)				2	0	0							2	0	0
(Fontan)															
Aortic valve lesion (形成)				2	0	0							2	0	0
(弁置換)							4	0	0				4	0	0
SAS															
supra AS															
Mitral valve lesion (MR形成)				2	0	0							2	0	0
(MR 弁置換)															
(MS 形成)							1	0	0				1	0	0
(MS 弁置換)															
Ebstein				1	0	1							1	0	1
Coronary disease															
その他				3	1	1							3	1	1
再手術 VSD 再閉鎖							1	0	0				1	0	0
PS 解除															
RV-PA 導管															
再置換															
(PVR を伴う)				1	0	0	2	0	0	1	0	0	4	0	0
その他							4	0	1				4	0	1
総数	14	2	3	100	1	3	65	0	1	2	0	0	181	3	7

術式 (疾患)	28日未満			～1歳未満			1歳～17歳			18歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA	12	1	2	5	0	0							17	1	2
CoA (simple) +VSD +DORV +AVSD +TGA +SV +others	2	0	0										2	0	0
IAA (simple) +VSD +DORV +Truncus +TGA +SV +others	2	0	0	1	0	0							3	0	0
Vascular ring															
PS															
PPA or critical PS				2	0	0							2	0	0
TAPVR asplenia															
PAPVR ± ASD															
ASD															
Cor triatriatum															
AVSD (partial)															
AVSD (complete) +TF or DORV +others	1	0	0										1	0	0
VSD ( I )															
VSD ( II or IV )				7	0	0							7	0	0
VSD(III)															
VSD + PS				1	0	0							1	0	0
DCRV ± VSD															
Aneurysm of sinus Valsalva															
TF				3	0	0							3	0	0
PA + VSD				5	0	0	2	0	0				7	0	0
DORV TGA (simple) + VSD + VSD + PS				2	0	0							2	0	0
corrected TGA															
Truncus arteriosus	2	0	0										2	0	0
SV (SP shunt) (PAB)				2	0	0							2	0	0
				1	0	0							1	0	0
TA (SP shunt) (BDG) (Fontan)															
HLHS (bil.PAB) (SP shunt追加)	1	0	0	1	0	0							2	0	0
総 数	20	1	2	30	0	0	2	0	0	0	0	0	52	1	2

	症例数
皮下膿瘍、デブリードメント	2
ペースメーカー植え込み	7
ペースメーカー電池交換	6
一時的ペーシング	1
心嚢ドレナージ	2
横隔膜縫縮	4
ECMO 装着 (ショック)	15
ECMO 装着 (気管形成術等)	5
ECMO 関連術式	3
血腫除去	1
シャントクリップ調節	1
気管腕頭動脈瘻	3
腎動脈再建	1
胸骨ワイヤー抜去	2

## 13. 脳神経外科

2011年度の脳神経外科スタッフは長嶋達也（部長）、河村淳史（部長）、山元一樹（医長）の指導医とローテーション医師である。2010年10月1日—2011年3月31日の間は長嶋宏明（専攻医）、2011年4月1日—9月30日は菊池陽一郎（フェロー）と塩見亮司（専攻医）の2名、2011年10月1日—2012年3月31日は坂田純一（専攻医）が脳神経外科専門医研修の一環として着任した。4月1日からの6ヶ月間は岡山大学からフェローを迎えて総勢5名の充実した診療体制となった。一方、3月11日の大震災の影響により仙台で開催予定の日本小児神経外科学会が中止になったり、落ち着かない1年であった。

診療活動では兵庫県下のみならず他府県からの紹介例、セカンドオピニオン例が引き続き増加している。複数科との連携によるチーム医療が当院の特色であり、脳神経外科・血液腫瘍内科・放射線科・臨床病理部による集学的治療を必要とする脳腫瘍症例、脳神経外科・整形外科・泌尿器科による治療および管理が必要な二分脊椎症例、脳神経外科・形成外科による合同外科的治療を要する頭蓋顔面奇形症例、脳神経外科・救急部・脳神経内科をはじめ多数科の関与が必要な頭部外傷・多発外傷症例などを中心に積極的な治療に取り組んでいる。手術前後に小児医療各方面と密な連携を保ちながら長期の追跡を行ない、成人した時点でのQOLの向上を目指して、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術成績を積み重ねていきたい。

脳神経外科手術のレベルが順調に稼動し、困難な手術を支える施設面も充実した。24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を今後も維持し続けたい。

件数

	脳神経外科的手術の総数	148
1	脳腫瘍	
	摘出術	17
	開頭生検術	1
	経蝶形骨銅手術	2
2	脳血管障害	
	バイパス手術	6
	開頭血腫除去術	2
3	外傷	
	急性硬膜外血腫	3
	急性硬膜下血腫	4
	減圧開頭術	1
	慢性硬膜下血腫	2
4	奇形	
	頭蓋・脳	11
	脊髄・脊椎	27
5	水頭症	
	脳室シャント術	30
	内視鏡手術	3
6	脊髄・脊椎	
	腫瘍	9
	脊髄空洞症	4
7	その他	26

## 14. 形成外科

4月に小野田素大が大阪労災病院に転出し、鄭聡柄が常勤医となった。専攻医には関西労災病院より清家志円が赴任した。

積年の懸案であった、Qスイッチルビークーザーが導入され、ようやくほぼすべてのあざ治療に対応できることになり、近隣紹介施設への周知とともに患者数が増加傾向にある。当科の治療の柱である、口唇口蓋裂の治療では、歯科、耳鼻科、言語訓練とのチーム医療が肝要であり、人的・物的整備が望まれる。また、学童期の予定手術患者が多数を占めるため、長期休暇期間の病床運営の影響が大きい。

### 年間の患者数及び手術件数

2011年1月1日～12月31日

形成外科新患者数	444	名
----------	-----	---

形成外科入院患者数	286	名（延べ人数ではない）
-----------	-----	-------------

#### 形成外科手術件数

入院手術	全身麻酔	291	件	(合計 292 件)
	腰麻・伝達麻酔	0	件	
	局所麻酔・その他*	1	件	
外来手術	全身麻酔	191	件	(合計 360 件)
	腰麻・伝達麻酔	0	件	
	局所麻酔・その他*	169	件	

#### 手術内容区分

区 分	件 数						計
	入 院 手 術			外 来 手 術			
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	3			1			4
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で全身管理を要する非手術例							0
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例							0
顔面軟部組織損傷							0
顔面骨折	1						1
頭部・頸部・体幹の外傷				1			1
上肢の外傷	1						1
下肢の外傷	1						1
外傷後の組織欠損（2次再建）							0
II. 先天異常	208			72		2	282
唇裂・口蓋裂	98			3		1	102
頭蓋・顎・顔面の先天異常	52			68		1	121
頸部の先天異常	1						1
四肢の先天異常	46			1			47
体幹（その他）の先天異常	11						11
III. 腫瘍	61			74		6	141
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	61			74		6	141
悪性腫瘍							0
腫瘍の続発症							0
腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）							0
腫瘍切除後の組織欠損（二次再建）							0
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	16			3		2	21
V. 難治性潰瘍	2						2
褥瘡	1						1
その他の潰瘍	1						1
VI. 炎症・変性疾患							0
VII. 美容（手術）							0
VIII. その他							0
Extra. レーザー治療	1		1	41		159	202
良性腫瘍でのレーザー治療例	1		1	41		159	202
美容処置でのレーザー治療例							0
大分類計	291	0	1	191	0	169	652

## 15. 整形外科

2011年4月より井上医師が転出し蓑田医師が赴任した。研修後半、井上医師は妊娠中にもかかわらず最後までその職務を全うした。3月には衣笠医師がシアトル小児病院に1ヶ月間留学し見聞を広めた。この結果を今後の日常診療に還元することを期待したい。手術件数は281件と前年とあまり変化はなかった。新病院開院を見据えて整形外科は更なるレベルアップに努めていきたいと考える。

## 手術

	病名	術式	手術数	小計
	脊椎腫瘍 ヘルニアなど	後方固定術など	1	
体 幹	斜 頸	切腱術	6	
	側 弯 症 後 弯 症	矯正術など	8	
股 関 節	先 天 性 股 関 節 脱 臼 など	観血的整復術	1	
		SA+OR	2	
		内反減捻骨きり術	2	
		白蓋形成術 (SA 以外)	1	
	股 遺 残 亜 脱 臼	ソルター	2	
		ソルター+OR	1	
	ペ ル テ ス 病	大腿骨内反骨きり術	1	
	股関節の変形 (先天性、後天性)	大腿骨骨きり術	1	
	骨 頭 す べ り	大腿骨屈曲骨切り術	1	
		ピンニング	5	
	麻 痺 性 股 関 節 脱 臼	筋解離術	2	
SA,OR,DVO など		2		
総 排 泄 腔 外 反	観血整復	1		
膝 関 節	膝 蓋 骨 脱 臼	観血整復	1	
	J	後方解離	1	
足 部	先 天 性 内 反 足	アキレス腱切腱 (Ponseti)	10	
		イリザロフ矯正 (組換え含む)	2	
		PMLR	2	
		腱移行術 (TA を外側)	2	
		PMR, PMR Evans	5	
		後方解離 ATL	4	
	麻 痺 性 変 形 ( 症 候 性 )	エバンス	1	
		PMLR PMR	5	
		Grice-Green	2	
		PMR 腱移行 (with or without GG Evans)	3	
		足根骨矯正骨切り術	2	
		距骨摘出術	1	
		変形矯正 (創外固定含む)	2	
		腱移行 (TA を踵骨に)	2	
	( 踵 足 )	観血的整復術など	1	
垂 直 距 骨	距舟関節ピンニング、アキレス腱切腱	3		
	後方解離術 ATL	3		
上 肢	上 肢 短 縮	上肢骨延長術 (上腕、前腕)	3	
	足 根 骨 癒 合 症	癒合部切除	4	

	膝蓋骨脱臼	整復術	1	
下 肢		骨接合	1	
	脚長差変形など	延長, 矯正 (イリザロフ (含む Taylor Frame))	10	
		成長抑止術	2	
		変形矯正 (回旋含む 創外固定以外)	4	
	上腕骨外顆骨折	整復固定術	1	
外 傷	上腕骨内顆 (内上顆含む)	整復固定術	1	
	上腕骨顆上骨折	整復固定術	5	
	肘関節脱臼	徒手整復	1	
	関節脱臼	徒手整復ギプス固定	1	
	骨折後偽関節	骨接合術など	1	
	骨折など	鋼線牽引	5	
	内反肘	矯正骨切り術	2	
	その他骨折 (徒手整復、観血的整復術)	整復固定術	6	
	化膿性関節炎	病巣搔爬、洗浄 穿刺	3	
	関節炎	滑膜切除	1	
炎 症	腫瘍 骨髄炎, LCH, 病態不明	生検術	7	
		切断術	1	
	感染など	病巣搔爬	1	
	腫瘍	骨	10	
腫 瘍		軟部	4	
	多・合指 (趾) 症	余剰指 (趾) 切除	14	
その他		指 (趾) 間形成	9	
	手指 (足趾含む) 変形	矯正、骨切り術など	2	
	剛直母指	腱鞘切開	12	
	その他		80	
年間手術件数			281	

#### 検査

部位	方法	検査数	総数
股関節	アルトロ	21	
その他	アルトロ	1	

研修医

蓑田正也

研修期間 (予定含む)

2011年4月1日 - 2012年3月31日

指導医

薩摩真一 小林大介

主な症例	執刀	助手
骨盤骨きり術	1	3
先天股脱観血的整復術	0	2
大腿骨骨きり術	0	5
骨延長術	0	15
腫瘍性疾患	6	7
足部矯正	16	36
側湾症など脊椎疾患	0	13
骨折	7	11
抜釘など	40	22
骨頭すべり	2	2

## 16. 眼科

本年の眼科医師の異動は4月に中村礼恵医長に代わって広島大学より同眼科助教の横山知子医師が着任した。4月中旬に前期6ヶ月ローテートの明石 梓研修医が着任、10月に下山 剛研修医と交代した。横山医長は12月末をもって大学に戻られたが、広島大学眼科の弱視斜視外来のトップとして当院での経験が今後の診療に役立つものと考えている。実際、ご本人はもっと早くこども病院での診療機会を持ちたかったと話しておられ、短期間ではあったが自身のスキルアップになったこと、教室にご無理を言って来ていただいた経緯も有り、私としても安堵の念を持った次第である。後任として1月に横山医師の後輩に当たる沖本聡志医師が着任した。

専門分野による医師の偏在が問題となっているが眼科も例外ではない。特に小児眼科専門医の減少傾向が止まらず、指導医の不足から地域によっては大学病院等の初期研修において小児眼科領域の研修がほとんどなされていないとも聞く。この状況下、学会では数年前より各地で小児眼科フォーラムと称する講座を実施している。私も昨年、震災後間もない仙台を初め、京都、福井などに赴いたが、どの地域の先生方も小児眼疾患への対応に不安を持っておられることが実感出来た。今後とも学会として、また、個人的にも小児眼科診療の裾野を広げる活動をしていく必要があると考えている。

## 2011年新患者数

病名	新生児	乳 児		幼 児		学 童		思春期	合 計
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
屈折異常		12	20	168	170	71	39	20	500
斜視及び疑い		14	30	173	120	42	18	11	408
未熟眼底				1					1
未熟児網膜症		21	3	2	3	1			30
眼瞼疾患		11	9	54	32	30	7	3	146
涙器疾患		7	22	6	2				37
結膜疾患		2	1	4	3	1	4		15
角膜・強膜疾患	3	8	3	2			1	2	19
ブドウ膜疾患		4	1	4	2		3	1	15
網膜症・硝子体疾患		9	8	6	6	3	3	3	38
水晶体疾患	2	12	6	22	9	4		2	57
眼窩疾患		1		1	1				3
遺伝性疾患				3	5	1	1	1	11
視神経及び視路の障害(眼振他)		11	8	20	11	13	9	3	75
緑内障		4	1	4	3	2	2	3	19
外傷		4		10	3	2	1		20
症候群		3	1	4		1	2		11
心因性視力障害						13	4	2	19
腫瘍		4	1	2	3	1			11
その他	1	2	2	5	2	2	1	1	16
合計	6	125	116	491	375	187	78	69	1451

【特殊検査・訓練 患者数】

プリズム・矯正検査・弱視訓練・その他の検査	219名
T A C ・ P L 検 査	305名
視 野 検 査	170名(331眼)
合 計	694名

実習生受け入れ状況：合計 7名

学 校 名	人 数	期 間	実習場所
神戸総合医療専門学校	4名	5月 9日～5月31日	外来および手術室(見学)
大阪滋慶学園大阪医療福祉専門学校(臨地実習)	1名	5月23日～6月24日	
(見学実習)	2名	3月 7日～3月18日	

(2) 入院手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
斜 視	0	0	5	29	66	89	67	59	315
内 反 症	0	0	0	2	14	12	8	0	36
眼 瞼 下 垂	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 瞼・眼 窩 疾 患	0	0	1	9	13	8	3	0	34
結 膜 疾 患 (腫 瘍)	0	0	0	0	0	0	1	0	1
角 膜 疾 患	0	0	0	0	0	0	0	0	0
網 膜 疾 患 (腫 瘍)	0	1	0	0	2	0	0	0	3
硝 子 体	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鼻 涙 管 閉 鎖 及 び 異 常	0	0	0	0	5	1	1	1	8
眼 瞼 形 成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緑 内 障	0	3	2	3	0	0	0	0	8
白 内 障	0	6	4	7	14	9	6	2	48
未 熟 児 網 膜 症	0	2	0	0	0	0	0	0	2
眼 球 振 盪 症	0	0	0	0	0	3	2	1	6
外 傷 ・ 検 査 ・ そ の 他	1	2	1	2	3	1	0	0	10
合 計	1	14	13	52	117	123	88	63	471

日帰り手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
内 反 症				2	6	3	4		15
霰 粒 腫			2	3	8	3		1	17
斜 視									0
そ の 他					1	1			2
合 計			2	5	15	7	4	1	34

## 17. 耳鼻咽喉科

## 1. 外来診療

今年も常勤医師1名(大津)、兼任医師1名(火・金曜、阪本)は変わらず診療を行った。新患の内訳としては、例年同様、滲出性中耳炎、反復性中耳炎、扁桃・アデノイド肥大、言葉の遅れの精査依頼などが多いが、今年も3歳児健診での言葉の遅れの精査依頼が増えた。診察室の耳鼻科診療ユニットは1台しかないため、1診体制での診療であり、外来の診察患者数はほぼ限界に達している。言語療法については後述する。

## 2. 手術・入院診療

本年から、各科のご配慮により第2金曜日に2時間の手術枠をいただいた。入院手術症例は111例となり、他科入院中の併施症例や日帰り手術を合わせると333例となった。これは当科開設以来最高の手術症例数である。引き続き増加傾向にある地域の医療機関からの紹介による手術対象例に対応すべく、手術枠増に努力したい。年少児の重症睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出、アデノイド切除術は周術期の呼吸管理が重要であり術後数日間挿管管理を要することもあり、麻酔科各医師とHCU看護スタッフの多大の協力に支えられている。今後も限られたスタッフであるが医療安全に十分配慮しつつ手術治療に取り組むたい。

手術統計(併施を含む)：

入院手術	件数
扁桃摘出術	73
アデノイド切除術	74
鼓膜チューブ挿入術	49
鼓膜肉芽切除、鼓膜切開等	5
深頸部膿瘍切開排膿・穿刺術	1
後鼻孔ポリープ摘出術	2
舌小帯形成術	3
がま腫ピシバニール注入	1
合計患者数(他科入院19名含)	130

日帰り手術	件数
鼓膜チューブ挿入術	194
鼓膜肉芽切除術、鼓膜切開等	14
鼓膜穿孔閉鎖術	3
口唇粘液嚢胞摘出術	6
舌小帯形成術	3
がま腫ピシバニール注入	2
合計患者数	203

3. 補聴器外来では、従来からの高度難聴児だけではなく、軽中等度難聴児に対する補聴器装用も増加傾向にある。身体障害の摘要外であるため、医学的に補聴器の装用を勧めても経済的な理由から装用できない児も多く、他府県同様の公費補助が望まれる。

睡眠時無呼吸に対する携帯式アプノモニターは2011年春から増設し3台で検査を行っている。これによ

り検査待ちがかなり解消し、術後の評価にも使用できるようになった。

限られた医療資源の活用のため、かかりつけ耳鼻科医との連携を深めて「日常診療はかかりつけ医で、検査・手術治療は当院で」という診療体制を推進してゆきたい。

#### 言語聴覚療法について

耳鼻科言語聴覚士は常勤1名、育児休暇代替の非常勤1名の計2名体制で、聴力検査および言語評価・訓練を実施した。

##### ① 聴力検査

一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査などをケースに合わせて実施している。また新生児聴覚スクリーニング検査の普及により、早期からの補聴器装着ケースが増えている。週一度の補聴器外来では各人の予約時間を長めに設定し、慎重な評価、親への心理面を含めたサポート、通園施設や聴覚特別支援学校など適切な機関への橋渡しがタイミングよく行えるように心がけている。

##### ② 言語評価・訓練

外来では「ことばの遅れ」や「発音の異常」を主訴に来院されるケースが多い。三歳児検診からの精査依頼が大半であるが、親が心配して自発的に来院されるケースもある。症状の多くは、全般的な発達遅滞によることばの遅れや器質的な異常を持たない機能性構音障害である。近年は、発達に偏りのある広汎性発達障害と考えられるケースも増えている。耳鼻科ではマンパワー不足によりこれらのケースを抱える余力がないため、特別な事情以外は各関連機関へ紹介させていただいている。

入院では脳外科や外科からの紹介症例を受けている。脳損傷後の高次脳機能障害や構音障害の評価および訓練、気管切開カニューレ使用中（または抜管後）の発声・構音訓練を実施している。言語室の防音効果が乏しい、車椅子利用が困難などハード面の問題もさることながら、脳機能評価のためのテストバッテリーが乏しい状態にあり、言語評価・訓練への課題は山積みである。今後は課題を解決し、よりよい環境を整えてゆきたいと考えている。脳損傷者は、意識レベル改善後の早期リハビリが効果的であると考えられている。言語聴覚士が介入することで、現状把握、コミュニケーションのとり方、どのような経過をたどりそうか、転院するならどの方向かなどの情報が少しは提供できると考えている。

2012年4月からは診療科の枠を取り払い、形成外科担当の非常勤言語聴覚士1名と合わせた合計2.5名体制で病院全体の言語聴覚士業務の効率的運用を予定している。開院時には常勤3名が在籍した言語療法士（当時）のマンパワーには及ばないが、引き続き増員要求を行い言語療法の充実を図りたい。言語療法は、将来的にはリハビリテーション部の独立した一部門とすべきと考える。

聴力検査・言語聴覚・補聴器外来統計

	保険点数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
気導純音聴力検査	110	2	0	7	2	5	5	2	8	2	2	2	5	42
標準純音聴力検査	350	39	36	38	38	35	41	61	104	39	35	37	30	533
標準語音聴力検査	350	1	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	6
遊戯聴力検査	450	189	155	236	214	172	192	210	188	190	201	176	170	2,293
補聴器適合検査1回目	1,300	8	3	3	2	1	1	1	3	7	2	7	4	42
補聴器適合検査2回目以降	700	21	27	39	27	29	28	26	36	17	23	25	27	325
高度難聴指導管理料	400	7	1	2	1	0	1	2	1	5	1	6	1	28
音声機能検査	450	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発達及び知能検査 容易	80	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
発達及び知能検査 複雑	280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心理検査 極複雑	450	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
聴力検査 件数														3,269
心理検査 件数														2
検査総件数														3,271

リハビリテーション料Ⅲ(補外)	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リハビリテーション料Ⅲ(言語)	100	27	30	26	39	27	32	40	42	33	34	39	21	390
言語総単位数														390

聴力検査人数(人)		231	192	281	254	212	238	273	302	232	238	215	206	2,874
補聴器外来人数(人)		36	31	44	30	30	30	29	40	29	26	38	32	395
言語聴覚療法(補聴器:人)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
言語聴覚療法(人)		15	18	16	23	17	16	25	20	18	16	19	10	213
延べ人数(人)		282	241	342	307	259	284	328	362	279	280	272	248	3,484
実人数(人)		274	235	335	301	255	280	316	354	272	276	264	243	3,405
言語新患者数(人)		4	3	2	6	1	3	10	3	4	4	2	0	42
診察日数(日)		17	18	20	20	16	19	20	20	18	19	18	17	222

2011年耳鼻咽喉科新患（疾患は重複計上）

	症例数	院内	耳鼻科	小児科	産科	健診	聾学校	内科	その他
言語発達遅滞	46	10	24	1		8	2	1	
構音障害	8	2	5	1					
滲出性中耳炎	155	40	104	6		4	1		
慢性中耳炎	2		2						
急性中耳炎	13	11	2						
反復性中耳炎	10	7	3						
真珠腫性中耳炎	3		3						
癒着性中耳炎	1		1						
先天性難聴（疑い含む）	113	31	42	7	18	11	4		
ムンプス難聴	3		3						
心因性難聴	28	2	23	2				1	
突発性難聴	5	1	4						
低音障害型難聴	2		2						
難聴	73	16	52	1		1	1	1	1
難聴（疑い）	54	22	18	5	3	5	1		
聾	3		3						
内耳奇形	8		8						
中耳奇形	3	2	1						
小耳症	6	1	2	3					
軟骨無形成症	2	1		1					
外耳道閉鎖・狭窄	6	3	3						
副耳	2		1			1			
先天性耳ろう孔	7	1	3	2		1			
外耳道異物	1		1						
耳垢栓	12	10	1			1			
耳鳴	2		1	1					
めまい	7	3	4						
顔面神経麻痺	9	7	2						
急性鼻・副鼻腔炎	5	4		1					
鼻出血	8	7	1						
鼻中隔穿孔	1		1						
鼻腔異物	2	1	1						
鼻骨骨折	2	1	1						
鼻腔腫瘍	2		2						
鼻咽腔閉鎖不全	3	3							
後鼻孔閉鎖・狭窄	2	1	1						
アデノイド肥大	150	30	105	13		1		1	
扁桃肥大	59	9	44	5				1	
扁桃炎	15	2	6	7					
睡眠時無呼吸症候群	101	19	71	9		1		1	
唾石	1			1					
がま腫	2	2							
咽頭異物	1		1						
口腔腫瘍	3	1	1	1					
口唇粘液のう胞	5		2	3					
急性咽頭炎	3	2	1						
耳下腺炎	8	3	2	3					
耳下腺腫瘍	2	1	1						
喉頭軟化症	44	25	6	10	2	1			
反回神経麻痺	26	25		1					
声帯ポリープ	5	1	3					1	
喉頭奇形	4	3	1						
嚥下障害	4	2	1	1					
正中頸のう胞	3		3						
頸部リンパ節炎	7	2	3	2					
顔面外傷	11	7	4						
その他	23	14	5	3	1	0	0	0	0
合計新患数（重複除く）	778	299	346	68	24	26	8	5	2

## 18. 泌尿器科

2011年3月末に高木志寿子、岡田桂輔が退職したが、4月からは西村健一、桑原元が着任したため、泌尿器科は引き続き5人体制（杉多、中川、久松、西村、桑原）で診療を行った。3月より膀胱尿管逆流症に対する Deflux による内視鏡下注入療法が保険診療として認可された。本法は治療成績は下腹部横切開による膀胱尿管逆流防止術には劣るものの、簡便に施行可能で、児にとって手術侵襲がほとんどない手術法である。2011年度は約50例に本法を行った。また、尿道下裂に対しては、包皮皮下組織で新尿道を被覆する手術法により、良好な手術成績を得た。

学術活動に関しては、国内学会は日本泌尿器科学会、日本小児外科学会、日本小児泌尿器科学会において、国際学会はアジア太平洋小児泌尿器科学会において発表した。

次年度も患者サービスの向上を目指した診療を心がけたい。（杉多記）

尿路系

計

VUR	Cohen	30
	Lich-Gregoir	6
	デフラックス	47
巨大尿管	膀胱尿管新吻合 尿管形成	6
VUR、巨大尿管、水腎症術後	DJ カテーテル抜去	32
神経因性膀胱	膀胱拡大術	3
	膀胱皮膚瘻造設	3
水腎症	腎盂形成術	15
後部尿道弁、尿道狭窄	内視尿道切開術	4
水腎症	逆行性腎盂尿管造影	1
重複腎盂尿管	半腎切除	2
膀胱腫瘍	腫瘍生検	1
女児外尿道口腫瘍	腫瘍切除	1
異型性腎	腎尿管切除	3
尿道損傷	尿道修復	2
水腎症、腔腫瘍	D J カテーテル留置	6
尿道狭窄	膀胱鏡	2
尿路感染	P I C	1
異所開口尿管	遺残尿管切除	1
尿道口狭窄	切開	1
尿管瘤	内視鏡下開窓	1
膀胱炎	内視鏡下生検	1
水腎症その他	腎瘻造設	7
腎周囲膿瘍	経皮ドレナージ	1
鎖肛など	尿道カテーテル留置	4
総排泄腔遺残	内視鏡	1
副尿道	副尿道切除	1
水腎症	超音波検査	1
尿道損傷、鎖肛など	膀胱鏡	10
		194

性器系		計
CAHなど	腔形成	2
BXO 包茎	包皮環状切除	8
尿道下裂	free graft	27
	Koyanagi	1
	陰茎形成	11
	外尿道口形成	3
	TIP	2
	口腔粘膜二期の二期	1
	口腔粘膜一期の	1
	二期の尿道下裂手術一期	4
	二期の尿道下裂手術二期	5
	Johanson 手術	1
	MAGPI	2
外反後子宮留血腫	膀胱子宮吻合	2
尿道上裂	尿道上裂形成術	2
そけいヘルニア	ヘルニア手術	8
	腹腔鏡下ヘルニア手術	4
陰嚢水腫	陰嚢水腫根治術	33
外尿道口嚢腫	外尿道口嚢腫摘除	7
精索静脈瘤	顕微鏡下精索静脈低位結紮術	10
停留精巣	精巣固定術	88
精巣腫瘍	精巣腫瘍核出術	1
	精巣腫瘍高位摘除	1
精巣捻転	精巣摘除	3
	捻転整復	1
停留精巣 / vanishing	精巣摘除	14
	腹腔鏡	1
停留精巣 / 腹腔内	腹腔鏡下精巣血管結紮 (F-S1 期目)	3
	腹腔鏡下精巣固定術 (F-S2 期目)	3
	精巣固定	1
埋没陰茎	包皮形成術 (逆 Byars flap)	10
尿道下裂	瘻孔閉鎖術	14
遊走精巣	精巣固定術 (transscrotal)	26
尿道下裂術後	外尿道切開術	1
	外尿道口形成	7
	尿道皮膚瘻造設	1
ミューラー管遺残 精巣上体炎	切開排膿	1
	精管精巣上体摘除	1
尿膜管遺残	尿膜管摘除	1
副陰嚢	副陰嚢摘除	1
男性腔	男性腔切除	1
精巣垂捻転	精巣垂摘除	1
陰茎縫線嚢腫	嚢腫切除	1
精巣腫瘍疑い	精巣生検	1
		317

入院	318
日帰り	193
計	511

## 19. 小児歯科

診療内容として全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に院内の心疾患や血液疾患などを有する患児に対しては低年齢（乳前歯萌出時期）からの定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っている。それに加え形成外科と共同で取り組んでいる唇顎口蓋裂児のホッツ床、術前顎矯正治療の患児の成長により歯列矯正治療を受ける患者数が増加している。

人事面には変わりはなく、現在小児歯科は常勤歯科医師一名の体制をとっているが、一人医長体制では患者数に限りがありまた引継ぎが困難で問題が生じやすいため、複数医師体制が望ましい。病院歯科としてさらに診療機能の幅を広げるためには口腔外科分野に秀でた歯科医師との2人体制が望まれる。

新患内訳 (2011)		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	86	2	1	1	90
	齲 蝕	11	35	1	0	47
	乳歯晚期残存	5	2	1	0	8
	先天性歯	1	0	4	0	5
	その他	6	3	1	0	10
矯正歯科関連	不正咬合	15	2	1	1	19
	術前顎矯正	7	0	1	0	8
口腔外科関連	外 傷	5	6	0	1	12
	小帯異常	2	1	3	0	6
	埋伏歯・過剰歯	1	11	0	0	12
摂食嚥下障害		16	0	2	0	18
その他		7	0	1	0	8
計		162	62	16	3	243

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	0	7	7
外来手術	50	1	51
計	50	8	58

## 20. 麻酔科

### 1. 人事異動

専攻医の異動としては、神戸大学は山本医師、丸山医師が大学に戻り、廣瀬医師、巻野医師を迎えた。大阪医大からは楠医師が大学に戻り、岡医師を迎えた。香川大学からは植村医師が大学に戻り、築瀬医師を迎えた。大阪市立大学から川崎医師が大学に戻り、池田医師を迎えた。2年間の研修予定者を公募し、岩手県立中央病院から似内医師、長野県の佐久総合病院から古賀医師を迎えた。

県立がんセンターから西井医師、県立尼崎病院から前川医師、県立西宮病院から山田医師を研修に迎えた。兵庫県立病院の麻酔科医養成システムが稼働し、県立病院間の移動が活発になったことは非常に喜ばしいと考えている。

常勤医の黒崎医師は当院での2年9ヶ月の勤務を終了し、北野病院に転勤した。この間に多数の専攻医を指導いただいたことに感謝したい。

2011年12月の時点では香川、鈴木、高辻、大西、池島、野々村、鹿原、野村、似内、古賀、池田、廣瀬、前川、岡、山田、巻野の16名で業務を行っている。

### 2. 活動状況と反省

2011年の総麻酔件数は4870件であり、前年(4687件)に比べて増加し、この15年で最多となった。

症例の内容として複雑心奇形、気管狭窄、新生児緊急、大量出血症例など重症例が多く、知識、技術、体力が要求される一方で、人員面では、麻酔科医の半分を占める専攻医のほとんどが1年以下で異動となっており、指導可能な医師の負担は増加している。しかしながら専攻医の総数は増えてマンパワーが増加したことに加え、2年勤務予定の医師を公募採用できたや、大学への働きかけによる研修の延長などにより、全体としての技能の安定化をはかることができ、ひいては安定した麻酔の供給に寄与できたと考えている。

入院手術、日帰り手術、検査の麻酔、病棟麻酔、術前麻酔科診察の各業務において、大きな事故もなく一年を過ごせたことに安堵しており、看護部や外科系など各科各部署から様々な協力をいただいたことにこの場を借りて感謝を申し上げたい。

### 3. 展望

「患者様に安全かつ快適に手術・麻酔を受けていただく」ことが麻酔科の理念である。麻酔インシデント調査や術後疼痛スコア、麻酔時間調査などを通して、理念が達成されているかを自ら評価できるようにしたいと考えている。またこれまで同様、麻酔科医の教育や知識技術の向上、コミュニケーションの向上、麻酔業務の効率化、そして麻酔科医の確保により、安全・快適な麻酔を提供し続けたい。

#### 麻酔科 診療統計

総麻酔件数(麻酔科管理症例数) 2011.1.1～12.31

4,870件

手術室で行われた局所麻酔症例：185件

手術室で行われた

麻酔科管理症例+局所麻酔症例：4202件

#### 入院区分および麻酔の場所による内訳

入院手術の麻酔(手術室1～7室)	2,876
日帰り手術の麻酔(日帰り手術室)	1,141
病棟での麻酔	521
放射線部門(アンギオ室、透視室)での麻酔	309
MRI検査時の麻酔	23
計	4,870

麻酔法による内訳

全身麻酔・吸入麻酔	4,406
全身麻酔・静脈麻酔	133
全身麻酔・吸入麻酔+硬膜外麻酔	107
全身麻酔・静脈麻酔+硬膜外麻酔	8
脊椎麻酔（脊髄くも膜下麻酔）	205
硬膜外麻酔	3
硬膜外麻酔+脊椎麻酔	1
その他	7
全身麻酔 小計	4,654
合計	4,870

年齢別内訳

1ヶ月まで	137
12ヶ月まで	800
5歳まで	1,978
18歳まで	1,675
65歳まで	280
66歳以上	0
計	4,870

## 21. 新生児科

### 1. 医師の異動

坂井 仁美、溝渕 雅巳、芳本 誠司、中尾 秀人は引き続き在任した。岸田 祐介・岩谷 壮太医師がスタッフとして、猪俣 慶・田中 聡フェローとして、在任した。4月に岡山大学に帰局した石原 佳代に続き、10月に岡山大学より河合 晴日が6ヶ月の研修予定で着任した。他に本年も多くの特攻医・後期研修医の往来があり、新生児・小児医療の展開にあたらしい息吹を吹き込んでいただいた。特攻医に対する教育・研修の工夫を重ね、着任する医師の要望にこたえていく努力も重要と認識している。周産期医療の従事者を再生産していくことは、総合周産期母子医療センターの重大な使命であり、そのためにもスタッフの確保は最重要案件となっている。

### 2. 診療活動

新生児病棟は変動はあるものの重症児、長期入院児が引き続き多く、業務は上限を超えつつある。Simple, Clear, Speedy を旨として医療の安全には充分留意して、全員の意志疎通を計り、患児の最善の利益が尊重できる診療行為の遂行に勤めている。NICU・GCUの両看護長をはじめ、看護部門の全面的な理解と協力は、年を経て洗練された新生児医療に反映している。入院患児の重症化を反映して、在宅患児を対象とする外来業務も重症児の管理が増加するため、担当医の負担は増すばかりである。他の医療機関との連携、役割分担の相互理解も引き続き重要な案件である。本年も集学的治療を要する重症児の診療については、関連各科・関連病棟の御理解と御協力をいただき、厚く感謝するところである。地域医療連携部門との協力体制が確立し、長期入院児の在宅医療への移行も一段とスムーズになった。今後は、在宅の重症児に対するサポートを、病院全体の機能の中で如何に円滑に対応できるかの課題の解決にも、展望を開きたい。

### 3. 学会活動

多忙な診療の傍ら、国内外に渡って主要な学会での活発な活動がなされている。出来る限り、多くのスタッフが各学会に参加できるように県当局、病院の研修に対する支援を活用したい。

## 2011年新生児科統計

### I. 新生児病棟統計

#### 1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
61	48	43	47	52	37	50	55	51	49	56	38	587

#### 2) 診療科別入院数

新生児科入院		585	新生児科からの転科		56
一般外科	1		循環器内科	30	
耳鼻科	1		一般外科	19	
			脳神経外科	6	
			泌尿器科	1	

#### 3) 入院形態と紹介医療機関地域

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外	
院外出生	186	116	8	2	43	2	0	1	8	0	2	4
一次搬送	143	93	8	1	40	0	0	1	0	0	0	0
(14日以上)	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
二次搬送	43	23	0	1	3	2	0	0	8	0	2	4
院内出生	401	246	17	0	69	11	1	12	8	3	2	32
緊急母体	128	88	9	0	19	1	0	2	4	1	1	3
非緊急母体	273	158	8	0	50	10	1	10	4	2	1	29
院内出生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日齢14未満一次搬送+院内出生	542	338	25	1	109	11	1	12	8	3	2	32

### II. 新生児科統計

対象：新生児科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生症例，転科例を含む）

#### 1) 院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内	率	帰院	産科
500 g 未満	1	1	100%	0	0
500-749 g	20	20	100%	0	0
750-999 g	17	17	100%	0	0
1,000-1,499 g	41	40	97.6%	0	0
1,500-1,999 g	61	57	93.4%	0	1
2,000-2,499 g	137	114	83.2%	1	37
2,500 g 以上	265	152	57.4%	14	66
計	542	401	74.0%	15	104

週数	患者数	院内	率	帰院	産科
22、23	10	10	100%	0	0
24、25	5	5	100%	0	0
26、27	9	9	100%	0	0
28、29	24	23	96%	0	0
30、31	30	30	100%	0	0
32、33	43	40	93%	0	0
34-36	136	123	90.4%	1	23
37以上	285	161	56.5%	14	81
計	542	401	74.0%	15	104

#### 2) 分娩方法・出生前ステロイド

出生体重	患者数	帝切	率	ANS	率
500 g 未満	1	0	0.0%	0	0%
500-749 g	20	11	55.0%	5	25%
750-999 g	17	15	88%	7	41%
1,000-1,499 g	41	35	85.4%	23	56%
1,500-1,999 g	61	45	73.8%	19	31%
2,000-2,499 g	137	81	59.1%	9	7%
2,500 g 以上	265	117	44.2%	7	3%
計	542	304	56.1%	70	13%

週数	患者数	帝切	率	ANS	率
22、23	10	0	0.0%	0	0%
24、25	5	5	100%	2	40%
26、27	9	8	89%	5	56%
28、29	24	21	87.5%	12	50%
30、31	30	27	90.0%	19	63%
32、33	43	28	65.1%	15	35%
34-36	136	97	71.3%	13	10%
37以上	285	118	41.4%	4	1%
計	542	304	56.1%	70	13%

3) 生存率、死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	1	0	100%
500-749 g	20	0	100%
750-999 g	17	2	88.2%
1,000-1,499 g	41	5	88%
1,500-1,999 g	61	2	96.7%
2,000-2,499 g	137	4	97.1%
2,500 g 以上	265	0	100%
計	542	13	97.6%

週数	患者数	死亡数	生存率
22、23	10	0	100%
24、25	5	0	100%
26、27	9	1	89%
28、29	24	3	87.5%
30、31	30	1	96.7%
32、33	43	3	93%
34-36	136	3	97.8%
37 以上	285	2	99.3%
計	542	13	97.6%

4) 多胎割合 (品胎 2 組)

出生体重	患者数	多胎	率	品胎
500 g 未満	1	0	0.0%	0
500-749 g	20	7	35.0%	0
750-999 g	17	5	29.4%	0
1,000-1,499 g	41	14	34.1%	4
1,500-1,999 g	61	16	26.2%	2
2,000-2,499 g	137	35	25.5%	0
2,500 g 以上	265	10	3.8%	0
計	542	87	16.1%	6

週数	患者数	多胎	率	品胎
22、23	10	4	40.0%	0
24、25	5	2	40.0%	0
26、27	9	1	11.1%	0
28、29	24	6	25.0%	0
30、31	30	9	30.0%	3
32、33	43	11	25.6%	3
34-36	136	44	32.4%	0
37 以上	285	10	3.5%	0
計	542	87	16.1%	6

5) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP
500 g 未満	1	1	100%	0	0
500-749 g	20	20	100%	2	19
750-999 g	17	13	76%	2	14
1,000-1,499 g	41	31	75.6%	1	29
1,500-1,999 g	61	26	42.6%	1	17
2,000-2,499 g	137	27	19.7%	4	23
2,500 g 以上	265	44	16.6%	0	24
計	542	162	29.9%	10	126

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP
22、23	10	10	100%	1	9
24、25	5	5	100%	1	5
26、27	9	9	100%	2	7
28、29	24	19	79%	1	19
30、31	30	24	80.0%	1	23
32、33	43	25	58.1%	2	17
34-36	136	31	22.8%	1	26
37 以上	285	39	13.7%	1	20
計	542	162	29.9%	10	126

6) 特殊治療

PDA 閉鎖術	6例 (+ 二次搬送 3 例)	生後ステロイド全身投与	21例
NO 吸入療法	16例	ステロイド吸入	4例
ECMO	2例	在宅酸素療法	8例
		ROP レーザー	1例

7) 新生児搬送出動回数 67 回

入院	63	分娩立合い	2
転院	4	時間外搬送	20

8) 双胎生存率、死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	0	0	
500-749 g	7	0	
750-999 g	5	0	100%
1,000-1,499 g	10	0	100%
1,500-1,999 g	14	0	100%
2,000-2,499 g	35	0	100%
2,500 g 以上	10	0	100%
計	81	0	100%

週数	患者数	死亡数	生存率
22、23	4	0	100%
24、25	2	0	100%
26、27	1	0	100%
28、29	6	0	100%
30、31	6	0	100%
32、33	8	0	100%
34-36	44	0	100%
37 以上	10	0	100%
計	81	0	100%

## 22. 産 科

今年も大きなトラブルや事故もなく無事1年を終えることができ、産科スタッフ一同ならびに関連・関係各位に感謝しております。

診療統計は次ページ以降の表をご覧ください。限られた医療資源の中で高いパフォーマンスを示すことができました。病床稼働率は年間平均 89.5%と総合周産期医療センター産科としては高い数字を示すことができました。

本年行われた厚労省の周産期母子医療センターの評価において産科は新生児科と共に昨年に続き「A」評価をいただきました。

また、学術活動では本誌の該当頁に掲載されておりますように多くの output を行いました。

12月17日兵庫県医師会館にて「平成23年度兵庫県周産期医療研修会」が開催され、特別講演として宮城県立こども病院産科部長、東北大学大学院医学系研究科先進発達医学講座胎児医学分野教授の室月 淳先生に「胎児の大腿骨長が短ければ骨系統疾患なのか？」と、東日本大震災のご報告をいただきました。研修テーマとして「長期入院児の在宅医療への移行支援—症例を交えて—」を指導相談・地域医療連携部の藤定睦子さんが、また、「新生児室における感染対策」を新生児内科の溝渕雅巳部長が発表しました。

東日本大震災の診療支援のため喜吉医長がボランティア休暇を取って6月27日から5日間気仙沼市立病院へ赴任しました。

今年も神戸赤十字病院から松島幸慧4月、佐藤智幸6月、水沼謙一8月、塩津聡一9月、黒瀬潤11月、松橋美波2月（敬称略）が臨床研修医（2年目）として各1ヶ月間当科で研修を行いました。1ヶ月間という短い期間ですが、大学病院のBSLでは経験できない貴重な研修ができたことと思います。また、神戸大学医学部医学科6年次実習生の小川雅史君、田中麗子さんを6月に受入れました。

放射線科医師と胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、その後の状態を検討する「MRIカンファレンス」を月1回隔月で開催しております。読影報告書からだけでは伺えないMRIの読み方についてリアルに研修することができます。

また、管理に難渋した症例のふりかえりと今後の対応について検討する「症例検討会」を不定期ですが開催しております。

当院は兵庫県の唯一の総合周産期母子医療センターですので、兵庫県の周産期医療の最後の砦として診療レベルの維持・向上に努め、また、空床がある限り母体搬送入院を受け入れております。2011年の病床稼働率は89.5%、緊急母体搬送の受け入れ率は62%でした。病床稼働率が高くなれば、満床またはオーバーベッドの日が多くなるためベッドコントロールの困難な日が増加し、結果として緊急母体搬送を受け入れることができません。また、外来紹介を受け即日入院が必要と判断されても入院ベッドがないこともあります。当科はこども病院に併設された周産期母子医療センターですので、他科のベッドを借りることができません。従って、当科が満床となれば搬送依頼をお断りし、他院を紹介せざるを得ないこともあります。そのため、病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。2011年のバックトランスファー（紹介元へ戻れた方）は243名でした（外来レベルで行われたものも含む）。また、産科以外の成人を診る常勤の専門医がおりませんので、母体合併症に関しては神戸大学病院や神戸医療センター中央市民病院をご紹介します。

また、近畿ブロック周産期医療広域連携が行われており、こども病院は兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送に対応しています。

当科も常にマンパワー不足であり、現在のスタッフの退職や病気・事故で長期休暇を取得すると、たちまち診療レベルや当直体制を維持することができなくなってしまいます。総合周産期母子医療センターは産科医師2名の当直体制が必要です。現在第1当直は院内医師、第2当直は院外医師（神戸大、医師会）に応援をいただいています。年末年始、5月の連休、学会シーズン等では第2当直医の確保に困難があり、院外医師の第2当直が見つからなければ院内医師が行わざるを得ません（その分、院内医師の負担が増えます）。また、症例が重なった時と第2当直医来院までの居残り・翌早朝帰院後の早出のためオンコールの医師を立てています。医師公募も常に行っておりますが、産科医師不足のため苦戦を強いられています。

臨床上の変更点の主な部分を列挙します。

1. 先天性サイトメガロウイルス感染スクリーニングのための新生児尿検査：神戸大学医学部産科婦人科学教室から依頼を受けてGCU、NICU、産科病棟看護師の協力の下、2010年5月から継続しています。
2. 乳房外来：2011年3月から産婦人科外来で助産師、看護師が開始しました。

### 2011年人事

2011年は、船越 徹周産期医療センター次長、産科科長兼部長、佐本 崇部長、喜吉賢二医長、高松祐幸医長、田中達也医長、笹原 淳医長、牧志 綾医長、城 道久専攻医の8人で始まりました。

3月1日佐々木医長が育児休業から職場復帰してくれました。

3月末に笹原医長（在職3年）、城専攻医（在職1年）が退職。笹原君は新潟大学医学部附属病院から当院の公募に応じて赴任し、2010年には第2回周産期新生児医学会専門医試験に合格しました。城君は和歌山県立医科大学附属病院から当院の公募に応じて入職。二人とも診療ならびに学会活動に積極的に取り組み大いに貢献してくれました。

4～5月西本昌司専攻医、4～9月丸野由美香専攻医。田中医長が6月末で退職（在職3年1ヶ月）。西本専攻医が県立柏原病院から10月24日付で再び当科へ異動しました。

結果、船越 徹次長兼部長、佐本 崇部長、喜吉賢二医長、高松祐幸医長、佐々木紘子医長、牧志 綾医長、西本昌司専攻医の7人体制になりました。

1) 平成23年(2011年)産科診療状況

入院患者数*	588
うち母体搬送依頼電話によるもの	160
紹介元へ返送または他院紹介***	243
分娩母体数(22週以降)**	365
正期産	156
早産	208
過期産児	1
多胎妊娠	43
うち双胎	41
うち品胎	2
うち要胎	0
経膈分娩	141
うち鉗子・吸引分娩	7
うち骨盤位牽出術	1
帝王切開術	224
出産児数(22週以降、死産含む)**	410
正期産児	160
早産児	249
過期産児	1
低出生体重児(2500g未満)	263
巨大児(4000g以上)	0
その他	
切迫流産	11
子宮内胎児死亡(22週以降)	9
産後出血・DIC	2
自己血貯血回数	60

\* 入院患者数は2011.1-12入院したもの、

\*\* 分娩母体数、出産児数は2011.1-12に出産したもの

\*\*\* 紹介元へ戻すまたは他院紹介は、入院せず外来レベルで行われたものもある

2) 紹介元施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	3	1%	中播磨	姫路市	27	5%
	西宮市	14	2%		神崎郡	0	0%
	芦屋市	6	1%		小計	27	5%
	小計	23	4%	西播磨	相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	5	1%		龍野市	2	0%
	三田市	2	0%		赤穂市	1	0%
	川西市	0	0%		揖保郡	0	0%
	伊丹市	1	0%		赤穂郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%
	小計	8	1%		宍粟郡	3	1%
	神戸市	須磨区	130	22%	小計	6	1%
中央区		48	8%	但馬	豊岡市	1	0%
西区		69	12%		城崎郡	0	0%
垂水区		18	3%		出石郡	0	0%
灘区		14	2%		美方郡	0	0%
東灘区		14	2%		養父市	2	0%
北区		35	6%		朝来郡	1	0%
兵庫区		0	0%		小計	4	1%
長田区		8	1%	丹波	篠山市	2	0%
小計		336	57%		丹波市	0	0%
東播磨	明石市	81	14%	淡路	小計	2	0%
	加古川市	20	3%		洲本市	18	3%
	高砂市	10	2%		淡路市	0	0%
	加古郡	0	0%		南あわじ市	3	1%
	小計	111	19%	小計	21	4%	
北播磨	西脇市	3	1%	他府県	大阪府	14	2%
	三木市	4	1%		京都	5	1%
	小野市	4	1%		その他	13	2%
	加西市	4	1%		小計	32	5%
	美囊郡	0	0%	海外	0	0%	
	加東郡	0	0%	紹介なし	2	0%	
	多可郡	0	0%	不明	1	0%	
	小計	15	3%	計	588	100%	

救急隊はその所属地域にカウントした

3) 入院時疾患名別 (重複あり)

疾患名	件数	率
切迫早産	249	16%
高齢妊娠	240	16%
胎児形態異常	165	11%
羊水過多・過少	83	5%
子宮内胎児発育不全	77	5%
前期破水	70	5%
既往帝王切開	68	4%
羊水検査	68	4%
B群溶連菌保菌者	50	3%
多胎	48	3%
うち双胎	49	3%
うち品胎	0	0%
胎児機能不全	39	3%
妊娠高血圧症候群	36	2%
胎位異常	32	2%
絨毛膜羊膜炎・子宮内感染	30	2%
子宮筋腫合併	25	2%
前置胎盤	19	1%
胎盤早期剥離	11	1%
頸管無力症	11	1%
他科合併症	11	1%
胎児染色体異常	11	1%
胎児水腫	11	1%
I U F D	9	1%
胎盤機能不全	9	1%
その他感染	9	1%
子宮奇形	8	1%
切迫流産	7	0%
糖尿病合併・妊娠糖尿病	7	0%
胎児不整脈	6	0%
心疾患合併	6	0%
甲状腺疾患合併	6	0%
ウイルス性肝炎	4	0%
T T T S	3	0%
自己免疫性疾患合併	3	0%
その他	71	5%
計	1551	100%

入院母体1人あたり平均2.6件の疾患を有す。

4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	465	79%
平日日勤帯		
時間外	123	21%
平日夜勤帯	56	10%
休日日勤帯	31	5%
休日夜勤帯	36	6%
計	588	100%

6) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	171	76%
平日日勤帯		
時間外	53	24%
平日夜勤帯	26	12%
休日日勤帯	12	5%
休日夜勤帯	15	7%
計	224	100%

5) 分娩時間帯 (流産、死産含む)

時間帯	件数	率
時間内	224	61%
平日日勤帯		
時間外	145	39%
平日夜勤帯	84	23%
休日日勤帯	25	7%
休日夜勤帯	36	10%
計	369	100%

7) 出産時児体重 (流産、死産含む)

児体重	件数	率	累積率
～499 g	5	1%	1%
500～999 g	38	9%	10%
1000～1499 g	45	11%	21%
1500～1999 g	60	14%	36%
2000～2499 g	115	28%	64%
2500～2999 g	88	21%	85%
3000～3499 g	55	13%	98%
3500～3999 g	8	2%	100%
4000～4499 g	0	0%	100%
計	414	100%	

8) 入院時妊娠週数 (母)

週数	件数	率	累積率
～21週	75	13%	13%
22～24週	47	8%	21%
25～28週	80	14%	34%
29～32週	103	18%	52%
33～36週	150	26%	77%
37週～	128	22%	99%
不明	0	0%	99%
産後	5	1%	100%
非妊娠	0	0%	100%
計	588	100%	

9) 分娩時妊娠週数 (流産、死産含む)

週数	件数	率	累積率
～21週	4	1%	1%
22～24週	9	2%	4%
25～28週	21	6%	9%
29～32週	62	17%	26%
33～36週	116	31%	57%
37～41週	156	42%	100%
42週～	1	0%	100%
不明	0	0%	100%
計	369	100%	

10) 妊娠延長期間

(切迫早産による入院から当院での分娩まで)

延長期間	件数	率	累積率
当日	27	15%	15%
～1日	18	10%	24%
2～7日	18	10%	34%
8～14日	15	8%	42%
15～28日	33	18%	60%
29～56日	43	23%	84%
57～84日	25	14%	97%
85日～	5	3%	100%
計	184	100%	
平均	27.3日間		

11) バックトランスファー (紹介元へ戻す)

および他院紹介件数

	件数
外来から	212
入院から	31
計	243

### 12) 緊急母体搬送依頼電話受信状況

月	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率
1	22	11	50%
2	26	9	35%
3	12	4	33%
4	21	9	43%
5	21	11	52%
6	25	6	24%
7	24	13	54%
8	22	13	59%
9	15	3	20%
10	29	9	31%
11	23	2	9%
12	13	6	46%
不明	3	0	0%
計	256	96	38%

依頼件数には、結果的に外来受診となったものも含む

### 13) 年次別搬送受け入れ不能状況

年	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率	備考
平成6年	66	12	18%	10月開設(22床)
平成7年	240	38	16%	阪神・淡路大震災
平成8年	312	76	24%	
平成9年	340	111	33%	
平成10年	324	105	32%	
平成11年	326	55	17%	フルオープン(32床)
平成12年	362	100	28%	総合周産期センターに指定
平成13年	328	60	18%	
平成14年	394	110	28%	
平成15年	367	140	38%	
平成16年	298	126	42%	
平成17年	285	120	42%	MFICU6床整備
平成18年	316	124	39%	空床情報ネットワーク整備
平成19年	285	91	32%	
平成20年	259	65	25%	
平成21年	279	88	32%	
平成22年	276	85	31%	
平成23年	256	96	38%	

### 14) 搬送依頼施設所在地別受信件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	3	1%	中播磨	姫路市	2	1%
	西宮市	9	4%		神埼郡	0	0%
	芦屋市	3	1%		小計	2	1%
	小計	15	6%		相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	0	0%	西播磨	赤穂市	0	0%
	三田市	4	2%		宍粟市	0	0%
	川西市	0	0%		たつの市	0	0%
	伊丹市	0	0%		揖保郡	0	0%
	川辺郡	0	0%		赤穂郡	0	0%
	小計	4	2%		佐用郡	0	0%
神戸市	須磨区	45	18%	但馬	小計	0	0%
	中央区	22	9%		豊岡市	1	0%
	西区	36	14%		養父市	0	0%
	垂水区	8	3%		朝来市	0	0%
	灘区	9	4%		美方郡	0	0%
	東灘区	5	2%	小計	1	0%	
	北区	24	9%	丹波	篠山市	2	1%
	兵庫区	1	0%		丹波市	1	0%
	長田区	8	3%		小計	3	1%
	小計	158	62%	淡路	洲本市	3	1%
東播磨	明石市	41	16%		南あわじ市	1	0%
	加古川市	6	2%		淡路市	4	2%
	高砂市	0	0%		小計	8	3%
	加古郡	0	0%	他府県	大阪府	2	1%
	小計	47	19%		京都府	4	2%
北播磨	西脇市	3	1%		島根県	2	1%
	三木市	2	1%	他	0	0%	
	小野市	2	1%	小計	8	3%	
	加西市	0	0%	海外	0	0%	
	加東市	0	0%	院内紹介	0	0%	
	多可郡	0	0%	不明	3	1%	
小計	7	3%	計	256	100%		

救急隊はその所属地域にカウントした

### 15) 搬送依頼元施設種類別

施設種類	件数	率
総合周産期医療センター	3	1%
地域周産期医療センター	22	9%
一般病院	109	43%
診療所	105	41%
助産院	2	1%
救急隊	11	4%
他	0	0%
不明	4	2%
計	256	100%

### 16) 搬送依頼電話受信時刻

勤務帯		件数	率
時間内	平日・日勤帯	120	47%
	平日・夜勤帯	62	24%
時間外	休日・日勤帯	36	14%
	休日・夜勤帯	34	13%
不明		4	2%
計		256	100%

## 17) 搬送電話依頼時理由

搬送理由	件数	率
切迫早産	112	44%
前期破水	48	19%
妊娠高血圧症候群	17	7%
胎児機能不全	5	2%
胎盤早期剥離	7	3%
胎児形態異常	7	3%
子宮内胎児発育遅延	4	2%
前置胎盤	4	2%
既往帝王切	3	1%
出血多量	2	1%
多胎	1	0%
胎児死亡	1	0%
他科合併症	0	0%
切迫流産	0	0%
難産	0	0%
未受診	0	0%
ショック	0	0%
子宮外妊娠	0	0%
その他	38	15%
不明	7	3%
計	256	100%

主たる理由で分類

## 18) 搬送電話依頼時妊娠週数

妊娠週数	件数	率
22 週以前	11	4%
22 ～ 24 週	43	17%
25 ～ 28 週	50	20%
29 ～ 32 週	61	24%
33 ～ 36 週	47	18%
37 ～ 40 週	23	9%
41 週以降	1	0%
分娩後	0	0%
不明	20	8%
非妊娠	0	0%
計	256	100%

## 19) 受け入れ可否返事所要時間

所要時間	件数	累積率
～ 1 分	208	81%
～ 3 分	15	87%
～ 10 分	18	94%
～ 20 分	5	96%
～ 30 分	2	97%
～ 60 分	1	97%
～ 120 分	0	97%
～ 180 分	3	98%
不明	4	100%
計	256	100%

## 20) 受け入れ不能の理由

理由	件数	率
NICU 満床	30	31%
産科満床	40	42%
両方満床	1	1%
対象外	11	11%
その他	14	15%
不明	0	0%
計	96	100%

## 23. 放射線科

### 1. 人事異動

2011年度は、3/31に専攻医の西井達也医師が退職し、加古川西市民病院から杉岡勇典医師が、徳島赤十字病院から阿部洋子医師がスタッフとして着任した。今年度は3名の画像診断医と、放射線治療担当で副島俊典医師ががんセンターと兼務で週1回の診療にあたる。非常勤医師として藤本雄介医師に月曜、木曜の週2日、西山章次医師に金曜午前に応援していただいている。

### 2. 2011年の動向

塚口病院から小児科医の放射線科研修希望者があり、3名を迎えた。

今年度は8月に2名の画像診断専門医が誕生し、3名の専門医で画像診断や、研修医、専攻医の実習指導を行った。

### 3. 放射線科の取り組み

全国的に小児の画像診断医が希少なため、院内、院外の小児科医の放射線研修希望者が年々増えており、できるだけ多くの医師の受け入れることが小児医療に必要なことと認識している。放射線科医の研修希望も増えてきている。指導医の確保も課題である。

放射線科読影件数 (2011 年)

CT	2921 件	透視	321 件
MRI	2104 件	IVR	4 件
RI	442 件	エコー下肝生検	3
		腎瘻造設	1
他院持込画像の読影		単純写真	84 件
299 件		放射線治療 (照射)	21 件
超音波	4550 件		

研修医・専攻医指導記録

専攻医：西井達也 (放射線科)	専攻医：大森翔子 (塚口病院小児科)
研修科：放射線科	研修科：放射線科
研修期間：2010.4.1. ~ 2011.3.31	研修期間：2011.7.1. ~ 2011.9.31
指導医：赤坂好宣	指導医：赤坂好宣

読影件数 (2011.1.1 ~ 2011.3.31 分)

CT：322	読影件数
MRI：246	CT：29
RI：66	MRI：19
透視検査：46	RI：0
超音波検査：233	透視検査：11
	超音波検査：260

専攻医：河勝千鶴 (塚口病院小児科)

専攻医：河勝千鶴 (塚口病院小児科)	専攻医：趙 有季 (塚口病院小児科)
研修科：放射線科	研修科：放射線科
研修期間：2010.1.1. ~ 2010.3.31	研修期間：2011.10.1. ~ 2011.12.31
指導医：赤坂好宣	指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：24	読影件数
MRI：33	CT：0
RI：0	MRI：0
透視検査：2	RI：0
超音波検査：204	透視検査：6
	超音波検査：275

専攻医：田中 聡 (小児科)

専攻医：田中 聡 (小児科)
研修科：放射線科
研修期間：2010.10.1. ~ 2011.3.31
指導医：赤坂好宣

読影件数 (2011.1.1 ~ 2011.3.31 分)

CT：73
MRI：39
RI：0
透視検査：4
超音波検査：191

## 24. 病理診断科

病理診断科では、胎盤病理・死産児の剖検などの周産期の病理診断、ヒルシュスプルング病や嚢胞性肺疾患などの小児外科領域の病理診断、小児期の固形腫瘍の病理診断を主体として、小児期の病理診断全般を行っている。腎生検は通常のパラフィン切片標本の病理報告書作成は病理診断科でおこなっているが、凍結検体を用いた蛍光免疫染色や電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断は、検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、外部委託や小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼、を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。

### 2011年の動向

2011年1月から国立成育医療センター研究所を中心として小児固形腫瘍観察研究が開始され、病理診断科も臨床主治医の指示のもとに中央病理診断や分子生物学的検索に標本等を送付している。

建て替えに向けた病院の各部門の在り方が問われ、今後の病理診断科について考える機会が多かった。

2012年に病理システムが導入される方針となり、打ち合わせをすすめている。

### 2011年の件数

組織診断件数 1132件（うち迅速有り63件、胎盤371件、腎生検33件、その他）

細胞診断件数 191件

剖検件数 6件（産科死産児4件、新生児科1件、心臓血管外科1件）

### 参加カンファレンス

院内：平成22年度臨床病理検討会（CPC）（2011年12月21日（水）17:15～）

；臨床担当；心臓血管外科 圓尾文子先生

周産期カンファレンス（毎週月曜日 16:30～）

外科カンファレンス（毎週火曜日 8:00～）

腫瘍カンファレンス（毎週水曜日 17:30～）

院外：神戸大学病院病理部くすのき会（わからん会）（第4水曜日 19:30～）

## 25. 看護部

### 看護部の理念・方針・平成 23 年度目標

#### <看護部理念>

命を守り、育てることに努力し安心と満足が得られる看護の提供に努めます

#### <看護部方針>

- こどもの権利を守り、患者・家族の思いを尊重した看護を提供します
- 看護の質向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します
- 患者を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動します
- 真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、自己研鑽に努めます

#### <看護部目標>

「新規採用者・中堅看護師がやめない組織作り」

23年度離職率10%以下に！！

1. 看護のやりがい・おもしろさの再発見と探求——看護の語りの共有
  - ・日常の中に看護の経験を語る時間を少しでも良いので作る
  - ・事例検討（倫理事例・困難事例・うまくいった事例等）

#### 2. 人を育て自分も育つ

新規採用者

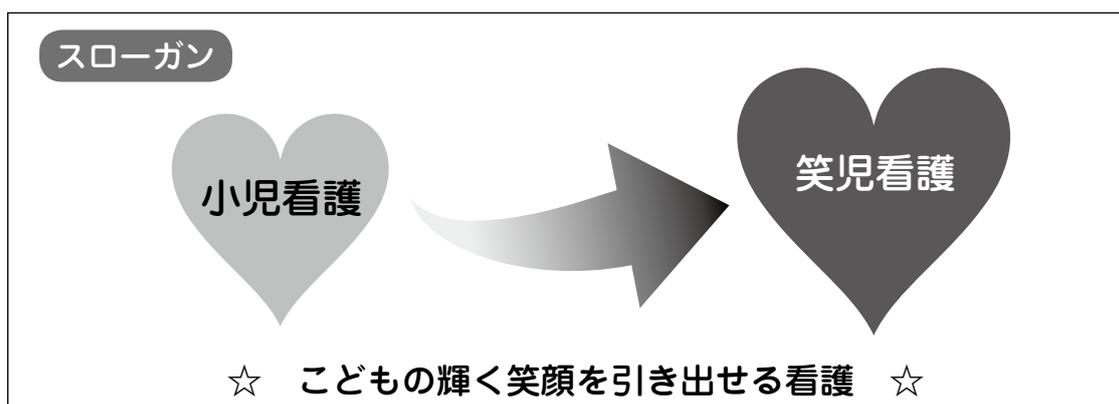
- ・新卒サポートプログラムの実践
- ・既卒サポートプログラムの実践

中堅

- ・学会発表・参加による視野の拡大と自己の看護の振り返り
- ・看護の可視可によるケアツールの作成（看護の標準化と効率化と質の向上）

#### 3. 徹底的な無駄の排除による働きやすい職場作りの追求と看護の質の向上

- ・業務改善（自部署内・看護部・院内多職種連携）
- ・看護の可視可によるケアツールの作成（看護の標準化と効率化と質の向上）
- ・看護記録の見直しとクリティカルパスの作成・修正（電子カルテを見据えて）



## 看護部の活動

### 【一般外科主体病棟】

新規採用者以外に3年目まで(ラダーⅡ)及び院内異動者にもプリセプター制を導入し、教育的に関わってきた。また、看護実践では、絵本を用いて術前のプリパレーションを積極的に実施したり、乳児の在宅IVH導入を2例経験し、院内の実践報告会で発表した。

### 【循環器 A 病棟】

循環器科の患者だけでなく、血液内科の患者を受け入れ、個々の患者・家族に寄り添った看護に取り組んだ。一人一人の患児と家族の満足を求め、現状に満足せず、切磋琢磨して看護に励んでいる。

### 【循環器 B 病棟】

乳児期患者・家族への育児教室の開催、セルフケア能力向上・自立支援に向けた循環器科患者教室の開催を行った。また、長期入院の患者や医療的依存度の高い患者の退院支援・転院を指導相談部と連携し実施した。

### 【混合 A 病棟】

混合科での予定入院、緊急入院や救急センターからの転入をすみやかに安全に受けられるように教育を進め目標、計画に沿った看護師のステップアップを図った。

ヒヤリハットの減少を目標にし、レベル2以上0件で総数の減少も図れた。

### 【混合 B 病棟】

家族と共に看護の展開を図り、院内散歩や外泊など病室外への活動が増えた。摂食障害、脳腫瘍ターミナル期の患者・家族の支援に向け、医師をはじめ他職種とのカンファレンスなどチーム医療に取り組んだ。

### 【血液主体病棟】

血液内科の患者が増加する中で、安全に留意した看護実践が行えた。また、長期入院患者の復学支援にも継続的に取り組み、マニュアル化することができた。

### 【ICU】

「ICU看護ケアの質の向上を図る」を目標に、医師と協力し、「ICU指示簿」の作成・変更、MRSA対策の見直し、培養結果把握のための検査データ用紙の作成したことにより、業務改善がはかれケアの充実が図れた。

### 【HCU・外科一般病棟】

4月より10名の新入職者を迎えスタッフの半数がラダーⅡ以下となり、HCU教育体制の見直しを行い看護力の維持・向上ができた。また看護補助者を迎え業務整理・委譲を行った結果、看護業務に専念できる時間の確保ができた。

### 【NICU】

NICU看護の質向上に向け、ラダー3以上の看護師の経験知を可視化する取り組みとして語り合う場を定期的に持つようにした。また、院外研修会にも積極的に参加し知識・技術の向上に向けた取り組みを行った。

### 【GCU】

今年度は、受け持ち看護師の役割を果たすことで、看護のやりがいに継げる事を目的とし、チーム会や勉強会で看護を語る場を作り良い評価を得た。また、グループ活動としておっぱいケアやディベロップケアにおいて産科・NICUとの連携を図った。

### 【産科】

母性における継続看護充実に取り組んだ。母乳外来は院内だけでなく、院外出生の方にも利用していただいている。「楽しくやろう!」を合言葉に、新人からベテランまで何らかの役割を担い、達成することができた。

【手術室】

長時間手術やリスクの高い手術、多くの器械を要する手術においては、術前に麻酔科、主治医、担当看護師とでカンファレンスを開催し、安全で円滑な手術を目指し、チーム医療を行った。皆が教育に携われるように指導要綱やマニュアルを充実させた。

【外来】

2月より開始した看護師による入院スクリーニングは定着してきた。看護相談外来は、9月から在宅支援、1月からは血友病を開始した。在宅療養、外来治療の推進には、外来で専門的に看護師が介入することが必要であり、今後の課題である。

【小児救急センター】

日課の中に医師・看護師合同ミーティングの機会を設定し、これまで以上にチーム医療、相互連携を強化することができた。また、改正臓器移植法の施行に伴い、小児脳死下臓器提供に関する体制とマニュアルを整備した。

こども病院看護部教育方針

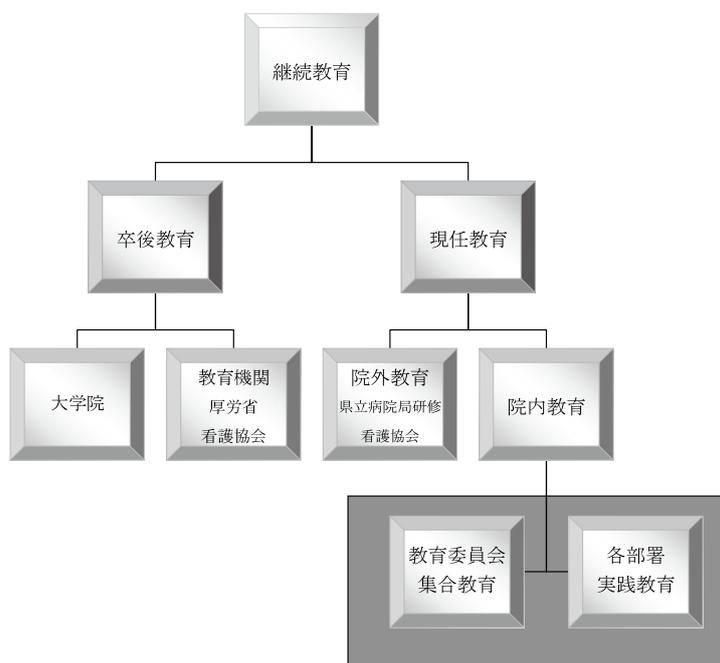
看護の楽しさ・面白さ・やりがいを感じることができる

1. 自分で考え適切に判断して責任ある行動がとれる看護師の育成
2. 集合教育と臨床現場の教育との連動による実践能力の育成
3. こども・家族の人権を尊重した倫理観を持った看護が実践できる看護師の育成
  - \* 意味のある経験を積ませる
  - \* 偶然の経験も意味のある経験する

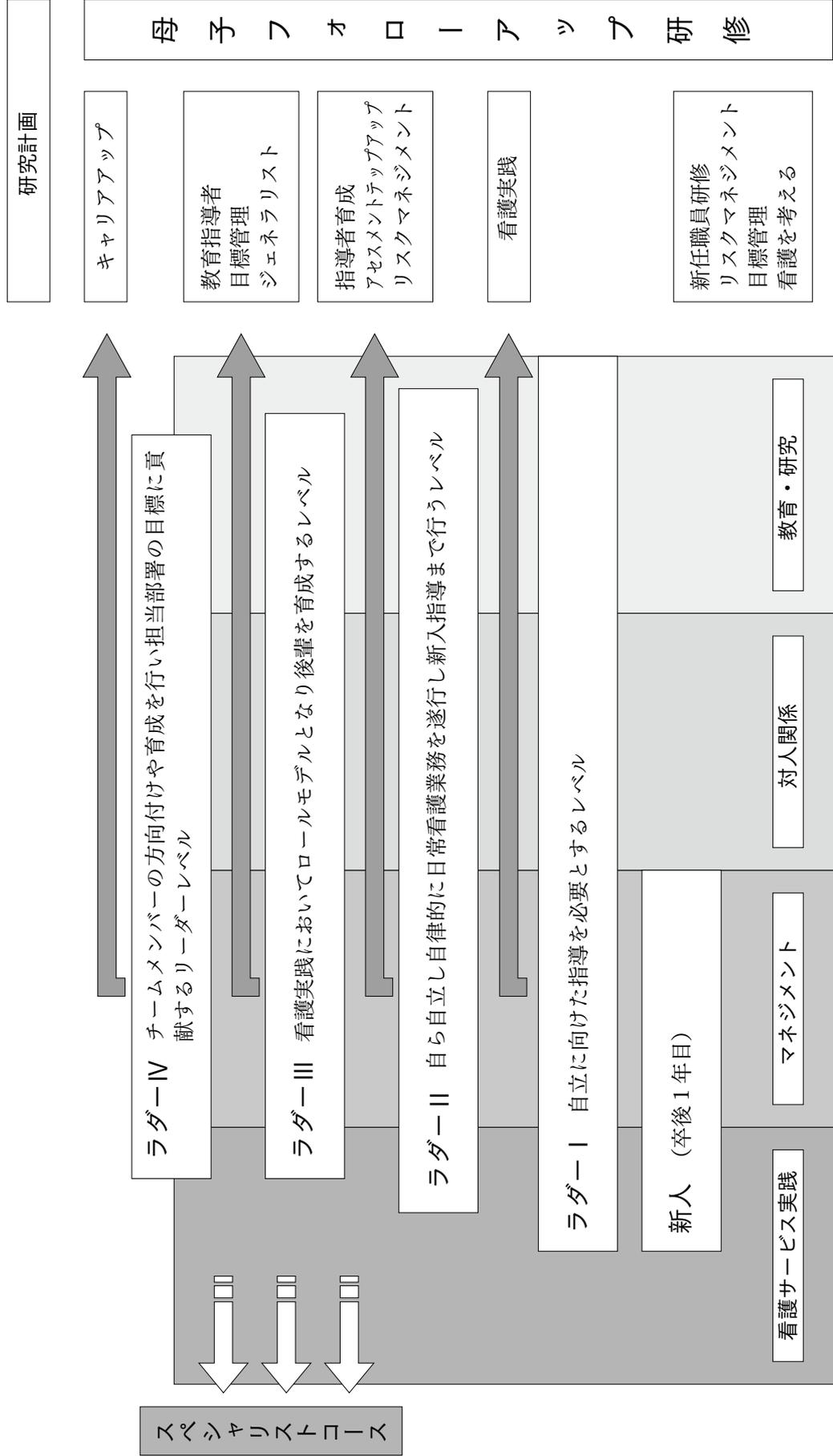


★経験を先輩と一緒に振り返り意味づける（リフレクション）

こども病院看護部継続教育の位置づけ



小児ジェネラリストの実践家として役割を認識し行動できる



平成 23 年度 院内研修

研修会名	日程	時間	ねらい	参加数	講師
フォロー研修① 子どもの看護・感染	4月5日(火)	1日	必要な看護技術を段階的に身につけることができる  1. 必要な看護技術を段階的に身につけることができる 2. 同期と就職後の思いを共有し、今後の意欲に繋げる	61名	嶋滝感染 CN、中谷 CNS、教育担当者
フォロー研修② 安全・清潔ケア	4月6日(水)	1日		61名	高藤安全対策担当、教育担当者
フォロー研修③ 記録・与薬システム	4月7日(木)	1日		61名	谷本看護長、教育担当者
フォロー研修④ 薬剤・輸液管理	4月27日(水)	1日		43名	藤本薬剤部次長、岩下 ME、教育担当者
フォロー研修⑤ 呼吸管理基礎・周手術	5月13日(金)	1日		44名	清水小児救急 CN、教育担当者
フォロー研修⑥ 救急蘇生	5月24日(火)	1日		43名	清水小児救急 CN、教育担当者
フォロー研修⑦ 子どもの権利・摂食・その他	6月17日(金)	1日		43名	中谷 CNS、教育担当者
フォロー研修⑧ 多重業務・薬剤管理	7月15日(金)	1日		42名	教育担当者
フォロー研修⑨ 家族看護・理学療法・輸血	8月23日(火)	1日		44名	中谷 CNS、教育担当者
新人					
フォロー研修⑩ 継続看護・ストーマケア	10月14日(金)	1日	1. 6ヶ月後の達成可能な課題を明確にできる 2. 必要な看護技術を段階的に身につける 3. 就職後6ヶ月の思いを共有し、今後の意欲に繋げることができる	48名	鎌田 WOCCN、橋本地域医療連携次長、外来看護長補佐、教育担当者
フォロー研修⑪ 看護過程	11月29日(火)	1日	1. 看護過程の展開を学び実践に活かすことができる 2. 小児における理学療法について知識を得ることができる	43名	中田 PT、教育担当者
フォロー研修⑫ 看護を考える	3月6日(火)	1日	1. 自己の看護実践を振り返り、自己の成長を認めることができる 2. 次年度に向け、目標を明確にする	43名	教育担当者
高機能シミュレーター	11月	1日	1. ガイドラインに沿った救急蘇生法を明確にできる 2. 事例を通して、救急蘇生場面でのメンバースhipの実践を体験し、日々の看護に活かすことができる	43名	藤原小児救急 PreCN、呼吸ケア部会委員
アセスメントステップアップ	7月24日(火)	1日	1. 根拠に基づいた看護ケアを自立して実践できる能力を養う	30名	二星 CNS、教育委員
看護観	1月24日(火)	0.5(PM)	1. 自分の大切にしたい看護を明文化し、今後の看護に繋げることができる	28名	教育委員
既卒者サポート①	6月5日(火)	0.5(AM)	1. 同期との交流を深め、現状での悩みやストレスを表出できる 2. 組織での役割を認識し、明日への活力を見出す 3. 1年を振り返り、語るこことができる	20名	成田看護部長、竹井看護長、教育委員
既卒者サポート②	9月4日(火)	0.5(AM)		21名	先輩看護師6名、教育委員
既卒者サポート③	1月22日(火)	0.5(AM)		20名	教育委員
プリセプターフォロー①	6月26日(火)	0.5(PM)	1. 自己の関わりを振り返り、課題や今後の方向性を明確にできる 2. プリセプターの成長に合わせた関わりができる 3. 自己の看護を振り返り、語るこことができる	25名	本田 CNS、教育委員
プリセプターフォロー②	9月4日(火)	0.5(PM)		22名	本田 CNS、教育委員
後輩指導	2月5日(火)	0.5(AM)		28名	二星 CNS、教育委員
看護倫理①	10月19日(金)	0.5(PM)	1. 事例を通して、倫理問題の解決策を考えることができ、日々の看護にいかすこことができる	25名	濱田 CNS、教育委員
看護倫理②	11月16日(金)	0.5(PM)		25名	濱田 CNS、教育委員
看護記録	5月28日(土)	1日	1. 看護記録の基本を理解する 2. こども病院の記録に関する課題の解決策を検討できる	60名	岩井郁子
リフレクション	10月21日(金)	1日	ふりかえりによる学びを支援する方法を学ぶ	67名	博野英二 (LLC チーム経営)
新人教育について	1月12日(土)	1日	効果的な研修計画の立案方法について学ぶ	60名	増野園恵 (兵庫県立大学)

看護部委員会（2011年度）

委員会名	開催回数	目標と活動内容
看護長補佐会	11回	<p>&lt;目的&gt; 各館看護単位の円滑な運営と看護の質向上を図る</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 病院としての課題達成に向けて取り組み率先して実行できる 2. 看護師として責任ある行動が自主的に取れるようにスタッフの育成を行う 3. 委員会での活動が各部署で周知できるように情報共有する</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 業務改善 1) 薬剤部との連携 2) 病棟間業務調整（転入、転出） 3) ディスポ、物品導入 2. 看護倫理、プレパレーションの意識の向上 3. 標準看護計画、看護基準の検討、作成 4. 看護実践報告会の企画・運営 5. ふれあい看護体験の企画・運営 6. さわやか意見箱の対応</p>
教育委員会 教育担当者会	12回 10回	<p>&lt;目的&gt; さまざまな教育背景を持つ看護職員に対して、当院で看護を行っていくために必要な知識・技術の習得や態度を育成し、より質の高い看護ケアを提供できるように看護師個々を支援する。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 新人教育 新人教育担当者と連携しながら OJT との連動を図り、新人が目標達成できるよう支援する。 2. 新人以外ラダー研修 年間計画に沿って集合教育を実施し、看護のおもしろさ・やりがい感を発見することができる研修を企画する。 3. 教育委員が元気で各病棟の教育支援ができる。</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 教育担当者を中心に新人研修の企画・運営 ラダー別集合教育の企画・運営</p>
業務・手順委員会	11回	<p>&lt;目的&gt; 看護業務を見直し当院で必要な看護基準・手順を作成し、安産で安楽な標準化したケアを提供する</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 定期的な手順の整合性チェック 2. 必要手順作成 3. 手順実施の監査 4. 業務改善 5. 疼痛緩和ケアマニュアルの作成と実施</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 2011年度予定手順の見直し 2. 手順実施状況の監査 業務改善（術前衣の廃止等）</p>

委員会名	開催回数	目標と活動内容
感染対策委員会	11回	<p>&lt;目的&gt; リンクナースは各部署における感染防止対策の中心的役割を担い、ICTと連携して感染防止対策を実践する</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 感染症の月ごと集計、血流サーベイランス、環境監査、ICTとの協議などにより感染防止を図る 2. 感染対策マニュアルの見直しとスタンダードプリコーションについての教育を行う 3. 勉強会、研修会学会参加などとおしてリンクナースが実践モデルとしての役割がとれる</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 感染集計は毎月実施、血流サーベイランスは7月と1月に実施して感染率は減少した 2. 環境監査を8月と2月に実施した 3. 感染対策マニュアル改訂の一端を担い、病態別感染対策ガイドライン、部署別感染防止対策、日常生活援助での感染防止対策、感染性胃腸炎について作成した リンクナース自己チェックを6月と2月に実施した</p>
臨床指導者会	隔月開催で6回	<p>&lt;目的&gt; 臨床の指導者として、実習計画に添った病棟実習がスタッフの協力のもと継続して実施できる</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 部署内で実習の目的、実習内容を共通認識し患者様の安全を優先した有効な実習が行える。 2. 実習に関連した問題点の情報提供を行い、解決に向けた取り組みが出来る。</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 実習の予定を把握し、スタッフへ説明し病棟全体で実習に取り組むんだ。 2. 実習経過表についてスタッフへ説明し、継続した実習に取り組んだ。定期的に評価し次年度の本格的な使用に向けた。 3. 大学側の報告会で教員との意見交換を行い、学生の傾向や問題点、学生との関わり方など学び共通認識が持て、次年度に向けることができた。</p>

委員会名	開催回数	目標と活動内容
看護記録委員会	計 11 回	<p>&lt;目的&gt; 電子カルテを見据え、看護の可視化と質評価につながる看護記録ができる</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 看護用語の統一を図るため、用語集作成の基盤ができる 2. 記録の監査を行うことで全スタッフが記録要項に基づいた記録が出来るようになる 3. 各病棟で使用されている帳票類の整理・見直しを行い、全病棟で統一した用紙を使用し連携できる。</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. イエローシーツの用紙変更に伴い、記載要綱の変更を行った。 2. 質的監査ツールの検討後平成24年1月に実施した 3. 械的監査ツールに基づいて8月11月に実施した 4. 情報提供用紙を収集し、新基礎情報用紙を作成し2部署で試行した。 5. 院内看護基準・手順の「看護する」を具体的に記録として残す内容の検討を行い24項目作成した。</p>
パスプロジェクト	11 回	<p>&lt;目的&gt; 院内クリニカルパス委員会都と連動し、クリニカルパスを推進することを目的とする。</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 既存クリニカルパスのバリエーション集計 2. 新規クリニカルパスの作成</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. クリニカルパスの理解 2. パス電子化に向けた調整 パスの電子化に向けて、用語の統一及びフォーマットの統一に取り組む 3. パスの推進 統計・広報・パス委員会との活動連携を行う</p>
安全対策委員会	11 回	<p>&lt;目的&gt; 看護事故防止対策を検討し、全看護職員のリスク感性向上に向けて取り組むことを目的とする</p> <p>&lt;目標&gt; 1. 誤薬に関するヒヤリハット発生の減少 2. 患者の安全に配慮した療養環境の整備 3. チューブ類に関連したヒヤリハットの減少</p> <p>&lt;活動内容&gt; 1. 誤薬・チューブ類に関するヒヤリハットの要因分析、傾向や対策の検討 2. 病棟の環境監査の実施 3. 転倒転落防止 アセスメントシートの活用と看護計画への連動</p>

委員会名	開催回数	目標と活動内容
WOC ケア部会	11 回	<p>&lt;目的&gt; WOC における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員自身の WOC ケア知識と技術の向上</li> <li>2. スタッフの WOC ケア知識と技術の向上</li> <li>3. 院内の WOC ケアの質の向上</li> </ol> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員の WOC ケア習得チェックリストの定期チェック (5月・9月・1月)</li> <li>2. 事例検討</li> <li>3. WOC ケアの勉強会の開催</li> <li>4. 新人研修での WOC ケア勉強会の開催 (褥瘡ケアとストーマケア)</li> <li>5. 委員の各部署での取り組みを委員会で報告</li> <li>6. グループ活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・啓蒙新聞 年4回の発行(7・9・11・1月)</li> <li>・褥瘡対策 対策用紙の記入方法の改訂、監査の実施</li> <li>・食道瘻のケア手順作成</li> <li>・失禁ケアマニュアル作成(途中)</li> </ul> </li> </ol>
摂食障害ケア部会	11 回	<p>&lt;目的&gt; 摂食障害における専門知識を習得し、ケアの質の向上を図る</p> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新メンバーの基礎知識の確認と学習支援を行う</li> <li>2. 症例検討を通じて、現場で難渋しているケアについて方向性や考え方を提示し、問題解決に向けた活動をし、病棟へ還元する。</li> <li>3. 新人看護師へ講義を通して「食」の大切さを理解してもらう。</li> </ol> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員会勉強会(総論・各論)</li> <li>2. 症例検討(各回、2～4例の検討)</li> <li>3. 新人対象講義(教育委員会のプログラムに添って、7月に実施)</li> </ol>

委員会名	開催回数	目標と活動内容
呼吸障害ケア部会	11回	<p>&lt;目的&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護師の専門的な実践能力を向上し患者の QOL を高める</li> <li>2. 個別の看護師が有する専門的な知識・技術を他の看護師（チーム）に還元できる</li> <li>3. スタッフに必要とされる領域の看護を自主的に学習し、責任ある実践ができるように看護師を動機づける</li> </ol> <p>&lt;目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸ケアの実践と教育において、現場に即した支援を行う</li> <li>2. 安全で確実な呼吸ケア実践を支援する</li> <li>3. 呼吸ケアの実践や教育に役立つ資料を充実する</li> </ol> <p>&lt;活動内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸ケア関連のヒアリハット対策</li> <li>2. 事例検討、関連情報の共有</li> <li>3. 学会・研修報告：参加報告（学会 1 例：理学療法学会）</li> <li>4. 院内 ME、PT との連携</li> <li>5. 勉強会の企画・開催 6 回実施（平均参加人数 26.3 名）</li> </ol> <p>テーマ：各種呼吸器の管理（在宅呼吸器も含）、          トラブルシューティング、呼吸理学療法、加温・加湿など</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 研修や各病棟での救急蘇生や呼吸ケアに関する勉強会支援（高機能シミュレーター研修への参加）</li> <li>7. 関連マニュアルの整備、呼吸ケア指導方法の検討             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 呼吸療法マニュアルの一部修正、改訂</li> <li>2) 呼吸ケア関連の看護手順作成（15 項目 + <math>\alpha</math>）</li> <li>3) 補足教材の検討（気管内吸引の動画を各病棟に配布）</li> <li>4) 各病棟の活動紹介</li> </ol> </li> <li>8. 在宅療法指導マニュアルの作成              気管切開・HOT・LTV</li> </ol>

## 26. 薬 剤 部

### 1 薬剤部員異動

(平成 23 年 4 月 1 日付)

【転出者】	課長補佐	藤原 康浩	県立加古川医療センター	(平成 23 年 4 月 1 日付)
【退職者】	部 長	沖野 隆明		(平成 23 年 3 月 31 日付)
【転入者】	部 長	西本 哲男	県立柏原病院	(平成 23 年 4 月 1 日付)
	職 員	森田 紗代	新規採用者	(平成 23 年 4 月 1 日付)

### 2 平成 23 年活動報告

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

#### (1) 薬剤部内での医薬品に係わるミス軽減への取組

従来から実施している業務環境の整備に加え、新たに計数調剤鑑査システムを導入し、さらなる過誤防止の実施と注意喚起の強化を図った。さらに部員間および県立病院間での横断的なリスク防止対策等についての情報の共有を徹底した。

#### (2) 治験への取組

治験審査委員会事務局として新規治験 2 件を含む 8 件の治験に携わった。さらに、本年は小児総合医療施設協議会加盟施設を対象に小児治験ネットワークが設立され、今後、より充実した治験の推進が期待される。

#### (3) 薬学生の長期実務実習への取組

本年度で 2 年目となる薬学生の長期実務実習のため、新たに 1 名の部員に指導薬剤師認定を取得させた。また実務実習モデル・コアカリキュラムに沿って、当院での実施スケジュール等を作成し、4 名の学生を受入れた。

#### (4) 部員の育成

薬剤部の活性化と個々の部員のモチベーションを高めるため、学会等での発表や専門・認定薬剤師等への取組を支援した。その結果、栄養サポートチーム専門療法士の資格取得（1 名）や学会発表（4 演台）、さらに雑誌投稿（4 報）等スキルアップを図った。

#### (5) 新病院構想への対応

こども病院建替整備に向けて、薬剤部員の意見や他施設視察結果等を基に機能面、設備面等を検討し、設計参考資料等を作成した。

### 3 来年の展望と予定

平成 24 年度診療報酬改定に伴い、チーム医療の促進という観点から病棟薬剤師業務等を含め、今後新たな業務等について検討していきたい。

また新病院建替整備においても基本設計に向けより充実した機能・設備等を部員の意見等を踏まえ提案していきたい。

## (1) 調剤件数

区 分	処方箋 枚 数	合 計			内 用 薬			外 用 薬		
		処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数
入 院	36,253	62,508	70,756	327,961	47,802	56,050	295,788	14,706	14,706	32,173
外 来	7,714	16,393	45,528	309,290	11,520	40,655	272,653	4,873	4,873	36,637
計	43,967	78,901	116,284	637,251	59,322	96,705	568,441	19,579	19,579	68,810
一日平均	180.2	323.4	476.6	2,611.7	243.1	396.3	2,329.7	80.2	80.2	282.0

## (2) 注射薬取扱件数

区 分	注 射 薬	
	処方箋枚数	延本数
入 院	105,977	596,214
外 来	6,855	9,755
計	112,832	605,969
一日平均	462.4	2,483.5

## (3) 薬剤管理指導料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	129	82	129	108	95	116	132	101	106	118	94	120	1,330
心外・循内	22	27	31	19	24	33	31	31	35	21	35	23	332
血 内	59	57	61	64	64	71	59	59	51	60	59	58	722
腎 内	4	3	5	6	5	10	19	12	12	11	5	6	98
眼 科	30	34	32	26	32	39	32	39	17	30	33	30	374
計	244	203	258	223	220	269	273	242	221	240	226	237	2,856

## (4) 退院指導料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
産 科	29	24	30	30	28	33	35	29	18	39	31	23	349
心外・循内	3	3	12	4	1	5	6	3	4	3	3	4	51
血 内	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	1	5
腎 内	0	0	1	1	1	3	3	5	1	2	0	0	17
眼 科	8	12	9	13	15	36	23	33	14	26	23	28	240
計	40	39	52	48	45	78	67	70	38	70	59	56	662

## (5) 薬剤情報提供料 件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 科	427	395	464	418	442	456	388	481	433	444	421	512	5,281

## (6) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	95	128	120	122	131	170	141	153	124	167	163	119	1,633
高カロリー	124	140	187	204	168	215	211	149	170	138	130	108	1,944
計	219	268	307	326	299	385	352	302	294	305	293	227	3,577

## (7) 薬物の血中濃度測定

		メトキシート	総検体数
23年		130	130
平成 23年 の 月 別 内 訳	1月	6	6
	2月	8	8
	3月	7	7
	4月	14	14
	5月	4	4
	6月	4	4
	7月	7	7
	8月	27	27
	9月	15	15
	10月	13	13
	11月	10	10
	12月	15	15

## (8) 院内D I 業務

### ① 電子メールによる情報提供

送 信 日	件 名
2011.1.18	医薬品・医療機器等安全性情報 No.275
2011.2.7	医薬品・医療機器等安全性情報 No.276
2011.3.24	医薬品・医療機器等安全性情報 No.277
2011.4.11	医薬品・医療機器等安全性情報 No.278
2011.4.25	当院採用薬一覧の送付について
2011.6.10	医薬品・医療機器等安全性情報 No.279
2011.7.26	医薬品・医療機器等安全性情報 No.280
2011.8.29	医薬品・医療機器等安全性情報 No.281
2011.9.16	医薬品・医療機器等安全性情報 No.282
2011.10.12	医薬品・医療機器等安全性情報 No.283
2011.11.2	医薬品・医療機器等安全性情報 No.284
2011.12.13	医薬品・医療機器等安全性情報 No.285

### ② 主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 注射薬配合変化について</li><li>・ 注射薬溶解後の安定性について</li><li>・ 注射薬のフィルター透過性について</li><li>・ 食品と薬剤の相互作用について</li><li>・ 内服薬の飲み易い飲み方について</li><li>・ 冷所保存医薬品の常温での安定性について</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 抗がん剤の適切な投与方法について</li><li>・ 医薬品の副作用について</li><li>・ 血液製剤の投与方法について</li><li>・ 小児薬用量について</li><li>・ 錠剤の粉砕可否について</li></ul>

(9) 院内製剤

① 内用液剤

製剤名	製剤量 (単位 /mL)
内服用ルゴール液	120

② 軟膏

製剤名	製剤量 (単位 /g)
バリアー	21,000
10%テストステロン軟膏	1,400
0.4%エストラジオール軟膏	2,600

③ 外用液剤

製剤名	製剤量 (単位 /mL)
アセモトール	1,200
1/2 カプトドロップ	1,600
0.5%アトロピン点眼	100
25%グリセリン液	12,600
耳垢水	100
30%硝酸銀	55
40%硝酸銀	20
10%ピオクタニン青液	200
1%ピオクタニン青液	120
0.2%ピオクタニン青液	100
30%アルコール	200
50%アルコール	400
ツェンテール液	25
3%酢酸液	200

④ 予製剤

製剤名	製剤量 (単位 /g)	製剤名	製剤量 (単位 /g)
(倍散→倍散)		インデラル散 (× 100)	2,700
0.01%ジゴシン散	1,500	ワーファリン (× 500)	12,000
(錠→散)		ポラキス散 (× 100)	2,700
ニュートライド (× 10)	500	ドルナー散 (× 50000)	10,000
コートリル散 (× 20)	1,500	ロングス散 (× 100)	3,600
プロタノールS散	21	グリチロン散	840
メキシチール (× 10)	550	フロリネフ (× 1000)	1

## 27. 検査・放射線部（検査）

### 1. 検査部門の人事異動

#### 【退職者】

検査技師長	三村仁志	こども病院	（平成 23 年 3 月 31 日付け）
主任	八尾雅美	こども病院	（平成 23 年 3 月 31 日付け）

#### 【転出者】

主任検査技師	芳賀由美	がんセンター	（平成 23 年 4 月 1 日付け）
担当課長補佐	中右高信	加古川健康福祉事務所	（平成 23 年 4 月 1 日付け）

#### 【転入者】

検査技師長	近平佳美	淡路病院	（平成 23 年 4 月 1 日付け）
検査業務専門員	三村仁志	こども病院	（平成 23 年 4 月 1 日付け）
課長補佐	細見照美	がんセンター	（平成 23 年 4 月 1 日付け）
課長補佐	井手敦子	姫路循環器病センター	（平成 23 年 4 月 1 日付け）

### 2. 平成 23 年 活動状況

本年の主な取り組み概要を以下に示す

#### (1) 院内感染対策

- ・感染対策委員会事務局として、本委員会を定期開催（年 1 2 回）
- ・院内の細菌分離状況および耐性菌検出状況を定期的に調査・報告
- ・感染対策チームの委員として活動に参加
- ・職員の流行性感染症に対する調査を行い、抗体価が不十分な職員に対するワクチン接種の管理
- ・厚生労働省・神戸市の定期感染症サーベイランス資料を作成・報告
- ・病棟感染対策として、院内で発生した流行性感染情報を感染症通報にて院内に発信

#### (2) 安全な輸血医療

- ・輸血療法委員会事務局として、本委員会を定期開催（年 6 回）
- ・輸血用血液製剤の使用状況や副作用発生状況を定期報告
- ・輸血管理システムを活用した安全な血液製剤管理
- ・迅速な製剤出庫と廃棄血の減少を目的とした T&S 法の導入
- ・輸血療法マニュアルの改訂

#### (3) 検査委員会活動（診療支援、患者サービスの向上）

- ・時間外項目や迅速検査項目の追加
- ・緊急検査時の結果報告時間短縮のため採血管の変更
- ・医事処理が容易になるように依頼書（脳波検査、病理組織検査）の改訂

#### (4) 医療事故防止の強化

- ・医療安全目標の作成と推進

目標：検体検査 「結果承認時の指さし確認」

生理・病理検査 「患者間違いの防止」

- ・重要なヒヤリ・ハットについて要因分析（4M4E）を行い、対策・立案・実施
- ・始業前の朝会で、日当直帯検査実施状況の報告を行い、ヒヤリ・ハット情報の共有化に努める
- ・生理検査における転倒転落防止と初期対応に関するマニュアルの作成

## (5) 資質向上と教育

- ・検査部内勉強会の充実（本年は13回）
- ・超音波認定技師の資格取得者（2名）
- ・検査技術科学専攻学生臨地実習の受け入れと指導
 

神戸常盤大学保健科学部	（3年次臨地実習	：	1名）
神戸常盤大学保健科学部	（2年次病院見学	：	5名）
神戸大学医学部	（1年次初期体験実習：		5名）
神戸大学医学部保健学科検査技術科	（4年次臨地実習	：	2名）

## (6) 新病院構想への対応

- ・職員の意見や他施設視察結果等をもとに機能面、設備面等を検討し、設計参考資料等を作成

## (7) その他

- ・病理検査ホルマリン対策の実施
  - ①特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任の認定取得者の配置（2名）
  - ②病理検査室と剖検室のホルマリン濃度測定（年2回）
  - ③ホルマリン、キシレンを使用する職員に対する検診（年1回）
- ・脳死判定検査の開始
  - 検査部脳死判定マニュアル及び法的脳死判定時連絡網の作成

## 3. 平成24年の課題

- ・臨床化学・免疫測定装置の更新を行い、診療支援や患者サービスの向上を推進する
- ・臨床検査システムの更新を行い、検体検査システムを軸とした病理検査システム、輸血オーダーリングシステム、細菌検査システムの確立や連携を行い、新病院開院時からスタートする電子カルテを見据えた検査総合システムを構築する
- ・輸血用血液製剤の効率的利用、赤血球製剤廃棄率の低減化をさらに進める
- ・感染対策に関する情報の院内周知をさらに強化する
- ・こども病院建替基本計画にそった高度専門医療や救急・災害時に24時間365日対応できることを考慮した整備計画の構築を行う

(1) 平成 23 年臨床検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一般	8,740	8,287	10,077	8,641	8,879	8,993	10,185	12,989	10,787	9,341	9,389	10,367	116,675
血液	19,164	17,846	20,303	19,837	19,595	21,662	21,076	24,563	21,926	21,841	21,308	20,952	250,073
細菌	2,491	2,392	2,340	2,428	2,766	2,750	2,729	3,054	2,724	2,739	2,835	2,664	31,912
血清	5,308	5,024	5,516	5,102	5,252	5,366	5,716	6,409	5,580	5,417	5,481	5,007	65,178
生化学	38,950	36,409	41,498	39,700	39,530	43,200	42,988	49,072	42,764	41,851	41,562	41,302	498,826
病理	301	252	269	189	285	202	241	234	315	248	292	255	3,083
生理	1,021	1,014	1,513	1,253	1,049	1,297	1,193	1,682	1,349	1,170	1,099	1,237	14,877
内分泌・ウイルス	2,728	2,867	3,385	3,175	2,894	3,478	3,092	3,823	3,370	3,269	3,174	3,070	38,325
職員検診	112	76	76	85	82	3,324	166	185	166	166	85	112	4,635
合計	78,815	74,167	84,977	80,410	80,332	90,272	87,386	102,011	88,981	86,042	85,225	84,966	1,023,584

(2) 平成 23 年時間外（日、当直）検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年度累計
項目数	2,577	1,946	1,819	1,761	1,952	1,798	1,789	1,858	2,131	2,171	2,019	2,317	24,138
対前年比	124.2%	115.1%	102.4%	94.3%	103.3%	100.9%	97.8%	95.2%	110.8%	107.5%	111.5%	106.7%	105.9%
患者数	1,021	745	726	781	894	800	894	771	958	915	865	1,001	10,371
対前年比	133.3%	112.5%	103.4%	126.4%	125.6%	131.1%	139.9%	92.3%	120.2%	111.2%	113.1%	113.2%	118.4%

(3) 平成 23 年血液製剤使用状況

製剤		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RCC	購入数 単位数	290	192	227	236	332	290	212	256	306	253	273	254	3,121
	使用量 単位数	276	182	216	226	330	278	202	246	306	251	262	244	3,019
	廃棄量 単位数	14	10	11	10	2	12	10	10	0	2	11	10	102
	廃棄率 %	4.8	5.2	4.8	4.2	0.6	4.1	4.7	3.9	0.0	0.8	4.0	3.9	3.3%
FFP	購入数 単位数	208	119	144	220.25	327	299.75	98	251	292	254	171	261	2,645
	使用量 単位数	205	113	140	216.25	325	295.75	91	245	288	252	167	258	2,596
	廃棄量 単位数	3	6	4	4	2	4	7	6	4	2	4	3	49
	廃棄率 %	1.4	5.0	2.8	1.8	0.6	1.3	7.1	2.4	1.4	0.8	2.3	1.1	1.9%
PC	購入数 単位数	1,545	810	705	1,180	1,460	1,485	870	1,220	1,315	980	900	1,100	13,570
	使用量 単位数	1,545	800	705	1,170	1,460	1,465	870	1,210	1,300	980	890	1,080	13,475
	廃棄量 単位数	0	10	0	10	0	20	0	10	15	0	10	20	95
	廃棄率 %	0.0	1.2	0.0	0.8	0.0	1.3	0.0	0.8	1.1	0.0	1.1	1.8	0.7%

## 材料別検査件数

材料	依頼件数
喀痰	815
気管洗浄液	1,341
咽頭粘液	1,160
鼻腔粘液	1,149
その他（呼吸器系）	109
口腔、気道又は呼吸器からの検体合計	4,574
尿・カテーテル尿	1,120
膣分泌物	936
悪露	226
子宮腔内	224
その他（泌尿器系）	179
泌尿器又は生殖器からの検体合計	2,685
便	406
G B S 増菌	483
その他（消化器系）	76
消化管からの検体合計	965
血液	1,757
髄液	157
胸・腹水	73
その他（穿刺液）	31
血液又は穿刺液検体合計	2,018
IVH 先端	503
ドレナチューブ	274
膿（開放・非開放）	198
Aライン先端	81
耳漏	22
皮膚	178
眼脂	50
その他	219
その他の部位からの検体合計	1,525
トリコモナス	16
培養合計	11,783
感受性試験 1 菌種	1,974
感受性試験 2 菌種	515
感受性試験 3 菌種	71
その他の検査	5
ウイルス迅速検査	985
M R S A 検査	6,905

## 病棟別検査件数

病棟	依頼件数
一般外科病棟 4B	325
循環器 A 病棟 5A	238
循環器 B 病棟 5B	175
混合病棟 6A	153
混合病棟 6B	131
血液病棟 7F	1,327
救急病棟	833
産科病棟	1,615
I C U	1,211
H C U	417
N I C U	2,786
G C U	1,453
総合診療科	16
アレルギー科	12
脳神経内科	7
循環器内科	6
腎臓内科	14
新生児科	44
血液内科	24
一般外科	34
形成外科	8
整形外科	2
泌尿器科	86
耳鼻科	25
産科外来	651
心臓外科	3
救急集中治療科	282
眼科	3
代謝内科	14
脳神経外科	1

分離菌内訳

菌種	菌名	総件数	感受性報告件数	
グラム陽性菌	ブドウ球菌	S.aureus	509	478
		S.aureus(MRSA)	677	667
		S.epidermidis	36	36
		S.epidermidis(MRSE)	312	312
		その他の CNS	2,056	184
		Micrococcus sp.	0	0
	連鎖球菌	S.agalactiae	149	149
		S.pneumoniae	68	68
		Group G Strep	10	9
		S.mitis	10	10
		S.pyogenes	12	12
		その他の Viridans strep	1,219	20
	その他の Streptococcus	162	69	
	腸球菌	Ec.faecalis	323	295
		Ec.faecium	104	80
		その他の腸球菌	405	8
	その他	Bacillus sp.	22	8
		Corynebacterium sp	371	5
		Lactobacillus sp	956	0
		嫌気性菌	1	0
グラム陰性菌	腸内細菌	Kl.pneumoniae	517	517
		E.coli	244	243
		Ent.cloacae	118	118
		Ent.aerogenes	138	138
		Ser.marcescens	153	151
		Kl.oxytoca	78	78
		Prt.mirabilis	18	18
		その他の腸内細菌	67	47
	ブドウ糖非発酵菌	Ps.aeruginosa	827	780
		Ac baumann/haem	241	241
		Burk.cepacia	11	11
		Steno.maltophilia	117	117
		その他の pseudomonas	10	4
		その他の非発酵菌	23	23
	その他	H.influenzae	74	74
		Haemophilus sp.	10	1
		Mor.(B)catarrhalis	67	67
		Neisseria sp.	673	1
		G.vaginalis	161	0
		その他の陰性菌	216	5
	真菌	C.albicans	138	
		C.glabrata	59	
		C.parapsilosis	2	
Aspergillus sp.		1		
Candida sp.		13		

## 耐性菌検出状況

菌名	件数
S.epidermidis(MRSE)	312
S.aureus(MRSA)	677
その他の MRCNS	1,520
St.pneumoniae(PISP)	22
St.pneumoniae(PRSP)	23
H.influenzae(BLNAR)	43
E.coli ESBL	2
K.oxytoca ESBL	7
K.pneumoniae ESBL	9
K.pneumoniae MBL	0
P.aeruginosa MBL	34

## MRSA サーベイ

科・病棟	件数	陽性	陰性	陽性率
一般外科病棟 4B	83	34	49	41.0%
循環器 A 病棟 5A	203	46	157	22.7%
循環器 B 病棟 5B	202	64	138	31.7%
混合 A 病棟 6A	164	45	119	27.4%
混合 B 病棟 6B	194	86	108	44.3%
血液病棟 7F	90	1	89	1.1%
救急病棟	7	2	5	28.6%
I C U	193	19	174	9.8%
H C U	281	110	171	39.1%
N I C U	182	19	163	10.4%
G C U	407	38	369	9.3%

## MRSA 発生報告書分類

病棟名	院内	持込	発病	保菌	不明
一般外科病棟 4B	4	5		9	
循環器 A 病棟 5A	2			2	
循環器 B 病棟 5B	3	3		6	
混合 A 病棟 6A	1	5		6	
混合 B 病棟 6B	2	15		17	
血液病棟 7F					
救急病棟	2	1	1	4	
I C U	4	1	1	6	
H C U	8	3	3	14	
N I C U	1			1	
G C U	26	1	4	31	
産科病棟		1		1	

### 無菌材料検出菌

材 料	件数	陽性件数	陽性率
静脈血	1,040	80	7.7%
I V H 先端	503	153	30.4%
プロビアク血	454	42	9.3%
動脈血	248	13	5.2%
髄液	157	2	1.3%
A ライン先端	81	20	24.7%
腹水	46	26	56.5%
穿刺液	18	10	55.6%
胸水	27	5	18.5%
関節液	10	6	60.0%
臍帯血	1	0	0.0%
ポット血	14	5	35.7%
組織	12	5	41.7%
羊水	3	1	33.3%

血液培養検出菌	
S.epidermidis	19
S.aureus	16
S.aureus(MRSA)	14
その他 CNS	16
S.pneumoniae	3
S.mitis	4
その他連鎖球菌	6
腸球菌	10
K.pneumoniae	5
E.coli	6
その他腸内細菌	3
Paeruginosa	8
溶血性連鎖球菌	5
H.influenzae	1
GPR	8
その他	17

IVH 先端培養検出菌	
S.epidermidis	69
S.aureus(MRSA)	14
S.aureus	10
その他 CNS	25
腸球菌	6
S.marcescens	1
その他腸内細菌	12
Paeruginosa	5
その他非発酵菌	0
GPR	8
GBS	1
その他	2

髄液検出菌	
E.coli	1
その他の GNR	0
S.aureus(MRSA)	0
S.epidermidis	0
その他の CNS	0
その他	1

細菌別薬剤感受性率

グラム陽性球菌

菌名	株数	PCG	ABPC	MIPIC	CEZ	CDTR	CMZ	MEPM	GM	AMK	ABK	EM	CAM	AZM	CLDM	MINO	LVFX	VCM	TEIC	ST	LZD
S.aureus	509	17%	17%	-	100%	100%	100%	100%	81%	98%	100%	86%	86%	85%	99%	100%	94%	100%	100%	100%	100%
S.aureus(MRSA)	677	0%	0%	-	0%	0%	-	0%	61%	72%	98%	21%	21%	21%	41%	70%	37%	100%	100%	100%	100%
S.epidermidis	36	22%	22%	-	100%	100%	100%	100%	97%	100%	-	68%	71%	68%	91%	100%	100%	100%	100%	89%	100%
S.epidermidis(MRSE)	348	0%	0%	-	0%	0%	0%	0%	51%	74%	-	25%	25%	25%	72%	96%	32%	100%	99%	89%	100%
Ec.faecalis	323	100%	100%	-	-	-	-	77%	-	-	-	15%	-	-	-	10%	97%	100%	100%	-	100%
Ec.faecium	104	8%	8%	-	-	-	-	-	-	-	-	0%	-	-	-	19%	14%	100%	100%	-	100%

肺炎球菌

菌名	株数	ABPC	CTM	CTX	CFPM	CDTR	MEPM	EM	LVFX	VCM
St.pneumoniae(PSSP)	23	100%	96%	91%	87%	100%	100%	13%	100%	100%
St.pneumoniae(PISP)	22	0%	5%	59%	96%	86%	96%	0%	100%	100%
St.pneumoniae(PRSP)	23	0%	0%	26%	78%	61%	9%	0%	100%	100%

グラム陰性桿菌

菌名	株数	ABPC	PIPC	CEZ	CTX	CAZ	CFPM	CDTR	CFPN	FMOX	MEPM	GM	AMK	MINO	LVFX	CPFX	ST
E.coli	199	56%	61%	83%	99%	91%	100%	85%	88%	91%	100%	89%	100%	80%	90%	87%	84%
E.coli ESBLs	43	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	95%	100%	91%	33%	33%	81%
E.coli MBL	2	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	100%	0%	0%	100%
Kl.pneumoniae	501	0%	18%	27%	89%	53%	100%	26%	24%	41%	100%	100%	100%	85%	98%	96%	28%
Kl.pneumoniae ESBLs	7	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	43%	100%	57%	100%	43%	43%
Kl.pneumoniae MBL	9	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	89%	100%	89%	11%
Kl.oxytoca	65	2%	63%	89%	100%	100%	100%	94%	92%	94%	100%	100%	100%	95%	100%	100%	99%
Ent.cloacae	118	10%	76%	1%	75%	83%	89%	59%	72%	3%	100%	100%	100%	92%	100%	92%	89%
Ent.aerogenes	138	1%	53%	1%	57%	53%	96%	49%	51%	3%	100%	100%	100%	89%	100%	100%	99%
Ser.marcescens	151	3%	90%	0%	93%	96%	100%	45%	51%	78%	100%	100%	99%	75%	99%	93%	99%
Prt.mirabilis	15	71%	80%	93%	100%	100%	100%	93%	93%	93%	100%	100%	100%	0%	100%	93%	73%

緑膿菌

菌名	株数	PIPC	CPZ	CAZ	CFPM	MEPM	S/C	GM	TOB	AMK	MINO	LVFX	CPFX	ST	FOM
Ps.aeruginosa	793	98%	93%	92%	91%	89%	89%	92%	100%	97%	-	95%	98%	-	29%
Ps.aeruginosa MBL	34	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	100%	-	0%	9%	-	0%

## 28. 検査・放射線部（放射線部門）

### 1. 人事異動

（退職者）	松本 敏幸	平成 23 年 3 月 31 日付定年退職（4 月 1 日付再任用）
（転出者）	原田 亮輔	平成 23 年 4 月 1 日付 県立がんセンターへ
	吉野 太司	平成 23 年 4 月 1 日付 県立姫路循環器センターへ
（転入者）	久保田 晴元	平成 23 年 4 月 1 日付 県立災害医療センターから
	藤井 友紀子	平成 23 年 4 月 1 日付 県立加古川医療センターから

### 2. 活動状況

周産期医療センター開設時に多くの放射線機器の導入・更新がなされ、平成 19 年以降、昨年迄に順次更新がなされてきた。今年は X 線 C T 装置（160 列）が導入（増設）され、より一層、高度医療に対応できる放射線科を目指している。

また、他院からの紹介患者の画像については、一部を除き、診察前に画像情報を P A C S サーバに取り入れ、診察時に診療支援システムにて画像が供覧できるようにしている。

#### 1) 放射線検査業務実績

平成 23 年の放射線検査実績は、総検査件数は 41,410 件、前年比 6.5%（2,523 件）の増加であった。外来患者は若干の増加であったが、病床利用率の向上により一般撮影検査や病室撮影が大きく増加した。検査項目としては、C T 検査・M R I 検査はほぼ前年並みであったが、心臓血管造影と泌尿器系の造影検査が増加した。

詳細は後に掲載している「放射線検査人数」以降に示す。

#### 2) 機器の更新

##### ①移動型 X 線撮影装置（ポータブル）の更新

・平成 6 年に導入され 17 年間 ICU・HCU、手術室で使用してきたポータブル装置が 2 月に日立メディコ社製シリウス 130HP に更新された。旧装置より機能性、操作性と安全性が向上しているコンパクトな装置である。

##### ②外科用 X 線 C アーム装置の更新

・本装置は手術中での透視検査に使用するが、3 月にシーメンス社製 SIREMOIL CompactL に更新され、今までよりも広い範囲で使用でき、画像もより一層鮮明になった。

##### ③ X 線 C T 装置（160 列）の増設

・9 月に東芝社製の 160 列 M D C T 装置 Aquilion Premium が増設された。本装置では、1 回のスキャンで 8 cm の幅を検査できるため、新生児や重症患者の検査に対して、空間分解能・時間分解能等が向上し、今まで以上に鮮明な画像が得られるようになった。また、点滴等のラインを多く使用している患者に対しても、検査寝台を動かす事なく検査が行えるので、安全性の向上につながっている。

#### 3) 医療事故防止の取組み

3 月 11 日に発生した大地震と大津波、その後、福島原発の放射能汚染。放射線に対する関心と不安は、今まで以上に大きくなっている。病院で使用される放射能や放射線による被ばく量は、原発事故で発生する放射線被ばく量とは、比べものにならないくらい低いものではあるが、できる限り被ばくを少なくする

ことを心がけ、安全・安心な放射線科を目指している。

平成 23 年の医療事故防止重点取り組みは、以下のとおりである。

- ・患者間違いの防止：氏名、生年月日・リストバンド等による確認を徹底する
- ・撮影間違いの防止：撮影部位、撮影方法等の確認を徹底する

#### 4) 資質向上と教育

職員の資質の向上を図るため、学会・研修会に積極的な参加と発表の促進をしている。3月の大震災の影響で、毎年4月に行われている放射線技術学会総会、日本小児放射線技術研究会が開催されなかったこともあり、例年より参加数の減少があった。今年の実績は以下のとおりである。

- ・学会・研修会発表 : 4 演題
- ・学会・研修会等への参加 : 延べ 41 人
- ・放射線部内勉強会の実施 : 10 回 10 題

### 3. 平成 24 年の課題

こども病院建て替え計画に合わせ、次に示す整備計画や、電子カルテ導入に向けての準備を進めていく。また、現有機器の老朽化対策も考慮する。

- ・建て替え時の放射線部門の基本設計と機器の整備計画の構築
- ・放射線検査システムと、建て替え時の電子カルテとの接続を考慮した整備計画の構築
- ・老朽化の著しい放射線機器の更新を行い、こども病院にふさわしい最新の装置を導入する



160 列MDC T装置 Aquilion Premium

## (1) 放射線検査人数

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
単純撮影	胸部撮影	外来	620	529	832	682	609	706	682	954	768	640	624	657	8,303
		入院	129	175	177	116	136	192	165	142	145	147	166	130	1,820
		計	749	704	1,009	798	745	898	847	1,096	913	787	790	787	10,123
	外科撮影	外来	558	464	667	573	476	541	570	807	543	551	532	588	6,870
		入院	61	75	95	134	148	130	153	116	116	125	131	149	1,433
		計	619	539	762	707	624	671	723	923	659	676	663	737	8,303
	ポータブル	外来													0
		入院	744	670	666	665	775	763	770	693	789	707	765	770	8,777
		計	744	670	666	665	775	763	770	693	789	707	765	770	8,777
	パノラマ・その他	外来	52	48	54	38	44	42	48	45	31	29	32	27	490
		入院	2	0	5	0	3	0	1	2	0	0	0	0	13
		計	54	48	59	38	47	42	49	47	31	29	32	27	503
単純撮影合計	外来	1,230	1,041	1,553	1,293	1,129	1,289	1,300	1,806	1,342	1,220	1,188	1,272	15,663	
	入院	936	920	943	915	1,062	1,085	1,089	953	1,050	979	1,062	1,049	12,043	
	計	2,166	1,961	2,496	2,208	2,191	2,374	2,389	2,759	2,392	2,199	2,250	2,321	27,706	
造影撮影	消化器	外来	10	11	12	13	13	8	12	14	13	11	13	7	137
		入院	18	12	18	12	12	14	15	8	12	12	12	12	157
		計	28	23	30	25	25	22	27	22	25	23	25	19	294
	脳血管	外来													0
		入院	2	0	2	0	0	0	0	7	0	1	2	4	18
		計	2	0	2	0	0	0	0	7	0	1	2	4	18
	心臓血管	外来													0
		入院	11	21	22	21	16	22	17	35	25	14	27	21	252
		計	11	21	22	21	16	22	17	35	25	14	27	21	252
	その他の血管	外来													0
		入院	2	1	4	4	4	2	4	1	4	2	2	3	33
		計	2	1	4	4	4	2	4	1	4	2	2	3	33
	泌尿器系	外来	40	29	34	52	39	39	34	51	55	31	32	34	470
		入院	1	3	5	2	4	7	2	4	5	3	4	6	46
		計	41	32	39	54	43	46	36	55	60	34	36	40	516
	その他の造影	外来	2	1	3	0	2	2	0	0	0	0	2	3	15
		入院	3	5	4	0	3	3	2	0	2	2	3	3	30
		計	5	6	7	0	5	5	2	0	2	2	5	6	45
造影撮影合計	外来	52	41	49	65	54	49	46	65	68	42	47	44	622	
	入院	37	42	55	39	39	48	40	55	48	34	50	49	536	
	計	89	83	104	104	93	97	86	120	116	76	97	93	1,158	
CT撮影	外来	120	114	145	131	122	147	152	170	105	150	106	117	1,579	
	入院	97	103	128	147	133	133	127	112	102	123	119	98	1,422	
	計	217	217	273	278	255	280	279	282	207	273	225	215	3,001	
MRI検査	外来	116	116	142	111	110	130	124	166	127	116	115	110	1,483	
	入院	45	43	52	53	48	64	58	39	53	55	53	57	620	
	計	161	159	194	164	158	194	182	205	180	171	168	167	2,103	
核医学検査	外来	31	30	38	32	18	20	36	62	29	26	16	20	358	
	入院	8	5	6	9	8	8	9	5	7	6	9	5	85	
	計	39	35	44	41	26	28	45	67	36	32	25	25	443	
放射線治療	外来	6	13	8	0	0	6	0	3	0	42	3	0	81	
	入院	40	72	54	39	77	85	39	49	3	54	74	114	700	
	計	46	85	62	39	77	91	39	52	3	96	77	114	781	
超音波検査	外来	228	245	307	250	262	258	294	482	301	282	257	314	3,480	
	入院	58	65	67	52	54	83	64	61	68	72	71	64	779	
	計	286	310	374	302	316	341	358	543	369	354	328	378	4,259	
DUP処理	外来	1	0	0	3	0	1	2	0	0	0	0	0	7	
	入院													0	
	計	1	0	0	3	0	1	2	0	0	0	0	0	7	
PACS処理	外来	105	143	159	156	135	159	157	185	148	197	165	178	1,887	
	入院													0	
	計	105	143	159	156	135	159	157	185	148	197	165	178	1,887	
骨塩定量	外来	2	3	9	3	9	0	4	7	5	6	8	7	63	
	入院	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	計	4	3	9	3	9	0	4	7	5	6	8	7	65	
総合計	外来	1,891	1,746	2,410	2,044	1,839	2,059	2,115	2,946	2,125	2,081	1,905	2,062	25,223	
	入院	1,223	1,250	1,305	1,254	1,421	1,506	1,426	1,274	1,331	1,323	1,438	1,436	16,187	
	計	3,114	2,996	3,715	3,298	3,260	3,565	3,541	4,220	3,456	3,404	3,343	3,498	41,410	

(2) 機器別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
X線撮影装置(胸部)	749	704	1,009	798	745	898	847	1,096	913	787	790	787	10,123
X線撮影装置(外科)	619	539	762	707	624	671	723	923	659	676	663	737	8,303
泌尿器用X線TV装置	46	38	46	54	48	51	38	55	62	36	41	46	561
X線TV断層撮影装置(多目的)	217	217	273	278	255	280	279	282	207	273	225	215	3,001
X線CT撮影装置	217	217	273	278	255	280	279	282	207	273	225	215	3,001
磁気共鳴断層撮影装置	161	159	194	164	158	194	182	205	180	171	168	167	2,103
放射線治療	46	85	62	39	77	91	39	52	3	96	77	114	781
ガンマカメラ装置(RI)	39	35	44	41	26	28	45	67	36	32	25	25	443
デジタルX線TV装置	28	23	30	25	25	22	27	22	25	23	25	19	294
心臓血管連続撮影装置	15	22	28	25	20	24	21	43	29	17	31	28	303

(3) 時間外 時間帯別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日勤帯検査人数	205	140	131	175	205	148	180	120	192	218	209	227	2,150
業務時間(時)	45	30	28	39	41	31	39	27	40	44	44	50	457
稼働日数	12	9	9	10	12	8	10	8	10	11	10	12	121
準夜帯検査人数	148	98	126	158	143	130	135	111	124	121	98	121	1,513
業務時間(時)	51	37	42	51	54	46	53	37	46	46	9	45	517
稼働日数	31	27	30	28	29	30	31	29	30	30	29	30	354
深夜帯検査人数	33	39	39	27	52	34	43	28	38	33	36	40	442
業務時間(時)	15	19	17	13	23	15	19	13	18	17	17	18	203
稼働日数	201	17	17	18	24	18	16	17	19	21	18	20	406
検査人数(計)	386	277	296	360	400	312	358	259	354	372	343	388	4,105
業務時間(計)	111	86	88	103	118	92	111	76	104	106	70	113	1,177

(4) 時間外 検査種別検査人数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ポータブル	259	202	186	222	271	192	229	168	258	235	238	264	2,724
一般撮影	82	42	72	76	70	68	73	52	61	85	68	78	827
CT	38	28	35	60	53	49	50	34	28	50	32	38	495
TV	7	2	3	2	3	1	3	4	4	1	5	3	38
アンギオ	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	4
MRI	0	3	0	0	2	2	1	1	3	1	0	4	17
エコー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	386	277	296	326	363	315	297	288	308	378	288	329	4,105

(5) 時間外 病棟別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
HCU	22	10	14	21	26	26	13	10	9	14	7	19	191
NICU	93	44	40	55	74	40	70	46	67	62	76	59	726
ICU	68	68	65	62	79	60	66	42	73	71	60	85	799
GPU	10	15	6	13	12	11	16	15	12	20	10	5	145
OP室	14	18	21	20	21	17	16	17	22	21	11	27	225
産科	7	5	5	7	6	11	5	5	6	6	10	4	77
外来	4	0	11	1	0	3	0	1	5	0	1	1	27
救急	103	61	76	101	86	77	83	82	68	97	62	96	992
PICU	30	44	28	48	58	41	59	25	56	53	57	53	552
一外4B	9	2	9	4	7	2	7	5	6	7	7	11	76
循環器5A	6	1	6	10	10	6	6	5	15	10	16	7	98
循環器5B	10	4	10	10	12	7	9	3	11	6	10	14	106
混合A	2	2	1	3	4	3	1	0	2	1	3	0	22
混合B	3	1	3	2	0	7	3	0	2	4	3	4	32
血液7F	5	2	1	3	5	1	4	3	0	0	10	3	37
合計	386	277	296	360	400	312	358	259	354	372	343	388	4,105

## 29. 栄養指導課

### 1. 栄養指導課員の異動

[転出者]	職員	北谷 剛章 (平成 23 年 4 月 1 日付) (県立姫路循環器病センターへ)
[退職者]	課長	尾崎 孝秋 (平成 23 年 3 月 31 日付)
[転入者]	課長	山本 和彦 (平成 23 年 4 月 1 日付) (姫路生活科学センターから)
	職員 (管理栄養士)	松田 亜由美 (平成 23 年 4 月 1 日付) (新規採用)
	技師	友松 憲一 (平成 23 年 4 月 1 日付) (中央こども家庭センターから)
	職員	澤田 勇人 (平成 23 年 4 月 1 日付) (県立塚口病院から)

### 2. 平成 23 年の活動

平成 23 年の主な活動報告として以下の点が上げられる。

- ・ N S T (チーム医療) の円滑な稼働
- ・ 医療事故防止対策に関する取り組み (ひやりハット報告)
- ・ 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- ・ 調乳機器更新により安全で安心できる調乳業務の推進
- ・ 患者給食サービスの向上を図るための給食イベントの開催  
[バレンタインデー・デザートバイキング食の提供]
- ・ I T 化の推進 (給食オーダーリングシステムの本格稼働)
- ・ 知識や技能の資質を向上させるための課内研修会の充実
- ・ 栄養管理業務に関する研究の成果として学術学会等への積極的な発表

### 3. これからの展望

平成 24 年に向けては、引き続き「安全な食事の提供」という栄養指導課の基盤整備と患者サービスの向上のため、次の業務を中心に推し進める。

- ・ N S T (チーム医療) の円滑な稼働
- ・ 医療事故防止対策に関する取り組み。(ひやりはっと報告)
- ・ 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- ・ I T 化の推進 (給食オーダーリングシステムの安定稼働)
- ・ 患者給食のサービス向上のための給食イベントの開催  
[バレンタインデー・デザートバイキング食等の提供]
- ・ 知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- ・ 栄養管理業務に関する研究の成果として学術学会等への積極的な参加と発表

4. 給食

(1) 調製乳・食事月別延数

1) 患者

① 調製乳人数

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
調乳のみ人員(人)		1,873	1,796	1,967	2,094	2,215	1,991	1,886	1,718	1,758	1,936	1,942	1,784	22,960	66.6
調乳食事人員:調乳(人)		289	284	329	304	292	255	286	281	286	271	292	248	3,417	9.9
小計		2,162	2,080	2,296	2,398	2,507	2,246	2,172	1,999	2,044	2,207	2,234	2,032	26,377	76.5
調乳・食事人員(食事)		754	658	653	637	727	832	716	674	691	616	568	563	8,089	23.5
計		2,916	2,738	2,949	3,035	3,234	3,078	2,888	2,673	2,735	2,823	2,802	2,595	34,466	100.0

(注) 調乳・食事人員・・・調乳(人) 調製乳と食事が重複するもの

② 調製乳種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
13%レーベンスミルク		10,914	11,041	11,725	13,000	13,031	11,408	11,261	10,051	9,727	10,539	10,277	10,306	133,280	90,666.7
15% LW		4,304	4,060	4,471	3,616	4,407	4,376	3,877	3,136	3,450	3,860	4,483	3,350	47,390	18.2
6%レーベンスミルク														0	
7%レーベンスミルク														0	
8%レーベンスミルク														0	
9%レーベンスミルク														0	
10%レーベンスミルク														0	
14%レーベンスミルク														0	
15%レーベンスミルク		717	896	892	449	759	545	432	374	586	1,021	929	845	8,445	
16%レーベンスミルク				9		296	585	527	641	693	563	62	9	3,385	
17%レーベンスミルク		978	797	675	440	454	568	512	150			456	751	5,781	
18%レーベンスミルク		216		72	126	273	375	319	248	324	303	302	117	2,675	
20%レーベンスミルク		18		144	144									306	
13% LW														0	
17% LW												198	279	477	
18% LW														0	
4%滋養糖+13%レーベンスミルク														0	
5%滋養糖														0	
20%滋養糖														0	
10%滋養糖		533	475	499	483	496	498	497	496	517	520	502	511	6,027	
50%滋養糖														0	
8%MA -1														0	
10%MA -1														0	
11%MA -1														0	
12%MA -1														0	
14%MA -1														0	
15%MA -1		389	407	282	178	204	596	684	887	619	589	680	630	6,145	
16%MA -1														0	
17%MA -1														0	
18%MA -1														0	
20%MA -1														0	
22%MA -1														0	
8% E赤ちゃん														0	
13% E赤ちゃん		21	143	53	98	142	92	3			61	22		635	
15% E赤ちゃん														0	
18% E赤ちゃん														0	
10%ケトンフォーミュラー		115	196	83		79			113	240	232	165	248	1,471	
14%ケトンフォーミュラー														0	
16%ケトンフォーミュラー+2%レーベンスミルク														0	
10%エレメンタルフォーミュラ														0	
15%エレメンタルフォーミュラ														0	
17%エレメンタルフォーミュラ														0	
7%ラクトレス														0	
14%ラクトレス														0	
10%MC Tフォーミュラ												25		25	
13%MC Tフォーミュラ			117										27	144	
14%MC Tフォーミュラ		143	179	419	145	326	334	371	137	98	188	63		2,403	
15%MC Tフォーミュラ										63		18		81	
16%MC Tフォーミュラ												81		81	
17%MC Tフォーミュラ										36	279	142	126	583	
18%MC Tフォーミュラ														0	
20%MC Tフォーミュラ														0	
13% GL (無乳糖粉乳)														0	
7% GL (無乳糖粉乳)														0	
13% NA-20														0	
13%MM-5低リン乳														0	
15%MM-5低リン乳														0	
16%MM-5低リン乳														0	

種 類	月 別													0
18%MM-5 低リン乳														0
15% 8006														0
9% S-22	85													85
10% S-22	30													30
13% S-22														0
15% S-22														0
15% S-22 + 8% 滋養糖														0
15% S-22 + 12% 滋養糖														0
15% S-22 + 16% 滋養糖	30													30
13% S-23														0
15% S-23 (蛋白除去乳)														0
12% S-23 + 3% S-22														0
9% S-23 + 6% S-22														0
8% S-23 + 8% S-22														0
9% S-22 + 5% レーベンスミルク														0
8% 8806 (低カリウム中リンフォーミュラ)	140							72		6	12			230
15% 8806 (低カリウム中リンフォーミュラ)														0
15% 低カリウム低リンフォーミュラ														0
15% 508(高カリウム低リンフォーミュラ)				24	105	279	279	270	18					975
MC-2 (無乳糖粉乳)														0
10% 206 + 4% レーベンスミルク														0
7% 206 7% レーベンスミルク														0
14% 206(ビタミンD無添加低Caフォーミュラ)														0
14% 必脂 MCT(721)														0
15% 必脂 MCT(721)														0
16% 必脂 MCT(721)														0
20% 必脂 MCT(721)														0
7% エレンタール														0
9% エレンタール														0
10% エレンタール														0
11% エレンタール														0
12% エレンタール														0
13% エレンタール														0
14% エレンタール												18		18
15% エレンタール														0
16% エレンタール														0
18% エレンタール	18	56	24		22			28	60	58	33	55		354
20% エレンタール														0
21% エレンタール														0
23% エレンタール						53								53
25% エレンタール														0
26% エレンタール	15													15
27% エレンタール														0
30% エレンタール								9						0
5% エレンタール P					2						6			8
7% エレンタール P														0
8% エレンタール P														0
10% エレンタール P	21	91	343	588	607	449	641	414	483	226	224	70		4,157
12% エレンタール P	9	90							4	40				143
13% エレンタール P	42	143	166	453	172	259								1,235
14% エレンタール P		120								3				123
15% エレンタール P	46	27	52	123	73	12					2	22		357
16% エレンタール P	298	323	274	270	295	252	217	217	210	220	210	217		3,003
17% エレンタール P	5													5
18% エレンタール P	36	24	68					105		103	27	96		459
20% エレンタール P	102	79	30	50	33	30	171	24						519
21% エレンタール P														0
22% エレンタール P														0
23% エレンタール P		5			48	12								65
24% エレンタール P	21													21
25% エレンタール P	15						108	279	270	279	248	112		1,311
26% エレンタール P	112	112	124	120	124	4					40			636
27% エレンタール P	162	260		217	40									679
マクトンオイル	89	94	142	40	33	64		42	90	87	77	129		887
小計	4,406	4,634	4,351	3,926	4,500	4,833	4,761	4,443	4,635	4,790	4,545	4,247	54,062	36,776.9
濃厚流動食														
サンエット N3	757	694	894	649	824	909	1,005	1,225	1,048	866	878	696		10,445
アイソカル	635	536	768	1,205	1,345	768	822	810	775	819	850	1,058		10,391
インパクト														0
テルミール 2.0 α														0
小計	1,392	1,230	1,662	1,854	2,169	1,677	1,827	2,035	1,823	1,685	1,728	1,754	20,836	#NAME?
牛 乳	232	188	208	182	222	202	270	180	204	17			1,905	0.732807866
滅菌水	58	60	59	152	167	158	205	268	219	308	331	501	2,486	0.956304648
計	21,306	21,213	22,476	22,730	24,496	22,654	22,201	20,113	20,058	21,199	21,364	20,158	259,959	100.0
空瓶 大 200 c c	4,073	3,941	4,723	4,026	4,453	4,249	3,955	4,144	4,602	3,781	5,289	4,789	52,025	#7.51966095
空瓶 小 100 c c	3,672	4,440	4,272	4,512	4,680	5,760	5,184	4,896	3,528	5,640	5,688	5,184	57,456	#2.48033905
計	7,745	8,381	8,995	8,538	9,133	10,009	9,139	9,040	8,130	9,421	10,977	9,973	109,481	100.0

③ 平成 23 年 患者食事数

区 分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
常食	学 童 食	618	745	1,210	1899	2,006	1,830	3,140	3,466	2,446	2,692	1,927	2,145	24,124
	妊 産 婦 食	2,324	1,645	2,217	2,143	1,764	1,591	2,421	2,219	1,900	2,092	1,972	2,539	24,827
	小 計	2,942	2,390	3,427	4,042	3,770	3,421	5,561	5,685	4,346	4,784	3,899	4,684	48,951
軟菜・幼児・離乳	幼 児・ 離 乳 食	1,736	1,693	1,323	2,700	2,959	3,423	3,131	2,522	2,583	3,043	3,096	2,718	30,927
	軟 菜・ 流 動 食	60	101	103	534	470	596	315	583	517	378	650	656	4,963
	小 計	1,796	1,794	1,426	3,234	3,429	4,019	3,446	3,105	3,100	3,421	3,746	3,374	35,890
非加算特別食	ペ ー ス ト 食	45	34	206	58	116	79	63	66	110	90	95	85	1,047
	ア レ ル ギ ー 食	630	945	996	489	643	773	899	667	592	678	510	552	8,374
	自 由 食	2,814	2,922	3,176	252									9,164
	口 蓋 裂 食		12	41	10		19	74	77			26	49	308
	扁 摘 術 後 食	80	128	134	128	37	120	128	164	151	151	118	146	1,485
	移 植 対 応 食	242	293	389	327	388	453	258	230	426	459	338	351	4,154
	ク ロ ー ン 病 食													0
	低 残 査 食	2							1		3		2	8
	肥 満 食	93	84	79		32	13			33	8	46		388
	ヨ ー ド 制 限 食													0
	そ の 他 特 別 食	186	226	227	133	154	162	194	259	237	196	229	260	2,463
小 計	4,092	4,644	5,248	1,397	1,370	1,619	1,616	1,464	1,549	1,585	1,362	1,445	27,391	
加算特別食	腎 臓 食	11	12	42	108	75	170	420	107	92	117	63	119	1,336
	肝 臓 食	21	37	7	65		31		3	8	1			173
	糖 尿 病 食	84	62	96	71	200	222	93	93		82	25		1,028
	乳 び 胸 食	7			46		1	30						84
	心 臓 食	313	157	267	104	9			8	48	73	51		1,030
	潰 瘍 食													0
	低 ナ ト リ ウ ム 食													0
	検 査 食 ( 加 )													0
	妊 娠 中 毒 症 食	178	83	51	34	93	24	38	41	174	122	178	131	1,147
	妊 産 婦 糖 尿 病 食													0
	妊 産 婦 肝 臓 病 食													0
高 尿 酸 血 症 食													0	
小 計	614	351	463	428	377	448	581	252	322	395	317	250	4,798	
計	9,444	9,179	10,564	9,101	8,946	9,507	11,204	10,506	9,317	10,185	9,324	9,753	117,030	
保 存 食	保 存 食	186	168	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,190
	検 査 食	188	170	188	182	187	182	188	188	182	188	182	188	2,213
	小 計	374	338	374	362	373	362	374	374	362	374	362	374	4,403
合 計	9,818	9,517	10,938	9,463	9,319	9,869	11,578	10,880	9,679	10,559	9,686	10,127	121,433	

④ おやつ数

(単位 食)

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
区分													
おやつ数	3,788	3,937	4,035	3,645	3,447	4,221	4,325	4,063	3,976	4,280	4,082	3,830	47,629

2) 患者外

① 食事数

(単位 食)

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
種類													
保育児食	162	181	201	87	81	82	74	110	104	104	105	108	1,399

栄養指導月別種類別件数

(平成 23 年)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
糖尿病食		35	35	53	37	34	31	32	40	34	31	33	32	427
肥満食		13	8	3	8	4	8	7	10	16	7	5	9	98
腎性尿崩症食		5	2	5	2	3	2	3	4	4	1	5	2	38
腎不全							1							1
フェニルケトン尿症食		2	3	1	1	3	1	2	3	3	1	2	3	25
胃婁食		2	1	1	1		1							6
高メチオニン血症食									1					1
高ガラクトース血症食					1	1								2
ガラクトース血症食			1				1		1			1		4
高コレステロール血症						1			2	1			1	5
家族性高コレステロール血症				1			1							2
先天性甲状腺機能低下症								1						1
汎下垂体機能低下症												1		1
高脂血症食					1			1				1		3
低残渣食										2				2
高尿酸血症食													1	1
アレルギー食		28	31	34	23	27	24	23	24	30	38	30	22	334
腎臓病食										1				1
脂肪制限食			1											1
非アルコール性脂肪肝炎		1	1	1	1	1	1		1	2	1	1		11
肝臓食									1			1		2
低血糖								1						1
プラダーウィリー症候群			2		2			2		3	1	1	2	13
移植対応食								1			1	1	2	5
フォンタン術後								1						1
腸閉塞								1						1
空腸閉鎖術後			1				1							2
腸切除術後										1			1	2
腸管切除後吸収不良				1										1
乳び胸食			1											1
発育不良・食事摂取不良			1						1					2
体重増加・食事摂取不良		1			1				1		1			4
低栄養												1		1
低身長			1											1
低身長・低体重									1					1
高トリグリセリド血症										1				1
N a 制限食					1		1							2
ビタミンK制限食							1							1
高カロリー食									1					1
調乳指導			2	3			2		1	2	2	1		13

離乳食	1	1		1	1		1						5
ビタミンD欠乏症	1	1	1	1	1	2	1	1			1		10
鉄欠乏症								1					1
ターナー症候群	3	7	3	7	4	7	4	8	5	7	5	15	75
ダンピング症候群							1						1
低脂質食			2										2
ダウン症			1										1
バセドウ病										1			1
橋本病									1	1	1		3
膵炎	1												1
脂肪肝							2						2
消化吸収不良						1							1
偏食			1				1						2
便秘												1	1
ミキサー食	1						1	1		1			4
きざみ食	1								1				2
妊娠糖尿病食					2				1				3
妊娠中毒症食												1	1
件数 外来 (件)	83	83	89	78	60	68	69	92	88	69	71	77	927
人数 外来 (人)	169	165	161	158	113	129	138	183	171	136	134	139	1,796
件数 入院 (件)	3	5	9	9	18	17	10	8	18	20	12	6	135
人数 入院 (人)	4	9	15	20	39	39	22	17	38	45	26	10	284
件数病棟訪問 (件)	9	12	13	1	4	1	7	3	2	5	8	9	74
人数病棟訪問 (人)	19	26	27	3	8	3	16	8	4	11	18	17	160
合計 (件)	95	100	111	88	82	86	86	103	108	94	91	92	1,136
合計 (人)	192	200	203	181	160	171	176	208	213	192	178	166	2,240

## 30. 指導相談・地域医療連携部

### I. 組織

23年は、医療的ケアを必要とする子どもさんの在宅支援を充実させるため、9月より新たに看護助手1名を配置し、当部の医師と看護師のサポートにあたってもらっている。

部長	宅見晃子（総合診療科医師）		
次長	橋本ひとみ（看護師）		
保健師	久布白歩		
臨床心理判定員	藤井美有	三木伸子	宮崎美知恵（育児休暇中）
ケースワーカー	野呂朝子（PSW）	石田福代（MSW）	23年8月31日付退職
	三宅厚枝	23年11月1日付採用	
看護師	藤定睦子		
看護助手	島田慶子 23年9月1日付採用		

また、初診患者の予約は、予約センターが窓口となっており、委託業者5名が担当している。

### II. 平成23年活動

<23年の主な活動>

1. 新たな紹介病院、診療所の登録
2. 広報活動の推進（ホームページ更新、年報作成、広報誌「げんきカエル」作成）
3. 在宅療養支援の推進
  - ① 訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催）・研修会開催
  - ② 地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催）
  - ③ 制度活用支援・医療機器等の購入支援
  - ④ 周産期センターからの退院児への支援
  - ⑤ 医療的ケアを必要とする児の退院支援
4. 院内各科の診療支援
  - ① 各科の発達フォロー支援（各種心理テスト）
  - ② 家族背景へのケースワーク
  - ③ 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
5. 入院中の情緒不応児への対応
  - ① 児への心理評価・カウンセリング・プレイ療法
  - ② 病棟スタッフへの関わり方指導
6. 患者家族の不安への対応
7. 発達支援・養育支援
  - ① 虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
  - ② 事故予防活動（外傷カンファレンス開催、症例集積、地域との連携）
  - ③ 発達相談、育児相談活動（評価、診断、関わり方指導）
8. 教育支援
  - ① わらび学級入級手続き
  - ② 教育機関とのカンファレンス

<今後の活動目標>

- ① 医療的ケアを必要とする児と家族が安心して在宅生活を送れるように支援する
- ② 高度専門医療機関としての役割を果たすために、地域との連携を強化していく
- ③ 地域医療支援病院として、地域医療機関の研修に貢献する
- ④ 疾病を抱えた子どもと家族の育児支援に努める
- ⑤ 事故予防・虐待予防を含めた子育て支援に努める
- ⑥ 子どもと家族の心理的不安の解消に努める

表1 支援内容別業務統計

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2010年	
1	療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助				190	201	210	308	275	230	235	271	267	2187+ α	*	
2	退院援助	* 80	* 94	* 135	23	7	18	16	20	18	13	17	23	155+ α		1,099
3	社会復帰援助				0	0	0	0	0	0	1	0	0	1+ α		
4	受診・受療援助				54	38	52	37	33	41	44	35	65	399+ α		
5	経済的問題の解決・調整援助	52	62	67	49	63	79	53	58	28	31	38	38	618	696	
6	地域活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
7	発達外来	17	23	24	27	23	27	21	24	21	25	18	24	274	291	
8	養育支援(虐待予防を省く)	*	*	*	11	7	5	6	9	12	1	9	1	61+ α	*	
9	虐待・虐待予防関連				38	47	37	19	42	21	31	26	15	276+ α		
10	発達・発育指導	48	47	52	42	31	24	20	18	25	43	27	28	405	581	
11	わらび学級入級手続き	*	*	*	4	10	16	6	2	1	15	16	0	70+ α	*	
12	一時保護依頼				0	1	0	1	1	0	0	0	0	3+ α		
13	その他	14	11	14	0	1	0	3	3	0	0	0	3	49+ α	128	
	合 計	211	237	292	438	429	468	490	485	397	439	457	464	4,807	2,795	

表2 機関別延べ連絡調整数

	機 関	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2010年
1	院内他部門	156	165	223	266	308	304	318	349	261	267	259	344	3,220	2,043
2	家庭	42	55	64	280	250	294	326	299	268	296	289	289	2,752	535
3	教育関係機関	6	9	6	17	10	24	3	7	1	18	14	3	118	95
4	保健所・保健センター	24	28	53	33	45	19	31	31	21	19	32	15	351	270
5	福祉事務所	9	10	14	10	9	20	18	19	12	21	7	10	159	164
6	こども家庭センター	12	12	29	23	29	21	11	20	13	13	21	27	231	199
7	児童福祉施設	8	2	12	15	5	17	17	12	10	12	10	6	126	99
8	訪問看護ステーション	25	19	37	23	16	23	38	43	21	30	38	42	355	372
9	地域医療機関				4	12	3	3	6	2	5	3	14	52+ α	279
10	その他(医療機器業者、 装具関係など)	38	32	39	30	31	24	25	21	15	18	32	50	246+ α	
	合 計	320	332	477	701	715	749	790	807	624	699	705	800	7,719	4,056

表3 心理療法・心理検査延べ数

	項 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2010年
1	カウンセリング	12	17	21	15	8	16	13	12	7	12	7	16	156	165
2	プレイセラピー	20	26	29	23	16	19	15	20	14	18	16	18	234	378
3	発達検査	58	79	80	41	36	40	35	27	20	41	35	28	303+ α	936
4	知能検査				20	20	25	29	39	21	38	32	33	257+ α	
5	性格検査	6	12	7	17	9	9	6	21	8	20	24	13	152	189
6	その他の検査	12	15	16	8	8	7	7	6	3	15	9	10	116	113
	合 計	108	149	153	124	97	116	105	125	73	144	123	118	1,435	1,781

### Ⅲ. 退院調整

#### 退院調整患者

2011年、各診療科から退院調整の依頼文書があったのは21名であった。2010年の8名継続患者を含めると文書依頼での退院調整支援患者は29名であった。そのうち、1名は施設入所、19名を在宅医療に支援ができた。地域で生活するために、家族の意向を聞き、今後も地域医療機関や訪問看護ステーションと連携を保ちながら退院調整をはかっていきたい。尚、退院・入所した患者の入院期間は28日～2199日で平均約413.8日であった。

表4 依頼書による退院調整件数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2010年
退院調整依頼患者数		0	1	2	1	5	1	2	1	4	0	0	4	21	32
転帰	在宅			2	2	3	1	3	2	3	2	1		19	23
	施設								1					1	0
	転院													0	1
	死亡													0	1

表5 診療科別依頼件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2010年
総合診療科													0	1
新生児科				1	2				2			1	6	15
脳神経内科							1						1	0
循環器内科			2		1							1	4	8
腎臓内科													0	0
代謝・内分泌科													0	0
血液・腫瘍科													0	1
アレルギー・リウマチ科													0	0
救急集中治療科						1							1	0
小児外科		1			1		1	1	2			1	7	6
心臓血管外科					1							1	2	0
脳神経外科													0	1
形成外科													0	0
整形外科													0	0
眼科													0	0
精神科													0	0
泌尿器科													0	0
耳鼻咽喉科													0	0
産科													0	0
小児歯科													0	0
合計	0	1	2	1	5	1	2	1	4	0	0	4	21	32

表6 新生児特定集中治療室の退院調整加算に関わった件数

新生児特定集中治療室 退院調整加算算定延べ 人数（退院時）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2010年
		10	9	10	6	1	3	10	10	6	2	12	15	94

8月23日から退院支援計画書作成開始

表7 関係機関カンファレンス

項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2010年
被虐待児等症例検討会	1	4	5	2	7	1	0	0	1	6	0	2	29	31
頭部外傷カンファレンス	1	3	1	2	4	1	2	0	7	3	2	2	28	32
施設入所カンファレンス	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	1
在宅療養調整カンファレンス	0	0	4	3	1	0	5	4	0	1	1	2	21	27
教育機関カンファレンス	1	1	1	0	2	1	0	0	0	0	0	1	7	4
合計	3	8	11	7	14	3	8	4	8	10	3	8	87	95

表8 虐待カンファレンス対象児病名別処遇

	児童相談所	保健所	外来のみ	一時保護委託	計
頭蓋骨骨折のみ	0	2	0	0	2
硬膜外血腫	0	0	0	0	0
硬膜外血腫+骨折	0	0	0	0	0
硬膜下血腫	4	1	0	2	7
硬膜下血腫+骨折	0	0	0	0	0
頭部打撲のみ	1	0	0	0	1
四肢骨折	1	0	0	0	1
熱傷	1	0	0	0	1
医療ネグレクト	1	0	0	0	1
計	8	3	0	2	13

表9 頭部外傷カンファレンス対象児病名別処遇

	児童相談所	保健所	外来のみ	フォローなし	他院フォロー	計
頭蓋骨骨折のみ	0	2	7	0	0	9
硬膜外血腫	0	0	2	0	0	2
硬膜外血腫+骨折	0	3	0	0	1	4
硬膜下血腫	0	0	2	0	0	2
硬膜下血腫+骨折	0	0	0	0	0	0
頭部打撲のみ	0	3	2	7	1	13
縫合離開	0	0	1	0	0	1
計	0	8	14	7	2	31

(注) 外来フォローのみの硬膜下血腫の児は2名とも、硬膜下血腫を契機に出血を起こしやすい基礎疾患が見つかったケース

#### IV. 神戸市立友生養護学校 病弱児訪問学級（わらび学級）

病気療養のため、学校に行けない子どもたちに、神戸市立友生養護学校病弱児訪問学級の教師がベッドサイドに訪問し、教育が受けられるようになっていきます。当部署で入級の説明から手続きをはじめ、主治医との面談、学校との連絡調整を行っています。

表10 平成23年度わらび学級在籍状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延べ人数
小学部	新入級数	3	2	3	1		4	2	2			1	2	20
	退級数		3		1	2	1	2	4	1	1		1	16
	在籍数	10	12	12	13	12	14	15	15	12	11	11	12	149
中学部	新入級数	1		2			1	2	2				1	9
	退級数			1										1
	在籍数	4	4	6	5	5	6	8	10	9	8	8	7	80
高等部	新入級数													0
	退級数													0
	在籍数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
院内全体	新入級数	4	2	5	1		5	4	4			1	3	29
	退級数		3	1	1	2	1	2	4	1	1		2	18
	在籍数	15	17	19	19	19	21	24	26	22	20	20	22	244

## 指導相談・地域医療連携部（予約センター）

### 1. 業務内容

予約センターは委託職員が従事し、主に初診患者の予約業務と受診報告書の発送を行い、地域医療機関との連携を早く確実にを行っています。

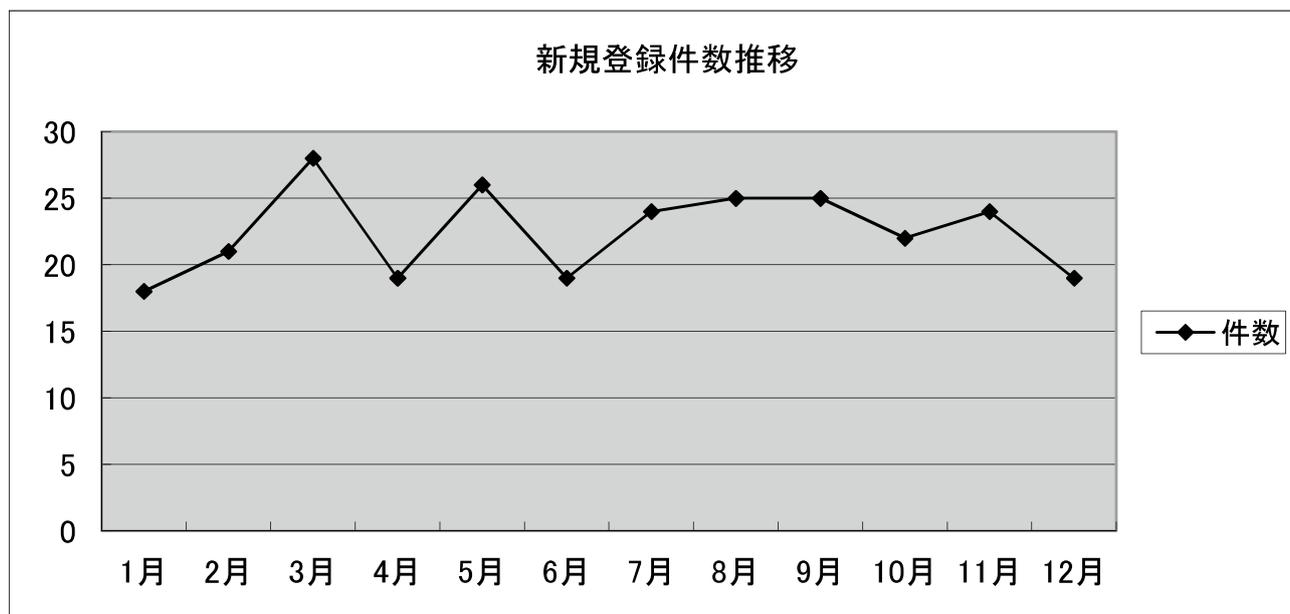
(2000年1月～12月)

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2011年
FAX 予約数（地域連携）	325	318	405	403	380	448	398	512	387	422	448	396	4,842	3,200
紹介状を持ち、予約なしで来院した患者数	4	1	8	7	3	1	3	2	2	3	6	2	42	41
医療機関新規登録件数	18	21	28	19	26	19	24	25	25	22	24	19	270	345
受診報告書発送数(紹介状件数)	455	464	552	500	495	588	508	638	488	511	360	463	6,022	4,787
返書率	92.9	92.3	90.2	90.2	91.1	87.5	90.2	90.7	90.3	91.7	93.8	92.0		
メール相談対応数	12	11	10	3	16	13	16	15	13	13	5	8	135	126
(内訳) 各科医師相談	1	4	4	0	4	1	3	4	5	6	1	1	34	76
予約センターで返答	11	7	6	3	12	12	13	11	8	7	4	7	101	50
電話相談数（火・金）	3	1	2	5	2	5	2	3	0	3	1	4	31	39
セカンドオピニオン数	2	1	4	4	2	3	2	3	2	0	4	5	32	28

(2010年4月から業務統計の種類を変更したために、過去のデータがない部分を斜線で表す)

### 2. 紹介元新規医療機関

紹介元医療機関の登録件数は270件であった。平成17年から地域医療連携業務を行い、平成23年12月末で累計は3395件になった。



## 31. 臨床工学室

## 【スタッフ紹介】

主任 横山 真司 体外循環技術認定士  
 岩崎 一崇 体外循環技術認定士  
 池田 紘二  
 志智 美咲  
 岩下 仁美

## 【業務実績】

## 医療機器管理業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
院内修理	25	22	22	21	16	26	13	24	44	69	64	42	388	32.2
依頼点検	23	21	28	49	28	25	31	42	24	38	30	24	363	30.3
定期点検	429	533	668	561	506	644	553	791	586	649	691	613	7,224	602
メーカー修理・点検	4	5	8	10	3	2	1	3	3	4	3	4	50	4.2
メーカー定期点検	4	3	1	0	0	1	3	0	0	0	0	0	12	1
病棟ラウンド	0	0	0	1	0	1	3	1	1	1	0	4	12	1
その他	2	0	4	6	2	1	5	0	1	4	10	1	36	3

## 臨床業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
体外循環	14	13	13	13	13	16	14	21	19	21	15	18	190	15.8
ECMO	2(4)	0	1	3(13)	2(8)	0	1	2(8)	3(4)	1	0	2(2)	17(39)	1.41
人工心臓・ECMOスタンバイ	1	0	3	2	3	1	1	1	4	3	3	2	24	2
血液浄化	3	1	0	1	18	8	7	2	9	0	1	0	50	4.2
自己血回収	15	14	14	14	14	17	14	21	19	19	16	18	195	16.3
MEP	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	5	0.4
SPECTRA	3	1	1	0	1	0	0	2	0	4	1	0	13	1.1
BMP	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.1

\* ECMO：( ) 回路交換回数

## 各種委員会活動

医療器械機種選定委員会

リスクマネジメント委員会

手術室運営委員会

呼吸ケア部会

## 32. 理学療法

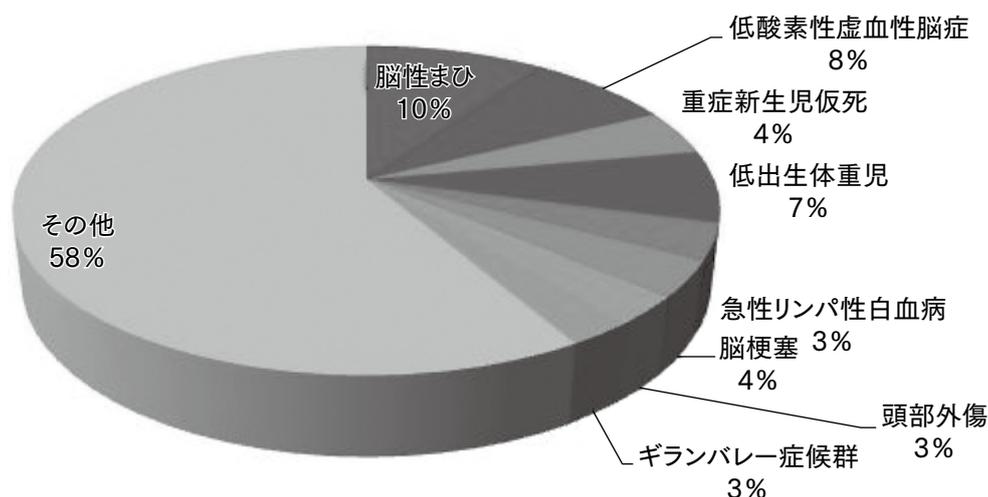
理学療法はこども病院本館、周産期医療センター、小児救急医療センターに入院されている方を対象としている。疾患別では脳性まひや低酸素虚血性脳症などの中枢性疾患、軟骨無形成症やペルテス病などの小児整形疾患が大きな割合を占める。廃用性症候群の予防、排痰促進などの呼吸機能改善、運動発達援助、術後リハビリテーションなどを目的としているが、設備・マンパワー的に不足しているのが現状で、より多くの方に理学療法が提供できるように今後も務めていきたい。

2011年 理学療法実施延べ件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
196	204	202	231	276	298	275	287	276	251	275	245	3,016

理学療法実施疾患：

脳性麻痺、低酸素虚血性脳症、新生児仮死、低出生体重児、白血病、軟骨無形成症、頭部外傷、二分脊椎、ギランバレー症候群、他



### 33. 医療安全管理室

医療安全管理室は、医療安全対策担当部長を室長、管理局長、看護部長を副室長とし、副院長、周産期センター長、診療部長、薬剤部長、医療安全対策担当課長、実働メンバーとして9名の総括リスクマネージャーと総務部長、総務部次長、医事企画課長で構成され、院内の安全管理を担っている。

#### 主な活動内容

##### 1. ヒヤリハット報告書に基づく評価・対策の検討

- 1) 各部門・部署ごとで評価、対策を検討、集約し、月1回のリスクマネジメント部会で報告した。  
リスクマネジメント部会での報告、検討結果を医療事故防止委員会に報告した。

① 2011年のヒヤリハット報告件数は、2672件で前年より130件増加した。レベル0が減少し、レベル1が増加したが、レベル2以上の増加はなかった。

レベル別ヒヤリハット報告件数割合

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a
38.7% (44.1%)	59.1% (53.4%)	1.7% (2.1%)	0.4% (0.4%)

②部門別では、例年通り看護部からの提出が最も多く、90%近くを占めるが、診療部、検査部、薬剤部など他部門の割合が増加した。

部門別ヒヤリハット報告件数割合

診療部	看護部	検査部	放射線部	薬剤部	栄養指導課	医事課
1.9%	88.1%	1.9%	4.6%	1.9%	1.5%	0.1%
(1.2%)	(90.6%)	(0.8%)	(4.8%)	(0.7%)	(2.0%)	

- 2) 毎日11時から院長室で総括リスクマネージャー（在室時は院長も在席）会議を開催、前日に送られてきたヒヤリハット報告書に基づき、評価、対策の検討を行った。

#### 【報告書から改善への取り組み】

- ・一般病棟でのカリウム原液投与の事例を契機にHCUにおける高濃度カリウム原液使用の手順を整備した。
  - ・ECMO（膜型人工肺）に関する事例を契機に機器の更新、増設、マンパワーの強化を図った。
  - ・アンビューバックから酸素チューブが外れた事例を契機に酸素供給チュービングコネクターを導入するとともに、酸素流量計の共有使用をなくすよう周知を行った。
  - ・輸液ラインの接続はずれに対し、輸液ラインの仕様の変更を行った。
  - ・薬剤の過剰投与事例を契機に入院注射処方せん、ワークシートに注射薬の規格を表示できるようデフォルトの変更を行った。
- 3) ひやりはっと報告入力画面から送信されたひやりはっとが閲覧できるようシステム変更を行った。

##### 2. 病院局医療安全対策への取り組み

「患者誤認防止」を各部門共通のテーマとし、活動を行った。ネームバンドでの患者確認、フルネームでの確認、患者・家族に名乗っていただくことでの確認を行うよう周知した。患者間違いに関するレベル3以上のヒヤリハットは発生しなかった。

### 3. 医療安全研修会の開催

#### 1) 院内研修は2回開催した。

2011年3月8日	各部門の安全への取り組み報告	参加者：137名
2011年10月11日	医薬品安全管理室共催で 「輸液投与におけるリスクマネジメント ～配合変化の一般的な考え方」	参加者：64名

#### 2) 兵庫県立病院医療安全研修会

2011年8月2日 於：がんセンター	医療事故、ヒヤリハット事例の収集、要因分析、対策立案等について NKSJ リスクマネジメント（株）
-----------------------	--

#### 3) 神戸地方裁判所主催の医療訴訟ガイドランスの開催 2011年12月5日 於：こども病院

### 4. 医療安全情報の提供

- ・月1回、日本機能評価機構からの医療安全情報の提供を行った。
- ・院内で起こったヒヤリハット事例から、医療安全ニュースを発行し、情報提供を行った。

## IV 学会・研究・教育活動

## 1) 書籍

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
早産児の特徴を 理解しよう	総合診療科	上谷良行	共著	大野勉	新生児の症状・所見 マスターブック	98	109	メデイカ出版	2011年4月
救急外来受診	総合診療科	上谷良行	共著	楠田聡	小児科臨床ピクシス26 小児慢性疾患のサポート	168	169	中山書店	2011年4月
先天性甲状腺機能低下症	代謝内分泌科	郷司克己	共著	『周産期医学』編集委員会編	周産期医学必修知識	725	727	東京医学社	2011年12月
乳幼児揺さぶられ症候群	脳神経内科	永瀬裕朗 小林大介	共著	井村裕夫、福井次矢辻省次	症候群ハンドブック	12	12	中山書店	2011年
小児腎不全患者の診察	腎臓内科	田中亮二郎	共著	深川雅史	透析患者の病態への アプローチ改訂2版	377	385	金芳堂	2011年
水頭症	脳神経外科	長嶋達也	共著	大関武彦 他	今日の小児治療指針15版	643		医学書院	2011年
脊髄破裂	脳神経外科	長嶋達也 河村淳史 山元一樹	共著	大畑建治	脊髄外科 脳神経外科が知っておくべき エッセンシャル	164	175	メデイカルビュー	2011年
足や指の奇形	整形外科	薩摩眞一	共著	戸山芳昭 監 浜西千秋 編	アトラス骨関節画像診断	50	52	中外医学社	2011年2月
環軸椎亜脱臼と齒突起骨	整形外科	薩摩眞一	共著	戸山芳昭 監 浜西千秋 編	アトラス骨関節画像診断	101	103	中外医学社	2011年2月
先天性扁平足、 腓力学的扁平足、 先天性外反踵足	整形外科	薩摩眞一	共著	中村耕三、木下光雄 編	足の痛みクニカルプラクティス	316	320	中山書店	2011年11月
新生児斜頸	整形外科	薩摩眞一	共著	『周産期医学』編集委員会編	周産期医学必修知識 第7版	777	778	東京医学社	2011年
先天性股関節脱臼	整形外科	薩摩眞一	共著	『周産期医学』編集委員会編	周産期医学必修知識 第7版	779	780	東京医学社	2011年
腫瘍性病変と下肢痛	整形外科	小林大介	共著	浜西千秋	アトラス骨関節画像診断	20	21	中外医学社	2011年2月
特集：子どもの眼を守る 早期診断が望ましい 小児の斜視	眼科	野村耕治	単著	上竹あゆみ	NANO OPHTHALMOLOGY 40	13	16	日本点眼薬研究所	2011年11月

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
水晶体の先天異常	眼科	野村耕治	単著	大鹿哲郎	眼科学 第2版	240	242	文光堂	2011年5月
新生児の眼異常	眼科	野村耕治	単著	周産期医学編集委員会	周産期医学必修知識 第7版	794	795	東京医学社	2011年12月
	眼科	山本 節		大鹿哲郎	眼科学 第2版	609	612	分光堂	2011年5月
	眼科	山本 節			新編色彩科学ハンドブック 第3版	379	380	東京大学出版会	2011年4月
Pendred症候群の診断・経過観察におけるBOA、COR、遊戯聴力検査の有用性と問題点	耳鼻咽喉科	大津雅秀	共著	松永達雄	厚労省科費難治性疾患克服研究事業「Pendred症候群の早期診断に基づく予防と治療のガイドライン作成」平成21年度総括・分担研究報告書	36	37	厚労省「Pendred症候群の早期診断に基づく予防と治療のガイドライン作成」研究班	2011年
「Pendred症候群の発症頻度調査と現状に即した診断基準の確立」分担研究	耳鼻咽喉科	大津雅秀	共著	松永達雄	厚労省科費難治性疾患克服研究事業「Pendred症候群の発症頻度調査と現状に即した診断基準の確立」平成22年度総括・分担研究報告書	46	47	厚労省「Pendred症候群の発症頻度調査と現状に即した診断基準の確立」研究班	2011年
両側蝸牛神経形成不全症のサブタイプ分類に基づく診療指針の確立に関する研究	耳鼻咽喉科	大津雅秀	共著	松永達雄	厚労省科費難治性疾患克服研究事業「両側蝸牛神経形成不全症のサブタイプ分類に基づく診療指針の確立」平成22年度総括・分担研究報告書	45	47	厚労省「両側蝸牛神経形成不全症のサブタイプ分類に基づく診療指針の確立」研究班	2011年
両側蝸牛神経管狭窄を示しABR、ASSRと自覚聴力検査閾値に乖離を示したPCEH疑い例の長期聴力経過	耳鼻咽喉科	阪本浩一	共著	松永達雄	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「両側性蝸牛神経形成不全症のサブタイプ分類に基づく診療指針の確立」	40	44	厚労省「両側蝸牛神経形成不全症のサブタイプ分類に基づく診療指針の確立」研究班	2011年3月
Pendred症候群の3例と聴力経過	耳鼻咽喉科	阪本浩一	共著	松永達雄	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「Pendred症候群の早期診断に基づく予防と治療のガイドライン作成」	42	45	厚労省「Pendred症候群の発症頻度調査と現状に即した診断基準の確立」研究班	2011年3月
超音波ガイド下内頸静脈穿刺の実験	麻酔科	池島典之香川哲郎	共著	中馬理一郎	LiSAコレクション 中心静脈・動脈穿刺	86	94	メディカルサイエンスインターナショナル	2011年
症例で考える患者へのアプローチのポイント	薬剤部	辻本 勉	共著	朝倉俊成	症例から学ぶ糖尿病療養指導			じほう	2011年9月

## 2) 雑誌発表

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
超低出生体重児：最近の超低出生体重児・超早産児の予後は改善していますか？	総合診療科	上谷良行	周産期医学	41	10	1,273	1,275	東京医学社	2011.10
超低出生体重児：海外での超低出生体重児の予後との比較	総合診療科	上谷良行	周産期医学	41	10	1,276	1,278	東京医学社	2011.10
超低出生体重児の長期予後	総合診療科	上谷良行	周産期医学増刊号	41		820	822	東京医学社	2011.12
2005年出生の超低出生体重児6歳時予後の全国調査の実施	総合診療科	上谷良行	平成22年度藤村班分担研究報告書			68	82	厚生労働科学研究	2011.3
小児急性脳炎・脳症に対するデキサメサゾン併用脳低温療法法の神経学的予後に対する有用性の検討	救急集中治療科	佐治洋介、永瀬裕朗 青木一憲、中川拓 藤田杏子、丸山あずさ 上谷良行	日本小児救急医学会雑誌	10	1	22	26	日本小児救急医学会	2011.3
PCR簡便法でメチル化異常を診断した偽性副甲状腺機能低下症の1例	代謝内分泌	奥野美佐子、米倉圭二 尾崎佳代、郷司克己	日本内分泌学会雑誌	87	特集号	47	48	日本内分泌学会	2011.6
画像上スキュルスが疑われた好酸球性胃腸炎の14歳男児例	アレルギー科	田中裕也	日本小児アレルギー学会誌	第24巻	第5号	713	718	日本小児アレルギー学会誌	2011
小児急性脳炎・脳症に対するデキサメサゾン併用脳低温療法法の神経学的予後に対する有用性の検討	脳神経内科	佐治洋介、永瀬裕朗 青木一憲、中川拓 藤田杏子、丸山あずさ 上谷良行	日本小児救急医学会雑誌	10	1	22	26		2011
【全面改訂版 必携！けいれん、意識障害 その時どうする】けいれん重症への救急対応 ミダゾラムの使い方と注意点	脳神経内科	中川拓、永瀬裕朗	小児内科	43	3	333	336		2011
脳低温/平温療法は難治性てんかん重症状態で発症する急性脳症による神経学的後遺症を低減する	脳神経内科	中川拓、藤田杏子 佐治洋介、丸山あずさ 永瀬裕朗	脳と発達	43	6	459	464		2011

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Epigallocatechin gallate inhibits sphere formation of neuroblastoma BE(2)-C cells.	血液腫瘍科	Nishimura N, Hartomo TB, Pham TV, Lee MJ, Yamamoto T, Morikawa S, Hasegawa D, Takeda H, Kawasaki K, Kosaka Y, Yamamoto N, Kubokawa I, Mori T, Yanai T, Hayakawa A, Takeshima Y, Iijima K, Matsuo MNishio H.	Environ Health Prev Med. 2011. in press.						2011
3333	血液腫瘍科	Nishimura N, Yan Huyen Pham T, Hartomo TB, Lee MJ, Hasegawa D, Takeda H, Kawasaki K, Kosaka Y, Yamamoto T, Morikawa S, Yamamoto N, Kubokawa I, Mori T, Yanai T, Hayakawa A, Takeshima Y, Nishio H, Matsuo M.	Oncol Rep. 26(1)	26	1	145	151		2011
Relapse of aplastic anemia in children after immunosuppressive therapy: a report from the Japan Childhood Aplastic Anemia Study Group.	血液腫瘍科	Kamio T, Ito E, Ohara A, Kosaka Y, Tsuchida M, Yagasaki H, Mugsshima H, Yabe H, Morimoto A, Ohta S, Muramatsu H, Hama A, Kaneko T, Nagasawa M, Kikuta A, Osugi Y, Bessho F, Nakahata T, Tsukimoto I, Kojima SJapan Childhood Aplastic Anemia Study Group.	Haematologica. 96(6)	96	6	814	819		2011
Predicting response to immunosuppressive therapy in childhood aplastic anemia.	血液腫瘍科	Yoshida N, Yagasaki H, Hama A, Takahashi Y, Kosaka Y, Kobayashi R, Yabe H, Kaneko T, Tsuchida M, Ohara A, Nakahata T, Kojima S.	Haematologica. 96(5)	96	5	771	775		2011
小児に発症した t(16 ; 21)(q24 ; q22) を伴う急性骨髄性白血病	血液腫瘍科	野口依子、中町祐司、大藪智奈美、菊間知恵、長谷川大一郎、山下達也、西山将弘、小阪嘉之、河野誠司	臨床血液	52	12	1,893	1,895		2011
移行期医療の現状と問題点～成人後も小児科を受診する先天性心疾患患者が増加～	循環器科	城戸佐知子	Astellas Square			20	21	アステラス製薬株式会社	2011.12

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
造血幹細胞移植後に発症した移植関連血栓性微小血管症(TA-TMA)に対し血漿交換療法が有効した1症例	腎臓内科	河場康郎、神田杏子、石田敏章、川崎圭一郎、小坂嘉之、田中亮二郎	日本小児腎不全学会雑誌	38		208	210		2011
Henoch-Schonlein 紫斑病—小児紫斑病性腎炎を中心に—	腎臓内科	田中亮二郎	Reumatology	45		400	405		2011
Naは細胞外液に存在するのに、なぜ低Na血症の補正時には体内総水分量(補正係数0.6)が使用されるのですか？	腎臓内科	田中亮二郎	小児内科	43		674	676		2011
Disappearance of glomerular IgA deposits in childhood IgA nephropathy showing diffuse mesangial proliferation after 2 years of combination/prednisolone therapy.	腎臓内科	Shima Y, Nakanishi K, Kamei K, Togawa H, Nozu K, Tanaka R, Sasaki S, Iijima K, Yoshikawa N	Nephrol Dial Transplant	26		163	169		2011
Treatment strategies for Henoch-Schonlein purpura nephritis by histological and clinical severity.	腎臓内科	Ninchoji T, Kaito H, Nozu K, Hashimura Y, Kanda K, Kamioka I, Shima Y, Hamahira K, Nakanishi K, Tanaka R, Yoshikawa N, Iijima K, Matsuo M	Pediatr Nephrol.	26		563	569		2011
胸壁内食道延長術時に癒着防止吸収性バリア(セブラフィルム)が有用であったA型食道閉鎖症の1例	外科、	横井暁子、西島栄治	日本小児外科学会雑誌	47	3	341	344	日本小児外科学会	2011.6
【クリニカルパスで示す私たちの標準治療】先天性十二指腸閉鎖症に対するダイアモンド吻合術の標準治療	外科	横井暁子、西島栄治	小児外科	43	10	1,031	1,034	東京医学社	2011.10
【症例から理解する小児嚢胞性肺疾患】二期的に右肺全摘を行った気管支閉鎖症の1幼児例	外科、病理室	岡本光正、田浦康明、橋本由美子、清水裕史、田村亮、谷本光隆、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治、吉田牧子	小児外科	43	12	1,263	1,266	東京医学社	2011.12
Herlyn-Werner-Wunderlich 症候群を合併した直腸腔前癒癒の1乳児例	外科	清水裕史、中尾真、横井暁子、田村亮、田浦康明、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子、西島栄治	日本小児外科学会雑誌	47	6	959	962	日本小児外科学会	2011.10

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
【小児気道疾患の治療】 気管切開術施行後の重症心身障害児に 対する喉頭気管分離術の検討	外科	前田健一、横井暁子 中尾真、尾藤祐子 荒井洋志、岡本光正 田浦康明、田村亮 西島栄治	小児外科	43	3	288	291	東京医学社	2011.3
【小児気道疾患の治療】先天性気管狭窄 症に対する治療アルゴリズム	外科	西島栄治、横井暁子 尾藤祐子、中尾真 荒井洋志	小児外科	43	3	250	255	東京医学社	2011.3
大動脈吊り上げ法の適応とその効果	外科	尾藤祐子	小児外科	43	3	245	249	東京医学社	2011.3
総静脈還流異常に対する手術と 体外循環法	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博	Clinical Engineering	22	8	812	815	秀潤社	2011.7
Antioxidant properties of pioglitazone limit nicotinamide adenine dinucleotide phosphate hydrogen oxidase and augment superoxide dismutase activity in cardiac allotransplantation.	心臓血管外科	Hasegawa T Okada KOkita Y Pinsky DJ	J Heart Lung Transplant.	30	10	1,186	1,196	Elsevier	2011.1
Development of a model of benign esophageal stricture in rats: the optimal concentration of sodium hydroxide for stricture formation	心臓血管外科小 児外科	Okata Y, Hisamatsu C Hasegawa T, Nishijima E, Okita Y	Pediatr Surg Int.	27	1	73	80	Springer	2011.1
総排泄腔外反に伴う脊髄病変の検討	脳神経外科	中溝聡、長嶋達也 河村淳史、山元一樹 秋山英之、杉多良文 久松英治、西島英治 甲村英二	脳神経外科	39	1	37	43	医学書院	2011.1
虐待による乳幼児頭部外傷 —いわゆる揺すぶられっ子症候群	脳神経外科	長嶋達也、山元一樹 河村淳史、長嶋宏明	小児内科	43	3	633	637	東京医学社	2011.3
キアリ奇形	脳神経外科	長嶋達也、山元一樹 河村淳史、長嶋宏明	脳神経外科	39	6	617	628	医学書院	2011.6
Pediatric orbital schwannoma originating from the oculomotor nerve.	脳神経外科	Hiroaki Nagashima Tatsuya Nagashima Atsufumi Kwamura Kazuki Yamamoto Makiko Yoshida Kouji Nomura	J Neurosurgery Pediatric	9	2	165	168		2012

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
虐待による乳幼児頭部外傷 —いわゆる描すぶられっ子症候群	脳神経外科	長嶋達也	神戸市医師会報						2011.1
影響を受けた恩師	脳神経外科	長嶋達也	神戸市医師会報						2011.8
生後早期に緊急解除術を行った 先天性総括輪症候群の1例	形成外科	鄭聡柄	日本形成外科学会誌	31	10	712	715	春恒社	2011.1
先天性内反足に対する Ponseti法の治療成績 —5年以上経過した症例について—	整形外科	衣笠真紀	日本小児整形外科学会雑誌	第20巻	第2号	349	352	日本小児整形外科学会	2011
下肢痛で発症した帯状疱疹の2症例	整形外科	衣笠真紀	近畿小児整形外科	第24巻		9	11	日本小児整形外科学会	2011
脊髄膜瘤患者の整形外科的問題点 Congenital anomalyと Acquired disorder	整形外科	小林大介、薩摩真一 衣笠真紀、井上美帆	日本小児整形外科学会誌	20	2	426	429	日本小児整形外科学会	2011年
骨 関節感染症の防止と診断と治療法	整形外科	小林大介、薩摩真一	周産期医学	41	3	347	350	東京医学社	2011.3
距舟関節に足根骨癒合を認めた1例	整形外科	襄田正也	近畿小児整形外科	第24巻		21	23	近畿小児整形外科 懇話会	2011
内斜視術後移行性外斜視に対する 内直筋戻し前転術の治療成績	眼科	別所宣洋、野村耕治 福村美帆	眼科臨床紀要	4	7	640	644	眼科臨床紀要会	2011.7
遠視性不同視弱視の治療成績	眼科	寺岡力新、野村耕治 平井宏二、中村礼恵	臨床眼科	65	5	621	626	医学書院	2011.5
乳幼児に対するコンタクトレンズ	眼科	野村耕治	日本コンタクトレンズ学会誌	53	1	21	22	日本コンタクトレンズ 学会	2011.1
小児の診かた、眼科疾患 「涙目は放置しておいてよいのですか」	眼科	野村耕治	小児内科	43	増刊号	918	920	東京医学社	2011.12
ご指導いただいた井街 謙先生の 思い出	眼科	山本節	眼科	53	8	953	955		2011
後腹膜手術中に尿管を損傷	泌尿器科	杉多良文	小児外科	43	7	755	758	東京医学社	2011.7

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Familial transverse testicular ectopia unrelated to persistent Müllerian duct syndrome	泌尿器科	Eiji Hisamatsu Shizuko Takagi, Yoshikiyo Nakagawa, Yoshifumi Sugita	Indian Journal of Urology	27	3	397	398	MedknowPublications	2011.7
総肺静脈還流異常に対する手術と体外循環法 TAPVC 手術における麻酔	麻酔科	野々村智子	Clinical Engineering	22	8	812	822	秀潤社	2011.8
小児の気道管理・困難気道とラリンジアルマスク	麻酔科	香川哲郎、山本亜也 村上あきつ、鈴木毅 池島典之	日本臨床麻酔学会雑誌	31	7	923	930	日本臨床麻酔学会	2011.11
【不安解消！周産期の救命処置】救命士が知っておきたい周産期の救命処置 新生児蘇生法と管理	新生児	岩谷壮太、中尾秀人	EMERGENCY CARE	24	1	28	34		2011.1
【新生児医療の最前線 産婦人科医が知っておきたい新生児の新知識】新生児側からみた PROM における分娩のタイムミング	新生児	岩谷壮太、中尾秀人	産婦人科治療	102	4	349	354		2011.4
Time-course effect of a single dose of hydrocortisone for refractory hypotension in preterm infants.	新生児	Mizobuchi M, Yoshimoto SNakao H	Pediatr Int.	53	6	881	886		2011.12
過去 16 年間に経験した胎児仙尾部奇形腫 10 例の検討	産科	田中達也、佐本崇 城道久、前澤陽子 牧志綾、笹原淳 高松祐幸、喜吉賢二 船越徹	産婦人科の進歩	63	3	406	408	「産婦人科の進歩」 編集室	2011
当院における先天性心疾患の出生前診断	産科	牧志綾、喜吉賢二 城道久、前澤陽子 笹原淳、田中達也 高松祐幸、佐本崇 船越徹	産婦人科の進歩	63	3	395	397	「産婦人科の進歩」 編集室	2011
【常位胎盤早期剥離の取り扱い】常位胎盤早期剥離における超緊急帝王切開術の実際と見の予後	産科	船越 徹	産婦人科の実際	60	4	553	560	金原出版	2011
切迫早産の管理・治療における子宮収縮抑制剤使用の工夫	産科	喜吉賢二、船越 徹	産婦人科の実際	60	1	117	123	金原出版	2011
Lessons learned from the preclinical drug discovery of asoprisnil and ulipristal for non-surgical treatment of uterine leiomyomas	産科	Maruo T, Ohara N, Yohida S, Nakabayashi K, Sasaki H, Xu Q, Matsuo H, Sitruk- Ware R, Yamada H	Expert Opinion on Drug Discovery	6		897	911	Informa Healthcare	2011

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
兵庫県立病院学会誌(第8号)の編纂にあたって	産科	丸尾 猛	兵庫県立病院学会誌	8		1	1		2011
新しい命がもう一つのいのちを救う	産科	丸尾 猛	KOBE Rotarian		4/5/6	16	16		2011.4
さい帯血の不思議 - 新しい命がもう一つのいのちを救う -	産科	丸尾 猛	Medical Tribune	44	37	85	85		2011.9
兵庫県立こども病院的現況 - 何故、早期建替えが必要かを中心に -	産科	丸尾 猛	須磨区医師会報		320	1	3		2011.10
第264回 photoquiz (脳腫瘍の鑑別に役立つ所見)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	74	1	133	136	診断と治療社	
第265回 photoquiz (腸回転異常症の注意点)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	74	2	311	314	診断と治療社	
第266回 photoquiz (画像でとらえにくい輪状腺)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	74	3	499	502	診断と治療社	
第267回 photoquiz (実質内腫瘍か実質外腫瘍か - beak sign -)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	74	4	673	676	診断と治療社	
第268回 photoquiz (頭蓋骨の溶骨性病変)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	74	5	845	848	診断と治療社	
第269回 photoquiz (通常の肺炎とおもっていたら・・・)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	74	6	991	994	診断と治療社	
第270回 photoquiz (胸部単純X線写真 - ここにも注目する -)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	74	7	1,159	1,162	診断と治療社	
第271回 photoquiz (小児の頭部外傷のCT)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	74	8	1,239	1,242	診断と治療社	
第272回 photoquiz (・・・食べてきたでしょ?)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	74	9	1,418	1,421	診断と治療社	
第273回 photoquiz (卵巣成熟奇形腫と茎捻転)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	74	10	1,567	1,570	診断と治療社	
第274回 photoquiz (小児だからこそ高血圧脳症)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	74	11	1853	1,856	診断と治療社	

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
第275回 photoquiz (MRを撮れば一発の疾患)	放射線科	赤坂好宣	小児科診療	74	12	2,019	2,022	診断と治療社	
小児先天性疾患に強くなる - 泌尿生殖器 -	放射線科	赤坂好宣	画像診断	31	6	590	602	秀潤社	2011.5
小児の画像診断： 正常との比較を中心に - 上腹部 -	放射線科	赤坂好宣	臨牀画像	27	8	964	969	メジカルビュー社	2011.8
胎児型の未熟な組織とグリアへの 分化が混在した脳腫瘍の一例	1)兵庫県立こども病 院病理診断科 2)同 脳神経外科 3)同 血液腫瘍科 4)同 放射線科	吉田牧子 1)、長嶋達也 2) 河村淳史 2)、山元一樹 2) 田中愛子 3)、竹田洋樹 3) 小坂嘉之 3)、赤坂好宣 4)	小児がん	48	1	58	58	日本小児がん学会	2011.2
総肺静脈還流異常に対する手術と体外 循環法	看護部	横山真司	Clinical Engineering	22	8	817	822	秀潤社	2011.8
小児集中治療における 終末期ケアの実践	看護部	浅井桃子	ハートナーシング	24	11	103	107	メデイカ出版	2011.11
カンファレンスの工夫 - 過去のカンファレンスを実践にいかす -	看護部	本間佳津子	小児看護	34	4	442	447	へるす出版	2011.4
新生児・乳児水んトラブルのケア 肛門周囲皮膚炎	看護部	鎌田直子	こどもケア	5	6	49	54	日総研出版	2011.2
認定看護師に学ぶケアの極意 皮膚・排泄ケア 小児の神経障害による排泄ケア	看護部	鎌田直子	月刊ナーシング	32	1	56	61	学研メデイカル	2011.12
日帰りで手術を受ける小児の 手術室における看護	看護部	川崎妃美	小児看護	34	6	728	737	へるす出版	2011.6
病態別に見た輸液療法のポイント (糖尿病)	薬剤部	辻本勉	月刊薬事	53	10	201	208	じほう	2011.9
病態別に見た輸液療法のポイント (小児)	薬剤部	上野陽介	月刊薬事	53	10	209	213	じほう	2011.9
糖尿病の病態・治療への素朴な ギモン100	薬剤部	辻本勉	糖尿病ケア	8	11	54	57	メデイカ出版	2011.11

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
本態性高血圧における NT-proBNP および高感度トロポニンTの評価	検査・放射線部	戸田圭三、佐藤幸人 原智子、杉山裕香 藤原久義、鷹津良樹 岩崎敏明	臨床検査	55	7	706	711	医学書院	2011.7
動脈ネットワーク導入による時間的・空間的制限からの解放	検査・放射線部 放射線科	関尾直士	月刊新医療	第39巻	第1号	94	97	エム・イー振興協会	2012.1
栄養管理のための コミュニケーション論	栄養指導課	鳥井隆志	ヒューマンコミュニケーション	12		22	23	日本医療企画	2011.7
過度の食事制限によるビタミンB1 欠乏からWernicke脳症を 発症した1症例	栄養指導課	鳥井隆志、松田亜由美 城裕恵、上村倫世 白井里奈、木町恵緑	ヒューマンコミュニケーション	13		4	7	日本医療企画	2011.9
総肺静脈選流異常に対する手術と体外 循環法	看護部	横山真司	Clinical Engineering	22	8	817	822	秀潤社	2011.8

### 3) 学会発表

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
1年間に当院に入院となった小児の熱傷で虐待カンファレンスが行われた症例についての検討	救急集中治療科	中川拓、宅見晃子、山口善道、上谷良行	第252回	日本小児科学会 兵庫県地方会	尼崎	2011.2.5
東日本大震災への当院の救護活動経験	救急集中治療科	水田麻雄、田中裕也、奥野美佐子、上谷良行	第253回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸	2011.5.21
小児の難治性熱性けいれん重積状態に対する管理方法の違いによる神経学的予後への影響	救急集中治療科	永瀬裕朗、中川拓、藤田杏子 佐治洋介、山口善道、丸山あずさ	第24回	近畿小児科学会	神戸	2011.3.13
グルタール酸血症2型が疑われた Sudden unexpected death in infancy の1例	救急集中治療科	尾崎佳代、奥野美佐子丸山あずさ、上谷良行 虫本雄一、小林弘典、長谷川有紀、山口清次	第114回	日本小児科学会総会	東京	2011.8.13
我が国における乳幼児頭部外傷例の 虐待通告基準の検証	救急集中治療科	藤田杏子、永瀬裕朗、佐治洋介 宅見晃子、上谷良行	第114回	日本小児科学会総会	東京	2011.8.14
災害派遣 ～小児科医の視点から～	救急集中治療科	奥野美佐子	平成23年度 第1回	災害医療従事者研修会/ 兵庫DMAT研修会/ 災害医療 コーディネーター 研修会	神戸	2011.6.13
小児からの臓器提供に対する院内体制整備	救急集中治療科	上谷良行	第12回	兵庫県臓器提供懇話会	神戸	2011.9.21
1年間に当院に入院となった小児の熱傷で虐待カンファレンスが行われた症例についての検討	救急集中治療科	中川拓、宅見晃子、山口善道、上谷良行	第26回	須磨区医師会 学術集談会	神戸	2011.3.5
子どもの救急・上手なかかり方	救急集中治療科	上谷良行	第22回	こどもの健康週間 兵庫県大会	豊岡	2011.11.13
小児の重症度評価	救急集中治療科	上谷良行	平成22年度	小児初期救急医療 研修会	神戸	2011.2.27
軽度外傷（軽症頭部外傷）	救急集中治療科	上谷良行	平成22年度	小児初期救急医療 研修会	神戸	2011.2.27
小児の重症度評価	救急集中治療科	上谷良行	平成23年度	小児初期救急医療 研修会	神戸	2011.10.23
軽度外傷（軽症頭部外傷）	救急集中治療科	上谷良行	平成23年度	小児初期救急医療 研修会	神戸	2011.10.23

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
PCR簡便法でメチル化異常を診断した偽性副甲状腺機能低下症の1例	代謝内分泌科	奥野美佐子、米倉圭二、尾崎佳代、郷司克己	第20回	日本内分泌学会 臨床内分泌代謝 Update	札幌	2011.1.29
進行性骨異形成(POH)と偽性副甲状腺機能低下症(PHP1a)の母子例におけるGNAS遺伝子解析	代謝内分泌科	奥野美佐子、米倉圭二、尾崎佳代、竹島泰弘、郷司克己	第45回	日本小児内分泌学会 術集会	大宮	2011.10.8
進行性骨異形成(POH)と偽性副甲状腺機能低下症(PHP1a)の母子例におけるGNAS遺伝子解析	代謝内分泌科	奥野美佐子、米倉圭二、尾崎佳代、郷司克己	第45回	兵庫内分泌研究会	神戸	2011.7.16
出会いから未来へ～子どもたちの笑顔のために	リウマチ科	三好麻里	第21回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会・会頭講演	神戸	2011.10.16
シンポジウム：生物学的製剤の実際安全性をどう確保するか	リウマチ科	中岸保夫	第20回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	那覇	2011.2.12
トシリズマブの24時間持続点滴による緩徐投与で投与時反応を回避できた全身型JIAの1例	リウマチ科	安部信吾	第20回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	那覇	2011.2.12
インフレキシマブが有効であった難治性高安病の1例	リウマチ科	笠井和子	第24回	近畿小児科学会	神戸	2011.3.13
早期に診断しえた高安病の1例	リウマチ科	笠井和子	第253回	日本小児科学会 兵庫県地方会・総会	神戸	2011.5.21
インフレキシマブからトシリズマブへスイッチした多関節型JIAの1例	リウマチ科	中岸保夫	第55回	日本リウマチ学会 総会・学術集会	神戸	2011.7.18
地域の中核病院と連携してトシリズマブ治療を行っている全身型若年性特発性関節炎の1例	リウマチ科	笠井和子	第254回	日本小児科学会 兵庫県地方会	姫路	2011.9.17
生物学的製剤を中止できたJIA症例についての検討	リウマチ科	中岸保夫	第21回	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会・シンポジウム	神戸	2011.10.14
有熱性難治性てんかん重積状態で発症したADEMの1例	脳神経内科	辻真之介、丸山あずさ、永瀬裕朗 楠元真由美、山口善道、福原信一 竹田洋樹、上谷良行	第50回	日本小児神経学会 近畿地方会	大阪	2011.10.22
小児神経集中治療における非けいれん性発作の脳波波形について	脳神経内科	丸山あずさ、中川拓、藤田杏子、佐治洋介、永瀬裕朗	第53回	日本小児神経学会総会	横浜	2011.5.26-28
小児の難治性熱性けいれん重積状態に対する管理方法はけいれん重積型脳症発生頻度に関連する	脳神経内科	永瀬裕朗、中川拓、藤田杏子、佐治洋介、丸山あずさ	第53回	日本小児神経学会総会	横浜	2011.5.26-28

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
わが国における乳幼児頭部外傷例の虐待通告基準の検証	脳神経内科	藤田杏子、永瀬裕朗、佐治洋介、宅見晃子、上谷良行	第114回	日本小児科学会 学術集会	東京	2011.8.12-14
小児の難治性熱性けいれん重積状態に対する管理方法	脳神経内科	永瀬裕朗		第1回神戸大学 てんかん臨床研究会 講演会	神戸	2011.7.9
シンポジウム【児童虐待への取り組み】 医療における虐待対応	脳神経内科	永瀬裕朗		第28回兵庫県小児 保健協会総会	神戸	2011.8.6
死亡事例検討	脳神経内科			平成23年度 第1回こどもと親への 育児支援研究会	研修室 AB	2011.5.21
臓器移植法における児童虐待の扱いとその問題点	脳神経内科			平成23年度 第2回こどもと親への 育児支援研究会	研修室 AB	2011.9.10
食物負荷試験でのエネプソン投与回数に関する検討	アレルギー科	田中裕也	第23回	日本アレルギー学会 春季臨床大会	千葉	2011.5.14
食物アレルギー漢字におけるエビペン投与に対する学校の対応について	アレルギー科	安部信吾	第114回	日本小児科学会 学術集会	東京都	2011.8.14
CNS-directed therapy in JACLS ALL-02 study for B-precursor ALL	血液腫瘍内科	Daichiro Hasegawa		St. Jude Viva Forum Pediatric Oncology 2011, Singapore	Singapore	2011.03.21
Successful Abolition of Prophylactic Cranial Irradiation in Children with Non-T cell Acute Lymphoblastic Leukemia (ALL) in the Japan Association of Childhood Leukemia Study (JACLS) ALL-02 trial	血液腫瘍内科	Daichiro Hasegawa		The 53th Annual Meeting of American Society of Hematology	San Diego	2011.12.10
JAK2 mutations and CRLF2 rearrangements in Down Syndrome-Associated Acute Lymphoblastic Leukemia in Japan	血液腫瘍内科	Yoshiyuki Kosaka		The 53th Annual Meeting of American Society of Hematology	San Diego	2011.12.10
IKZF1 Deletion Is Strongly Associated with Risk of Relapse in Intermediate Risk Group in JACLS ALL02 Cohort	血液腫瘍内科	Daichiro Hasegawa Yoshiyuki Kosaka		The 53th Annual Meeting of American Society of Hematology	San Diego	2011.12.10
Outcomes in Children with Severe Aplastic Anemia Receiving Bone Marrow Transplantation from an HLA-Matched Family Donor or Intensive Immunosuppressive Therapy As First-Line Treatment	血液腫瘍内科	Yoshiyuki Kosaka		The 53th Annual Meeting of American Society of Hematology	San Diego	2011.12.10
Antithymocyte Globulin (ATG), Cyclosporine (CyA), and Danazol Versus ATG and CyA As Treatment for Children with Aplastic Anemia: Result of Matched-Pair Analysis	血液腫瘍内科	Yoshiyuki Kosaka		The 53th Annual Meeting of American Society of Hematology	San Diego	2011.12.10

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
腹部コンパネトメント症候群をきたした巨大腹部腫瘍の一例	血液腫瘍内科	石田敏章、川崎英史、田中愛子、西井達矢、赤坂好宣、吉田牧子、山口善道、竹田洋樹、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		兵庫県小児 Tumor board	神戸	2011.1.21
膀胱内圧測定により早期に腹腔内圧高血圧症と診断し、腹部コンパネトメント症候群を回避し得た腹部巨大腫瘍の一例	血液腫瘍内科	石田敏章、川崎英史、田中愛子、竹田洋樹、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之、尾藤祐子、横井暁子、西井達矢、赤坂好宣、吉田牧子、山口善道		小児がんカンファレンス	大阪	2011.2.19
急速に増大したBurkitt lymphoma に対し、ストマ増設を施行した一例	血液腫瘍内科	谷本光隆、荒井洋志、田村亮、田浦康明、清水裕史、岡本光正、楠木由美子、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之、赤坂好宣、吉田牧子		近畿小児がん研究会	神戸	2011.2.26
造血幹細胞移植後患者における組織え型トロンボモジュリン製剤の使用経験	血液腫瘍内科	山下達也、長谷川大一郎、奥野啓介、田中愛子、石田敏章、竹田洋樹、川崎圭一郎、小阪嘉之	第 34 回	日本造血細胞移植学会 総会	愛媛	2011.3.8
当科における非寛解期造血幹細胞移植症例の後方視的検討	血液腫瘍内科	石田敏章、長谷川大一郎、山下達也、奥野啓介、田中愛子、竹田洋樹、川崎圭一郎、小阪嘉之	第 34 回	日本造血細胞移植学会 総会	愛媛	2011.3.8
造血幹細胞移植に伴う臀部皮膚トブラブルの予防的ケアの検討	血液腫瘍内科	高澤道子、山口智子、武田志乃、長谷川大一郎、小阪嘉之、武川元美、菅野由美子	第 34 回	日本造血細胞移植学会 総会	愛媛	2011.3.8
治療抵抗性進行神経芽腫に対し臍帯血移植を施行し、良好な経過を得ている 2 症例	血液腫瘍内科	田中愛子、宮田憲二、水田麻雄、山下達也、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		近畿臍帯血研究会	大阪	2011.5.7
汎血球減少を乳児期に認め、2年後に骨髄肉腫を発症した 1 例	血液腫瘍内科	山下達也、石田敏章、大森翔子、水田麻雄、宮田憲二、田中愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		兵庫県小児血液疾患懇話会	神戸	2011.6.10
当科における造血幹細胞移植後微小血管障害の検討	血液腫瘍内科	長谷川大一郎、大森翔子、水田麻雄、宮田憲二、山下達也、田中愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之		神戸 DIC フォーラム	神戸	2011.6.24
免疫寛容療法 (IT) 開始 3 年半でインヒビター値の再上昇を認めている血友病 A の 1 例～IT を継続？それとも中止？	血液腫瘍内科	大森翔子、水田麻雄、宮田憲二、山下達也、田中愛子、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		阪神ヘモフィリア研究会	大阪	2011.6.25
小児白血病の最新の知見	血液腫瘍内科	小阪嘉之		先端医療のタベ	神戸	2011.6.26
汎血球減少を乳児期に認め、2年後に骨髄肉腫を発症した 1 例	血液腫瘍内科	石田敏章、山下達也、大森翔子、水田麻雄、宮田憲二、田中愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		神戸白血病懇話会	神戸	2011.7.9

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	第○会	学 会 名	主 催 都 市 名	開 催 年 月 日
新 ALL プロトコルのスタートに向けて： Children's Oncology Group の治療研究の歴史	血液腫瘍内科	長谷川大一郎		第 11 回 JACLS セミナー	沖縄	2011.7.10
BU/L-PAM による PBSCT 後早期に 脊髄多発転移にて再発を認めた髄芽腫の 2 例	血液腫瘍内科	山下達也、宮田憲二、水田麻雄、田中愛子 石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎 小坂嘉之、山元一樹、河村淳史、長嶋達也 赤坂好宣、副島俊典、吉田牧子		日本小児脳腫瘍 コンソーシアム 年次総会	大阪	2011.7.16
小児血液疾患における rTM の使用経験	血液腫瘍内科	小坂嘉之		栃木 DIC 研究会	宇都宮	2011.7.29
治療に苦慮している胸腔内 Sarcoma NOS の一例	血液腫瘍内科	田中愛子、宇仁田亮、山下達也、石田敏章 長谷川大一郎、川崎圭一郎、小坂嘉之 赤坂好宣、吉田牧子		小児がん カンファレンス	大阪	2011.9.17
First line treatment of aplastic anemia in children: transplantation vs immunosuppressive therapy	血液腫瘍内科	Yoshiyuki Kosaka	第 73 回	日本血液学会総会	名古屋	2011.10.14
Acute myeloid leukemia with t(16;21)(q24;q22) and the gene analysis of the chromosomal aberration	血液腫瘍内科	Aiko Tanaka, Daiichiro Hasegawa Yoriko Noguchi, Yuji Nakamachi Chinami Oyabu, Tomoe Kikuma, Kenji Miyata Tatsuya Yamashita, Toshiaki Ishida Keiichiro Kawasaki, Seiji Kawano Yoshiyuki Kosaka	第 73 回	日本血液学会総会	名古屋	2011.10.14
Impact of treatment of G-CSF after allogeneic HSCT for childhood myelodysplastic syndrome	血液腫瘍内科	Daichiro Hasegawa	第 73 回	日本血液学会総会	名古屋	2011.10.14
当科における移植関連微小血管障害および 肝中心静脈閉塞症に関する検討	血液腫瘍内科	長谷川大一郎、大森翔子、水田麻雄 宮田憲二、山下達也、田中愛子、石田敏章 川崎圭一郎、小坂嘉之		神戸血液病研究会	神戸	2011.10.29
ダウン症候群関連 ALL の発症における JAK2, および CRLF2 遺伝子の解析	血液腫瘍内科	小坂嘉之	第 53 回	日本小児血液・ がん学会学術総会	群馬	2011.11.25
JPLSG AML-05 臨床研究において発生した 有害事象の検討	血液腫瘍内科	小坂嘉之	第 53 回	日本小児血液・ がん学会学術総会	群馬	2011.11.25
AML99 登録終了後の JACLS 登録 AML 症例の 治療成績の検討	血液腫瘍内科	小坂嘉之	第 53 回	日本小児血液・ がん学会学術総会	群馬	2011.11.25
造血幹細胞移植時の栄養状態が移植後に 与える影響	血液腫瘍内科	田中愛子、長谷川大一郎、水田麻雄 宮田憲二、山下達也、石田敏章、川崎圭一郎 脇田真季、雨海照祥、鳥井隆志、深津草子 小坂嘉之	第 53 回	日本小児血液・ がん学会学術総会	群馬	2011.11.25

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
単一施設におけるフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病の治療成績	血液腫瘍内科	宮田憲二、長谷川大一郎、水田麻雄 山下達也、田中愛子、石田敏章、川崎圭一郎 中町祐司、河野誠司、小坂嘉之	第53回	日本小児血液・ がん学会学術総会	群馬	2011.11.25
卵巣混合型胚細胞腫瘍に合併した抗NMDA受容体脳炎に対し腫瘍摘出術、免疫療法が著効した女児例	血液腫瘍内科	石田敏章、山下達也、宮田憲二、田中愛子 丸山あずさ、永瀬裕朗、竹田洋樹、荒井洋志 尾藤祐子、吉田牧子、高橋幸利、長谷川大 一郎、川崎圭一郎、小坂嘉之	第53回	日本小児血液・ がん学会学術総会	群馬	2011.11.25
一過性の汎血球減少を乳児期に認め、 2年後に骨髓肉腫を発症した1例	血液腫瘍内科	山下達也、石田敏章、水田麻雄、宮田憲二 田中愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎 小坂嘉之	第53回	日本小児血液・ がん学会学術総会	群馬	2011.11.25
造血幹細胞移植後肝中心静脈閉塞症に対して組換え 型トロンボモジュリン製剤が奏効した若年型骨髓単 球性白血病の一例	血液腫瘍内科	水田麻雄、長谷川大一郎、川崎英史 宮田憲二、山下達也、田中愛子、石田敏章 川崎圭一郎、小坂嘉之、松田和之、小池健一	第53回	日本小児血液・ がん学会学術総会	群馬	2011.11.25
JACLS ALL02 コホートにおける IKZF1/CRLF2 遺伝子解析	血液腫瘍内科	浅井大介、今村俊彦、末延聡一 長谷川大一郎、出口隆生、橋井佳子 松本公一、河崎裕英、堀浩樹、堀部敬三 八木啓子、原純一、小田慈	第53回	日本小児血液・ がん学会学術総会	群馬	2011.11.25
オプソクロモヌス・ミオクロモヌス症候群を 呈した神経芽腫の2例	血液腫瘍内科	荒井洋志、尾藤祐子、西島栄治、横井睦子 中尾真、橋木由美子、岡本光正、馬場勝尚 田村亮、園田真理、洲尾昌伍、小坂嘉之 長谷川大一郎、石田敏章、赤坂好宣 吉田牧子、高橋幸利	第53回	日本小児血液・ がん学会学術総会	群馬	2011.11.25
当院で経験した肺芽腫9例の検討	血液腫瘍内科	横井睦子、中尾真、尾藤祐子、荒井洋志 西島栄治、長谷川大一郎、竹田洋樹 川崎圭一郎、小坂嘉之、赤坂好宣、吉田牧子	第53回	日本小児血液・ がん学会学術総会	群馬	2011.11.25
単一施設におけるフィラデルフィア染色体 陽性急性リンパ性白血病の治療成績	血液腫瘍内科	田中愛子、宮田憲二、長谷川大一郎 水田麻雄、山下達也、石田敏章、川崎圭一郎 中町祐司、河野誠司、小坂嘉之		兵庫県白血病懇話会	神戸	2011.12.3
Device release の判断に迷った Amplatzer Duct Occluder を用いた PDA 閉鎖術の2症例	循環器科	田中敏克、小川禎治、佐藤有美、亀井直哉 古賀千穂、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第22回	日本小児 インターベンション 研究会	岡山	2011.1.20-22
巨大 Sac を伴う多発性肺動脈静脈瘻 (PAVF) に対し コイル塞栓術を施行した1例 — GDC, Orbit coil の使用経験 —	循環器科	佐藤有美、田中敏克、亀井直哉、小川禎治 古賀千穂、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第22回	日本小児 インターベンション 研究会	岡山	2011.1.20-22

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
不整脈原性左室心筋症を疑う1男児例	循環器科	佐藤有美、城戸佐知子、亀井直哉、小川禎治、古賀千穂、富永健太、藤田秀樹、田中敏克	第25回	日本小児循環器学会近畿中四国地方会	大阪	2011.3.6
巨大な多発性肺動脈静脈瘻に対してコイル塞栓術を施行した1例	循環器科	佐藤有美、田中敏克、亀井直哉、小川禎治、古賀千穂、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第24回	近畿小児科学会	神戸	2011.3.13
乳幼児の心房中隔欠損および卵円孔開存をいかにフォローアップすべきか？	循環器科	田中敏克、小川禎治、佐藤有美、亀井直哉、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第114回	日本小児科学会学術集会	東京	2011.4.15-17
術後横膈神経麻痺症例の検討	循環器科	小川禎治、佐藤有美、古賀千穂、富永健太、田中敏克、城戸佐知子、門脇輔、松久弘典、長谷川智巳、圓尾文子、大嶋義博	第29回	西日本小児循環器HOT研究会	大阪	2011.6.11
術後肺動脈狭窄に対し複数回のバルーン血管形成術を施行した症例の検討	循環器科	田中敏克、小川禎治、佐藤有美、亀井直哉、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第47回	日本小児循環器学会学術集会	福岡	2011.7.6-8
ASDに対するMRI評価～ASOの可否について～	循環器科	佐藤有美、田中敏克、川崎英史、亀井直哉、小川禎治、古賀千穂、富永健太、藤田秀樹、城戸佐知子	第47回	日本小児循環器学会学術集会	福岡	2011.7.6-8
Amplatzer Septal Occluderを用いた心房中隔欠損閉鎖術前後での心電図変化	循環器科	小川禎治、亀井直哉、古賀千穂、佐藤有美、富永健太、田中敏克、城戸佐知子、藤田秀樹	第47回	日本小児循環器学会学術集会	福岡	2011.7.6-8
右心バイパス術後患者における抗凝固療法ー主に合併症についてー	循環器科	城戸佐知子、田中敏克、富永健太、佐藤有美、小川禎治、亀井直哉、古賀千穂	第47回	日本小児循環器学会学術集会	福岡	2011.7.6-8
肺動脈弁閉鎖不全に対し肺動脈弁置換術を施行した症例の術前後の循環動態の変化	循環器科	田中敏克、小川禎治、佐藤有美、富永健太、城戸佐知子	第31回	日本小児循環動態研究会	倉敷	2011.10.29
胎児期に徐脈、VSDでフォロー中に心筋緻密化障害様変化を認めたQT延長症候群の1例	循環器科	亀井直哉、佐藤有美、川崎英史、古賀千穂、小川禎治、富永健太、田中敏克、城戸佐知子	第20回	日本小児心筋疾患学会	東京	2011.11.19
先天性心疾患に対するカテーテル治療	循環器科	田中敏克		神戸市立西市民病院オープンカンファレンス	神戸	2011.9.8
兵庫県における小児急性血液浄化療法の実態調査	腎臓内科	田中亮二郎、河場康郎、神田杏子	第13回	神戸血液浄化研究会	神戸	2011.2.26
近畿地区における小児急性血液浄化療法の実態調査	腎臓内科	田中亮二郎	第24回	近畿小児科学会	神戸	2011.3.13
Thrombotic thrombocytopenic purpura with direct-Coombs-test positivity requires differentiation from EVANS syndrome	腎臓内科	Yukiya Kurahashi, Yasuo Kawaba Kyoko Kanda, Ryojiro Tanaka	The 11th	The 11th Asian Congress of Pediatric Nephrology	福岡	2011.6.2-4

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
A case of IgA nephropathy with the atypical clinical course	腎臓内科	Kyoko Kanda, Yasuo Kawaba, Ryojiro Tanaka	The 11th	The 11th Asian Congress of Pediatric Nephrology	福岡	2011.6.2-4
Renal biopsy criteria in children with asymptomatic constant isolated proteinuria	腎臓内科	Taketsugu Hama, Koichi Nakanishi Hironobu Mukaiyama, Hiroko Tagawa Yuko Shima, Ryojiro Tanaka Kiyoshi Hamahira, Hiroshi Kaito Kazumoto Iijima, Norishige Yoshikawa	The 11th	The 11th Asian Congress of Pediatric Nephrology	福岡	2011.6.2-4
Pre-dialytic chronic kidney disease in children: A nationwide survey in Japan	腎臓内科	Kenji Ishikura, Osamu Uemura Shuichi Ito, Naohira Wada, Motoshi Hattori Yasuo Ohashi, YukoHamasaki, Ryojiro Tanaka Koichi Nakanishi, Masataka Honda	The 11th	The 11th Asian Congress of Pediatric Nephrology	福岡	2011.6.2-4
小児無症候性蛋白尿における腎生検の適応	腎臓内科	浜武継、中西浩一、向山弘展、戸川寛子 島友子、田中亮二郎、貝藤裕史、飯島一誠 吉川徳茂	第54回	日本腎臓学会	横浜	2011.6.15-17
血清アルブミン値と組織所見に基づいた小児紫斑病性腎炎の治療戦略	腎臓内科	忍頂寺毅史、貝藤裕史、橋村裕也、神岡一郎 野津寛大、中西浩一、田中亮二郎、吉川徳茂 飯島一誠	第54回	日本腎臓学会	横浜	2011.6.15-17
ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の治療戦略と成績～単一施設研究～	腎臓内科	河場康郎、神田杏子、田中亮二郎	第54回	日本腎臓学会	横浜	2011.6.15-17
ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の治療	腎臓内科	河場康郎、神田杏子、田中亮二郎	第54回	兵庫県小児腎臓懇話会	神戸	2011.7.2
直接クームス陽性を呈したTTPは緊急時にEVANS症候群との鑑別は困難である	腎臓内科	倉橋幸也、神田杏子、田中亮二郎	第15回	兵庫県腎疾患治療懇話会	神戸	2011.7.8
直接クームス陽性を呈したTTPは緊急時にEVANS症候群との鑑別は困難である	腎臓内科	倉橋幸也、河場康郎、神田杏子、田中亮二郎	第43回	近畿小児腎臓病研究会	大阪	2011.11.5
Renal histological assessment in earlier phase can improve renal prognosis of childhood-onset lupus nephritis	腎臓内科	Shingo Ishimori, Hiroshi Kaito Hiromi Otsubo, Yuya Hashimura Naoya Morsada, Ichiro Kamioka Yuko Shima, Kiyoshi Hamahira Koichi Nakanishi, Ryojiro Tanaka Norishige Yoshikawa, Kazumoto Iijima	44th	American Society of Nephrology, 44th Annual Meeting and Scientific Exposition	Philadelphia, USA	2011.11.10-13
急性胃腸炎後に尿管結石閉塞による腎後性腎不全をきたした症例	腎臓内科	中川拓、神田杏子、田中亮二郎		大倉山カンファレンス	神戸	2011.7.15

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
ウイルス性胃腸炎のピットホール	腎臓内科	田中亮二郎	第2回	垂水区小児疾患懇話会	神戸	2011.8.6
児童精神医学講義(7.強迫性障害とうつ病)	精神科	関口典子		神戸大学発達科学部 後期集中講義	神戸	2011.12.18
児童精神医学講義(8.こどもの精神病)	精神科	関口典子		神戸大学発達科学部 後期集中講義	神戸	2011.12.18
児童精神医学講義(9.こどもの精神科入院)	精神科	関口典子		神戸大学発達科学部 後期集中講義	神戸	2011.12.18
産後うつを呈する者および家族への支援	精神科	関口典子		産後うつへの早期発見の ための医療保健関係者 研修事業	神戸	2011.11.27
食道皮膚瘻を合併したC型食道閉鎖症術後難治性 吻合部狭窄の1例	外科、形成外科	横井暁子、田村亮、田浦康明、岡本光正 荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、西島栄治 小野田素大、大山知樹、西本聡	第48回	日本小児外科学会総会	東京	2011.7.22
18trisomyに合併したC型食道閉鎖症例の治療経験	外科、新生児科	岡本光正、中尾秀人、横井暁子、中尾真 尾藤祐子、荒井洋志、橘木由美子、清水裕史 田浦康明、田村亮、谷本光隆、西島栄治	第48回	日本小児外科学会総会	東京	2011.7.22
当科でSwenson法を施行したヒルシュブルグ病 の術後排便機能についての検討	外科	中尾真、谷本光隆、田村亮、田浦康明 岡本光正、橘木由美子、荒井洋志、尾藤祐子 横井暁子、西島栄治	第48回	日本小児外科学会総会	東京	2011.7.22
胎児診断された両側嚢胞性肺疾患の治療経験	外科	中尾真、洲尾昌伍、園田真理、田村亮 熊場勝尚、岡本光正、橘木由美子、荒井洋志 尾藤祐子、横井暁子、西島栄治	第22回	日本小児呼吸器外科 研究会	大阪	2011.10.27
主肺管損傷を伴う外傷性肺損傷2例に対する 治療経験	外科	田浦康明、横井暁子、中尾真、尾藤祐子 荒井洋志、橘木由美子、岡本光正、清水裕史 田村亮、谷本光隆、西島栄治	第48回	日本小児外科学会総会	東京	2011.7.22
当院における横紋筋肉腫24症例の検討	外科	清水裕史、荒井洋志、横井暁子、谷本光隆 田村亮、田浦康明、岡本光正、橘木由美子 中尾真、尾藤祐子、西島栄治	第48回	日本小児外科学会総会	東京	2011.7.22

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
スライト気管形成術導入後の先天性気管狭窄症 36例の遠隔期のQOLについて	外科	橋本由美子、西島栄治、横井暁子、中尾真 尾藤祐子、荒井洋志、岡本光正、清水裕史 田浦康明、田村亮、谷本光隆	第48回	日本小児外科学会総会	東京	2011.7.22
胃後壁から胃内腔側と腹腔側へ巨大に発育し 呼吸障害を呈した新生児胃奇形腫の1例	外科	尾藤祐子、谷本光隆、田村亮、田浦康明 岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、中尾真 横井暁子、西島栄治	第33回	近畿小児がん研究会	神戸	2011.2.26
Adrenocortical carcinoma in infants: Report of two cases presenting with Cushing's syndrome	外科	尾藤祐子、谷本光隆、田村亮、田浦康明 岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、中尾真 横井暁子、西島栄治	第44回	Pacific Association of Pediatric Surgeons	Cankun, Mexico	2011.4.10
長期あるいは永久ストーマに対して手術治療を 施行した症例	外科	尾藤祐子、谷本光隆、田村亮、田浦康明 岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、中尾真 横井暁子、西島栄治	第25回	日本小児ストーマ・ 排泄管理研究会	福岡	2011.4.23
交通外傷の初期治療後に発症した 後天性声門下腔狭窄症	外科	尾藤祐子、谷本光隆、田村亮、田浦康明 岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、中尾真 横井暁子、西島栄治	第25回	日本小児救急医学会	東京	2011.6.11
外科的治療を施行した超・極低出生体重児の 長期予後～就学期について	外科	尾藤祐子、谷本光隆、田村亮、田浦康明 岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、中尾真 横井暁子、西島栄治	第48回	日本小児外科学会 学術集会	東京	2011.7.20
超・低出生体重児の新生児期手術症例の短期・ 長期予後	外科	尾藤祐子、洲尾昌伍、園田真理、田村亮 馬場勝尚、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志 中尾真、横井暁子、西島栄治	第27回	日本小児外科学会秋季 シンポジウム	大阪	2011.10.29
The effect of inhaled budesonide on the patients with long-segment congenital tracheal stenosis in postoperative management	Department of Pediatric Surgery	Hiroshi Arai, Eiji Nishijima, Akiko Yokoi Makoto Nakao, Yuko Bitoh, Yumiko Tachibanaki, Mitsumasa Okamoto Hirohumi Shimizu, Yasuaki Taura, Ryo Tamura, Terutaka Tanimoto	第44回	Annual Meeting of the Pacific Association of Pediatric Surgeons	Cancun, Mexico	2011.4.10
悪性腫瘍患児にストーマを造設した最近の3例	外科	荒井洋志、西島栄治、鎌田直子	第25回	日本小児ストーマ・ 排泄管理研究会	福岡	2011.4.23
術前に窒息症状を呈した先天性気管狭窄症の検討	外科	荒井洋志、西島栄治、横井暁子、中尾真 尾藤祐子、橋本由美子、岡本光正、清水裕史 田浦康明、田村亮、谷本光隆	第25回	日本小児救急医学会	東京	2011.6.10-11
当科における食道静脈瘤の治療	外科	荒井洋志、西島栄治、横井暁子、中尾真 尾藤祐子、橋本由美子、岡本光正、馬場勝尚 田村亮、園田真理、洲尾昌伍	第38回	日本小児内視鏡研究会	長野	2011.7.2

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
日常診療の質と医師の生活の質の両方を維持する 観点からみた診療体制	外科	荒井洋志、西島栄治、横井暁子、中尾真 尾藤祐子、橋本由美子、岡本光正、清水裕史 田浦康明、田村亮、谷本光隆	第48回	日本小児外科学会総会	東京	2011.7.20
The treatment of tracheomalacia associated with congenital esophageal atresia	Department of Pediatric Surgery	Hiroshi Arai, Shogo Zuo, Mari Sonoda Ryo Tamura, Katsuhisa Baba Mitsumasa Okamoto, Yumiko Tachibanaki Yuko Bitoh, Makoto Nakao, Akiko Yokoi Eiji Nishijima	第22回	日本小児呼吸器外科 研究会	大阪	2011.10.27
オプソクロームス・ミオクロームス症候群を呈した 神経芽腫の2例	外科	荒井洋志、西島栄治、横井暁子、中尾真 尾藤祐子、橋本由美子、岡本光正、馬場勝尚 田村亮、園田真理、洲尾昌伍	第53回	日本小児血液・がん学 会学術集会	群馬	2011.11.25-27
当科における喉頭血管腫の治療	外科	田村亮、谷本光隆、田浦康明、岡本光正 橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真 横井暁子、西島栄治	第48回	日本小児外科学会	東京	2011.7.22
術前診断で先天性嚢胞性腺腫様奇形 (CCAM) と考え られたが、術後病理検査で気管支拡張症と判明した 外胚葉異形成症の1男児例	外科	田村亮、洲尾昌伍、園田真理、馬場勝尚 岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子 中尾真、横井暁子、西島栄治	第22回	日本小児呼吸器外科研 究会	大阪	2011.10.27
胸壁内に遺残したダブルバスキュラリカテーテルに対 して胸壁および背部の2方向より剥離を行い、除去し た1症例	外科	田村亮、洲尾昌伍、園田真理、馬場勝尚 岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子 中尾真、横井暁子、西島栄治	第9回	日本胎児治療学会	福岡	2011.12.3
稀な経過をたどった横隔膜ヘルニアの1例	外科	馬場勝尚、洲尾昌伍、園田真理、田村亮 岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子 中尾真、横井暁子、西島栄治	第47回	日本小児外科学会関西 地方会	大阪	2011.08.27
右中葉切除術を施行した肺炎性肺気腫の1例	外科	馬場勝尚、洲尾昌伍、園田真理、田村亮 岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子 中尾真、横井暁子、西島栄治	第22回	日本小児呼吸器外科研 究会	大阪	2011.10.27
腸間膜裂孔ヘルニア修復術後にヒルシユスブルング 病の診断に至った1例	外科	洲尾昌伍、馬場勝尚、園田真理、田村亮 岡本光正、橋本由美子、荒井洋志、尾藤祐子 中尾真、横井暁子、西島栄治	第47回	日本小児外科学会近畿 地方会	大阪	2011.8.27
当院で経験した肝芽腫9例の検討	外科	横井暁子、洲尾昌伍、馬場勝尚、園田真理 田村亮、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志 尾藤祐子、中尾真、西島栄治	第53回	日本小児血液・がん学 会学術集会	群馬	2011.11.25-27
囊胞開窓ドレナージ術が延命に有効であった、左上 葉巨大先天性嚢胞性腺腫様奇形の1例	外科	横井暁子、洲尾昌伍、馬場勝尚、園田真理 田村亮、岡本光正、橋本由美子、荒井洋志 尾藤祐子、中尾真、西島栄治	第31回	日本小児内視鏡外科・ 手術手技研究会	大阪	2011.10.28

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
Aortopexy with Tracheal Reconstruction for Postoperative Tracheomalacia In Congenital Tracheal Stenosis	Department of Pediatric Surgery, cardiovascular surgery	Akko Yokoi, Eiji Nishijima, Makoto Nakao, Yuko Bitoh, Hiroshi Arai, Yoshihiro Oshima		2011 National Conference and Exhibition, American Academy of Pediatrics	Boston	2011.10.16
外傷性小腸穿孔の1例	外科	園田真理、洲尾昌伍、馬場勝尚、田村亮、岡本光正、橘木由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第47回	日本小児外科学会近畿地方会	大阪	2011.8.27
中葉症候群に対し中葉切除を行った2例の検討	外科	園田真理、洲尾昌伍、馬場勝尚、田村亮、岡本光正、橘木由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第22回	日本小児呼吸器外科研究会	大阪	2011.10.27
Tracheoplasty for congenital tracheal stenosis with unilateral lung agenesis or hypoplasia	外科	Mitsumasa Okamoto, Eiji Nishijima, Akiko Yokoi, Makoto Nakao, Yuko Bitoh, Hiroshi Arai		44th Annual Meeting of Pacific Association of Pediatric Surgery	Cancun, Mexico	2011.4.10-14
特異な形態を呈した右気管支閉鎖症の一例	外科、病理室	岡本光正、吉田牧子、洲尾昌伍、園田真理、田村亮、馬場勝尚、橘木由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第22回	日本小児呼吸器外科研究会	大阪	2011.10.27
ゴアテックス®パッチを用いて段階的に腹壁閉鎖した巨大臍帯ヘルニアの一例	外科	岡本光正、洲尾昌伍、園田真理、田村亮、馬場勝尚、橘木由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第31回	日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	大阪	2011.10.28
Swenson手術後の陳旧性仙骨前瘻孔～どう治療すればよいですか？～	外科	岡本光正、洲尾昌伍、園田真理、田村亮、馬場勝尚、橘木由美子、荒井洋志、尾藤祐子、中尾真、横井暁子、西島栄治	第66回	小児外科わからん会	大阪	2011.9.17
先天性（座長）	心臓血管外科	大嶋義博、坂崎尚徳	第111回	日本循環器学会近畿地方会	神戸	2011.6.25
もっと知りたい心臓手術⑦最近のトピックス	心臓血管外科	大嶋義博	第55回	神戸市難病連 医療・生活・教育に関する相談会	神戸	2011.7.3
小児補助循環の現状と課題（座長）	心臓血管外科	大嶋義博、宮路鑑	第47回	日本小児循環器学会	福岡	2011.7.6-8
沖縄での経験に始まる、総肺静脈還流異常常症手術術式の変遷	心臓血管外科	大嶋義博	第1回	那覇・南部地区心臓外科学術講演会	那覇	2011.8.27

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
気管狭窄(軟骨輪)を合併した先天性心疾患に対する外科治療の現状と今後の課題(優秀演題)	心臓血管外科	大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、門脇輔、横井曉子、西島栄治	第64回	日本胸部外科学会	名古屋	2011.10.10-12
肺動脈弁逆流との関連から見た術後再右室流出路形成の成績	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、松久弘典、河村朱美、門脇輔、中井秀和	第47回	日本小児循環器学会	福岡	2011.7.6-8
ECMO長期管理を経て救命しえた川崎病急性心筋梗塞の1症例	心臓血管外科	圓尾文子	第254回	日本小児科学会 兵庫地方会	姫路	2011.9.17
大動脈弁狭窄を合併した大動脈縮窄/ 大動脈離断複合に対する治療方針と手術成績	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、河村朱美、門脇輔、中井秀和、山口眞弘	第41回	日本心臓血管外科学会	舞浜	2011.2.23-25
縮型肺動脈閉鎖に対するRV-TV indexを用いた治療戦略の遠隔成績(シンポジウム)	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、門脇輔、中井秀和、山口眞弘	第47回	日本小児循環器学会	福岡	2011.7.6-8
当院における小児心疾患に対するECMO補助循環	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、門脇輔、中井秀和	第47回	日本小児循環器学会	福岡	2011.7.6-8
自己肺動脈壁パッチを用いた大動脈弓再建の2例	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、門脇輔	第51回	神戸心臓外科研究会 (KCCS)	神戸	2011.6.8
Sutureless法を用いた 総肺静脈還流異常症修復術の2例	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、門脇輔、野田怜	第52回	神戸心臓外科研究会 (KCCS)	神戸	2011.11.2
18トリソミー児に対する心臓手術の経験	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、門脇輔、中井秀和	第54回	関西胸部外科学会	高松	2011.6.30-7.1
神経筋疾患患者における気管腕頭動脈瘻に対する外科治療	心臓血管外科、 小児外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、門脇輔、久松千恵子、西島栄治、大北裕	第64回	日本胸部外科学会	名古屋	2011.10.10-12
リボフラビン(ピタミンB2)大量持続投与による移植冠動脈硬化抑制に関する検討	心臓血管外科	長谷川智巳、David J. Pinsky	第111回	日本外科学会	東京	2011.5.26-28
人材育成と災害医療(救急医療)	心臓血管外科	長谷川智巳(座長)	第9回	兵庫県立病院学会	神戸	2011.8.27
グレン術後心不全、心機能低下症例の検討	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、河村朱美、門脇輔、中井秀和	第4回	日本心臓血管外科学会	舞浜	2011.2.23-25
先天性気管狭窄を合併したheterotaxy症例に対するTAPVR repair+Glennおよびslide tracheoplastyの同時手術	心臓血管外科、 小児外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、門脇輔、西島栄治、横井曉子、中尾真	第57回	兵庫県心臓外科懇話会	神戸	2011.6.17

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
小児専門施設における成人期先天性心疾患手術症例の検討	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳 門脇輔、中井秀和、山口真弘	第54回	関西胸部外科学会	高松	2011.6.30-7.1
単心室に合併した心外型総肺静脈還流異常症に対する sutureless 法	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳 門脇輔、中井秀和	第47回	日本小児循環器学会	福岡	2011.7.6-8
先天性気管狭窄を合併した heterotaxy 症例に対する TAPVR repair+central PA plasty+Glenn および slide tracheoplasty の同時手術例	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳 門脇輔	第64回	日本胸部外科学会	名古屋	2011.10.10-12
小口径弁付導管による右室流出路再建術の早期成績	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳 門脇輔	第64回	日本胸部外科学会	名古屋	2011.10.10-12
稀な冠動脈起始異常に対する乳児期開心修復術の2症例	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳 門脇輔、野田怜	第62回	近畿心臓外科研究会	大阪	2011.11.19
完全型房室中隔欠損症に対する手術成績	心臓血管外科	門脇輔、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳 松久弘典、河村朱美、中井秀和	第41回	日本心臓血管外科学会	浦安	2011.2.23-25
Complex Aortic re-coarctation) に対し上行大動脈-腹部大動脈バイパスを施行した1例	心臓血管外科	門脇輔、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳 松久弘典	第54回	関西胸部外科学会	高松	2011.6.30-7.1
小児帽弁手術の中期遠隔期成績	心臓血管外科	門脇輔、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳 松久弘典	第47回	日本小児循環器学会	福岡	2011.7.6-8
乳児期帽弁病変に対し自己心膜を用いた commissural repair を施行した2例	心臓血管外科	門脇輔、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳 松久弘典	第60回	近畿心臓外科研究会	大阪	2011.7.23
IAA/CoA complex に対する両側肺動脈絞扼術-大動脈弁輪径の変化-	心臓血管外科	門脇輔、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳 松久弘典	第64回	日本胸部外科学会	名古屋	2011.10.10-12
生直後に ECMO 導入し根治術に至った肺動脈弁欠損の1救命例	心臓血管外科	門脇輔、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳 松久弘典、野田怜	第48回	兵庫県心臓外科懇話会	神戸	2011.11.4
乳児期 Scimitar 症候群の手術経験	心臓血管外科	中井秀和、大嶋義博、圓尾文子長谷川智巳 松久弘典、河村朱美、門脇輔	第54回	関西胸部外科学会	高松	2011.6.30-7.1
当院の HLHS に対する両側肺動脈絞扼術後の治療成績	心臓血管外科	中井秀和、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳 松久弘典、河村朱美、門脇輔	第47回	日本小児循環器学会	福岡	2011.7.6-8
靴上部と小脳虫部に腫瘍を形成した髄芽腫の1例	脳神経外科	長嶋宏明、長嶋達也、河村淳史、山元一樹	第61回	日本神経外科学会 近畿地方会	大阪	2011.4.2

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
虐待による頭部外傷死亡例と心肺停止例の検討 (震災により開催中止、紙上発表)	脳神経外科	長嶋達也、山元一樹、河村淳史	第39回	日本小児神経外科学会	仙台	2011.5.28-29
虐待による小児頭部外傷死亡例の検討 —脳死下臓器移植の観点から	脳神経外科	長嶋達也、河村淳史、山元一樹	第3回	日本こども虐待医学 研究会	北九州	2011.7.23-24
脳瘤・水頭症を合併した先天性筋ジストロフィーの 1症例	脳神経外科	塩見亮司、長嶋達也、河村淳史、山元一樹 菊池陽一郎	第62回	日本脳神経外科学会 近畿地方会	大阪	2011.9.3
先天性重複足に合併する 脊髄脂肪腫の1例	脳神経外科	菊池陽一郎、河村淳史、長嶋達也、山元一樹 塩見亮司	第64回	近畿脊髄外科研究会	大阪	2011.9.3
重症の症候群性頭蓋顔面奇形に対する集学的治療の 技術的進歩と課題	脳神経外科	長嶋達也、山元一樹、河村淳史、塩見亮司 菊池陽一郎	第70回	日本脳神経外科学会 総会	東京	2011.10.14
乳幼児頭蓋咽頭腫に対する治療戦略の検討 —自験例の検証と文献的考察	脳神経外科	菊池陽一郎、河村淳史、長嶋達也、山元一樹 塩見亮司	第70回	日本脳神経外科学会 学術総会	横浜	2011.10.12
乳幼児頭部外傷における虐待リスクの検討	脳神経外科	山元一樹、長嶋達也、河村淳史、溝脇卓	第70回	日本脳神経外科学会 総会	横浜	2011.10.14
水頭症を合併した筋ジストロフィーの3症例	脳神経外科	塩見亮司、長嶋達也、河村淳史、山元一樹 菊池陽一郎	第70回	日本脳神経外科学会 総会	横浜	2011.10.12
骨延長器による頭蓋・顔面手術の工夫	脳神経外科	山元一樹、長嶋達也、河村淳史、塩見亮司	第29回	日本こども病院神経 外科医会	大阪	2011.11.26
裂幅の広い片側唇顎口蓋裂に対する当科の治療方針	形成外科	大山知樹	第54回	日本形成外科学会 学術集会	徳島	2011.4.13
唇裂2次修正における赤唇の増減術	形成外科	鄭聡柄	第98回	日本形成外科学会関西 支部学術集会	大阪	2011.7.31
著しく中間唇の小さい両側唇裂の2例	形成外科	清家志円	第99回	日本形成外科学会 関西支部学術集会	京都	2011.12.3
距舟関節に足根骨癒合を認めた1例	整形外科	藁田正也、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀	第48回	近畿小児整形外科 懇話会	大阪	2011.08.06
内反膝変形を呈する偽性軟骨無形成症に対して Taylor Spatial Frame創外固定器の使用により変形矯 正及び骨延長術を施行した1例	整形外科	藁田正也、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀	第23回	日本整形外科学会骨系 統疾患研究会	京都	2011.12.09

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
足根骨癒合症の治療経験	整形外科	蓑田正也、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀	第22回	日本小児整形外科学会	京都	2011.12.8-9
内反膝変形を呈する偽性軟骨無形成症に対して創外固定器の使用により変形矯正及び骨延長術を施行した二例	整形外科	蓑田正也、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀	第25回	日本創外固定・骨延長学会	東京	2012.1.13-14
Outcomes of the Ponseti method treatment of congenital clubfootA five year follow-up period	整形外科	Maki Kinugasa Shinichi Satsuma Daisuke Kobayashi	8th	○ APOA, Spine and Pediatric Sections 2011The 8th Combined Congress of the Spine and Pediatric Sections, Asia Pacific Orthopaedic Association	岐阜市	2011.6.1-4
ペルテス病における保存療法例と手術療法例の比較検討	整形外科	衣笠真紀、蓑田正也、薩摩真一、小林大介	第50回	日本小児股関節研究会	諏訪市	2011.06.24-25
下肢痛で発症した帯状疱疹の2症例	整形外科	衣笠真紀、蓑田正也、薩摩真一、小林大介	第48回	近畿小児整形外科懇話会	大阪市	2011.08.06
骨病変を有したLCHの10症例	整形外科	衣笠真紀、蓑田正也、薩摩真一、小林大介	第22回	日本小児整形外科学会	京都市	2011.12.08-9
両母趾変形にて整形外科初診となった、Fibrodysplasia ossificans progressive の2例	整形外科	衣笠真紀、蓑田正也、薩摩真一、小林大介	第49回	近畿小児整形外科懇話会	大阪市	2012.02.04
Orthopaedic problems in the patients with myelomeningocele -Congenital abnormality and acquired disorder-	整形外科	Kobayashi D, Satsuma S, Kinugasa M Miho Inoue	8回	The 8th combined congress of the spine and pediatric sections APOA	岐阜	2011.6.1-4
創外固定を用いた小児の下肢変形矯正 延長術の合併症	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、蓑田正也	22	日本小児整形外科学会	京都市	2011.12.8-9
靭血的整復術がSecondary ossification centerの発現に与える影響について	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、蓑田正也	50	日本小児股関節研究会	諏訪	2011.6.24-25
二分脊椎症患者における遅発性神経障害と足部変形との関連	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、蓑田正也、長嶋達也、杉多良文	28	二分脊椎研究会	神戸	2011, 7.9

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
創外固定装着患者に対するケアマップを用いた看護援助への取り組み	看護部	山岡凡子、小林大介、薩摩真一、衣笠真紀	24	日本創外固定・骨延長学会	札幌	2011.2.11-12
骨癒合に明暗が分かれた先天性下腿偽関節症の2例	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀	第24回	日本創外固定・骨延長学会	札幌	2011.2.11-12
Prediction of acetabular growth by arthrography in the childhood with residual subluxation after developmental dysplasia of the hip	整形外科	Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi Maki kinugasa	第8回	Combined Congress of Spine and Pediatric Orthopaedic Sections, APOA	岐阜	2011.6.1-6.4
観血的整復術がSecondary ossification centerの出現に及ぼす影響について	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、井上美帆	第50回	日本小児股関節研究会	長野	2011.6.24-6.25
Prediction of the Clubfoot Prognosis by the Radiograph at Neonate	整形外科	Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi Maki kinugasa	第6回	International Clubfoot Congress, 25th SICOT	プラハ	2011.9.8
遅延性亜脱臼の補正手術 —ソルター骨盤骨切り術の長期成績を中心として—	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、蓑田正也	第22回	日本小児整形外科学会	京都	2011.12.8-9
遠視における屈折矯正の基本	眼科	野村耕治	第10回	近畿弱視斜視 アフタヌーンセミナー	大阪市	2011.2.27
学童期の眼の健康管理	眼科	野村耕治	第24回	京都学校医研修会	京都市	2011.3.19
屈折異常に起因する弱視の治療	眼科	野村耕治		宮城県眼科医会 小児眼科フォーラム	仙台市	2011.5.28
弱視診療中に診断された先天網膜分離症の1例	眼科	明石梓、平井宏二、横山知子、中村礼恵 野村耕治	第36回	日本小児眼科学会総会	京都市	2011.7.1
V型外斜視に対するupward transpositionの効果	眼科	平井宏二、横山知子、明石梓、野村耕治	第67回	日本弱視斜視学会総会	京都市	2011.7.1
発達遅滞児における斜視治療の検討	眼科	明石梓、平井宏二、横山知子、中村礼恵 野村耕治	第65回	日本臨床眼科学会総会	東京都	2011.10.7
遠視に起因する弱視の診断と治療	眼科	野村耕治		福井県眼科学術講演会	福井市	2011.11.5
小児における眼鏡の必要性	眼科	山本節	第26回	須磨区学術集団会	神戸市	2011.3.5

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
preferential looking 視力の信頼性	眼科	山本節	第36回	日本小児眼科学会	京都	2011.7.1
糖尿病網膜症など	眼科	山本節	平成23年	神戸市市民講座	神戸市	2011.10.6
小児眼科	眼科	山本節	平成23年	神戸視能訓練士学校	神戸市	2011.10.21
乳幼児における気道・嚥下・音声の諸問題	耳鼻咽喉科	阪本浩一	平成22年度	日本耳鼻咽喉科学会福祉医療乳幼児担当者全国大会	東京	2011.1.30
当科における一側性高度難聴の現況	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第112回	日本耳鼻咽喉科学会	京都	2011.5.20
当科における喉頭軟弱症の現況	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第6回	日本小児耳鼻咽喉科学会	大宮	2011.6.16
喉頭アレルギーの臨床像	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第9回	東播耳鼻科研究会	加古川	2011.9.15
超低出生体重児の聴力評価の現況と問題点	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第56回	日本聴覚医学会	福岡	2011.10.27
シンポジウム「慢性咳嗽研究の最前線」耳鼻咽喉科外来における慢性咳嗽の臨床一喉頭アレルギー・後鼻漏症候群を中心にー	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第63回	日本気管食道科学会	名古屋	2011.11.10
こどものいびきと無呼吸ーその実態と対策	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	平成23年第6回	市民健康フォーラム	加古川	2011.11.12
補聴器の種類、機能と価格	耳鼻咽喉科	大津雅秀		補聴器相談医委嘱および更新のための講習会(日本耳鼻咽喉科学会兵庫県地方部会)	神戸	2011.11.13
フィッティングのための調整手段	耳鼻咽喉科	大津雅秀		補聴器相談医委嘱および更新のための講習会(日本耳鼻咽喉科学会兵庫県地方部会)	神戸	2011.11.13
最新の補聴器	耳鼻咽喉科	阪本浩一		補聴器相談医委嘱および更新のための講習会(日本耳鼻咽喉科学会兵庫県地方部会)	神戸	2011.11.13

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	第○会	学 会 名	主 催 都 市 名	開 催 年 月 日
小児の一側性高度難聴おける内耳奇形の検討	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第 21 回	日本耳科学会	那覇	2011.11.14
MANAGEMENT OF UNILATERAL NONPALPABLE TESTIS FROM THE STANDPOINT OF A SCROTAL NUBBIN	泌尿器科	Yoshifumi Sugita, Yoshikiyo Nakagawa Eiji Hisamatsu, Kenichi Nishimura Hajime Kuwabara	第 12 回	Asia Pacific Association of Pediatric Urologists	Melbourne	2011.11.26
包皮皮下組織により新尿道を完全被覆する Free skin graft 法	泌尿器科	杉多良文、中川賀清、久松英治、西村謙一 桑原元	第 20 回	日本小児泌尿器科学会 総会	秋田	2011.7.15
停留精巣に対する手術方法の update	泌尿器科	杉多良文、久松英治、中川賀清、西村謙一 桑原元	第 61 回	日本泌尿器科学会中部 総会	京都	2011.11.16
停留精巣の手術治療のゆくえー精巣固定術の意義ー	泌尿器科	杉多良文	第 99 回	日本泌尿器科学会総会	名古屋	2011.4.24
包皮皮下組織により新尿道を完全被覆する Free graft 法	泌尿器科	杉多良文、久松英治、高木志寿子、中川賀清 岡田桂輔	第 99 回	日本泌尿器科学会総会	名古屋	2011.4.23
片側非触知精巣に対する治療戦略の有効性	泌尿器科	中川賀清、岡田桂輔、久松英治、高木志寿子 杉多良文	第 48 回	日本小児外科学会 学術集会	東京	2011.7.21
A CASE OF INTRAVESICAL PHALLUS ASSOCIATED WITH COVERD CLOACAL EXSTROPHY	泌尿器科	Keisuke Okada, Eiji Hisamatsu Shizuko Takagi, Yoshikiyo Nakagawa Yoshifumi Sugita	第 11 回	Korean and Japanese Society of Pediatric Urologist2011	釜山	2011.2.26
THE VALIDITY OF OUR RECENT STRATEGY FOR THE MANAGEMENT OF UNILATERAL IMPALPABLE TESTIS	泌尿器科	Yoshikiyo Nakagawa, Keisuke Okada Eiji Hisamatsu, Shizuko Takagi Yoshifumi Sugita	第 11 回	Korean and Japanese Society of Pediatric Urologist2011	釜山	2011.2.26
片側非触知精巣に対する治療戦略の有効性	泌尿器科	中川賀清、桑原元、西村謙一、久松英治 杉多良文	第 20 回	日本小児泌尿器科学会 総会	秋田	2011.7.15
当科における卵精巢性分化異常症の臨床的検討	泌尿器科	久松英治、岡田桂輔、高木志寿子、中川賀清 杉多良文	第 99 回	日本泌尿器科学会総会	名古屋	2011.4.23
THE LONG-TERM FOLLOW-UP OF 12 CASES OF OVOTESTICULAR DISORDERS OF SEX DEVELOPMENT: AN EXPERIENCE WITH LATE-DIAGNOSED CASES	泌尿器科	Eiji Hisamatsu, Hajime Kuwabara Kenichi Nishimura, Yoshikiyo Nakagawa Yoshifumi Sugita	第 12 回	Asia Pacific Association of Pediatric Urologists	Melbourne	2011.11.26
spiral Monti 法による腹壁導尿管2例の経験	泌尿器科	西村謙一、岡田圭輔、桑原元、久松英治 中川賀清、杉多良文	第 99 回	日本泌尿器科学会総会	名古屋	2011.4.23
陰嚢形成術の工夫	泌尿器科	西村謙一、桑原元、久松英治、中川賀清 杉多良文	第 20 回	日本小児泌尿器科学会 総会	秋田	2011.7.14

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
Covered cloacal exstrophy に伴う膀胱内陰茎の 1 例	泌尿器科	桑原元、西村謙一、久松英治、中川賀清 杉多良文	第 20 回	日本小児泌尿器科学会 総会	秋田	2011.7.14
小児歯科医に求められているもの — 食べることへの支援 —	小児歯科	曾根由美子		日本小児歯科学会 専門医セミナー	大阪	2011.6.26
歯科受診を契機に診断された血液疾患の 2 例	小児歯科	曾根由美子、石井信行	第 28 回	日本障害者歯科学会	福岡	2011.11.6
小児の摂食・嚥下指導の実際	小児歯科	曾根由美子	第 1 回	MFT 研修会	有馬	2011.11.23
化学療法を受ける悪性腫瘍疾患児に対する当科の取 組みから見えてきたこと	小児歯科	曾根由美子、岩瀬美紀、小林容子	第 49 回	日本小児歯科学会	岩手	2011.11.28
質の高い小児麻酔臨床について 術前診察から麻酔導入まで	麻酔科	香川哲郎	第 58 回	日本麻酔科学会	神戸	2011.5.19
生後 4 ヶ月～11 ヶ月の乳児開腹術における術後 フェンタニル持続静注の有効性と合併症	麻酔科	楠大弘、鹿原史寿子、丸山祐子、野村有紀 高辻小枝子、香川哲郎	第 58 回	日本麻酔科学会	神戸	2011.5.19
小児麻酔におけるセボフルランの有用性	麻酔科	香川哲郎	第 17 回	日本小児麻酔科学会	千里	2011.9.23
巨大頸部腫瘍を伴う乳児の MRI 検査の麻酔経験	麻酔科	山本亜也、鈴木毅、野村有紀、丸山祐子 似内久美子、古賀聡人、香川哲郎	第 17 回	日本小児麻酔科学会	千里	2011.9.24
手術を機に異常高血圧をきたし、腎血管性高血圧と 診断された小児の一例	麻酔科	川崎安希、黒崎明子、似内久美子、古賀聡人 池田優子、鹿原史寿子、池島典之、香川哲郎	第 31 回	日本臨床麻酔科学会	沖縄	2011.11. 4
低血糖が原因と考えられた術前低体温の一例	麻酔科	古賀聡人、池島典之、似内久美子、野村有紀 池田優子、鈴木毅、香川哲郎	第 31 回	日本臨床麻酔科学会	沖縄	2011.11. 5
Association of IL-6 Levels in Tracheal Aspirate Fluid with Tracheal Microbial Colonization in Ventilated Extremely Low Gestational Age Newborns	新生児科	溝淵雅巳	2011	PAS annual meeting	Denver	2011.4.30-5.3
Increased volume of tracheal aspirate fluid during the first week of life as a predictor of the development of bronchopulmonary dysplasia in extremely low gestational age newborns	新生児科	岩谷壮太	2011	PAS annual meeting	Denver	2011.4.30-5.3
Assessment of stages of fetal inflammatory response syndrome by early postnatal interleukin-6 and C-reactive protein levels in preterm infants.	新生児科	猪俣慶	2011	ESPR	Newcastle	2011.10.14-17

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
新生児期に心不全を呈した肝血管内皮腫の3例	新生児科	辻真之介	第252回	日本小児科学会 兵庫県地方会	西宮	2011.2.5
当院における在胎22週出生の児の臨床像の検討	新生児科	猪俣慶	第20回	近畿新生児学会	大阪	2011.3.5
慢性肺疾患増悪期におけるサーファクタント(S T A)洗浄の有効性	新生児科	岩谷壮太	第24回	近畿小児科学会	京都	2011.3.13
超早産児の正期産相当時MRIにおける大脳白質ADC値の検討	新生児科	浅野貴大	第24回	近畿小児科学会	京都	2011.3.13
超早産児の気管内吸引液中IL-6値と気道内細菌叢の関連性	新生児科	溝淵雅巳	第4回	周産期感染症研究会	神戸	2011.3.26
肺葉切除が困難であった巨大先天性嚢胞性腺腫様奇形(CCAM)の早産児の一例	新生児科	二野菜々子	第253回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸	2011.5.21
脳瘤を合併した先天性筋ジストロフィーの1例	新生児科	武岡恵美子	第253回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸	2011.5.21
重症慢性肺疾患罹患児の肺高血圧症管理の変遷と肺高血圧クリーゼ頻度および予後の変化	新生児科	芳本誠司	第114回	日本小児科学会	東京	2011.4.15
当院で経験した胎児母体間輸血症候群10症例の検討	新生児科	岸田祐介	第114回	日本小児科学会	東京	2011.4.15
極低出生体重児に発症し、晚期循環不全との鑑別を要した先天性副腎皮質過形成症の一例	新生児科	坂井仁美		新生児内分泌研究会	神戸	2011.6.2
出生前診断のなかった横隔膜ヘルニアの臨床像	新生児科	田中聡	第255回	未熟児新生児懇話会	神戸	2011.6.16
重症慢性肺疾患管理における経時的心電図評価の有用性	新生児科	芳本誠司	第47回	日本周産期新生児 医学会	札幌	2011.7.10-12
超早産児の重症Leaky Lung Syndromeに対するヒドロコルチゾン療法	新生児科	溝淵雅巳	第47回	日本周産期新生児 医学会	札幌	2011.7.10-12
胎内発症の頭蓋内出血を認めた早産児2例の新生児期脳波所見	新生児科	坂井仁美	第47回	日本周産期新生児 医学会	札幌	2011.7.10-12

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
一酸化窒素吸入療法 生直後の治療抵抗性低血圧に対してiNOが有効であった在胎23週の超早産児例 iNOの新しい可能性	新生児科	岩谷壮太	第47回	日本周産期新生児医学会	札幌	2011.7.10-12
日齢0のCRP値を用いた早産児 Fetal inflammatory response syndrome(FIRS)における炎症の時相の評価	新生児科	猪俣慶	第47回	日本周産期新生児医学会	札幌	2011.7.10-12
部分的機能温存が得られた新生児卵巣腫瘍転移症例 2例の超音波所見	新生児科	田中聡	第47回	日本周産期新生児医学会	札幌	2011.7.10-12
late preterm HIE 症例の急性期 MRI と1歳時予後	新生児科	浅野貴大	第47回	日本周産期新生児医学会	札幌	2011.7.10-12
絨毛膜羊膜炎母体より出生した 腹壁破裂合併超早産児の1例	新生児科	石原佳代	第47回	日本周産期新生児医学会	札幌	2011.7.10-12
先天性副腎皮質過形成は 副腎出血の危険因子となるか？	新生児科	祖父江俊樹	第254回	日本小児科学会 兵庫県地方会	姫路	2011.9.17
医療用 NO ガス 導入後の NO 吸入療法施行例の変化	新生児科	芳本誠司	第56回	日本未熟児新生児学会	東京	2011.11.13-15
超早産児の人工呼吸器関連肺炎の早期診断における 気管内吸引液分析の有用性	新生児科	溝淵雅巳	第56回	日本未熟児新生児学会	東京	2011.11.13-15
Subclinical TTTS の臨床像と予後	新生児科	坂井仁美	第56回	日本未熟児新生児学会	東京	2011.11.13-15
超早産児の気管内吸引液量増加は胎児ストレスと 関連するか？	新生児科	岩谷壮太	第56回	日本未熟児新生児学会	東京	2011.11.13-15
FIRS の時相の違いによる生後合併症の検討	新生児科	猪俣慶	第56回	日本未熟児新生児学会	東京	2011.11.13-15
兵庫県立子ども病院超周産期医療センターにおける、 早産児の双胎の急性期予後と合併症の推移	新生児科	田中聡	第56回	日本未熟児新生児学会	東京	2011.11.13-15
本邦における新生児 NO 吸入療法の歴史と アイノフロー導入後の展望	新生児科	芳本誠司		iNO Experts Meeting in 兵庫	神戸	2011.11.25
アイノフローを用いた肺高血圧症に対する治療戦略	新生児科	岩谷壮太		iNO Experts Meeting in 兵庫	神戸	2011.11.25

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
新生児室における感染対策	新生児科	溝淵雅巳	平成23年度	兵庫県周産期医療研修会	神戸	2011.12.17
周産期に心不全・DICをきたした巨大肝血管腫の5例	新生児科	田中聡	第256回	未熟児新生児懇話会	神戸	2011.10.6
preterm PROMの児のWhite Matter Injury～適切なTerminationの決定を目指して～	新生児科	河合清日	第257回	未熟児新生児懇話会	神戸	2011.12.1
平成21年兵庫県周産期医療システム母体紹介搬送情報提供書集計結果について	産科	船越徹	平成22年度	家族計画母体保護法指導者講習会伝達講習会	神戸	2011.2.6
周産期における救急対応	産科	船越徹	平成22年度	神戸市立医療センター中央市民病院研修医セミナー	神戸	2011.3.4
早産期における胎内感染発生状況の検討	産科	喜吉賢二、城道久、牧志綾、笹原淳、田中達也、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第4回	周産期新生児感染症研究会	神戸	2011.3.26
サイトメガロウイルス感染における妊婦および新生児リスクリーニングの成果	産科	園山綾子1)、谷村憲司1) 平久進也1) 船名康彦1)、森岡一朗2)、大橋正伸3) 船越徹、古谷野伸4)、井上直樹5) 峯松俊夫6)、山田秀人1) 神戸大学大学院医学研究科産科婦人科学分野1) 神戸大学大学院医学研究科小児科学分野2) 医療法人三友会若宮病院産婦人科3) 旭川医科大学小児科4) 国立感染症研究所5) 愛泉会日南病院6)	第23回	兵庫県母性衛生学会	神戸	2011.6.4
臍帯遺瘍を合併し突然胎児機能不全を呈した空腸閉鎖・羊水過多の一例	産科	丸野由美香、喜吉賢二、西本昌司、牧志綾、佐々木絢子、田中達也、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第85回	兵庫県産科婦人科学会	神戸	2011.6.5
最近当科で経験した母児間輸血症候群の一例	産科	牧志綾、佐本崇、城道久、笹原淳、田中達也、高松祐幸、喜吉賢二、船越徹	第124回	近畿産科婦人科学会	和歌山	2011.6.18-19
胎児水腫を契機に診断されたガレン静脈瘤の一例	産科	城道久、喜吉賢二、牧志綾、笹原淳、田中達也、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第124回	近畿産科婦人科学会	和歌山	2011.6.18-19
妊婦29週未満早産症例における胎内感染の検討	産科	喜吉賢二、城道久、牧志綾、笹原淳、高松祐幸、田中達也、佐本崇、船越徹	第47回	周産期新生児医学会	札幌	2011.7.10-12
当院で扱った胎児卵巣嚢腫16例の検討	産科	高松祐幸、城道久、牧志綾、笹原淳、田中達也、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第47回	周産期新生児医学会	札幌市	2011.7.10-12

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
妊娠28週未満の帝王切開における子宮筋切開法に関する検討	産科	城道久、喜吉賢二、牧志綾、佐々木紘子 笹原淳、田中達也、高松祐幸、佐本崇 船越徹	第47回	周産期新生児医学会	札幌市	2011/7/10-2011/7/12
妊娠第2三半期以降の双胎1児死亡症例の検討	産科	笹原淳、城道久、牧志綾、田中達也 高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第47回	周産期新生児医学会	札幌市	2011/7/10-2011/7/12
サイトメガロウイルス妊婦・新生児スクリーニングの前方視的検討	産科	園山綾子1), 谷村憲司1), 森岡一朗2) 大橋正伸3), 船越徹, 峰松俊夫4) 山田秀人1) 神戸大学大学院医学研究科産科婦人科学分野1) 神戸大学大学院医学研究科小児科学分野2) 医療法人三友会若宮病院産婦人科3) 愛泉会日南病院4)	第47回	周産期新生児医学会	札幌市	2011/7/10-2011/7/12
最近経験した胎児母体間輸血症候群から学ぶ	産科	丸野由美香、喜吉賢二、牧志綾、佐々木紘子 高松祐幸、佐本崇、船越徹	平成23年度	位育会臨床セミナー	神戸市	2011.8.27
一絨毛双胎におけるSFD例の検討	産科	笹原淳、城道久、前澤陽子、牧志綾 田中達也、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇 船越徹	第63回	日本産科婦人科学会	大阪市	2011.8.29-31
サイトメガロウイルス母子スクリーニングによる四段階の感染対策	産科	園山綾子、森真由美、大橋正伸、船越徹 峰松俊夫、山田秀人	第63回	日本産科婦人科学会	大阪市	2011/8/29-2011/8/31
妊娠22・23週で分娩となった妊婦の経過と児の転帰に関する検討	産科	城道久、前澤陽子、牧志綾、笹原淳 田中達也、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇 船越徹	第63回	日本産科婦人科学会	大阪市	2011/8/29-2011/8/31
出生前に総胆管嚢腫が疑われた5例	産科	牧志綾、喜吉賢二、城道久、前澤陽子 笹原淳、高松祐幸、田中達也、佐本崇 船越徹	第63回	日本産科婦人科学会	大阪市	2011/8/29-2011/8/31
救命できた胎児母体間輸血症候群(feto-maternal transfusion syndrome:FMT)の2例	産科	田中達也、佐本崇、城道久、前澤陽子 牧志綾、笹原淳、高松祐幸、喜吉賢二 船越徹	第63回	日本産科婦人科学会	大阪市	2011/8/29-2011/8/31
妊娠第2三半期以降の双胎1児子宮内胎児死亡症例の検討	産科	前澤陽子、笹原淳、城道久、牧志綾 田中達也、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇 船越徹	第63回	日本産科婦人科学会	大阪市	2011/8/29-2011/8/31
妊娠糖尿病～当院での75gOGTT施行例の背景と新妊娠糖尿病(GDM)診断基準の影響～	産科	佐々木紘子、喜吉賢二、丸野由美香、牧志綾 高松祐幸、佐本崇、船越徹	第146回	兵庫県立こども病院 症例検討会	神戸市	2011.9.8
緊急母体搬送—最近の状況と注意すべき症例—	産科	船越徹	第6回	あさぎり周産期 カンファレンス	明石市	2011.10.1

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
兵庫県立こども病院における切迫早産の管理方法	産科	喜吉賢二		和歌山県立医科大学 産婦人科医局講義	和歌山市	2011.10.7
兵庫県の緊急母体搬送の状況と最近経験した症例	産科	船越徹	2011年	平地会兵庫県支部総会	神戸市	2011.10.29
75gOGTT施行例における 母体背景と新妊娠糖尿病(GDM)診断基準の影響	産科	佐々木紘子、喜吉賢二、丸野由美香、牧志綾 高松祐幸、佐本崇、船越徹	第125回	近畿産科婦人科学会 周産期研究部会	大阪市	2011.11.6
切迫早産、子癩の管理における硫酸マグネシウム	産科	船越徹	第31回	日本マグネシウム 研究会	神戸市	2011.11.19
胎児水腫、両側大量胸水症例に対し胸水除去、 帝王切開を一期的に行った5症例	産科	喜吉賢二、牧志綾、佐々木紘子、高松祐幸 佐本崇、船越徹	第9回	日本胎児治療学会	福岡市	2011.12.2-3
娩出時に腫瘍内容芽刺・吸引が必要であった 仙尾部奇形腫の一例	産科	牧志綾、佐々木紘子、高松祐幸、喜吉賢二 佐本崇、船越徹	第9回	日本胎児治療学会	福岡市	2011.12.2-3
The role of progesterone and thyroid hormon in trophoblast invasion in early pregnancy maintenance	産科	Maruo T	The 3rd	CIVTE International Reproductive Medicine Congress	Sevilla, Spain	2011.3.25-27
新しい命がもう一つのいのちを救う	産科	丸尾 猛		神戸ロータリークラブ 例会卓話	神戸市	2011.4.21
ワクチンで予防できる病気からこども達を守るため に	産科	丸尾 猛		国際ロータリー(第 2680地区)メネルディ スカッション「ポリオ をなくそう」	神戸市	2011.6.19
Progesterone and progesterone receptor modulators in uterine myoma cell growth: its implication in women's health	産科	Maruo T	The 4th	Chinese Society of Obstetrics and Gynecology Conference	Hangzhou, China	2011.8.5-7
Progesterone and progesterone receptor modulators in uterine myoma cell growth: their implications in women's health	産科	Maruo T	第56回	日本生殖医学会 FIGO Workshop	横浜市	2011.12.8
小児脳腫瘍画像診断における5 tips	放射線科	赤坂好宣	33	近畿小児がん研究会	神戸	2011.2.26
同一疾患：小児例と成人例の違い	放射線科	赤坂好宣	1	前期研修医のための 画像診断セミナー	大阪	2011.6.26
脳外科医に勝つ小児脳腫瘍画像診断の攻略	放射線科	赤坂好宣	8	はりま画像診断 セミナー	姫路	2011.8.26

演題名	所属科	発表者名	第〇会	学会名	主催都市名	開催年月日
胆管細胞癌と軟骨肉腫成分が併存した肝癌肉腫の1例	放射線科	杉岡勇典 (加古川西市民病院)	25	日本腹部放射線研究会	大阪	2011.6.10-11
傍腫瘍性辺縁系脳炎を契機に見られた小児卵巣腫瘍の1例	放射線科	杉岡勇典、阿部洋子、赤坂好宣、西山章次 山口善道、吉田牧子	299	日本医学放射線学会 関西地方会	大阪	2011.11.5
当院でPRES(posterior reversible encephalopathy syndrome)と診断された小児例の検討	放射線科	阿部洋子、杉岡勇典、赤坂好宣、西山章次 山口善道	299	日本医学放射線学会 関西地方会	大阪	2011.11.5
第4脳室腫瘍の1例	病理診断科 1), 脳神経外科 2), 血液腫瘍科 3), 放射線科 4)	吉田牧子 1)、長嶋達也 2)、河村淳史 2) 山元一樹 2) 長嶋宏明 2)、竹田洋樹 3) 田中愛子 3)、石田敬章 3)、長谷川大一郎 3) 川崎圭一郎 3) 小阪嘉之 3)、赤坂好宣 4) 西井達矢 4)	第64回	関西小児病理研究会	大阪市	2011.1.15
非典型的な病理組織像を呈した小脳腫瘍の1例	病理診断科 1), 脳神経外科 2), 放射線科 3), 神戸市立医療センター中央市民病院 臨床病理科 4)	吉田牧子 1) 今井幸弘 4) 長嶋達也 2)、河村淳史 2)、山元一樹 2) 赤坂好宣 3) 副島俊典 3)	第65会	関西小児病理研究会	大阪市	2011.7.16
左卵巣腫瘍 (immature teratoma), 傍腫瘍性辺縁系脳炎疑い	病理診断科	吉田牧子	2011年	2011年小児腫瘍組織 分類委員会・症例 検討会	横浜市	2011.9.2
劇症肝壊死を発症した先天性心臓脱 (Cantrell症候群) 児の1剖検例	1) 病理診断科 2) 心臓血管外科 3) 小児外科 4) 循環器内科	吉田牧子 1)、圓尾文子 2) 大嶋義博 2) 尾藤祐子 3)、佐藤有美 4)	第31回	日本小児病理研究会	横浜市	2011.9.3
フォントラン手術後の思春期患者に対する 生涯患者教室を開催して ～妊娠・出産のリスクと避妊方法	看護部	大原三代子	第13回	日本成人先天性心疾患 学会	福岡市	2011.1.8
血友病患児ノセルフレアにむけた支援 幼児期から学童前期において	看護部	小澤一美	第53回	日本小児血液・がん学 会学術集会 (血友病看 護フォーラム)	前橋市	2011.11.11
スキンケア研修会「創傷被覆剤」	看護部	鎌田直子	平成22年度	西宮病院研修会	兵庫県	2011.1.11
新人患者教育における病棟での試み	看護部	小林久美子	平成22年度	兵庫県看護協会西部 地区実践報告会	神戸市	2011.2.16

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
新人看護職員臨床研修導入による 病棟オリエンテーションを見直して	看護部	土井真弓	第9回	兵庫県看護協会 実践報告会	神戸市	2011. 2.19
造血幹細胞移植に伴う腎部皮膚トラブルの 予防的ケアの検討	看護部	高澤道子	第33回	近畿小児がん研究会	神戸市	2011.2.26
造血幹細胞移植に伴う腎部皮膚トラブルの 予防についての取り組み(第2報)	看護部	高澤道子	第33回	日本造血細胞移植学会 総会	愛媛県	2011.3.9-10
間欠的自己導尿の実際	看護部	鎌田直子	第17回	日本小児ストーマ・ 排泄管理セミナー	福岡県	2011.4.22
統合討議・事例検討	看護部	鎌田直子	第17回	日本小児ストーマ・ 排泄管理セミナー	福岡県	2011. 4.23
ストーマ造設され退院した児のストーマとケアの 検討～過去5年31例を振り返って	看護部	鎌田直子	第24回	日本小児ストーマ・ 排泄管理研究会	福岡県	2011. 4.23
帝王切開術決定後15分以内の見出しを目指した 取り組みについての検討	看護部	杉友ユリ	第13回	日本母性看護学会学術 集会	栃木県	2011.6.11
高機能シミュレーターを用いたPALS教育	看護部	藤原健太	第25回	日本小児救急医学会	東京都	2011.6.11
小児ストーマケア	看護部	鎌田直子	平成23年度	関西ストーマケア 講習会	兵庫県	2011. 7.8
慢性心不全患者のセルフ管理能力向上に向けた 関わりについて	看護部	平井重世	第47回	日本小児循環器学会 総会・学術集会	福岡市	2011.7.8-9
排泄障害のある患児の就学前の集団生活における 病気関連情報の公表について	看護部	鎌田直子	第20回	小児泌尿器科学会	秋田県	2011. 7.14
看護師と保育士の処置場面における 協働ケアモデルの作成	看護部	松本三奈	第21回	日本小児看護学会 学術集会	埼玉市	2011.7.23
A小児専門病院におけるN-DPAPのプログラムによる 褥瘡発生状況と発生因子の検討	看護部	鎌田直子	第13回	日本褥瘡学会	福岡県	2011. 8.26
小児からの臓器提供に向けた院内体制整備	看護部	浅井桃子	第9回	県立病院学会	神戸市	2011.8.27

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	第○会	学 会 名	主 催 都 市 名	開 催 年 月 日
循環器科患者教室を開催して	看護部	渡辺旭代	第9回	県立病院学会	神戸市	2011.8.27
接遇向上への取り組み「患者様アンケート」活用と 始業前の接遇ポイントの提示	看護部	上田美鈴	第9回	県立病院学会	神戸市	2011. 8. 26
フォンタン型手術後の思春期・青年期患者者に対する 生涯患者教室を開催して ～妊娠・出産のリスクと避妊方法～	看護部	中西亜希子	第52回	日本母性衛生学会	京都市	2011.9.29-30
新生児のストーマケア	看護部	鎌田直子	平成23年度	県立病院新生児集中 CN主催勉強会	兵庫県	2011.9.30
新人看護職員の入職3カ月のoff-JTとOJTの運動	看護部	小林久美子	第42回	日本看護学会看護管理	神戸市	2011.10.13
小児の失禁ケア	看護部	鎌田直子	平成23年度	山陽学園皮膚・排泄ケア 認定看護師研修	岡山県	2011.10.19
ラダー表を活用した教育システムの確立への 取り組み	看護部	高橋紫	第25回	日本手術看護学会	名古屋市	2011.4-5
新人教育における指導内容統一への取り組み	看護部	片山恵理	第25回	日本手術看護学会	名古屋市	2011.4-5
二分脊椎症の排便管理	看護部	鎌田直子	平成23年度	二分脊椎シンポジウム	東京都	2011.11.13
第2報 在胎28週～31週未満で出生した児の 早期至適環境温を目指して	看護部	福田理香	第21回	日本新生児看護学会	東京都	2011.11.13-14
新人看護職員臨床研修導入による病棟教育を 見直して	看護部	土井真弓	第21回	日本新生児看護学会	東京都	2011.11.13-14
保育器収容中の児における体温管理方法の検討 ～スタッフのアセスメント能力の向上を目指して～	看護部	熊本裕美	第21回	日本新生児看護学会	東京都	2011.11.13-14
小児ストーマ術前ケア	看護部	鎌田直子	第2回	近畿小児WOCケア 勉強会	兵庫県	2011.11.16
当院における院外発生褥瘡の患者の現状	看護部	鎌田直子	第22回	近畿小児ストーマ・ 排泄・創傷研究会	兵庫県	2011.11.16

演題名	所属科	発表者名	第○会	学会名	主催都市名	開催年月日
褥瘡ケア「体圧分散寝具」	看護部	鎌田直子	平成 23 年度	柏原病院褥創ケア勉強会	兵庫県	2011.11.30
経皮的心房中隔欠損閉鎖術後に生じる頭痛予防のためのクロピドグレルの効果	薬剤部	井上量代	第 32 回	日本病院薬剤師会 近畿学術大会	神戸市	2011.1.23
小児病院における TPN 評価シートの作成	薬剤部	上野陽介	第 26 回	日本静脈経腸栄養学会	名古屋	2011.2.17
輸液の違いが細菌の増殖におよぼす影響について	薬剤部	辻本勉	第 26 回	日本静脈経腸栄養学会	名古屋	2011.2.17
小児への苦い薬の飲ませ方 — プレドニゾン散を例に —	薬剤部	福田朝恵	第 9 回	兵庫県病院学会	神戸	2011.8.27
ルーチン機器を用いた CD34 測定の取り組み	検査・放射線部	藤中早代、野口啓子、細見照美、戸田圭三 近平佳美、小坂嘉之、川崎圭一郎 長谷川大一郎、竹田洋樹、石田敏章	第 9 回	兵庫県立病院学会	神戸市	2011.8.27
当院における T&S 導入への取り組み	検査・放射線部	野口啓子、藤中早代、細見照美、戸田圭三 近平佳美、芳賀由美	第 9 回	兵庫県立病院学会	神戸市	2011.8.27
生化学自動分析装置における自動再検設定について	検査・放射線部	入野博文、今井真理子、井上船美 西垣久美代、四元寿江、松本郁子、井手敦子 小寺郁美、石川妙子、三村仁志、近平佳美	第 9 回	兵庫県立病院学会	神戸市	2011.8.27
小児心血管造影における ダイナミックレンジ圧縮の最適化の検討	検査・放射線部 放射線科	関尾直士	第 67 回	日本放射線技術学会 総会	横浜市	2011.4.7
小児の心室造影における ダイナミックレンジ圧縮処理条件の検討	検査・放射線部 放射線科	関尾直士	平成 23 年度	兵庫県立病院放射線 技師研修会	神戸市	2011.7.9
小児心室造影における ダイナミックレンジ圧縮処理の最適化の検討	検査・放射線部 放射線科	関尾直士	第 9 回	県立病院学会	神戸市	2011.8.27
小児血管造影検査における術者被曝の検討	検査・放射線部 放射線科	射場智美	第 9 回	県立病院学会	神戸市	2011.8.27
糖尿病の腎移植適応と術後治療の問題 栄養士の立場から	栄養指導課	鳥井隆志	第 44 回	日本臨床腎移植学会	宝塚市	2011.1.28
栄養士部会シンポジウム	栄養指導課	鳥井隆志	第 26 回	日本静脈経腸栄養学会	名古屋	2011.2.17

演 題 名	所 属 科	発 表 者 名	第○会	学 会 名	主 催 都 市 名	開 催 年 月 日
高血圧の食事療法	栄養指導課	鳥井隆志		洲本市健康大学	洲本市	2011.9.10
高齢者の栄養状態の評価と判定	栄養指導課	鳥井隆志	第5回	神戸薬科大学 健康食品講座	神戸市	2011.11.13
デンバーII判定法	指導相談・ 地域医療連携部	宅見晃子	第58回	日本小児保健学会	名古屋	2011.9.1
児童虐待とその対応	指導相談・ 地域医療連携部	宅見晃子	2011年度	小児救急医療と 子育て支援のための 育児リーダー講座	宝塚市	2011.10.13
こども病院における120日以上の 長期入院患者の現状	指導相談・ 地域医療連携部	橋本ひとみ、宅見晃子	第9回	兵庫県立病院学会	神戸市	2011.8.27
120日以上の長期入院患者の在宅支援 ～退院した19名の検証～	指導相談・ 地域医療連携部	橋本ひとみ、藤定睦子、宅見晃子	第9回	兵庫県立病院学会	神戸市	2011.8.27
長期入院児の在宅医療への移行支援 ～症例を交えて～	指導相談・ 地域医療連携部	藤定睦子、橋本ひとみ、宅見晃子	平成23年度	兵庫県周産期医療 研修会	神戸市	2011.12.17

#### 4) 報道

テーマ	所属科	発表者名	報道媒体	報道年月日
こども病院建替え計画の波紋		丸尾 猛	朝日放送	2011.12.21
ひょうごの医療 代謝・内分泌系の病気 くる病	代謝内分泌科	郷司克己	神戸新聞	2011.1.8
ひょうごの医療 代謝・内分泌系の病気 ターナー症候群	代謝内分泌科	郷司克己	神戸新聞	2011.1.22
先天性心疾患患者の キャリアオーバー	循環器科	城戸佐知子	日本経済新聞	2011.4.28
耳の日座談会	耳鼻咽喉科	大津雅秀	神戸新聞	2011.2.27
カルテQ&A「舌小帯短縮症」	耳鼻咽喉科	大津雅秀	神戸新聞	2011.12.23
外陰ヘルペスについて	産科	船越 徹	県医師会番組ラジオ関西 「みんなの健康相談」	2011.3.26

## 5) 実習生・研修生受け入れ状況 (2011年)

## ①実習生

## 診療部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸大学医学部	6年次学外実習	2	6月6日～6月14日 6月20日～7月1日	産科外来、病棟、分娩室、手術室
神戸大学医学部	医学部学生臨床実習	1	5月9日～5月20日	病棟、手術室
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士学生実習	1	2月10日～2月18日	耳鼻咽喉科外来および手術室
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士学生実習	1	10月24日～11月27日	耳鼻咽喉科外来および手術室
神戸大学医学部	6年次学外実習	2	6月6日～6月14日 6月20日～7月1日	産科外来、病棟、分娩室、手術室
神戸総合医療専門学校		4	5月9日～5月31日	外来及び手術室
大阪滋慶学園 大阪医療福祉専門学校	臨地実習	1	5月23日～6月24日	外来及び手術室
大阪滋慶学園 大阪医療福祉専門学校	見学実習	2	3月7日～3月18日	外来及び手術室
兵庫県立総合衛生学院 歯科衛生学科		2	1月18日～2月10日	歯科外来・他
兵庫県立総合衛生学院 歯科衛生学科		2	7月1日～7月28日	歯科外来・他
兵庫県立総合衛生学院 歯科衛生学科		2	10月3日～10月28日	歯科外来・他
兵庫県立総合衛生学院 歯科衛生学科		2	11月30日～12月26日	歯科外来・他

## 看護部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学看護学部	総合看護小児ab	5	5月30日～6月24日	7F・5A・5B・4B
	総合看護母性ab	6	5月30日～6月24日	産科

総合看護基礎	5	5月30日～6月4日	6A・6B
生涯健康看護	18	7月4日～7月22日	7F・6A・6B・5A・5B・4B
生涯健康看護	6	7月4日～7月22日	産科
インパクト実習	12	8月2日～8月4日	6A・5A・5B
インパクト実習	4	8月2日～8月4日	産科
生涯健康看護	20	10月3日～10月23日	7F・6A・6B・5A・5B・4B
生涯健康看護	6	10月3日～10月21日	産科
総合看護技術実習	24	12月6日～8日、12月12日～14日	7F・6A・6B・5A・5B・4B
出会い実習	19	1月31日～2月10日	7F・6A・6B・5A・5B・4B
母性看護学定時制	3	8月23日～8月25日	産科
母性看護学定時制	6	9月6日～9月8日	産科
母性看護学定時制	6	9月13日～9月15日	産科
母性看護学定時制	6	9月20日～9月22日	産科
母性看護学定時制	5	9月27日～9月29日	産科
母性看護学定時制	6	11月1日～11月4日	産科
母性看護学定時制	5	11月22日～11月25日	産科
小児看護全日制	12	9月6日～9月16日	7F、6A、6B、4B
小児看護全日制	5	10月25日～11月4日	7F、4B
小児看護全日制	3	11月22日～11月25日	4B
看護学科全日制	4	9月27日～9月29日	GCU
看護学科全日制	4	10月4日～10月6日	GCU
看護学科全日制	4	1月19日～1月21日	GCU
看護学科全日制	3	1月25日～1月27日	GCU

兵庫県立総合衛生学院

近大姫路大学看護学部	統合実習	8	8月22日～9月2日	6A・5A・5B・4B
	こども看護	8	9月26日9月30日	6A・6B
	こども看護	7	10月25日～11月2日	6A・6B
	こども看護	13	11月15日～11月24日	6A・6B・5A・5B
常磐大学	課題別総合実習	8	8月22日～9月20日	7F・6A
	実践研究（4回生）	4	8月1日～8月26日	7F・6A・6B・4B
	実践研究（4回生）	4	8月1日～9月30日	産科
	大学院研究科小児看護学博士課程前期	3	5月6日～9月30日	7F・6A・6B・5A・5B・4B・HCU
兵庫県立大学	大学院研究科小児看護学博士課程後期	3	11月1日～平成24年3月31日	7F・HCU・5B
	大学院研究科修士課程母性高度実践看護実習1並びに母性治療看護実習1	1	10月7日～平成24年3月31日	産科
	大学院研究科修士論文研究	3	9月1日～12月31日	7F・HCU・5B・4B・外来
	大学院博士課程小児高度看護実践実習	1	11月4日～平成24年3月31日	7F・5A・5B・4B・外来
大阪府立大学	大学院小児看護学研究科博士課程前期小児看護専門看護師の役割 見学実習	1	10月17日～11月16日の内3日間	6A・外来
	大学院小児看護学修士課程	2	平成22年10月1日～3月31日	HCU・5B・救急
兵庫医療大学	看護学科小児看護学 調査研究	1	平成22年6月28日～24年1月31日	7F・6A・6B・5A・5B・4B・HCU・ICU
	看護学部 施設見学研修	24	8月30日	7F・6A・6B・5A・5B・4B・HCU 救急・NICU・GCU・産科
川崎医療短期大学	保育学科	2	8月22日～9月2日	7F・6B・5B
	保育学科	2	9月5日～9月16日	
大阪青山大学	健康科学部 健康こども学科	1	8月11日～8月17日 8月25日～8月29日 9月5日～9月8日	7F

薬剤部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸薬科大学	薬学生実務実習	1	1月11日～3月25日	薬剤部と主な部署
神戸学院大学薬学部	薬学生実務実習	1	1月11日～3月25日	薬剤部と主な部署
神戸薬科大学	薬学生実務実習	1	10月3日～12月16日	薬剤部と主な部署
神戸学院大学薬学部	薬学生実務実習	1	10月3日～12月16日	薬剤部と主な部署

検査・放射線部（検査）

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸常盤大学保健科学部	3年次臨地実習	1	1月17日～3月11日	検査室
神戸大学検査技術科	4年次臨地実習	2	11月8日～11月25日	検査室

栄養指導課

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
武庫川女子大学	臨床栄養学臨地・校外実習	2	5月3日～6月10日	栄養指導課
神戸松蔭女子学院大学	臨床栄養学臨地・校外実習	4	6月20日～7月1日	栄養指導課
神戸学院大学	臨床栄養学臨地・校外実習	1	7月4日～7月15日	栄養指導課
神戸女子大学	臨床栄養学臨地・校外実習	5	8月22日～9月2日	栄養指導課
神戸学院大学	臨床栄養学臨地・校外実習	1	8月22日～9月2日	栄養指導課
神戸女子大学	臨床栄養学臨地・校外実習	5	9月5日～9月16日	栄養指導課

②研修生

診療部

依 頼 元	研 修 科	研修生数	研修期間	研修場所
塚口病院小児科	放射線科	3	3ヶ月3名	読影室、超音波室、透視検査室など

## 指導相談・地域医療連携部

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
兵庫県看護協会	退院調整看護師養成研修	1	10月21日	指導相談・地域医療連携部、病棟
日本医療マネジメント会	医療福祉連携講習会	1	9月16日	指導相談・地域医療連携部

## 6) 長期院外研修

研修先施設名	所属部署	研修者名	研修期間	研修内容
シアトル小児病院	心臓外科	松久弘典	2011.3.7-4.1	Heart center にて手術部門を中心に見学。 又 CICU 回診、循環器カンファレンスに参加
シアトル小児病院	泌尿器科	久松英治	2011.3.7-4.1	ロボット支援手術の見学など
シアトル小児病院	看護部	井口秀子	2011.3.7-4.1	急性期看護・スタッフ教育について
日本看護協会看護研修学校 認定看護師過程小児救急看護学科	看護部	藤原健太	2011.6.1-12.16	小児救急看護認定看護師課程
地方独立行政法人 福岡市立病院機構 福岡市立こども病院・感染症センター	看護部	新井良子 坂本郁子	2011.10.17-10.21	心臓血管外科手術看護教育及び手術室 運営管理

## 6. 研修（2011年）

### 1）公開研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	院内参加数	院外参加数	合計	テーマ	発表者/担当	所属科名
第133回こども病院症例検討会	研修教育委員会	1月13日	17:45～18:30	研修室AB	15	1	16	胎児水腎症の取り扱い	岡田桂輔	泌尿器科
第134回こども病院症例検討会	研修教育委員会	1月27日	17:45～18:30	研修室AB	11	4	15	肥厚性癩痕とケロイドについて	鄭聡炳	形成外科
第135回こども病院症例検討会	研修教育委員会	2月10日	17:45～18:30	研修室AB	15	0	15	小児水頭症の管理	長嶋宏明	脳神経外科
第136回こども病院症例検討会	研修教育委員会	2月24日	17:45～18:30	研修室AB	15	2	17	ゲノム刷り込みと疾患—まずはヒヨコから—	奥野美佐子	代謝内分泌科
第137回こども病院症例検討会	研修教育委員会	3月10日	17:45～18:30	研修室AB	48	1	49	小児劇症型心筋炎に対する体外補助循環（ECMO）の適応と管理	長谷川智巳	心臓血管外科
第138回こども病院症例検討会	研修教育委員会	3月24日	17:45～18:30	研修室AB	20	3	23	虐待と熱傷	中川拓	救急集中治療科
第139回こども病院症例検討会	研修教育委員会	4月14日	17:45～18:30	研修室AB	20	4	24	意識障害と脳波	丸山あずさ	脳神経内科
第140回こども病院症例検討会	研修教育委員会	4月28日	17:45～18:30	研修室AB	31	6	37	小児でよくみられる不整脈の診断とその対応	亀井直樹	循環器内科
第141回こども病院症例検討会	研修教育委員会	5月12日	17:45～18:30	研修室AB	15	2	17	発達遅滞児における斜視視治療の成績	明石梓	眼科
CPC	研修教育委員会	5月26日	17:45～18:30	研修室AB	42	2	44	肝不全で死亡した14歳女児例	奥野美佐子	救急集中治療科
第142回こども病院症例検討会	研修教育委員会	6月9日	17:45～18:30	研修室AB	27	3	30	小児一次救急におけるエコーの活用	藤本雄介	放射線科
第143回こども病院症例検討会	研修教育委員会	6月23日	17:45～18:30	研修室AB	16	2	18	超音波ガイド下中心静脈穿刺	池島典之	麻酔科
第144回こども病院症例検討会	研修教育委員会	7月14日	17:45～18:30	研修室AB	14	3	17	非典型的な経過を辿ったヒルシウスプルング病症例	岩谷壮太	新生児科
第145回こども病院症例検討会	研修教育委員会	7月28日	17:45～18:30	研修室AB	14	2	16	小児歯科で扱ういろいろな疾患	曾根由美子	歯科
第146回こども病院症例検討会	研修教育委員会	9月8日	17:45～18:30	研修室AB	24	3	27	妊娠糖尿病 ～当院での75gOGTT施行例の背景と新妊娠糖尿病（GDM）診断基準の影響～	佐々木敏子	産科
第147回こども病院症例検討会	研修教育委員会	9月22日	17:45～18:30	研修室AB	13	3	16	腸重複症—臨床学的検討から治療方針を考える—	洲尾昌伍	小児外科
第148回こども病院症例検討会	研修教育委員会	10月13日	17:45～18:30	研修室AB	25	1	26	小児の骨折 ～分娩・外傷・虐待に伴う骨折を中心に～	蓑田正也	整形外科
第149回こども病院症例検討会	研修教育委員会	10月27日	17:45～18:30	研修室AB	22	1	23	小児科領域における真菌感染症 -- 深在性真菌症の 概略、診断、治療 --	石田敏章	血液腫瘍内科

第150回こども病院症例検討会	研修教育委員会	11月10日	17:45～18:30	研修室 AB	17	1	18	喉頭軟弱症の臨床	大津雅秀	耳鼻咽喉科
第151回こども病院症例検討会	研修教育委員会	11月24日	17:45～18:30	研修室 AB	25	2	27	知能検査からわかること～WISC-IVを中心に～	三木伸子	指導相談・地域医療連携部
CPC	研修教育委員会	12月21日		研修室 AB				複雑心奇形をと合併した心臓脱の1例	圓尾文子	心臓血管外科
平成23年度第1回こどもと親への育児支援研究会		5月21日		研修室 AB				死亡事例検討	永瀬裕朗	脳神経内科
平成23年度第2回こどもと親への育児支援研究会		9月10日		研修室 AB				臓器移植法における児童虐待の扱いとその問題点	永瀬裕朗	脳神経内科

2) 院内全体研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	講師 / 発表者	所属
平成 23 年度 第 1 回放射線安全研修会	放射線安全管理委員会	6 月 17 日	16:00 ~ 17:15	研修室 AB	46	①放射線の人体への影響 ②MRI 検査の安全性について ③核医学検査について ④放射線被ばくについて ⑤放射線治療について	赤坂好宣 北住一哉 大谷幸広 関尾直士 小田敏彦	検査・放射線 部放射線科
医療安全研修会	リスクマネジ メント部会	3 月 8 日	17:30 ~ 18:30	研修室 AB	137	各部門の安全への取り組み報告	戸田圭三 原田亮輔 尾崎孝秋 河野恵 辻本勉 長嶋達也	検査部放射線部 栄養指導課看護 部薬剤部診療部
新規採用者研修会 (医師対象)	医療安全 管理室	4 月 1 日	17:30 ~ 18:00	研修室 AB	34	当院の安全管理体制・感染管理	斉藤富美代	医療安全対策 担当課長
医薬品安全研修会 医療安全研修会	医薬品安全管理 室リスクマネジ メント部会	10 月 11 日	17:30 ~ 18:30	研修室 AB	64	輸液投与におけるリスクマネジメント ～配合変化の一般的な考え方～	村岡浩一	大塚製薬工場 神戸支店学術 部学術担当
平成 22 年度 シアトル小児病院 研修報告会	国際交流 推進委員会	4 月 18 日	17:30 ~ 19:00	研修室 A B	76	1. シアトル小児病院での研修を終えて 2. シアトル小児病院泌尿器科での研修を終えて 3. シアトル小児病院整形外科研修 ～医療における日米間の相違点と共通点について 4. Seattle Children's Hospital Heart Center 研修報告	井口秀子 久松英治 衣笠真紀 松久弘典	看護部診療部
平成 22 年度 第 2 回クリニカルパス大会	クリニカル パス委員会	3 月 4 日	17:30 ~ 18:30	研修室 A B	35	地域連携胃ろうパススタート	大西美樹	クリニカルパ ス委員会
平成 23 年度 第 1 回クリニカルパス大会	クリニカル パス委員会	10 月 17 日	17:30 ~ 18:30	研修室 A B	46	もう一度パス クリニカルパスの原点 D P C から見たクリニカルパス	大西美樹 木村弘子	クリニカルパ ス委員会
感染管理研修会 (清掃委託業者対象)	感染対策委員会	6 月 23 日	11:30 ~ 12:00	研修室 C	30	正しい清掃方法	鳴滝由佳	感染対策チー ム
感染管理講演会	感染対策委員会	8 月 25 日	17:30 ~ 18:30	研修室 A B	114	医療従事者の麻疹・水痘・風疹・ムンプス感染対策 ～神戸大学病院における取り組み～	森岡一郎	神戸大学 医学部
感染管理研修会 (医事課事務職員対象)	感染対策委員会	9 月 13 日	16:45 ~ 17:45	研修室 A B	22	感染対策の基本について	鳴滝由佳	感染対策チー ム
感染管理研修会 (委託看護補助者対象)	感染対策委員会	10 月 14 日	16:45 ~ 17:45	研修室 A B	15	感染対策の基本について	鳴滝由佳	感染対策チー ム

感染管理研修会	感染対策委員会	11月1日	17:30～18:30	研修室A B	44	手指衛生について	金子利博	ジョンソン・エン ド・ジョンソン
感染管理研修会 (医療従事者対象)	感染対策委員会	① 11月14日 ② 11月18日 ③ 11月22日 ④ 11月25日	①② 16:15～17:15 ③④ 17:30～18:30	研修室A B	① 91 ② 91 ③ 152 ④ 182	1. 感染対策マニュアルの改定について	鳴滝由佳 小坂薫之 竹田洋樹	感染対策チーム

### 3) 複数科合同カンファレンス

名称	対象科	開催日	時間	場所	参加数	テーマ
麻酔科・心臓外科合同カンファレンス	麻酔科、心臓外科	通年、毎日	7:55～8:10	ICU	10	当日の心臓外科症例についてのカンファレンス
周産期カンファレンス	産科、新生児科、小児外科 病理診断科、看護師 検査技師、薬剤師	毎月(月が休日の場合は火)	16:30～16:55	産科外来 指導室	20～24	未分娩の症例提示と新生児の経過報告
ウィークエンドカンファレンス	産科、看護師、検査技師、薬剤師	毎金(金が休日の場合は木)	16:00～16:25	産科病棟 話所	10～12	産科入院中の症例の検討
MRIカンファレンス	産科、放射線科	奇数月最終金	17:00～17:40	放射線科 読影室	約12	胎児MRI撮影症例の提示と読影、新生児の画像提示
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科脳神経外科 新生児科、病理	1月5日	17:30-18:30	研修室C	23	1) 小脳髓芽腫 (9歳男児) 2) 肝腫瘍 (0歳5日男児) 3) 上衣腫再発 (14歳女児) 4) 頭蓋骨腫瘍 (6歳女児) 5) 左腎腫瘍 (6歳男児) 6) 左乳房腫瘍 (18歳女児) 7) 腹部腫瘍 (3歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科耳鼻科、病理	1月12日	18:00-19:00	研修室C	21	1) 腹部腫瘍 (4歳男児) 2) 肝腫瘍 (生後12日男児) 3) 左腎腫瘍 (3歳女児) 4) 右頬部腫瘍 (12歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科脳神経外科 形成外科整形外科、病理	1月19日	17:30-18:30	研修室C	25	1) 頭蓋骨腫瘍 (6歳女児) 2) 左腎腫瘍 (3歳女児) 3) 頭蓋内・頭皮下腫瘍 (2歳男児) 4) 背部腫瘍 (5歳女児) 5) 神経芽腫疑い (2歳男児) 6) 骨腫瘍 (13歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科脳神経外科、病理	1月26日	18:30-19:30	研修室C	19	1) 上衣腫 (7歳男児) 2) 肝腫瘍 (生後26日男児) 3) 横紋筋肉腫 (5歳男児) 4) 神経芽腫 (2歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科脳神経外科、病理	2月2日	17:30-18:00	研修室C	22	1) 甲状腺腫大、多発腫瘍性病変 (13歳女児) 2) 非ホジキンリンパ腫 (15歳男児) 3) 脳幹部腫瘍 (10歳児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科泌尿器科 形成外科、病理	2月16日	17:30-18:30	研修室C	22	1) 横紋筋肉腫 (4歳女児) 2) myeloid sarcoma(2歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、病理	2月23日	18:00-18:30	研修室C	16	1) 脳幹部腫瘍 (6歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、眼科、脳神経外科 病理	3月2日	17:10-17:40	研修室C	19	1) 両網膜芽細胞腫 (0歳1カ月男児) 2) 小脳腫瘍 (2歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、麻酔科 救急科、病理	3月8日	13:30-14:00	救急カンファ レンスルーム	18	1) 傍腫瘍性辺縁系脳炎疑い (5歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、耳鼻科、脳神経外科 病理	3月9日	17:30-18:15	研修室C	13	1) 右側頭部膨隆 (1歳3カ月男児) 2) 小脳髄芽腫 (3歳9カ月女児) 3) 小脳上衣腫 (7歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、救急科、病理	3月15日	13:30-13:50	救急カンファ レンスルーム	20	1) 傍腫瘍性辺縁系脳炎疑い (5歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科 病理	3月17日	17:30-18:20	研修室C	17	1) 小脳 anaplastic ependymoma(2歳男児) 2) optic pathway glioma(3歳女児) 3) 卵巣成熟奇形腫 (3歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科 病理	3月24日	17:30-18:00	研修室C	19	1) 間脳 pilomyxoid astrocytoma(3歳男児) 2) 神経芽腫疑い (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科耳鼻科、病理	3月31日	18:15-19:15	研修室C	17	1) 耳介後部腫瘍 (1歳男児) 2) 神経芽腫 (2歳女児) 3) 左乳房腫瘍 (19歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科 脳神経外科、病理	4月7日	17:30-18:30	救急カンファ レンスルーム	21	1) 脳腫瘍 (9歳男児) 2) 小脳 anaplastic ependymoma(2歳男児) 3) 胎児型横紋筋肉腫 (5歳女児) 4) 骨肉腫 (8歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科眼科 救急科、病理	4月13日	18:00-19:00	研修室C	20	1) 視床下部視交叉腫瘍 (10歳女児) 2) 両網膜芽細胞腫 (3歳男児) 3) 頭蓋骨腫瘍 (7歳男児) 4) 間脳 pilomyxoid astrocytoma(3歳男児) 5) 松果体腫瘍 (9歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、病理	4月20日		研修室C	13	1) 頭蓋骨腫瘍 (7歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科 病理	4月27日	18:10-19:00	研修室C	19	1) 小脳髄芽腫 (9歳女児) 2) 左頸部腫瘍 (2歳女児) 3) 神経芽腫 stage4(7歳女児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、心臓血管外科、外科、麻酔科救急科、病理	5月10日	15:30-16:30	救急面談室	20	1) 縦隔腫瘍 (12歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科、脳神経外科、病理	5月11日	17:15-18:15	研修室C	25	1) Burkitt lymphoma(8歳男児) 2) 向側網膜芽細胞腫 (0歳4ヵ月男児) 3) 横紋筋肉腫 (2歳女児) 4) 左乳房 ALL (19歳女児) 5) AT/RT (1歳男児) 6) PNET (9歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科、脳神経外科、病理	5月18日	17:30-19:00	研修室C	26	1) 膀胱腫瘍 (7歳男児) 2) 退形成上衣腫 (7歳男児) 3) LCH(7歳男児) 4) 髄芽腫 (6歳女児) 5) 左前頭葉腫瘍 (14歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、救急科、病理	5月19日	17:30-18:00	救急カンファレンスルーム	22	1) 縦隔腫瘍 (16歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科	5月20日	13:30-14:00	放射線科読影室	10	1) 髄芽腫 (6歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、病理	5月26日	18:00-19:00	研修室C	22	1) 髄芽腫 (6歳女児) 2) 縦隔腫瘍 (16歳男児) 3) 縦隔腫瘍 (12歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科、病理	6月8日	17:15-17:35	研修室C	23	1) 神経芽腫疑い (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、救急科、脳神経外科、病理	6月15日	17:30-18:00	研修室C	24	1) 神経芽腫 (4歳男児) 2) 肝芽腫 (0歳5ヵ月男児) 3) 左側頭骨腫瘍 (0歳26日女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、救急科、脳神経外科、病理	6月29日	18:15-18:45	研修室C	14	1) 左側頭骨腫瘍 (0歳1ヵ月女児) 2) 脳腫瘍疑い (11歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、救急科、脳神経外科、外科、病理	7月6日	17:30-18:45	研修室C	24	1) 左卵巣奇形腫 (7歳女児) 2) 卵巣奇形腫 (12歳女児) 3) 後縦隔腫瘍 (10歳女児) 4) 小脳髄芽腫 (9歳女児) 5) 第4脳室腫瘍 (3歳4ヵ月女児) 6) pontine glioma(6歳男児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、病理	7月13日	17:30-18:15	研修室C	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) AT/RT(1歳男児)</li> <li>2) 後縦隔腫瘍(10歳女児)</li> <li>3) 脳腫瘍(11歳男児)</li> <li>4) 左側頭骨腫瘍(0歳26日女児)</li> <li>5) ependymoma(10歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科 脳神経外科、病理	7月20日	17:30-18:00	研修室C	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 下腹部腫瘍(10歳7カ月男児)</li> <li>2) 脳腫瘍(10歳女児)</li> <li>3) 脳腫瘍</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、泌尿器科 脳神経外科、病理	7月27日	18:15-19:00	研修室C	21	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 左精巣腫瘍(0歳9カ月男児)</li> <li>2) 第4脳室+鞍上部髄芽腫</li> <li>3) 右卵巣奇形腫(8歳女児)</li> <li>4) Wilms tumor diffuse anaplasia(4歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科 病理	8月3日	17:45-18:30	研修室C	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) anaplastic ependymoma(2歳男児)</li> <li>2) classic medulloblastoma(0歳4カ月女児)</li> <li>3) 悪性リンパ腫(9歳男児)</li> <li>4) 横紋筋肉腫(10歳男児)</li> <li>5) 右卵巣奇形腫(8歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	8月10日	17:30-17:50	研修室C	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 横紋筋肉腫(5歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、病理	8月17日	17:30-17:45	研修室C	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 小脳髄芽腫(4歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科 病理	8月25日	17:30-18:00	研修室C	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) Kasabach Merrit 症候群、水頭症(0歳3カ月女児)</li> <li>2) 胸腔内腫瘍 sarcomaNOS(16歳男児)</li> <li>3) 会陰部腫瘍(1歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科病理	8月31日	18:10-19:40	研修室C	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 縦隔腫瘍(1歳男児)</li> <li>2) 腹部腫瘍(0歳1カ月男児)</li> <li>3) 背部腫瘍(1歳10カ月女児)</li> <li>4) 会陰部腫瘍(1歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、整形外科 眼科、脳神経外科、病理	9月7日	17:30-19:00	研修室C	32	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 左眼球突出(6歳女児)</li> <li>2) 向側網膜芽細胞腫(2歳女児)</li> <li>3) 右上腕部(右肘)腫瘍(2歳女児)</li> <li>4) 大腿骨腫瘍 s/o LCH(2歳男児)</li> <li>5) 背部腫瘍(1歳10カ月女児)</li> <li>6) 小脳髄芽腫(4歳女児)</li> <li>7) pilocytic astrocytoma(15歳男児)</li> <li>8) optic pathway glioma(3歳)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科 病理	9月14日	17:30-19:00	救急カンファ レンスル ーム	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 脳幹部腫瘍(6歳男児)</li> <li>2) 左頭皮下腫瘍(5歳男児)</li> <li>3) 左卵巣奇形腫芽捻転(8歳女児)</li> <li>4) 左腎腫瘍(2歳女児)</li> <li>5) 腹部腫瘍(0歳1カ月男児)</li> </ul>

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、整形外科 脳神経外科、病理	9月21日	17:30-18:00	研修室C	25	1) pilomyxoid astrocytoma(3歳男児) 2) 大腿骨腫瘍 (2歳男児) 3) 右頬部腫瘍 (0歳2カ月児) 4) 卵巣腫瘍 (7歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、形成外科 心臓血管外科、病理	9月28日	17:45-19:30	研修室C	24	1) fibromatosis 疑い (1歳11カ月女児) 2) 胸腔内腫瘍、多発転移、sarcoma NOS(17歳男児) 3) 左乳房腫瘍 (19歳女性) 4) 膝腫瘍疑い (9歳女児) 5) 横行結腸腫瘍 (9歳) 6) 左腎腫瘍 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科整形、外科 脳神経外科、病理	10月5日	17:30-18:30	研修室C	28	1) 左副腎腫瘍 (6歳児) 2) Ewing sarcoma family of tumors(12歳女児) 3) 肝腫瘍 (0歳4カ月児) 4) 松果体腫瘍 (12歳男児) 5) 脳幹部腫瘍 (9歳児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科脳神経、外科 病理	10月12日	17:30-18:15	研修室C	24	1) 脳幹部腫瘍 (6歳児) 2) 松果体+視床下部 germinoma with STGC(10歳男児) 3) 横紋筋肉腫 (10歳男児) 4) 腹部腫瘍 (3歳男児) 5) 肝腫瘍 (0歳4カ月児) 6) 転移性肺腫瘍 (14歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、救急治療科 病理	10月14日	15:30-16:00	研修室C	19	1) 転移性肺腫瘍 (14歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、救急治療科 病理	10月20日	17:30-18:30	研修室C	20	1) 右顎部腫瘍 (0歳3カ月女児) 2) 転移性肺腫瘍 (14歳男児) 3) LCH(2歳児) 4) 膝腫瘍 (9歳女児) 5) 卵巣腫瘍 (7歳女児) 6) 横行結腸腫瘍 (9歳児)
腫瘍カンファレンス		10月24日		メールで病理結果のみ報告 (主治医長谷川先生の指示 にて)		転移性肺腫瘍 (14歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	10月26日	18:20-19:00	研修室C	19	1) 右腎腫瘍 (0歳男児) 2) GIST (13歳女児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、形成外科 泌尿器科、脳神経外科、病理	11月2日	17:30-19:00	研修室C	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 背部腫瘍 (2歳女児)</li> <li>2) L3圧迫骨折・骨腫瘍疑い (2歳児)</li> <li>3) 側頭骨 LCH(9歳)</li> <li>4) optic pathway glioma/optic glioma(3歳女児)</li> <li>5) large cell medulloblastoma</li> <li>6) 横紋筋肉腫 (10歳男児)</li> <li>7) 横紋筋肉腫 (8歳女児)</li> <li>8) 左副腎腫瘍 (6歳男児)</li> <li>9) Wilms 腫瘍 (3歳男児)</li> <li>10) 神経芽腫 (4歳男児)</li> <li>11) 肝腫瘍 (4ヵ月児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科、 病理	11月10日	17:30-18:45	研修室C	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 骨盤部腫瘍 (4歳女児)</li> <li>2) 未分化胚細胞腫 (11歳女児)</li> <li>3) 両側網膜芽細胞腫 (2歳)</li> <li>4) 左視神経交差視床下部腫瘍 (12歳男児)</li> <li>5) 頭蓋骨腫瘍 (5歳男児)</li> <li>6) 上衣腫 (3歳女児)</li> <li>7) pilomyxoid astrocytoma(10歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科 病理	11月17日	17:30-18:20	研修室C	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 神経芽腫 (5歳男児)</li> <li>2) 後縦隔腫瘍 (4歳女児)</li> <li>3) GIST (13歳女児)</li> <li>4) 上衣腫 (3歳女児)</li> <li>5) 小脳髓芽腫 (7歳女児)</li> <li>6) PNET (9歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科整形、外科 脳神経外科、病理	11月30日	18:00-19:20	研修室C	25	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 髓芽腫 (4歳女児)</li> <li>2) 神経芽腫 (6歳女児)</li> <li>3) 神経芽腫 (4歳男児)</li> <li>4) 骨嚢部腫瘍 (4歳女児)</li> <li>5) 右腎腫瘍 (0歳1ヵ月男児)</li> <li>6) 右腎腫瘍 (0歳1ヵ月男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、病理	12月7日	17:30-17:45	研修室C	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 後縦隔腫瘍 (10歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳神経外科、病理	12月14日	17:30-18:00	研修室C	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 左背部腫瘍 (2歳男児)</li> <li>2) 左鎖骨上窩リンパ節腫瘍 (13歳女児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、整形外科 脳神経外科、病理	12月21日	16:30-17:00	外科カンファ レンスル ーム	26	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 脳腫瘍 (脈絡膜乳頭腫) (0歳9ヵ月男児)</li> <li>2) GIST (13歳女児)</li> <li>3) 胸腔内腫瘍 (3歳男児)</li> </ul>
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳神経外科 病理	12月28日	17:20-18:40	研修室C	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 松果体腫瘍 (12歳)</li> <li>2) 後縦隔腫瘍 (4歳女児)</li> <li>3) 左腎腫瘍 (11歳女児)</li> <li>4) 神経芽腫 (4歳)</li> <li>5) 胸腔内腫瘍 (3歳男児)</li> </ul>

心臓血管外科・麻酔科 ME 合同カンファレンス	心臓血管外科・麻酔科・ME	毎日	7:55～8:10	ICU	12	当日の心臓外科手術症例についてカンファレンス
心臓血管外科・ME 術前カンファレンス	心臓血管外科・ME	毎週月曜日	8:15～9:00	本館4Fカンファレンスルーム	10	各週の心臓外科手術症例の術前検討
心臓血管外科・ME 術後カンファレンス	心臓血管外科・ME	毎週金曜日	8:15～9:00	本館4Fカンファレンスルーム	10	各週の心臓外科手術症例の術後報告

## 4) 部署別勉強会・カンファレンス

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
journal club	救急集中治療科	1月18日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	肺炎に対してのステロイド使用について	田中愛子
case report	救急集中治療科	1月28日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	14	バルプロ酸投与中に横紋筋融解症を呈した1例	松島幸恵
journal club	救急集中治療科	2月1日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	12	ピーナッツアレルギー患者への経口免疫療法について	安部信吾
journal club	救急集中治療科	2月8日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	小児麻酔におけるリスク因子について	笠井和子
case report	救急集中治療科	2月14日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	11	気管切開管理時の気管内肉芽の形成	尾崎慶子
journal club	救急集中治療科	2月22日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	14	小児がん患者の長期予後について	石田敏章
case report	救急集中治療科	2月28日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	11	癒着性イレウス	佐藤智幸
journal club	救急集中治療科	3月1日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	10	頭部外傷後の内分泌障害について	米倉圭二
journal club	救急集中治療科	3月8日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	熱性痙攣症例についての検討	竹田洋樹
journal club	救急集中治療科	4月5日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	Tissue-engineered autologous urethras for patients who need reconstruction: an observational study	田中亮二郎
journal club	救急集中治療科	4月12日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	12	Decompressive Craniectomy in Diffuse Traumatic Brain Injury	永瀬裕朗
journal club	救急集中治療科	4月19日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	12	Length of Intravenous Antibiotic Therapy and Treatment Failure in Infants With Urinary Tract Infections	神田杏子

journal club	救急集中治療科	5月10日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	15	Prospective Open-Label Trial of Etanercept as Adjunctive Therapy for Kawasaki Disease	中岸保夫
journal club	救急集中治療科	5月17日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	急性疾患に伴うけいれん発作の予後	丸山あずさ
journal club	救急集中治療科	5月24日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	14	Long-term Outcomes of Acute Encephalitis Encephalitis in Childhood	宇仁田亮
journal club	救急集中治療科	6月7日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	11	A Randomized Intervention of Montelukast for Post-Bronchiolitis:Effect on Eosinophil Degranulation	田中裕也
case report	救急集中治療科	6月21日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	15	小児院外心停止の発生率、原因、転帰 オランダにおける包括的前向き集団ベース研究 (Incidence,Causes,and Outcomes of Out-of-Hospital Cardiac Arrest in Children A Comprehensive, Prospective,Population-Based Study in the Netherlands)	宮田憲二
case report	救急集中治療科	9月6日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	12	Clinical Characteristics and Outcomes of Sepsis-Related vs Non-Sepsis-Related ARDS	楠元真由美
case report	救急集中治療科	9月13日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	10	Intussusception Risk and Health Benefits of Rotavirus Vaccination in Mexico and Brazil	二野菜々子
case report	救急集中治療科	9月20日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	10	尿路感染症のガイドラインについて	武岡恵美子
journal club	救急集中治療科	10月4日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	10	Advanced Hemodynamic Monitoring Critically Ill Children	宇仁田亮
journal club	救急集中治療科	10月11日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	15	Clinical Protocols and Trainee Knowledge about mechanical Ventilation	福原信一
journal club	救急集中治療科	10月18日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	Retrospective review of Japanese sudden unexpected death in infancy : The importance of metabolic autopsy and expanded newborn sc	尾崎佳代
journal club	救急集中治療科	11月1日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	Treatment of Neonatal Sepsis with Intravenous Immune Globulin	長谷川大一郎
journal club	救急集中治療科	11月8日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	14	The American Society of Hematology 2011 evidence-based practice guideline for immune thrombocytopenia	川崎圭一郎

journal club	救急集中治療科	11月15日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	11	Clinical practice The management of hyperammonemia	奥野美佐子
journal club	救急集中治療科	11月22日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	11	Mortality after fluid bolus in african children with severe infection	辻真之介
journal club	救急集中治療科	12月6日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	12	Recommendations for the evaluation of risk and prophylaxis of tumour lysis syndrome (TLS) in adults and children with malignant diseases: an expert TLS panel consensus	田中愛子
journal club	救急集中治療科	12月13日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	14	C-reactive protein in the diagnosis of postoperative infection in pediatric patients: a prospective observational study of 103 patients.	安部真吾
journal club	救急集中治療科	12月20日		小児救急医療センター カンファレンスルーム	13	"Evolving Health Effects of Pneumocystis: One Hundred Years of Progress in Diagnosis and Treatment	笠井和子
心臓血管外科 カンファレンス	心臓血管外科	4月12日(火)	8:30～9:00	本館4F カンファレンスルーム	9	ペースメーカー説明会	業者
心臓血管外科 カンファレンス	心臓血管外科	4月13日(水)	8:30～9:00	本館4F カンファレンスルーム	9	シニアトール小児病院報告会	松久弘典
循環器抄読会	心外・循環器	4月14日(木)	8:30～9:00	本館4F カンファレンスルーム	17	心筋炎に対するECMO	富永健太
心臓血管外科 カンファレンス	心臓血管外科	4月20日(水)	8:30～9:00	本館4F カンファレンスルーム	9	緊急ECMO導入について	圓尾文子
心臓血管外科 カンファレンス	心臓血管外科	5月18日(水)	8:30～9:00	本館4F カンファレンスルーム	10	ペースメーカー説明会	業者
心臓血管外科 カンファレンス	心臓血管外科	6月1日(水)	8:30～9:00	本館5F カンファレンスルーム	10	呼吸機能測定装置 ARPEL 説明会	業者
心臓血管外科 カンファレンス	心臓血管外科	8月11日(木)	8:30～9:00	本館4F カンファレンスルーム	9	MM カンファレンス	

心臓血管外科 カンファレンス	心臓血管外科	9月21日(水)	8:30～9:00	本館4F カンファレンスルーム	9	新生児体外循環の現状とトピックス ～新生児むくみ軽減のために～	岩崎一崇
心臓血管外科 カンファレンス	心臓血管外科	12月7日(水)	8:30～9:00	本館4F カンファレンスルーム	10	INVOSについて	業者
麻酔科カンファレンス	麻酔科	通年、毎日	8:30分～9:00	手術室内麻酔医室	8-16	毎日の麻酔症例について検討、情報交換を行う	
麻酔科抄読会	麻酔科	隔週月曜	8:30分～9:00	手術室内麻酔医室	8-16	英文雑誌から麻酔関連論文の紹介	
麻酔科・心臓外科合同 カンファレンス	麻酔科・ 心臓外科	通年、毎日	7:55分～8:10	ICU	約10	当日の心臓外科症例についてのカンファレンス	
新生児クリニカル カンファレンス	新生児科	1月4日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	2011年ルーチン・総括	溝淵雅巳
新生児クリニカル カンファレンス	新生児科	1月6日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	MD 双胎一児 IUFD 症例	石原佳代
新生児クリニカル カンファレンス	新生児科	1月11日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	超早期産児における小脳体積と白質障害の関連について	浅野貴大
新生児クリニカル カンファレンス	新生児科	1月13日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	iNO,ECMO ルーチン	岩谷壮太
新生児クリニカル カンファレンス	新生児科	1月18日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	生後早期発症の腎不全に対し PD 導入後凝固機能異常をきたした一例 術後晩期循環不全をきたした超低下体重児	石原佳代 猪俣慶
新生児クリニカル カンファレンス	新生児科	1月20日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	PPHN, ALI をきたした一例 CDH 合併先天奇形症候群の一例	浅野貴大 辻真之介
新生児クリニカル カンファレンス	新生児科	1月25日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	多発小腸閉鎖による胎便性腹膜炎の一例 気管洗浄液についての研究	坂井仁美 岩谷壮太
新生児クリニカル カンファレンス	新生児科	1月27日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	FIRS の時相についての研究	猪俣慶
新生児クリニカル カンファレンス	新生児科	2月1日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	2010年感染対策総括 / 地方会予演：肝血管腫の3例	溝淵雅巳 辻真之介

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月3日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	HIE時の急性期DWIと1歳児予後ECMO管理をおこなったCDH	浅野貴大 岸田祐介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月8日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	生後5時間よりiNOを行った超早産児PotterSequence, 13トリソミー	岩谷壮太 辻真之介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月10日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	重症仮死出生の早産児/出血性肺浮腫	猪俣慶 石原佳代
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月15日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	周産期新生児抄録: Late Preterm HIE児の1歳時予後/2010年入院統計	浅野貴大 芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月17日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	周産期新生児抄録: 胎内発症ICH 早産児の新生児期脳波所見/骨形成不全の一例	坂井仁美 岸田祐介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月22日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	周産期新生児抄録: 生直後の治療抵抗性低血圧に対してiNOが有効であった在胎23週の超早産児例超早産, 腹壁破裂の一例	岩谷壮太 石原佳代
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2月24日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	TTTSにたいしてFLP後出生となったMD 双胎周産期新生児抄録: FIRSの時相についての検討	辻真之介 猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月1日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	周産期新生児抄録: 重症LLSに対するHC療法重症CLDにおける心電図	溝淵雅巳 芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月3日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	CAH合併極低出生体重児の一例近畿新生児予演: 在胎22週出生児の予後	坂井仁美 猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月8日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	ESPR: FIRSの時相の評価法についての検討 近畿小児科予演: 超早産児の正期産相当時MRIにおける大脳白質ADCの検討	猪俣慶 浅野貴大
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月10日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	在胎29週出生児のCLD近畿小児科: CLD増悪時のSTA洗浄の有効性	辻真之介 岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月15日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	筋強直性ジストロフィーの一例	猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月17日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	仙尾部奇形腫	石原佳代
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月22日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	CHDF, マンニトールのプロトコール	岩谷壮太

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月24日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	胎児水腫/重症仮死をきたした早産FGRの一例	辻真之介 猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月29日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	TAF論文途中経過	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	3月31日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	多発奇形, Potter症候群を合併した超低出生体重児	岸田祐介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月5日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	研究総括	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月7日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	Walker Warburg症候群の一例PDAクリッピング後の乳糜胸を合併した21トリソミーの一例	猪俣慶 岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月12日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	小児科学会:重症CLD児におけるPH管理の変遷	岸田祐介
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月14日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	地方会抄録:巨大CCAMの一例脳瘤を合併した筋ジストロフィーの一例	二野菜々子 武岡恵美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月19日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	PAS予演:気管内吸引量によるBPD発症予測ELBWIにおけるTAF中IL6と気管内保菌の関連	岩谷壮太 溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月20日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	1歳6ヶ月で死亡した13トリソミーの一例	猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月21日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	FIRSの指標としてのIL6/CDHの一例	猪俣慶 田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月22日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	生後2ヶ月で死亡したMMC合併18トリソミー	猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月26日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	正期産児の脳出血/AMD 双胎の予後	二野菜々子 坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月27日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	救命困難であったFMTによる心不全の一例	猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	4月28日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	多発奇形, Potter症候群を合併した超低出生体重児	岸田祐介

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月10日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	鎖肛と水頭症を合併した一例	武岡恵美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月12日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	FIRSの指標としてのIL62	猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月17日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	PAS報告	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月19日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	地方会予演：巨大CCAMの一例脳瘤を合併した筋ジストロフィーの一例	二野菜々子 武岡恵美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月24日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	先天性敗血症と消化管穿孔を合併した一例	中村有香里
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月26日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	ビタミンKとIVH/TAFのスコア化	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	5月31日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	FIRS研究	猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月2日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	先天性表皮水疱症の一例	二野菜々子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月7日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	先天性乳糜胸の一例	武岡恵美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月9日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	胎児診断のなかったCDH症例のまとめ	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月14日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	胎児水腫、乳糜胸/胆汁性嘔吐をきたしたヒルシュスプルング病	猪俣慶 岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月16日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	栄養障害児に対する栄養剤の選択サーファクタントを媒体とするブデソニド吸入	坂井仁美 溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月21日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	短腸症候群/iNO	二野菜々子 芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月23日	16:00～17:30	NICUカンファレンス ルーム	10	胎便性腹膜炎	武岡恵美子

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月28日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	CLD治療法の変更/ECMO下巨大CCAM切除術施行例	溝淵雅巳 坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	6月30日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	10	周産期新生児予演：部分的機能温存が得られた新生児臍のう腫出生児I L 6, CRPによるFIRSの時相の評価	田中聡 猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月5日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児予演：早産児に対するiNOの早期使用胎内発症ICH早産児の新生児期脳波所見	芳本誠司 坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月7日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期新生児：重症LLSに対するHC療法重症CLDにおける心電図変化	溝淵雅巳 芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月14日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	先天性CMV感染症/未熟児新生児抄録：超早産双胎のまとめ	二野菜々子 田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月19日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児抄録：FIRSの時相による生後合併症の違いの評価	猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月21日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児抄録：気管内吸引増加の危険因子subclinicalTTTSの臨床像	岩谷壮太 坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月26日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児：超早産児のVAPとTAF IL-6アイノフロー導入前後	溝淵雅巳 芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	7月28日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	早発型LLSの一例/副腎出血と先天性副腎過形成の症例	田中聡 武岡恵美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月2日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	胎児期に脳瘤を指摘され、出生後にWalker-Warburg症候群と診断した1例	猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月4日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	地方会予演：副腎出血を合併したCAHの一例C型食道閉鎖および大動脈離断を合併した18トリソミー	祖父江俊樹 岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月9日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	遷延する心不全、重症黄疸を合併した31週DZ双胎	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月11日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	研究経過	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月16日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	ESPR：FIRSの時相についての検討	猪俣慶

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月18日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	C型食道閉鎖およびTriple Shuntを合併した18トリソミーの一例	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月23日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	先天性肺炎を呈した一例	祖父江俊樹
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月25日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	サーファクタントを媒体とするブテゾニド投与	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	8月30日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	高血糖, 高乳酸血症を来した胎23週出生の児	猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月1日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	胎内からDIC, 心不全を合併していたと考えられた肝血管腫	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月6日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	生後早期死亡の18trisomy	芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月8日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	地方会: 副腎出血を合併したCAHの一例一児IUCDを合併した心筋肥厚を伴うTAFDの一例	祖父江俊樹 坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月13日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	ELGANsに対するSTA洗浄	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月15日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	論文: 22週出生の児の臨床像両大血管右室起始症を合併した13トリソミーの一例	猪俣慶 岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月20日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	喉頭軟化症・喉頭浮腫と先天性心疾患	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月22日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	鎖骨頭蓋骨異形成	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月27日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	肝血管内皮腫	祖父江俊樹
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	9月29日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	Tanatophonic dysplasia	猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月4日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	小児科学会抄録 (肝血管腫4例)	田中聡

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月6日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	FAOPS (CLD) に対する S T A 洗浄の効果) ESPR (ELBWI) における FIRS の時相の評価)	岩谷壮太 猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月11日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	小児科学会抄録(食道閉鎖症のまとめ)	芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月13日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	先天性乳び胸を合併した floppy infant	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月18日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	FIRS に起因する cPVL をきたした VLBW	祖父江俊樹
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月20日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	超早産児の低リン酸血症	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月25日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	重症 H I E の ELBW 例	芳本誠司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	10月27日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	8	長期 pPROM に cPVL 合併した一例	河合清日
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月1日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児予演：FIRS の時相の違いによる生後合併症の評価 / 超早産双胎まとめ	猪俣慶 田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月8日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児予演：INO 変遷 / 胎児ストレスと TAF 量	芳本誠司 岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月10日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児新生児予演：subclinical TTTS の臨床像と予後 TAF 分析による VAP の診断	坂井仁美 溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月17日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	近畿小児科抄録：Waardenburg 症候群	猪俣慶
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月22日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	TAPS を呈した MD 双胎	坂井仁美
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月24日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	先天性 CMV 感染症	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	11月29日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	未熟児懇話会：preterm PROM の児の White Matter Injury	河合清日

新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月1日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	緑膿菌によるVAP	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月6日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	近畿小児科抄録：ピンクリチンが奏効した新生児肝血管腫の一例	田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月8日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期研修会予演：新生児室における感染対策	溝淵雅巳
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月13日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	周産期研修会予演：長期入院児の在宅医療への移行支援	藤定睦子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月15日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	ASPR抄録：TAF IL-6_Severe HC	岩谷壮太
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月20日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	羊水過少，DLSの一例	河合清日
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月22日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	重症CLDと消化管機能障害を合併したsevere FGR 十二指腸閉鎖，21trisomy	坂井仁美 田中聡
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	12月27日	16:00～17:30	NICUカンファレンスルーム	9	研究総括/ルーチン総括	溝淵雅巳 岩谷壮太
産科モーニングカンファレンス	産科	毎朝	8:40～9:00	産科病棟詰所	28	当直報告と入院患者の症例検討、連絡事項	
抄読会	産科	毎金	8:20～8:40	産科病棟医師控え室	8	英文雑誌から産科関連論文の紹介	
平成23年度新人フォローアップ研修	看護部	4月27日		研修室AB		輸液ポンプ・シリンジポンプの適正使用について	岩下仁美
呼吸ケア部会勉強会	呼吸ケア部会	7月15日	17:30～18:30	研修室AB		人工呼吸器のトラブルシューティングについて	横山真司
心外科勉強会	心臓血管外科	12月3日	7:45～8:30	研修室AB		開心術における体外循環、ECMOについて	志智美咲
薬剤部勉強会	薬剤部	1月5日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 血液腫瘍科「ロイケリン散の薬物代謝酵素(TPMT)の遺伝子多型について」	

薬剤部勉強会	薬剤部	1月5日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 産科 「帝王切開について」循環器科 「心房中隔欠損症」	
薬剤部勉強会	薬剤部	1月12日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会産科 「子宮頸管縫縮術を受けた患者への服薬指導」	
薬剤部勉強会	薬剤部	1月13日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会 「ネシーナ」	
薬剤部勉強会	薬剤部	1月17日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会 「ロゼレム」	
薬剤部勉強会	薬剤部	1月26日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 眼科 「眼科におけるデルモイドの症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	1月26日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 「未熟児網膜症」 血液腫瘍科 「腫瘍崩壊症候群」	
薬剤部勉強会	薬剤部	1月27日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会 「イーケプラ」	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月2日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 循環器科 「経腸栄養剤のEDチューブを用いた投与方法について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月9日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 血液腫瘍科 「GMPとアロプリノールの相互作用に関する症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月16日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 産科 「出産後皮疹がでた症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月16日	17:30～18:30	薬剤部	6	部内勉強会 産科 「妊娠糖尿病」	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月23日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 腎臓内科 「ネフロローゼ症候群にリツキサンを使用した症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月23日	17:30～18:30	薬剤部	10	当院検査技師より 感染について	
薬剤部勉強会	薬剤部	3月9日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会 循環器 「小児の不整脈」 「処方せん記載変更への対応」	

薬剤部勉強会	薬剤部	3月16日	17:30～18:30	薬剤部	8	「感染症診療の基本的考え方」DVD視聴	
薬剤部勉強会	薬剤部	3月23日	17:30～18:30	薬剤部	8	「抗MRSA薬の使い方、抗真菌薬はどう使い分けるのか」	
薬剤部勉強会	薬剤部	5月11日	17:30～18:30	薬剤部	8	製品勉強会「プラザキサカプセル」	
薬剤部勉強会	薬剤部	5月18日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 産科「便秘症の妊婦の症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	5月26日	17:30～18:30	薬剤部	10	部内勉強会「糖尿病の輸液」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月1日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 腎臓内科 「初発のネフローゼ患者の薬剤管理指導」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月1日	17:30～18:30	薬剤部	10	部内勉強会 「抗HIV治療方法(HIV針刺し事故対策を中心に)」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月9日	17:30～18:30	薬剤部	10	製品勉強会「クレキササン皮下注キット」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月15日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 循環器内科 「人工弁機能不全(血栓弁)に対しrt-PAを使用した症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月15日	17:30～18:30	薬剤部	7	「臨床的に重要な細菌・耐性菌」DVD視聴	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月22日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会「乳がんについて」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月29日	17:30～18:30	薬剤部	9	「消毒薬について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月6日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 血液腫瘍科「ALL寛解導入時にPPR(PSL poor response)のためにERプロトコールを使用した症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月6日	17:30～18:30	薬剤部	10	部内勉強会「アトピー性皮膚炎について」	

薬剤部勉強会	薬剤部	7月20日	8:45～9:00	薬剤部	9	症例報告会 血液腫瘍科「制吐剤使用に関する症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月20日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会「タンボコール・ワソランについて（小児適応承認拡大にあたって）」	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月27日	17:30～18:30	薬剤部	9	「小児気管支喘息治療・管理について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月1日	17:30～18:30	薬剤部	8	製品勉強会「スプリセル錠」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月3日	17:30～18:30	薬剤部	8	小川先生勉強会「頻拍発作時の対応について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月3日	8:45～9:00	薬剤部	11	症例報告会 腎臓内科「ケイキサレート散の小児用量」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月18日	17:30～18:30	薬剤部	7	製品勉強会「ピザータ注」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月24日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 産科 「複数のアレルギーを持つ妊婦の症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月24日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会「発熱性好中球減少症について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月31日	17:30～18:30	薬剤部	7	「抗真菌薬について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月5日	17:30～18:30	薬剤部	7	製品勉強会「アボネックス筋注」	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月7日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 産科 「帝王切開におけるクレキシサンの投与について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月7日	17:30～18:30	薬剤部	7	「科学的な抗菌薬・抗真菌薬の使い方」DVD視聴	
薬剤部勉強会	薬剤部	9月21日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 腎臓内科「透析を行っている患者の症例」	

薬剤部勉強会	薬剤部	9月28日	17:30～18:30	薬剤部	8	製品勉強会「フォスブロック」	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月5日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 心臓血管外科・循環器内科 「VSD 閉鎖術後の患者への薬剤管理指導」	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月5日	17:30～18:30	薬剤部	9	製品勉強会「レボレード錠」	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月19日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 血液腫瘍内科「自家造血幹細胞移植前処置中に高アミラーゼ血症をきたした症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月19日	17:30～18:30	薬剤部	9	部内勉強会「バセドウ病合併妊娠について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月26日	17:30～18:30	薬剤部	10	製品勉強会「ジスロマック点滴静注」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月2日	17:30～18:30	薬剤部	10	製品勉強会「キュビシン注」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月9日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 産科「切迫早産の症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月9日	17:30～18:30	薬剤部	9	「輸液等におけるリスクマネジメント (配合変化、その他の注意事項)」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月16日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 血液腫瘍内科 「生後4ヶ月の髄芽腫の症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月30日	17:30～18:30	薬剤部	8	部内勉強会 「小児の静脈栄養について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月7日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 循環器・心臓血管外科 「タリオン服用中の授乳について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月7日	17:30～18:30	薬剤部	8	部内勉強会「高血圧治療ガイドラインについて」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月12日	17:30～18:30	薬剤部	8	製品勉強会「プロイメンド点滴静注用」	

薬剤部勉強会	薬剤部	12月21日	8:45～9:00	薬剤部	10	症例報告会 腎臓内科「ネフローゼ症候群でステロイド内服中に安静時振戦をおこした症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月21日	17:30～18:30	薬剤部	7	部内勉強会 「感染性心内膜炎について」	
放射線部勉強会	放射線部	1月20日	16:30～17:00	放射線技師室	10	加速器による新しい Mo-99Tc-99m 製造技術の確立に成功	大谷幸広
放射線部勉強会	放射線部	2月3日	16:30～17:00	放射線技師室	5	各病院での取組み (接遇リーダーとしての取組み)	吉野太司
放射線部勉強会	放射線部	7月11日	17:00～18:00	一般撮影室	10	CTワークステーションの機能について	富士フィルム
放射線部勉強会	放射線部	7月19日	17:00～18:00	CT検査室	5	CTワークステーションの機能について	富士フィルム
放射線部勉強会	放射線部	7月28日	17:00～18:00	血管造影検査室	5	心カテ用ポリグラフの使用説明	日本光電
放射線部勉強会	放射線部	8月23日	16:30～17:00	放射線技師室	8	小児心室造影におけるダイナミックレンジ圧縮処理の最適化の検討	関尾直士
放射線部勉強会	放射線部	8月23日	17:00～17:30	放射線技師室	8	小児血管造影検査における術者被曝の検討	射場智美
放射線部勉強会	放射線部	11月17日	16:30～17:00	放射線技師室	7	小児がん医療の新たなリスク (晩期合併症)	木村浩司
放射線部勉強会	放射線部	12月1日	16:30～17:00	放射線技師室	8	小児の頭痛	服部真吾
放射線部勉強会	放射線部	12月15日	17:00～17:30	放射線技師室	7	CR装置の蔽ばくと特性	北住一哉
課内研修会	栄養指導課	5月10日	15:00～15:30	栄養指導課	12	ヒヤリハットの報告について	山本和彦
課内研修会	栄養指導課	6月7日	15:00～15:30	栄養指導課	12	小児の産科入院について移植対応食 (アイスクリーム) について	鳥井隆志

課内研修会	栄養指導課	7月5日	15:00～15:30	栄養指導課	12	口蓋裂食のおやつについて	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	8月9日	15:00～15:30	栄養指導課	14	マスキング液の廃止について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	9月6日	15:00～15:30	栄養指導課	12	ヒヤリハットの報告について	山本和彦
課内研修会	栄養指導課	10月4日	15:00～15:30	栄養指導課	12	厨房内での衛生管理について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	11月8日	15:00～15:30	栄養指導課	14	厨房内での衛生管理について	鳥井隆志
課内研修会	栄養指導課	12月27日	15:00～15:30	栄養指導課	10	服務規律の遵守について	山本和彦
ME 術前・術後 カンファレンス	ME	毎日		ME 室	3～4	心臓血管外科手術症例について	
ME 勉強会	ME	7月11日	17:00～18:00	ME 室	3	第47回小児循環器学会、第3回 PECLS 研究会報告	横山
ME 勉強会	ME	8月6日	9:00～10:00	ME 室	3	ASO の適応となる症例に対する体外循環	横山
ME 勉強会	ME	10月1日	9:00～10:00	ME 室	3	小児心肺バイパス概論～最新技術と未来～	横山
ME 勉強会	ME	10月6日	18:00～19:00	ME 室	3	小児心肺バイパス概論～最新技術と未来～	横山
ME 勉強会	ME	10月11日	17:00～19:30	ME 室	3	第37回日本体外循環技術医学会、 第4回 PECLS 研究会報告	横山、岩崎

看護部部署内勉強会 (2011年度)

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者 / 担当
勉強会	一般外科 主体病棟	6月21日	17:40～18:30	研修室D	13	リフレクション	担当
勉強会	一般外科 主体病棟	7月29日	17:40～19:30	4階 カンファレンス室	7	救急蘇生	担当
勉強会	一般外科 主体病棟	9月16日	17:30～19:00	5階 カンファレンス室	6	周手術期の看護	担当
勉強会	一般外科 主体病棟	9月30日	17:30～19:30	6階 カンファレンス室	5	落合さん受持ちに向けて	担当
勉強会	一般外科 主体病棟	10月20日	17:30～18:00	研修室C	10	VURにおけるデフラックス注入療法	担当
勉強会	一般外科 主体病棟	12月20日	17:30～18:30	4階 カンファレンス室	7	スタンダートブリコーション	担当
勉強会	一般外科 主体病棟	2月2日	17:30～19:00	4階 カンファレンス室	8	胸腔ドレーン管理	担当
勉強会	循環器A病棟	12月21日	8:30～17:15	7F会議室	4	呼吸循環管理と実際	林
勉強会	循環器A病棟	9月29日	8:30～17:15	病棟食堂&ベッドサイド	2	人工呼吸管理について	池田
勉強会	循環器A病棟	9月30日	8:30～17:15	病棟食堂&ベッドサイド	2	人工呼吸管理について	池田
勉強会	循環器A病棟	7月5日	17:30～18:30	病棟食堂	4	日勤リーダーの役割とリーダー業務	濱谷
勉強会	循環器A病棟	1月17日	18:45～19:20	病棟食堂	7	正しい看護記録の記載方法	渡辺ち、守谷

勉強会	循環器 A 病棟	11 月 25 日	18:30 ~ 20:00	病棟食堂	7	機創 DESIGN-R	千治松、池田
勉強会	循環器 A 病棟	12 月 19 日	17:45 ~ 18:45	病棟食堂	11	患者様の安全を守るモニター管理	谷岡、石本補佐
勉強会	循環器 A 病棟	11 月 17 日	18:00 ~ 18:30	研修室 D	20	ニプルの選択について	岸本、永石、続木、林補佐
勉強会	循環器 A 病棟	11 月 10 日	18:15 ~ 18:45	研修室 D	5	超基本！人工呼吸器ってなに？	村上、谷口
勉強会	循環器 A 病棟	9 月 29 日	18:00 ~ 18:30	病棟食堂	6	人工換気バッグを用いた換気	村上、谷口
勉強会	循環器 A 病棟	7 月 30 日	17:45 ~ 18:30	病棟食堂	5	アンビュバッグの使い方	村上、谷口
勉強会	循環器 A 病棟	6 月 20 日	18:00 ~ 18:20	病棟食堂		スクイーピングについて	村上、谷口
勉強会	循環器 A 病棟	8 月 1 日	17:20 ~ 18:20	病棟食堂	13	リフレクシヨンの実際 (DVD 鑑賞) と活用	渡辺ち
勉強会	循環器 A 病棟	8 月 10 日	17:45 ~ 18:45	研修室 C	20	「Oncologic Emergency と看護」 観察上のポイント・落とし穴	長谷川 大一郎 Dr
勉強会	循環器 A 病棟	8 月 16 日	17:45 ~ 18:45	研修室 C	20	移植児・化学療法時の食事について	鳥井栄養 管理士
勉強会	循環器 A 病棟	12 月 20 日	17:45 ~ 18:45	研修室 C	30	造血幹細胞移植の流れ	山下達也 Dr
勉強会	循環器 A 病棟	12 月 2 日	17:45 ~ 18:45	研修室 C	30	小児における化学療法～副作用を知り看護に活かそう	山下達也 Dr
勉強会	循環器 A 病棟		18:00 ~ 19:00	研修室 D	15	栄養サポートに関すること	鳥井栄養 管理士
勉強会	循環器 B 病棟	7 月 25 日	17:30 ~ 18:30	7F カンファレンスルーム	3	心不全・ASD・VSD の看護	高原、永田、 藤原、中野、 松木

勉強会	循環器 B 病棟	9月30日	17:30～18:30	7F カンファレンスルーム	3	グレン・TCPCの看護	松浦、石塚
勉強会	循環器 B 病棟	10月14日	17:30～18:30	7F カンファレンスルーム	3	ドレーン管理	高原、濱端
勉強会	循環器 B 病棟	11月2日	17:30～18:30	7F カンファレンスルーム	2	不整脈の看護	松島、中村
勉強会	循環器 B 病棟	11月18日	17:30～18:30	7F カンファレンスルーム	2	ペースメーカーの看護	沼田、刈谷
勉強会	循環器 B 病棟	12月22日	17:30～18:30	7F カンファレンスルーム	2	PDA/姑息術の看護	永田、小林
勉強会	循環器 B 病棟	1月17日	17:30～18:30	7F カンファレンスルーム	2	新生児看護	藤原、大原
勉強会	循環器 B 病棟	1月24日	17:30～18:30	7F カンファレンスルーム	5	リーダーシップ	開保津、濱端
勉強会	循環器 AB 病棟	8月19日	17:30～18:30	研修室 AB	17	救急蘇生「急変シミュレーション」	藤原、古川
勉強会	循環器 AB 病棟	10月28日	17:30～18:30	研修室 AB	15	救急蘇生「DCシミュレーション」	古川、楠本
勉強会	循環器 AB 病棟	1月6日	17:30～18:30	研修室 AB	11	救急蘇生「ECMO シミュレーション」	松尾、藤原
事例検討会	循環器 B 病棟	5月25日	17:30～18:30	7F カンファレンスルーム	22	ヒヤリハット事例から内服薬投与忘れの RCA 分析	中村
事例検討会	循環器 B 病棟	6月15日	17:30～18:30	7F カンファレンスルーム	20	脚ブロックコールド基準	開保津
事例検討会	循環器 B 病棟	8月24日	17:30～18:30	7F カンファレンスルーム	20	在宅退院支援	松島
事例検討会	循環器 B 病棟	10月19日	17:30～18:30	7F カンファレンスルーム	20	ヒヤリハット事例から輸血看護	松島、古川、 松浦

事例検討会	循環器 B 病棟	11月21日	17:30～18:30	7F カンファレンスルーム	20	リスク感性を高める ヒヤリハット事例から人工呼吸器の管理	中村、開保津
事例検討会	循環器 B 病棟	2月15日	17:30～18:30	7F カンファレンスルーム	20	看護業務と法令	中村、木村
勉強会	混合 A 病棟	4月27日	17:30～19:30	研修室 AB	12	痙攣	永瀬裕朗 D r
勉強会	混合 A 病棟	6月3日	17:30～18:30	7階会議室	15	糖尿病について事例検討	山岡
勉強会	混合 A 病棟	7月4日	17:30～18:50	4階会議室	13	呼吸不全について事例検討	大田
勉強会	混合 A 病棟	8月29日	17:30～18:30	研修室 C	10	術後のフェンタネストにおける疼痛コントロール	榊本
勉強会	混合 A 病棟	9月30日	17:30～18:30	研修室 D	13	偏摘について事例検討	福原
勉強会	混合 A 病棟	10月25日	17:30～18:30	研修室 D	5	院内における暴力対策・安全対策について	阪本、山岡
勉強会	混合 A 病棟	11月30日	17:45～18:30	4階会議室	10	ネフローゼについて事例検討	玉田
勉強会	混合 A 病棟	12月13日	17:30～19:30	研修室 C	8	乳児の呼吸管理について	吉矢
勉強会	混合 A 病棟	12月16日	18:00～18:30	4階会議室	9	髄膜炎について事例検討	清水
勉強会	混合 A 病棟	1月31日	17:45～18:30	7階会議室	13	腎不全について事例検討	関
勉強会	混合 A 病棟	2月23日	17:45～18:30	7階会議室	10	痙攣を起こす疾患について事例検討	吉村
病棟カンファレンス	混合 B 病棟	12月14日	17:30～19:00	産科外来	15	看護師デスカンファレンス	森保

勉強会	混合B病棟	11月30日	17:30～19:00	研修室C	12	家族看護	洲野、栗林
血液腫瘍科勉強会	7F・5A	6月20日	17:30～18:30	第1会議室	12	Oncologic Emergencyと看護・観察上のポイント・落とし穴	長谷川大一郎 Dr
血液腫瘍科勉強会	血液腫瘍 主体病棟	7月13日	17:30～18:00	7階学習室	21	発熱	船田
血液腫瘍科勉強会	血液腫瘍 主体病棟	8月10日	17:30～18:30	7階学習室	22	嘔気・嘔吐	井上
血液腫瘍科勉強会	血液腫瘍 主体病棟	8月19日	17:30～18:30	研修室C	15	JPLSG 新規ALL研究について	長谷川大一郎 Dr
血液腫瘍科勉強会	血液腫瘍 主体病棟	9月13日	17:30～18:00	7階学習室	20	痛み	西川
血液腫瘍科勉強会	血液腫瘍 主体病棟	11月17日	17:30～18:30	7階学習室	20	化学療法中の排泄物の取り扱いについて	後藤
血液腫瘍科勉強会	血液腫瘍 主体病棟	11月24日	17:30～18:30	7階学習室	20	疼痛緩和	本庄
血液腫瘍科勉強会	血液腫瘍 主体病棟	3月15日	13:30～17:30	4階 カンファレンス室	9	緊急時シミュレーション	森田、齋藤
勉強会	NICU、GCU	5月27日	17:30～18:30	研修室AB	32	Let's enjoy neonatal care	中尾秀人Dr
勉強会	NICU、GCU	6月27日	17:30～19:00	研修室AB	37	新生児病棟の感染対策	鳴海、 溝利雅司Dr
勉強会	NICU	6月29日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	15	救急蘇生のAABC	プリセブター
勉強会	NICU	7月28日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	15	低酸素にさせないケア	プリセブター
勉強会	NICU、GCU	8月22日	17:30～18:30	研修室AB	27	栄養	担当

勉強会	NICU		8月23日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	10	経験の少ない日常生活援助	プリセブター
勉強会	NICU		9月12日	17:30～19:00	病棟 カンファレンスルーム	10	ファミリーケア	プリセブター
勉強会	NICU、GCU		10月24日	17:30～18:30	研修室AB	32	新生児看護学会予演会	担当
勉強会	NICU		10月26日	17:30～20:00	NICU個室	13	抜管	プリセブター
勉強会	NICU		11月30日	17:30～18:30	NICU個室	10	予定外抜管（救急蘇生）	プリセブター
勉強会	NICU		12月28日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	10	入院受け	プリセブター
勉強会	NICU		2月29日	17:30～18:45	病棟 カンファレンスルーム	12	29週児の事例検討	プリセブター
勉強会	NICU		11月18日	17:30～19:00	研修室C	11	困っていること	担当
勉強会	NICU		6月24日	17:30～19:00	研修室D	6	26週未満の児の看護について	伊達
勉強会	NICU		8月26日	17:30～19:00	研修室C	15	外来看護について：ずばり解決！その悩み	五十嵐
勉強会	NICU		10月28日	17:30～19:00	研修室D	11	記録について：看護がわかる記録って？	藤原
勉強会	NICU		1月27日	17:30～19:00	研修室D	10	倫理について：〇〇ちゃんの事例を振り返って	井谷、平井
抄読会	NICU		8月18日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	12	グループケアについて	担当
抄読会	NICU		11月17日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	12	こどもに合わせたケアとハンドリング	担当

抄読会	NICU	1月19日	17:30～18:30	病棟 カンファレンスルーム	9	家族と行うデベロップメンタルケア	担当
新生児病棟・産科病合同 勉強会	NICU、GCU、 産科	7月6日	17:30～19:00	研修室AB	62	産後うつ	光風病院うつ 認定看護師： 長浜
勉強会	NICU	1月24日	17:30～18:30	研修室AB	16	病棟のポジショニングの現状①	担当
勉強会	NICU	12月27日	17:30～18:30	研修室D	16	母乳育児支援	担当
勉強会	GCU	7月7日	17:30～18:30	GCU	11	第1回救急蘇生	吉田、竹田、 山崎あ
勉強会	GCU	7月28日	17:30～18:30	GCU	11	沐浴のお話会について	岩本、田口
勉強会	GCU	8月10日	17:30～18:30	GCU	11	直母のお話会について	高柳、安田
勉強会	GCU	9月26日	17:30～18:30	GCU	13	第2回救急蘇生	吉田・竹田・ 山崎あ
勉強会	GCU	2月16日	17:30～18:30	研修室D	12	看護を考える（発表）	小松・橋詰・ 加藤
勉強会	GCU	1月24日	17:30～18:30	GCU	13	横隔膜ヘルニア再発児の看護	岩本
勉強会	GCU	2月24日	17:30～18:30	GCU	10	長期入院時の成長発達への看護	高柳
勉強会	GCU	6月27日	17:30～18:30	GCU	9	リザーバーを留置している児の看護	中津
勉強会	GCU	7月20日	17:30～18:30	GCU	8	長期母子分離を余儀なくされた児の愛着形成について	釣
勉強会	GCU	11月8日	17:30～18:30	GCU	11	二分脊椎患者の術前看護	竹田

勉強会	GCU	11月15日	17:30～18:30	GCU	8	人工肛門閉鎖術後の児の看護	黒木
勉強会	GCU	12月22日	17:30～18:30	GCU	15	超低出生体重児の看護	吉田
勉強会	GCU	12月14日	17:30～18:30	GCU	25	救急蘇生	岸・田丸・笠作
勉強会	GCU	1月12、20、21、31日	17:30～18:30	GCU	33	災害時の搬送について	藤原・竹田
勉強会	HCU病棟	5月12日	17:30～18:30	HCU カンファレンスルーム	11	BCR入室の処置	森本
血液腫瘍科勉強会	HCU病棟	5月15日	17:30～18:30	HCU 研修室	6	口内炎・口腔内ケア	石田敏章D r
勉強会	HCU病棟	5月30日	17:30～18:10	HCU カンファレンスルーム	9	BCR入室の処置疾患について(基礎編)	木下
勉強会	HCU病棟	7月21日	17:30～18:30	HCU カンファレンスルーム	16	口腔ケアについて	石田敏章D r
勉強会	HCU病棟	7月25日	17:30～18:30	HCU カンファレンスルーム	12	脳腫瘍・EVDについて	河村敦史D r
勉強会	HCU病棟	8月16日	17:30～19:00	HCU カンファレンスルーム	9	GER とその治療	横井暁子D r
勉強会	HCU病棟	8月23日	17:30～18:00	HCU カンファレンスルーム	12	口唇口蓋裂	大山知樹D r
勉強会	HCU病棟	8月25日	17:40～18:10	HCU カンファレンスルーム	16	新生児看護	小林
勉強会	HCU病棟	8月30日	17:30～18:30	研修室D	14	気管狭窄症	横井暁子D r
勉強会	HCU病棟	9月16日	17:30～18:30	HCU カンファレンスルーム	10	頭蓋早期癒合症	河村敦史D r

勉強会	HCU 病棟	10月13日	17:30～18:30	HCU カンファレンスルーム	10	水頭症・シャント	河村敦史Dr
勉強会	HCU 病棟	10月27日	17:30～18:10	研修室C	10	PHについて	上田・島中
勉強会	HCU 病棟	10月28日	17:30～18:00	HCU カンファレンスルーム	12	慢性肺疾患	山口智
勉強会	HCU 病棟	11月24日	17:30～18:30	HCU 病棟	12	HT70 取り扱い	業者
勉強会	HCU 病棟	12月13日	17:30～18:10	HCU カンファレンスルーム	13	食道閉鎖症児の摂食ケア	森本
勉強会	ICU	6月3日	17:30～18:30	研修室AB	27	ECMO について (ECMO 導入時と管理について)	圓尾文子Dr
勉強会	ICU	7月22日	17:30～18:30	研修室C	38	SP シャント術と術後の管理について	長谷川智巳 Dr
勉強会	ICU	8月	17:30～19:00	ICU		救急蘇生	担当
事例検討会	ICU	9月9日	17:30～18:30	研修室C	8	家族看護	担当
勉強会	ICU	9月15日	17:30～18:30	研修室C	11	体外循環について (開心OR 勉強会)	藤原・馬場
事例検討会	ICU	9月28日	17:30～18:30	産科指導室	14	「気切を受ける患者の家族指導」について	担当
勉強会・事例検討会	ICU	11月28日	17:30～19:00	研修室D	13	RCA 分析について	担当
勉強会	ICU	11月30日	17:30～18:30	応接室	28	ICU 管理の基礎と実際	大嶋義博Dr
事例検討会	ICU	1月24日	17:30～19:00	会議室1	5		担当

勉強会	ICU	2月13日	17:30～19:00	研修室AB	25			担当
勉強会	ICU	2月6日	14:00～15:30	研修室C	11		診療伝票の記入について	楠(医事課)
勉強会	ICU、救急	8月1日	17:40～18:40	研修室D	22		エンゲルゲアの基礎とエンゼルメイクについて	担当
勉強会	救急	10月21日	17:30～18:30	研修室AB	55		エンゼルメイク応用編	浅井、森野、 杉田、馬場
勉強会	救急	5月20日	17:30～18:30	カンファレンス室	5		PALS 座学 初期評価・一次評価	浅井、森野、 杉田、馬場
勉強会	救急	6月28日	17:30～18:30		9		PALS 座学 アルゴリズム	圓尾
勉強会	救急	7月20日	17:30～18:30	初療室	10		PALS シミュレーション CPA	善家
勉強会	救急	9月20日	17:30～18:30	初療室	7		PALS シミュレーション 痙攣重積	山下、山之上
勉強会	救急	10月27日	17:30～18:30	初療室	10		PALS シミュレーション 熱傷	浅井、前田
勉強会	救急	12月8日	17:30～18:30	研修室AB	34		こどもの頑張る力を引き出す関わり	綾部
勉強会	救急	12月8日	17:30～18:30	研修室AB	34		こどもの頑張る力を引き出す関わり	清水
検討会	救急	2月21日	18:00～19:30	カンファレンス室	14		終末期医療におけるチームコンセンサスについて	浅井、清水、 竹田、永瀬
勉強会	手術室	6月7日	17:30～18:30	op6	30		新人が準夜勤務に従事するための超緊急カイザーシミュレーション	本田
勉強会	手術室	11月28日	17:30～18:30	op6	11		実践に即した超緊急カイザーシミュレーション	芥藤

勉強会	手術室	11月24日	17:30～18:30	休憩室	18	効果的な眼洗の消毒液と眼洗の仕方	高谷、竹村
勉強会	手術室	10月17日	17:30～18:00	op3	21	ナビゲーションの使い方	井上
勉強会	手術室	12月22日	17:30～18:30	研修室AB	20	プリオンの感染の歴史と対応	三好
勉強会	手術室	10月11日	17:30～18:30	リカバリー	22	倫理事例を用いた倫理シートの使い方	坂本
勉強会	外来	6月23日	16:30～17:30	外来点滴室	13	気管切開が必要な疾患・病態について	荒井洋志 Dr、 深江
勉強会	外来	7月25日	16:30～17:30	研修室D	31	気管切開患者の地域連携システムについて	地域連携部： 深江
勉強会	外来	9月30日	16:30～17:00	外来点滴室	15	血友病の基礎を学ぶ	小澤
勉強会	外来	7月1日	8:45～9:00	眼科外来	10	眼科診療介助に必要な知識	大脇
勉強会	外来	7月8日	8:45～9:00	眼科外来	12	散瞳処置を受けた患者の看護	大脇
勉強会	外来	7月15日	8:45～9:00	眼科外来	10	小児の視力測定方法	大脇
勉強会	外来	7月22日	8:45～9:00	眼科外来	8	小児の視力測定時の注意点	大脇
勉強会	外来	8月5日	8:45～9:00	眼科外来	11	斜視患者の看護Ⅰ	大脇
勉強会	外来	8月19日	8:45～9:00	眼科外来	10	斜視患者の看護Ⅱ	大脇
勉強会	外来	9月2日	8:45～9:00	眼科外来	10	白内障患者の看護Ⅰ	大脇

勉強会	外来		9月9日	8:45～9:00	眼科外来		8	白内障患者の看護Ⅱ	大脇
勉強会	外来		9月16日	8:45～9:00	眼科外来		10	白内障患者の看護Ⅲ	大脇
勉強会	外来		10月14日	8:45～9:00	眼科外来		8	緑内障患者の看護Ⅰ	大脇
勉強会	外来		10月28日	8:45～9:00	眼科外来		9	緑内障患者の看護Ⅱ	大脇
勉強会	外来		11月18日	8:45～9:00	眼科外来		10	眼科での特殊検査時の介助と看護Ⅰ	大脇
勉強会	外来		11月25日	8:45～9:00	眼科外来		8	眼科での特殊検査時の介助と看護Ⅱ	大脇
勉強会	外来		2月10日	8:45～9:00	眼科外来		12	心因性視力障害の患者の看護Ⅰ	大脇
勉強会	外来		3月2日	8:45～9:00	眼科外来		13	心因性視力障害の患者の看護Ⅱ	大脇
勉強会	産科		9月6日	17:30～18:30	研修室AB		26	母乳の初歩編と搾乳器の選択について	大脇、寺田
勉強会	産科		11月7日	17:30～18:30	研修室AB		26	グリーフケア	伊達(NICU)、大脇
勉強会	産科		11月30日	15:00～15:30	産科詰め所		18	出生前診断	西本昌司Dr
勉強会	産科		12月20日	17:30～18:30	外来指導室		34	出生前診断(精神面を中心に)	喜吉賢二Dr
勉強会	産科		1月31日	17:30～18:30	陣痛室・分娩室		21	経膈分娩・間接介助者の動きを中心に	大脇、家納、後山、瀬尾
勉強会	産科		12月19日	17:30～19:00	研修室C		23	カンファレンスについて	救急、清水看護長

勉強会	産科	2月6日	17:30～19:00	研修室AB	23	事例検討会	CNS (井上、細見)
NICU、産科合同勉強会	産科	9月27日	17:30～18:30	研修室AB	26	「オッパイについて」意見交換	杉友、中西
勉強会	産科	6月15日	17:30～18:30	外来指導室	21	帝王切開術の看護	池口、川上
勉強会	産科	10月24日	17:30～18:30	外来指導室	18	経腹エコー	喜吉賢二Dr、 網干、森本
勉強会	産科	12月22日	17:30～18:30	外来指導室	17	PIH患者の看護①	西本、為石
勉強会	産科	1月27日	17:30～18:30	外来指導室	18	PIH患者の看護②	網干、森本
勉強会	産科	2月22日	17:30～18:30	外来指導室	21	緊急帝王切開時の対応	新開、原山、 梅崎
検査部内研修会	検査部	1月20日	17:00から	検査控え室	11	ダウン症候群について	四元
検査部内研修会	検査部	2月3日	17:00から	検査控え室	19	染色体検査について	三菱化学 メデイエンス
検査部内研修会	検査部	2月17日	17:00から	検査控え室	11	コーチングについて	井上
検査部内研修会	検査部	3月17日	17:00から	検査控え室	8	診療支援システムについて	芳賀
検査部内研修会	検査部	5月31日	17:00から	検査控え室	14	イムノアッセイと非特異反応、非特異確認試験の概要	アボット ジャパン
検査部内研修会	検査部	6月16日	17:00から	検査控え室	11	輸血検査確認事項について	藤中
検査部内研修会	検査部	7月7日	17:00から	検査控え室	8	輸血検査マニュアルについて	藤中

検査部内研修会	検査部	7月27日	17:00 から	検査控え室	8	敗血症とPCT	シーメンス
検査部内研修会	検査部	8月18日	17:00 から	検査控え室	10	臓器移植法改正に伴う検査部の役割	西垣
検査部内研修会	検査部	9月15日	17:00 から	検査控え室	8	ルミパルス感染症試験の展望	富士レビオ
検査部内研修会	検査部	10月25日	17:00 から	検査控え室	11	臍帯血の臍動脈ガス値と臍静脈ガス値の違い	三村
検査部内研修会	検査部	11月17日	17:00 から	検査控え室	9	ヒルシユスプリング病について	與那嶺
検査部内研修会	検査部	12月9日	17:00 から	検査控え室	11	小児からの脳死下臓器提供のシミュレーション実施に参加して	小寺



# V ボランティア

## ボランティア受け入れ状況

## ボランティアの状況

ボランティア名	内容	活動人数	活動日	活動場所
神戸市生活指導研究会 こども病院ボランティアグループ	看護用品、医療材料、保育材料の作成	23名	月・金	毎回3名が交代で活動
こども病院ボランティアグループ	子どもの遊び相手、本の読み聞かせ、外来での患者・家族の受診介助（案内・移動の介助）	25名	月～金	本館病棟

## イベントボランティアの状況

クリニックラウン	笑いやユーモアを届けるコミュニケーション (NPO法人日本クラウン協会)	12名	6回/年	本館病棟・HCU・外来
ホットアートのプレゼント (NPO兵庫県こども文化振興協会)	人形劇（代表：宮武裕美）	5名	8月2日、8月3日	本館病棟プレイルーム（4カ所）
コンサート	フルートとピアノと歌のコンサート (代表：竹内愉美子)	3名	10月	研修室A B
フリーリングアーツ	光と音の癒しのイベント (代表：北村義博)	10名	9月8日	研修室A B
クリスマスコンサート (神戸ハーバレーションズクラブ主催)	歌と音楽コンサート (代表：秋山京子)	14名	12月9日	周産期センター玄関ホール
人形劇（神戸ママ）	人形劇と歌 (代表：國本ひろみ)	6名	3月8日	研修室A B
野球選手訪問 (阪神球団・・・城島・マートン選手)	ふれあいゲーム、病室訪問	2名	7月4日	研修室A B、各病棟
サッカー選手訪問 (ヴァイセル神戸・・・橋本・都倉選手)	病室訪問	2名	1月19日	各病棟



## VI 一年のあゆみ

## VI 1年のあゆみ(2011.1.1～12.31)

2011. 2.17	病院運営懇話会・地域医療支援病院委員会の開催
7.28	県監査委員による平成22年度本監査の実施
8.18	県健康福祉常任委員会による平成23年度管内調査の実施
8.25	神戸市保健所による平成23年度医療監視の実施
12.17	平成23年度兵庫県周産期医療研修会を開催

